

笠松遺跡 天良七堂遺跡 上根遺跡

(主) 太田大間々線関連事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2012

群馬県太田土木事務所
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

笠松遺跡・天良七堂遺跡・上根遺跡

(主) 太田大間々線関連事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

二〇一二年

群馬県太田土木事務所
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



笠 松 遺 跡
天 良 七 堂 遺 跡
上 根 遺 跡

(主) 太田大間々線関連事業に伴う
埋 蔵 文 化 財 発 掘 調 査 報 告 書

2012

群 馬 県 太 田 土 木 事 務 所
財 団 法 人 群 馬 県 埋 蔵 文 化 財 調 査 事 業 団

序

主要地方道太田大間々線バイパスは、市街地及び周辺地域における交通渋滞の緩和を目的に計画され、太田市から桐生市大間々町を結ぶバイパス道路として建設工事が進められています。

太田市では、これまでに数多くの埋蔵文化財の発掘調査によって、重要な発見が相次いでおります。そのなかでも天良七堂遺跡は「上野国新田郡庁跡」として国指定史跡とされ、継続的な発掘調査の成果が公表されることで、古代史を中心とした太田市周辺の歴史的重要性が大きく解明されつつあります。

主要地方道太田大間々線バイパス地方道路交付金事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査は、平成21年度から平成23年度にわたり継続的に実施され、予想にたがわぬ重要な発見がありました。

とりわけ新田郡庁に関わる施設と考えられる大型掘立柱建物や区画溝などは、郡庁の周辺を含む全体像復元に欠かせない歴史的証拠を提示できたと考えています。

発掘調査から本書の刊行に至るまでに、群馬県太田土木事務所、群馬県教育委員会、太田市教育委員会、太田市史跡上野国新田郡庁跡調査・整備専門委員会および地域の関係者の皆様には、多大なるご指導とご協力を賜りました。ここに心より感謝を申し上げますとともに、本書が地域史解明の資料として、また郷土史を学ぶ教材として広く活用されることを願い、序といたします。

平成24年3月

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 須田 栄 一

例 言

1. 本書は、平成20年度主要地方道太田大間々線バイパス地方道路交付金事業、平成21年度主要地方道太田大間々線地域活力基盤創出交付金事業及び平成23年度主要地方道太田大間々線鳥山工区社会資本総合整備(活力創出基盤整備)事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査による、笠松遺跡・天良七堂遺跡・上根遺跡の発掘調査報告書である。
2. 笠松遺跡・天良七堂遺跡・上根遺跡は、群馬県太田市寺井町408-1、408-2、409、410、411、412、413、414-1、414-2、415、440、589-3番地、新田小金井町1107、1108-1、1108-5、1446-1、1450-1、1451-1、1452-1、1452-6、1453-1、1453-4、1453-5、1453-6、1454-1、1455-1、1457-1、1496-1、1497-1、1498-1、1499-1、1500-1、1501-1、1503-1、1520-1、1526-1、1528-1、1529-1、1530-1、1533-1、1534-1番地に所在する。
3. 事業主体者は、群馬県東部県民局太田土木事務所である。
4. 調査主体は、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団である。
5. 調査期間は以下のとおりである。
平成21年度調査
履行期間 平成21年4月1日～9月30日 調査期間 平成21年4月1日～7月31日 調査面積 9,126㎡
平成22年度調査
履行期間 平成22年7月1日～11月30日 調査期間 平成22年7月1日～9月30日 調査面積 4,023㎡
平成23年度調査
履行期間 平成23年10月1日～12月31日 調査期間 平成23年10月1日～10月31日 調査面積 1,181㎡
6. 調査体制は以下のとおりである。
平成21年度 調査担当 中隆之(専門員(主任)) 長谷川博幸(調査研究員)
遺跡掘削請負工事 須賀工業株式会社 地上測量及び空中写真撮影 株式会社シン技術コンサル
平成22年度 調査担当 井川達雄(上席専門員) 長谷川博幸(調査研究員) (平成22年7月1日～8月31日)
遺跡掘削請負工事 須賀工業株式会社 地上測量及び空中写真撮影 株式会社シン技術コンサル
平成23年度 調査担当 関晴彦(上席専門員)
遺跡掘削請負工事 株式会社シン技術コンサル 地上測量 アコン測量設計株式会社
7. 整理事業の期間・体制は次のとおりである。
履行期間 平成23年9月1日～平成24年3月31日 整理期間 平成23年9月1日～平成24年3月31日
整理担当 長谷川博幸(調査研究員)
8. 本書作成関係者
編集 長谷川博幸
本文執筆 宮下寛(主任調査研究員) 長谷川博幸(調査研究員) 第6章1節は神谷佳明が執筆した。
デジタル編集 齊田智彦(主任調査研究員) 遺構写真 発掘調査担当者 遺物写真 佐藤元彦(補佐(総括))
保存処理 関邦一(補佐)
遺物観察・観察表執筆
縄文土器 橋本淳(主任調査研究員) 縄文時代の石器とその他石製品 岩崎泰一(上席専門員)
土師器、須恵器、金属製品 神谷佳明(上席専門員) 陶磁器 大西雅広(上席専門員)
9. 発掘調査および報告書の作成にあたり群馬県東部県民局太田土木事務所、群馬県教育委員会文化財保護課、群馬県太田市教育委員会、太田市史跡上野原新田郡庁跡調査・整備専門委員会のご指導とご助言を得た。
10. 発掘調査の記録資料と出土遺物は、群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

凡 例

1. 本文中に使用した方位は、総て世界測地系国家座標(国家座標第Ⅸ系)を用いた。調査区はX=36065～36450、Y=-44895～-45420の範囲に収まり、真北との偏差は、遺跡南東隅部で $0^{\circ} 17' 46.31''$ である。遺構図中に表記した座標値は国家座標値の下3桁のみを表記した。
2. 遺構平面図や遺構断面図に示した数値は標高であり、単位はメートルである。
3. 遺構平面図、遺物実測図の縮尺は各図にそれぞれ示した。遺物写真の縮率は原則1/3とし、それ以外のものは明記した。
4. 平成21年度笠松遺跡調査は、調査区を便宜上A区からF区と区割りし行った。整理作業において、新田町(現太田市)遺跡分布地図では、A区からD区までが天良七堂遺跡、E区、F区が笠松遺跡となることが判明した。本報告書では、それを受け、笠松遺跡A区からD区を天良七堂遺跡1区から4区、笠松遺跡E区からF区を笠松遺跡1区から2区と変更した。
5. 本書の図版に使用したスクリーントーンは、次のことを示す。

遺構図

 擾乱  灰面  礫層範囲

遺物図

 自然釉  粘土  羽口滓化

6. 遺構の主軸方位・走向は、平面プランの中央を主軸とした。表記は北を基準とし、東に傾いた場合N- \circ° -Eとした。遺構の面積は上端を計測し、計測はプランメーターで3回行いその平均値を採用した。土坑・ピット計測表の計測値はm単位で表した。()は残存値を表した。
7. 掘立柱建物の柱間寸法は、柱筋に沿った柱穴心々間をメートル法計測した。
8. 遺構土層注記および土器・陶磁器類の色調については、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修「新版標準土色帖」2005年度版を用いた。
9. 遺物観察表の()は残存値であり、口径・底径・高さ・長さ・幅・厚さについて小数第1位までをcm単位で、重量は電磁式はかり等を使用してg単位で記した。陶磁器の色調は、割れ口により判断した。
10. 本書で掲載した土器(土師器・須恵器)の遺物観察表での表現は以下のとおりである。
土師器及び須恵器観察表の胎土・焼成・色調の項目のうち細砂粒と粗砂粒は径2mmほどで区別した。
成・整形の特徴の項目にあるハケ目(本数)は1cm当たりの数であり填輪は2cmである。
計測値について口:口径、底:底径、高:器高、台:高台径、摘:摘み径を示す。
非掲載遺物の記載で「大破片」は大型器種の破片、「小破片」は小型器種の破片を示している。
11. 本書で掲載した石器・石製品の図版上での表現は以下のとおりである。
石斧刃部側の摩耗痕については縦位定規線で、着柄部と想定される部分の摩耗痕については横位定規線で図示した。
磨石等礫石器類に用いた縦位・横位定規線は摩耗範囲を示し、その他の斜位定規線は線条痕の走行を示す。
石皿については、使用部の摩耗および再生状態(再敲打)を表現するため、必要に応じて拓本を使用した。
台石については、打痕・摩耗痕を含む礫面の状態を表現するため、必要に応じて拓本を使用した。
12. 本書で使用した降下テフラ等の呼称については、以下のように表記した。
浅間A軽石(天明3(1783)年降下):As-A 浅間B軽石(天仁元(1108)年降下):As-B
榛名二ツ岳沢川テフラ(6世紀初頭降下):Hr-FA
13. 本書で掲載した地図は、下記のものを使用した。
国土地理院 地勢図1:200,000「宇都宮」(平成18年4月1日発行)
国土地理院 地形図1:25,000「上野境」(平成22年12月1日発行)
群馬県 地形分類図1:50,000「深谷」(平成3年)
太田市 1:2,500地形図(平成18年8月測図)

目次

序	
例言	
凡例	
挿図目次	
表目次	
写真図版目次	
第1章 調査に至る経緯と経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	2
第3節 整理作業の経過	3
第4節 調査の方法	3
1 調査区の設定	3
2 調査の方法	3
第5節 基本土層	6
第2章 地理的および歴史的環境	7
第1節 遺跡の位置と周辺の地形	7
第2節 周辺の遺跡	8
第3章 笠松遺跡	13
第1節 笠松遺跡の概要	13
第2節 1区の調査成果	13
1 古墳時代以降の遺構と遺物	13
(1) 竪穴住居	13
(2) 掘立柱建物	19
(3) 柵列	35
(4) 基壇状遺構	36
(5) 土坑・ピット	38
(6) 粘土探掘坑	48
(7) 井戸	52
(8) 溝	53
2 遺構外の遺物	62
第3節 2区の調査成果	63
1 奈良・平安時代以降の遺構と遺物	63
(1) 土坑・ピット	63
(2) 溝	64
2 遺構外の遺物	65
第4章 天良七堂遺跡	68
第1節 天良七堂遺跡の概要	68
第2節 1区の調査成果	68
1 縄文時代の遺構と遺物	68
(1) 竪穴住居	70
(2) 土坑・ピット	70
2 古墳時代以降の遺構と遺物	72
(1) 竪穴住居	72
(2) 竪穴状遺構	94
(3) 掘立柱建物	96
(4) 柵列	101
(5) 土坑・ピット	103
(6) 溝	108
(7) 鍛冶遺構	112
3 遺構外の遺物	113
第3節 2区の調査成果	114
1 古墳時代以降の遺構と遺物	114
(1) 竪穴住居	114
(2) 掘立柱建物	116
(3) 土坑・ピット	116
(4) 溝・谷地	117
2 遺構外の遺物	122
第4節 3区の調査成果	123
1 古墳時代以降の遺構と遺物	123
(1) 竪穴住居	123
(2) 掘立柱建物	125
(3) 土坑・ピット	127
(4) 井戸	132
(5) 溝・谷地	132
2 遺構外の遺物	142
第5節 4区の調査成果	143
1 古墳時代以降の遺構と遺物	143
(1) 土坑・ピット	143
(2) 溝	146

2 遺構外の遺物	151	2 古墳時代以降の遺構と遺物	178
第5章 上根遺跡	154	(1) 竪穴住居	178
第1節 上根遺跡の概要	154	(2) 土坑・ピット	182
第2節 1区の調査成果	154	3 遺構外の遺物	189
1 古代以降の遺構と遺物	154	第6節 5区の調査成果	190
(1) 溝	154	1 古墳時代以降の遺構と遺物	190
2 遺構外の遺物	157	(1) 竪穴住居	190
第3節 2区の調査成果	157	(2) 掘立柱建物	192
1 古代以降の遺構と遺物	157	(3) 土坑・ピット	192
(1) 竪穴遺構	157	(4) 井戸	195
(2) 土坑・ピット	158	(5) 溝・谷地	195
(3) 溝	160	2 遺構外の遺物	197
2 遺構外の遺物	164	第7節 6区の調査成果	199
第4節 3区の調査成果	164	1 中近世の遺構と遺物	199
1 縄文時代の遺構と遺物	164	(1) 土坑・ピット	199
(1) 土坑	164	(2) 溝	199
2 古墳時代以降の遺構と遺物	164	2 遺構外の遺物	200
(1) 竪穴住居	166	第6章 発掘調査の成果とまとめ	202
(2) 掘立柱建物・橋	169	第1節 天良七堂・笠松遺跡出土の酸化焙焼による	
(3) 土坑・ピット	170	須志器について	202
(4) 井戸	170	第2節 笠松遺跡、天良七堂遺跡、上根遺跡における	
(5) 溝	171	発掘調査の成果と課題	209
3 遺構外の遺物	177	出土遺物観察表	215
第5節 4区の調査成果	177	写真図版	
1 縄文時代の遺構と遺物	177	報告書抄録	
(1) 土坑	178		

挿図目次

第1図	笠松道路・天良七堂道路・上根道路 道路位置図(国土地理院 1:200,000 地形図(宇高))	1	第56図	天良七堂道路 1区全体図	69
第2図	笠松道路・天良七堂道路・上根道路 道路位置図(この冊子の作成にあたっては、A3市長の了承を得て、同市発行の2,000分の1の地形図を使用し複製したものである。)	4	第57図	1区1・11・18・19号土坑	70
第3図	笠松道路・天良七堂道路・上根道路 基本土層	6	第58図	1区20・24号土坑、80・92・94・115・117号ピットと11・19号土坑、80号ピットの出上遺物	71
第4図	笠松道路・天良七堂道路・上根道路 周辺の地形区分図(地質図解1981「アーバンポスタ」9より作成)	7	第59図	1区1号型穴住居の出上遺物	72
第5図	笠松道路・天良七堂道路・上根道路 周辺の道路(1:25,000)	10	第60図	1区1号型穴住居	73
第6図	笠松道路 1区北側全体図	14	第61図	1区1号型穴住居掘り方	74
第7図	笠松道路 1区南側全体図	15	第62図	1区2号型穴住居	75
第8図	1区1号型穴住居と出土遺物	16	第63図	1区2号型穴住居の出上遺物	76
第9図	1区2号型穴住居	17	第64図	1区3号型穴住居	77
第10図	1区4号型穴住居と出土遺物	18	第65図	1区3号型穴住居の出上遺物	78
第11図	1区1号型穴住居	22	第66図	1区4号型穴住居	79
第12図	1区1号型穴住居土層断面図と出土遺物	23	第67図	1区4号型穴住居掘り方と出土遺物	80
第13図	1区2号型穴住居	24	第68図	1区5号型穴住居	81
第14図	1区3号型穴住居	24	第69図	1区5号型穴住居と出土遺物	82
第15図	1区4号型穴住居	25	第70図	1区6号型穴住居	83
第16図	1区5号型穴住居	26	第71図	1区8号型穴住居	84
第17図	1区6号型穴住居	27	第72図	1区8号型穴住居と出土遺物	85
第18図	1区7号型穴住居	28	第73図	1区9号型穴住居	86
第19図	1区8号型穴住居	29	第74図	1区9号型穴住居掘り方と出土遺物	87
第20図	1区8号型穴住居土層断面図	30	第75図	1区10・11号型穴住居	88
第21図	1区9号型穴住居	30	第76図	1区10・11号型穴住居と10号型穴住居の出上遺物	89
第22図	1区9号型穴住居土層断面図	31	第77図	1区11号型穴住居と出土遺物	90
第23図	1区11号型穴住居	32	第78図	1区12号型穴住居	91
第24図	1区12号型穴住居	33	第79図	1区12号型穴住居掘り方と出土遺物	92
第25図	1区14号型穴住居	34	第80図	1区13号型穴住居と出土遺物	93
第26図	1区15号型穴住居	34	第81図	1区1号型穴状遺構と出土遺物	94
第27図	1区15号型穴住居柱穴土層断面図	35	第82図	1区2号型穴状遺構	94
第28図	1区1号構列	35	第83図	1区2号型穴状遺構と出土遺物	95
第29図	1区3号構列	36	第84図	1区3号型穴状遺構	95
第30図	1区1号基礎状遺構掘り方と断面図	37	第85図	1区3号型穴状遺構の出土遺物	96
第31図	1区2・3・4・8号土坑	42	第86図	1区1号型穴住居と出土遺物	97
第32図	1区9・11・12・13・15・18・21号土坑	43	第87図	1区2号型穴住居	98
第33図	1区23号土坑と8・11・13号土坑の出上遺物、1・2・3・27・33・56・69・77・78・80・81・97号ピット	44	第88図	1区3号型穴住居	99
第34図	1区98・99・111・112・133・134・154・156・160・165・167・168・173・174・212～215・218・225号ピット	45	第89図	1区4号型穴住居	100
第35図	1区219・220・221・223・231・233・236・240～244・247・250号ピット	46	第90図	1区5号型穴住居	101
第36図	1区251・260～264号ピットと154号ピットの出上遺物	47	第91図	1区1号構列	102
第37図	1区1号粘土探掘坑と出土遺物	49	第92図	1区2・3号構列	104
第38図	1区2・3号粘土探掘坑と2号粘土探掘坑の出上遺物	50	第93図	1区3・4・6～9・29・31号土坑と3・7・29号土坑の出上遺物	105
第39図	1区3号粘土探掘坑の出上遺物と4号粘土探掘坑	51	第94図	1区1・6・10・20・32・33・34・39・43・57・64・68・83・107・108・110号ピット	107
第40図	1区5号粘土探掘坑	52	第95図	1区111・127号ピットと110号ピットの出上遺物	108
第41図	1区1号井戸と出土遺物	52	第96図	1区1・2・7号溝	109
第42図	1区1・9号溝	55	第97図	1区3・4号溝	110
第43図	1区1・6号溝	56	第98図	1区5・6・8号溝と5・6号溝の出上遺物	111
第44図	1区2～5号溝	57	第99図	1区9号溝	112
第45図	1区7・8・10号溝	58	第100図	1区1号鍛冶遺構	112
第46図	1区10号溝の断面図と11号溝	59	第101図	1区1号鍛冶遺構の出上遺物	112
第47図	1区12～15号溝	60	第102図	1区遺構外の出上遺物	113
第48図	1区1～4・10号溝の出上遺物	61	第103図	天良七堂道路 2区全体図	114
第49図	1区10号溝の出上遺物	62	第104図	2区1号型穴住居と出土遺物	115
第50図	1区遺構外の出上遺物	62	第105図	2区1号型穴住居	115
第51図	笠松道路 2区全体図	63	第106図	2区1～4号土坑	116
第52図	2区1・5・6号土坑と1・3・4号ピット	64	第107図	2区1・3・4・6・8・10・11号ピット	117
第53図	2区1・2・3号溝と1号溝の出上遺物	65	第108図	2区1・2号溝と1号溝の出上遺物	118
第54図	1区7号型穴住居	68	第109図	2区3～9号溝	119
第55図	1区7号型穴住居の出上遺物	68	第110図	2区10・11・12号溝	120
			第111図	2区1号谷地	121
			第112図	2区遺構外の出上遺物	122
			第113図	天良七堂道路 3区全体図	123
			第114図	3区1号型穴住居と出土遺物	124

第115図	3区2号型穴住居	125	第169図	3区3号型穴住居と出土遺物	169
第116図	3区3号型穴住居と出土遺物	126	第170図	3区1号掘立柱建物	170
第117図	3区4号型穴住居	126	第171図	3区1号堀	170
第118図	3区4号型穴住居と出土遺物	127	第172図	3区1～5号土坑	171
第119図	3区1号掘立柱建物	128	第173図	3区1号井戸	171
第120図	3区4～7号土坑	129	第174図	3区1号溝	172
第121図	3区8・9・12～15・22・24号土坑と7・9号土坑の出土遺物	130	第175図	3区2・3・4・8号溝と2・3号溝の出土遺物	174
第122図	3区8・26～29・31・33・34号ピット	131	第176図	3区5・6・7号溝と出土遺物	175
第123図	3区36号ピットと31号ピットの出土遺物	132	第177図	3区9～12号溝と10号溝の出土遺物	176
第124図	3区1号井戸と出土遺物	132	第178図	3区道構外の出土遺物	177
第125図	3区1・14・15号溝と1号溝の出土遺物	133	第179図	上根遺跡 4区全体図	177
第126図	3区2・3・24号溝	134	第180図	4区3・4号土坑と出土遺物	178
第127図	3区2号溝の出土遺物	135	第181図	4区1号型穴住居と出土遺物	179
第128図	3区8・10号溝の出土遺物	136	第182図	4区2号型穴住居	180
第129図	3区4～13号溝	137	第183図	4区2号型穴住居の出土遺物	181
第130図	3区16号溝	138	第184図	4区3号型穴住居	181
第131図	3区16号溝の出土遺物	139	第185図	4区4・5号型穴住居	183
第132図	3区17・18号溝と17号溝の出土遺物	140	第186図	4区4号型穴住居跡と4・5号型穴住居掘り方ないし構築以前の土坑群遺物出土状況	184
第133図	3区19～22号溝	141	第187図	4区4号型穴住居の出土遺物(1)	185
第134図	3区23号溝と1号谷地	142	第188図	4区4号型穴住居の出土遺物(2)	186
第135図	3区道構外の出土遺物	143	第189図	4区4・5号型穴住居の出土遺物と4・5号型穴住居掘り方ないし構築以前の土坑群	187
第136図	天良七堂遺跡 4区全体図	143	第190図	4区1号土坑と出土遺物	188
第137図	4区1・4・5・7号土坑	144	第191図	4区2号土坑と出土遺物	188
第138図	4区9・10・12号土坑	145	第192図	4区15・17号ピットと15号ピットの出土遺物	189
第139図	4区10・20・23・24・27・29・30・35・36・43・44・65号ピット	146	第193図	4区道構外の出土遺物(1)	189
第140図	4区24号ピットの出土遺物	146	第194図	4区道構外の出土遺物(2)	190
第141図	4区1・2・3号溝	147	第195図	上根遺跡 5・6区全体図	191
第142図	4区4・8号溝	148	第196図	5区1号型穴住居と出土遺物	191
第143図	4区4・8号溝の出土遺物	149	第197図	5区1号掘立柱建物	192
第144図	4区5・7号溝	149	第198図	5区2・3・5号土坑	193
第145図	4区6号溝と出土遺物	150	第199図	5区6～10・12・13・14・15・21号土坑・30・39号ピットと15号土坑の出土遺物	194
第146図	4区9・10号溝	150	第200図	5区1・2号井戸と2号井戸の出土遺物	195
第147図	4区11号溝	151	第201図	5区2・3・4号溝	196
第148図	4区道構外の出土遺物	151	第202図	5区3・4号溝の出土遺物	197
第149図	上根遺跡 1区全体図	154	第203図	5区道構外の出土遺物(1)	198
第150図	1区1号溝	155	第204図	5区道構外の出土遺物(2)	199
第151図	1区2～5号溝と5号溝の出土遺物	156	第205図	6区1・2・3号土坑	200
第152図	1区6号溝と出土遺物	157	第206図	6区1号溝	200
第153図	1区道構外の出土遺物	157	第207図	天良七堂・笠松遺跡出土の酸化燻焼による須恵器(S-1/3)	203
第154図	上根遺跡 2区全体図	158	第208図	群馬県内での酸化燻焼による須恵器出土例その1(S-1/3)	206
第155図	2区1～4号型穴状遺構と1・3号型穴状遺構の出土遺物	159	第209図	群馬県内での酸化燻焼による須恵器出土例その2(S-1/3)	207
第156図	2区1・2号土坑	159	第210図	群馬県内での酸化燻焼による須恵器出土例その3(S-1/3)	208
第157図	2区1・2号土坑の出土遺物	160	第211図	笠松遺跡及び周辺遺跡位置図(この図中の市町にあたっては、As3市図の了承を得て、同市図中のAs3市の市の境界線を使用し複製したものである。)	210
第158図	2区1・2号溝と1号溝の出土遺物	161	第212図	笠松遺跡・天良七堂遺跡・上根遺跡及び周辺遺跡位置図(この図中の市町にあたっては、As3市図の了承を得て、同市図中のAs3市の市の境界線を使用し複製したものである。)	212
第159図	2区1・2号溝の出土遺物	162			
第160図	2区3号溝と出土遺物	162			
第161図	2区4号溝と出土遺物	163			
第162図	2区5号溝	164			
第163図	2区道構外の出土遺物	164			
第164図	上根遺跡 3区全体図	165			
第165図	3区6・7号土坑と出土遺物	165			
第166図	3区1号型穴住居	167			
第167図	3区1号型穴住居と出土遺物	168			
第168図	3区2号型穴住居	168			

表 目 次

第1表	道路名、道標名、道標番号変更一覧表	5	第20表	天良七堂道路1区1号掘立柱建物計測表	97
第2表	笠松道路・天良七堂道路・上根道跡周辺道路一覧表	11	第21表	天良七堂道路1区2号掘立柱建物計測表	98
第3表	笠松道路1区1A号掘立柱建物計測表	23	第22表	天良七堂道路1区3号掘立柱建物計測表	99
第4表	笠松道路1区1B号掘立柱建物計測表	23	第23表	天良七堂道路1区4号掘立柱建物計測表	100
第5表	笠松道路1区2号掘立柱建物計測表	24	第24表	天良七堂道路1区5号掘立柱建物計測表	101
第6表	笠松道路1区3号掘立柱建物計測表	25	第25表	天良七堂道路1区1号欄列計測表	102
第7表	笠松道路1区4号掘立柱建物計測表	25	第26表	天良七堂道路1区2号欄列計測表	104
第8表	笠松道路1区5号掘立柱建物計測表	26	第27表	天良七堂道路1区3号欄列計測表	104
第9表	笠松道路1区6号掘立柱建物計測表	27	第28表	天良七堂道路2区1号掘立柱建物計測表	115
第10表	笠松道路1区7号掘立柱建物計測表	28	第29表	天良七堂道路3区1号掘立柱建物計測表	128
第11表	笠松道路1区8号掘立柱建物計測表	30	第30表	天良七堂道路土坑・ビット計測表	152
第12表	笠松道路1区9号掘立柱建物計測表	31	第31表	上根道跡3区1号掘立柱建物計測表	170
第13表	笠松道路1区11号掘立柱建物計測表	32	第32表	上根道跡3区1号欄列計測表	170
第14表	笠松道路1区12号掘立柱建物計測表	33	第33表	上根道跡5区1号掘立柱建物計測表	192
第15表	笠松道路1区14号掘立柱建物計測表	34	第34表	上根道跡土坑・ビット計測表	201
第16表	笠松道路1区15号掘立柱建物計測表	35	第35表	酸化塩処理による須恵器の出土遺構と年代	202
第17表	笠松道路1区1号欄列計測表	35	第36表	笠松道路出土遺物観察表	215
第18表	笠松道路1区3号欄列計測表	36	第37表	天良七堂道路出土遺物観察表	215
第19表	笠松道路土坑・ビット計測表	66	第38表	上根道跡出土遺物観察表	218

写真図版目次

PL_1	1	1区北側全景(南西から)	PL_7	1	1区全景(南東から)
笠松道路	2	1区南側全景(東から)	天良七堂道路	2	1区全景(東から)
PL_2	1	1区1号竪穴住居全景(西から)	PL_8	1	1区7号竪穴住居全景(東から)
笠松道路	2	1区1号竪穴住居遺物出土状態(南から)	天良七堂道路	2	1区11号土坑遺物出土状態(西から)
	3	1区1号竪穴住居貯蔵穴出土状態(西から)		3	1区18号土坑全景(南から)
	4	1区1号竪穴住居掘り方全景(南西から)		4	1区19号土坑全景(西から)
	5	2号竪穴住居全景(南から)		5	1区1号竪穴住居全景(東から)
	6	2号竪穴住居掘り方全景(南から)		6	1区1号貯蔵穴住居全景(南から)
	7	4号竪穴住居遺物出土状態(西から)		7	1区1号貯蔵穴住居貯蔵穴遺物出土状態(南から)
	8	4号竪穴住居遺物出土状態(西から)		8	1区1号貯蔵穴住居掘り方全景(西から)
PL_3	1	1区1号掘立柱建物全景(西から)	PL_9	1	1区2号竪穴住居全景(北から)
笠松道路	2	1区1号掘立柱建物貯蔵穴出土状態(南から)	天良七堂道路	2	1区2号竪穴住居貯蔵穴全景(南から)
	3	1区2・3号掘立柱建物全景(西から)		3	1区2号竪穴住居掘り方全景(北から)
	4	1区3号掘立柱建物全景(東から)		4	1区3号竪穴住居全景(東から)
	5	1区4号掘立柱建物全景(北から)		5	1区3号竪穴住居貯蔵穴遺物出土状態(東から)
PL_4	1	1区5号掘立柱建物全景(北から)		6	1区4号竪穴住居全景(西から)
笠松道路	2	1区6号掘立柱建物全景(西から)		7	1区4号竪穴住居掘り方全景(西から)
	3	1区7号掘立柱建物全景(西から)		8	1区4号竪穴住居ビット列全景(北から)
	4	1区8・9号掘立柱建物と1号欄列全景(南から)	PL_10	1	1区4号竪穴住居掘り方全景(南から)
	5	1区11号掘立柱建物全景(南から)	天良七堂道路	2	1区5号竪穴住居全景(北東から)
	6	1区12号掘立柱建物と1号基礎状遺構全景(東から)		3	1区5号竪穴住居遺物出土状態(北東から)
	7	1区1号欄列全景(南から)		4	1区5号竪穴住居1号貯蔵穴全景(北西から)
	8	1区1号基礎状遺構全景(南から)		5	1区5号竪穴住居2号貯蔵穴全景(北西から)
	9	1区1号基礎状遺構掘り方全景(南から)		6	1区6号竪穴住居全景(北西から)
PL_5	1	1区11号土坑全景(西から)		7	1区8号竪穴住居掘り方全景(南から)
笠松道路	2	1区12号土坑全景(東から)		8	1区8号竪穴住居遺物出土状態(西から)
	3	1区18号土坑全景(東から)	PL_11	1	1区8号竪穴住居1号床土坑全景(西から)
	4	1区15号ビット遺物出土状態(南から)	天良七堂道路	2	1区9号竪穴住居全景(北西から)
	5	1区1号粘土探掘坑全景(西から)		3	1区9号竪穴住居遺物出土状態(西から)
	6	1区1号粘土探掘坑遺物出土状態(東から)		4	1区15号竪穴住居1号土坑遺物出土状態(北西から)
	7	1区2号粘土探掘坑遺物出土状態(南から)		5	1区10号竪穴住居掘り方全景(北西から)
	8	1区2号粘土探掘坑遺物出土状態(東から)		6	1区9号竪穴住居掘り方全景(北西から)
	9	1区3号粘土探掘坑遺物出土状態(南から)		7	1区10号竪穴住居遺物出土状態(西から)
	10	1区3号粘土探掘坑遺物出土状態(東から)		8	1区10号竪穴住居遺物出土状態(西から)
	11	1区3・5号粘土探掘坑遺物出土状態(北から)	PL_12	1	1区10号竪穴住居遺物出土状態(西から)
	12	1区4号粘土探掘坑遺物出土状態(西から)	天良七堂道路	2	1区10号竪穴住居遺物出土状態(西から)
	13	1区1号井戸全景(南東から)		3	1区11号竪穴住居遺物出土状態(北西から)
	14	1区1号溝遺物出土状態(南東から)		3	1区11号竪穴住居遺物出土状態(南西から)
	15	1区2号溝遺物出土状態(南東から)		4	1区15号竪穴住居1号土坑遺物出土状態(西から)
PL_6	1	1区2～5号溝遺物出土状態(西から)		5	1区11号貯蔵穴住居掘り方欄列全景(西から)
笠松道路	2	1区6号溝遺物出土状態(北から)		6	1区11号貯蔵穴住居掘り方全景(西から)
	3	1区7号溝遺物出土状態(北から)		7	1区12号竪穴住居遺物出土状態(北から)
	4	1区8号溝遺物出土状態(南から)		8	1区12号竪穴住居1号土坑全景(南から)
	5	1区9号溝遺物出土状態(南西から)	PL_13	1	1区12号竪穴住居遺物出土状態(西から)
	6	1区10号溝遺物出土状態(西から)	天良七堂道路	2	1区13号竪穴住居遺物出土状態(北から)
	7	1区13・14・15号溝遺物出土状態(西から)		3	1区1号掘立柱建物全景(南から)
	8	1区14号溝遺物出土状態(西から)		4	1区2号掘立柱建物全景(北から)
	9	1区15号溝遺物出土状態(北から)		5	1区3号掘立柱建物全景(北から)
	10	2区1号土坑全景(南から)		6	1区4号掘立柱建物全景(東から)
	11	2区5号土坑全景(南東から)		7	1区1・2号欄列全景(西から)
	12	2区6号土坑全景(西から)		8	1区3号欄列全景(北から)
	13	2区1号溝遺物出土状態(北西から)			
	14	2区1号溝遺物出土状態(南から)			
	15	2区2・3号溝遺物出土状態(北から)			

PL_14	1	1区1号型穴状遺構遺物出土状態(南東から)	PL_24	1	3区1号型穴住居跡遺物出土状態(北東から)
天良七堂遺跡	2	1区2号型穴状遺構遺物出土状態(南から)	上根遺跡	2	3区1号型穴住居跡(南東から)
	3	1区3号型穴状遺構遺物出土状態(南から)		3	3区1号型穴住居跡(南東から)
	4	1区3号土坑全(南から)		4	3区1号型穴住居跡遺物出土状態(東から)
	5	1区9号土坑全(西から)		5	3区1号型穴住居跡(北東から)
	6	1区8号ピット遺物出土状態(南から)		6	3区2号型穴住居全(北から)
	7	1区110号ピット遺物出土状態(北から)		7	3区2号型穴住居跡(南東から)
	8	1区1・2号溝全(南から)		8	3区2号型穴住居跡(北から)
	9	1区3号溝、1号竪立建物、1・2号櫛列全(西から)	PL_25	1	3区3号型穴住居全(南から)
	10	1区4・5号溝全(西から)	上根遺跡	2	3区1号土坑全(北から)
	11	1区6号溝全(南東から)		3	3区1号井戸全(北から)
	12	1区7号溝全(南東から)		3	3区1・4・8号溝全(東から)
	13	1区8号溝全(南東から)		5	3区5号溝全(南から)
	14	1区1号9号溝全(北から)		6	3区6・7・9号溝全(北西から)
	15	1区1号竪治遺構遺物出土状態(南西から)		7	3区7・9～11号溝全(南から)
PL_15	1	2区調査区西全(東から)		8	3区12号溝全(南から)
天良七堂遺跡	2	2区調査区東全(西から)	PL_26	1	4区4号土坑全(東から)
PL_16	1	2区1号型穴住居遺物出土状態(北から)	上根遺跡	2	4区1号型穴住居遺物出土状態(南から)
天良七堂遺跡	2	2区1号型穴住居全(東から)		3	4区1号型穴住居全(南から)
	3	2区1号竪立建物全(東から)		4	4区1～3号型穴住居遺物出土状態(南から)
	4	2区1号土坑全(南から)		5	4区1号型穴住居跡(北東から)
	5	2区2号土坑全(南から)		6	4区1～3号型穴住居跡(南東から)
	6	2区3・4号溝全(南から)		7	4区2号型穴住居遺物出土状態(南から)
	7	2区9号溝全(西から)		8	4区2号型穴住居跡(南東から)
	8	2区調査区北側全(北西から)	PL_27	1	4区2号型穴住居跡(南東から)
PL_17	1	3区調査区全(北西から)	上根遺跡	2	4区3号型穴住居跡遺物出土状態(南から)
天良七堂遺跡	2	3区調査区全(北西から)		3	4区4号型穴住居跡遺物出土状態(南から)
	3	3区1・2号型穴住居全(北から)		4	4区4号型穴住居跡遺物出土状態(南から)
PL_18	1	3区3号型穴住居跡(北東から)		5	4区4号型穴住居跡(南東から)
天良七堂遺跡	2	3区3号型穴住居跡(北東から)		6	4区4号型穴住居跡(南東から)
	3	3区3号型穴住居跡(北東から)		7	4区4号型穴住居跡(南東から)
	4	3区4号型穴住居跡(東から)		8	4区4号型穴住居跡(南東から)
	5	3区1号竪立建物全(南から)	PL_28	1	4区5号型穴住居跡遺物出土状態(東から)
	6	3区1号土坑全(南西から)	上根遺跡	2	4区5号型穴住居跡(南東から)
	7	3区7号土坑全(南から)		3	5区5号型穴住居跡(東から)
	8	3区9号土坑全(西から)		4	5区5号型穴住居跡(東から)
	9	3区14号土坑全(北から)		5	4区1号土坑全(南から)
PL_19	1	3区14号土坑全(北から)		6	4区2号土坑全(南から)
天良七堂遺跡	2	3区1号井戸全(南東から)		7	4区田石器時代調査坑断面(東から)
	3	3区1号溝全(南から)		8	4区調査区全と田石器時代の調査状況(東から)
	4	3区2号溝全(北東から)	PL_29	1	5区1号型穴住居全(南から)
	5	3区3号溝全(北から)	上根遺跡	2	5区1号型穴住居全(北西から)
	6	3区4～8号溝全(西から)		3	5区1号型穴住居跡(北西から)
	7	3区8・11号溝全(南東から)		4	5区1号型穴住居跡遺物出土状態(東から)
	8	3区11・12・13号溝全(南東から)		5	5区1号型穴住居跡遺物出土状態(東から)
	9	3区14・15号溝全(南から)		6	5区10号土坑全(南から)
	10	3区16号溝遺物出土状態(東から)		7	5区12号土坑全(北から)
	11	3区17号溝全(南から)		8	5区2号井戸全(南西から)
	12	3区18号溝全(東から)	PL_30	1	5区調査区全・1号谷地全(北西から)
	13	3区19号溝全(南から)	上根遺跡	2	5区21号土坑遺物出土状態(北から)
	14	3区19～22号溝全(南から)		3	5区遺物出土状態(北から)
	15	3区23号溝全(東から)		4	5区3号溝全(南から)
PL_20	1	4区調査区全(南から)		5	5区3号溝北側全(南から)
天良七堂遺跡	2	4区4・5・9号土坑全(南から)		6	5区3・4号溝全(北から)
	3	4区7号土坑全(南から)		7	6区調査区全(南から)
	4	4区10号土坑全(南東から)		8	6区1・2・3号土坑と1号溝全(西から)
	5	4区12号土坑全(南から)		9	6区3号土坑全(北西から)
PL_21	1	4区1・2・3号溝全(南西から)		10	6区1号溝全(南西から)
天良七堂遺跡	2	4区4・5号溝全(南から)		11	5・6区調査区全(北西から)
	3	4区4・5号溝全(南から)		12	上根遺跡6区から北側の周辺風景(南から)
	4	4区4号溝(南西から)	PL_31	1	笠松遺跡 1区1・4号型穴住居、11号土坑、154号ピット、3号粘土埴輪、1・10号溝、道橋外の出土遺物
	5	4区4号溝(南西から)		2	天良七堂遺跡 1区1・2・3号型穴住居、11号土坑の出土遺物
	6	4区6号溝全(南から)	PL_32	1	天良七堂遺跡 1区3・4・5号型穴住居の出土遺物
	7	4区9・10号溝全(南東から)	PL_33	1	天良七堂遺跡 1区5・8・9・11・12・13号型穴住居、1号型穴遺構の出土遺物
	8	4区11号溝全(東から)	PL_34	1	天良七堂遺跡 1区5・8・9・11・12・13号型穴住居、1号型穴遺構の出土遺物
PL_22	1	2区調査区全(南から)	PL_35	1	天良七堂遺跡 1区1・2・3号型穴遺構、1号竪立建物、3・7号土坑、1号竪治遺構、道橋外の出土遺物
上根遺跡	2	1区1号溝全(南から)	天良七堂遺跡	2	天良七堂遺跡 3区31号ピット、1号井戸、1・8・16号溝、道橋外と4区4・6・8号溝、道橋外の出土遺物
	3	1区2号溝全(西から)	上根遺跡	3	1区5号溝、道橋外と2区1号型穴遺構、1・2号土坑、1号溝の出土遺物
	4	1区3・4号溝全(西から)	PL_36	1	上根遺跡 2区2・4号溝、道橋外と3区1号型穴住居、6・10号溝、道橋外と4区1号型穴住居、3・4号土坑の出土遺物
PL_23	1	2区調査区全(西から)	上根遺跡	2	2区2・4号溝、道橋外と3区1号型穴住居、6・10号溝、道橋外と4区1号型穴住居、3・4号土坑の出土遺物
上根遺跡	2	2区1号型穴遺構全(南から)	PL_37	1	上根遺跡 1区5号溝、道橋外と2区1号型穴遺構、1・2号土坑、1号溝の出土遺物
	3	2区2・4号型穴遺構全(南から)	PL_38	1	上根遺跡 2区2・4号溝、道橋外と3区1号型穴住居、6・10号溝、道橋外と4区1号型穴住居、3・4号土坑の出土遺物
	4	2区1号土坑全(北から)		2	上根遺跡 4区2・4号型穴住居の出土遺物
	5	2区2号土坑全(北から)	PL_39	1	上根遺跡 4区4号型穴住居の出土遺物
	6	2区1・2号溝全(東から)	PL_40	1	上根遺跡 4区1号土坑、15号ピット、道橋外の出土遺物
	7	2区3号溝全(南から)	PL_41	1	上根遺跡 4区道橋外と5区3・4号溝、道橋外の出土遺物
	8	2区4号溝全(南から)	PL_42	1	上根遺跡 5区道橋外の出土遺物
	9	2区5号溝全(西から)	PL_43	1	上根遺跡 5区道橋外の出土遺物
	10	2区東壁断面(西から)	PL_44	1	上根遺跡 5区道橋外の出土遺物
	11	3区6号土坑全(北から)			
	12	3区7号土坑全(北から)			

第1章 調査に至る経緯と経過

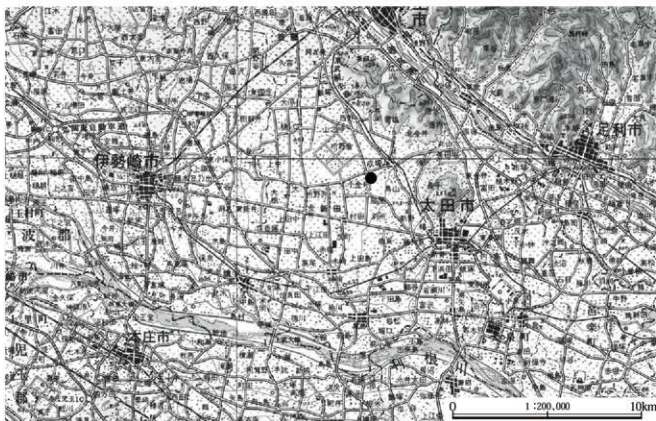
第1節 調査に至る経緯

太田大間々線バイパスは、太田市西部の交通渋滞を緩和するために太田市西本町と同市烏山を結ぶ道路として計画された。

笠松遺跡、天良七堂遺跡は平成20年度主要地方道太田大間々線バイパス地方道路交付金事業に伴い、平成20年6月25日～27日に群馬県教育委員会文化財保護課により試掘確認調査が太田市新田小金井町地内で実施され古墳時代の竪穴住居、古代から近世の溝、土坑等が確認された。平成21年3月18日群馬県教育委員会文化財保護課の調整を経て、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(以下当事業団と略す)が発掘調査事業を受託することとなった。平成21年3月31日群馬県東部県民局太田土木事務所長と当事業団理事長との間で、平成20年度主要地方道太田大間々線バイパス地方道路交付金事業に伴う埋蔵文化財発掘調査委託契約の締結が行われ、調査期間を平

成21年4月1日～平成21年5月31日として調査が実施されることとなった。更に当初の調査対象地外に遺跡範囲が広がることが判明したため当初契約期間に発掘調査を終了することが困難となり平成21年5月26日に東部県民局太田土木事務所との協議を経て調査面積を4,904㎡増加し、調査期間を平成21年4月1日～平成21年7月31日に延長する変更契約を締結した。

上根遺跡は平成21年度主要地方道太田大間々線地域活力基盤創造交付金事業に伴い平成21年10月5日～7日、10月9日に群馬県教育委員会文化財保護課により試掘確認調査が太田市寺井町地内で実施された。事業地は周知の埋蔵文化財包蔵地である推定東山道駅路牛堀・矢ノ原ルートがあるとされ、試掘確認調査の結果、溝の可能性がある落ち込みが確認された。群馬県教育委員会文化財保護課の調整を経て平成21年度主要地方道太田大間々線地域活力基盤創造交付金事業に伴う発掘調査として当事業団が受託することとなり、平成22年3月31日付けで東部県民局太田土木事務所長との間で同事業委託契約が締



第1図 笠松遺跡・天良七堂遺跡・上根遺跡 遺跡位置図(国土地理院1:200,000 地勢図「宇都宮」)

結された。

平成23年度の上根遺跡の発掘調査については、平成23年度主要地方道太田大間々線社会資本総合整備(活力創出基盤整備)事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査として群馬県教育委員会文化財保護課の調整を経て当事業団が受託することとなり、平成23年9月1日東部県民局太田土木事務所長と当事業団理事長との間で、平成23年度主要地方道太田大間々線社会資本総合整備(活力創出基盤整備)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査委託契約が締結された。調査期間は平成23年10月1日から平成23年10月31日である。

第2節 調査の経過

笠松遺跡、天良七堂遺跡は、平成20年度主要地方道太田大間々線バイパス地方道路交付金事業に伴い、平成21年4月1日から平成21年7月31日まで4ヵ月間の発掘調査が実施された。笠松遺跡、天良七堂遺跡の調査区総面積は9,126㎡である。調査対象地の東には国指定史跡「上野国新田郡宇跡」があり、北側には推定東山道下新田ルートがあるとされ、古代に関する遺構の検出が想定された。主要地方道足利・伊勢崎線に接する笠松遺跡からは掘立柱建物群、基壇状遺構、溝などの遺構群が確認され、平成21年7月23日の新聞報道において遺跡の内容や現地説明会の開催について紹介された。平成21年7月25日に東部県民局太田土木事務所、群馬県教育委員会、太田市教育委員会の協力により現地説明会を実施し、一般見学者180名が来場した。

上根遺跡は平成22年度及び平成23年度に発掘調査が行われた。平成22年度は、平成21年度主要地方道太田大間々線地域活力基盤創造交付金事業として、平成22年7月1日～平成22年9月30日までの3ヵ月間で発掘調査が実施された。平成23年度は、平成23年度主要地方道太田大間々線島山工区社会資本総合整備(活力創出基盤整備)事業として平成23年10月1日～平成23年10月31日の1ヵ月間で発掘調査が行われた。

旧石器時代の調査については、笠松遺跡1区に旧石器調査坑(2×4m)を設定して確認調査を実施した。ローム新移層以下の黄色粘質土層、淡黄色粘質土の上部ローム層を対象とした。約1m下層の灰黄色粘質土下位から

扇状地礫堆積層となる。天良七堂遺跡では1・4区に旧石器調査坑を設定し、黄褐色～灰黄褐色粘質土の上部ローム層以下、下層は褐灰色砂質土、シルト層であり最下部層から湧水があった。2・3区は大規模な谷地が検出され、掘削により著しい湧水が予測されるため実施していない。上根遺跡では、縄文時代の遺構、遺物が検出された3区において旧石器時代の調査を実施した。1・2区は低地となり基本土層Ⅶ層から湧水となるため下層に遺構がないと判断し調査していない。3区で灰黄色土から黒褐色砂層による上部ローム層となり下層に砂礫層が認められた。旧石器時代の調査では、いずれも当該時代の遺物は出土しなかった。旧石器時代の調査地点については第3図を参照されたい。

発掘調査日誌抄録

発掘調査日誌から主な記録を抜粋した。本節では第1表のとおり変更後の遺跡名及び調査区名で呼称している。

平成21年度(2009年)笠松遺跡・天良七堂遺跡

- 4、6 天良七堂遺跡1区表土掘削開始
- 4、21 天良七堂遺跡1区竪穴住居、溝、天良七堂遺跡2区溝調査、笠松遺跡2区表土掘削
- 4、24 天良七堂遺跡1区全景撮影、竪穴住居、溝、天良七堂遺跡2区溝、土坑調査、天良七堂遺跡4区遺構確認、笠松遺跡2区溝調査
- 5、7 天良七堂遺跡1区棚列調査、天良七堂遺跡4区遺構確認、笠松遺跡1区表土掘削
- 5、12 天良七堂遺跡1区竪穴住居、旧石器時代調査、天良七堂遺跡4区及び笠松遺跡1区遺構確認、笠松遺跡2区埋め戻し終了
- 5、28 笠松遺跡1区南側竪穴住居、土坑、溝調査、1区北側表土掘削、竪穴住居、掘立柱建物調査
- 6、3 天良七堂遺跡3区溝、井戸、笠松遺跡1区掘立柱建物調査、1区南側埋め戻し終了
- 6、4 笠松遺跡1区北側表土掘削開始
- 6、15 笠松遺跡1区1号掘立柱建物調査
- 6、23 天良七堂遺跡1区竪穴住居、天良七堂遺跡3区溝、笠松遺跡1区ピット、溝調査
- 6、26 天良七堂遺跡1区竪穴住居、太田市史跡上野国新田郡宇跡調査・整備専門委員20名来跡
- 7、6 天良七堂遺跡1・3区、笠松遺跡1区全景撮影

7. 14 天良七堂遺跡1区竪穴住居、殿治遺構、掘立柱建物、天良七堂遺跡2区竪穴住居、溝調査、西側表土掘削終了、天良七堂遺跡3区埋め戻し終了、笠松遺跡1区基壇状遺構、竪穴状遺構調査
7. 25 現地説明会10:00～15:00、来場者180名
7. 31 天良七堂遺跡2区、笠松遺跡1区北側全景撮影、現場撤収作業
- 平成22年度(2010年)上根遺跡
7. 8 重機による表土掘削
7. 9 1・2区重機による表土掘削終了
7. 23 1区第1面写真撮影
7. 28 1区2面調査開始、2区溝調査、太田市史跡上野国新田郡庁調査・整備専門委員13名来跡
7. 30 1区2面調査、2区溝調査、県文化財審議委員会4名ほか来跡
8. 11 1・2区空中写真撮影、2区溝、土坑、竪穴状遺構調査
8. 23 2区スロープ部分、溝調査、3区表土掘削開始、4区竪穴住居調査
9. 13 3・4区空中写真撮影
9. 30 3・4区埋め戻し終了
- 平成23年度(2011年)上根遺跡
10. 4 重機による表土掘削開始
10. 11 6区全景撮影、5区重機による掘削開始
10. 13 5区溝、土坑調査
10. 14 6区埋め戻し終了、5区表土掘削終了、土坑、掘立柱建物、溝調査
10. 19 5区全景撮影、1号竪穴住居竪検出
10. 21 5区測量終了、現場撤収作業
10. 27 5区埋め戻し終了

第3節 整理作業の経過

笠松遺跡、天良七堂遺跡、上根遺跡の整理作業は、平成23年9月1日～平成24年3月31日に実施された。出土した土器・石器・金属製品・木製品などの遺物の接合・復元、保存処理を施し、遺物実測・観察記録、遺物写真撮影、報告書用原図作成などを行った。遺構図は修正、編集を行ったのち、デジタルデータへの変換とレイアウト作業を行った。遺構写真は報告書掲載写真の選別と写

真図版レイアウトを作成し、デジタル図版を作成した。なお、整理業務を実施するにあたって、調査担当者及び各時代遺物の分類、記載について事業団職員の協力を得ている。整理作業終了により平成24年3月に報告書発行に至った。出土遺物、図面、写真等の記録資料は群馬県埋蔵文化財調査センターに収納した。なお、整理作業において遺跡名、調査区名、遺構番号等の変更が生じたので第1表に掲げてある。ただし、これに伴う遺物注記については書き換えを行っていない。

第4節 調査の方法

1 調査区の設定

笠松遺跡、天良七堂遺跡、上根遺跡の調査区の設定については、道路や用水路などを調査区境界として便宜的に分け、笠松遺跡及び天良七堂遺跡の発掘調査では笠松遺跡A・B・C・D・E・F区、上根遺跡は1・2・3・4・5・6区と呼称した。整理作業により笠松遺跡A・B・C・D区を天良七堂遺跡1・2・3・4区に、笠松遺跡E・F区を笠松遺跡1・2区に遺跡名及び調査区名を変更した。平成21年度の笠松遺跡、天良七堂遺跡、平成22、23年度の上根遺跡における遺構測量については世界測地系国家座標第IX系を用いた。笠松遺跡及び天良七堂遺跡の基準点は国家座標第IX系 $X=36,434.814$ 、 $Y=-45,397.570$ であり、上根遺跡の基準点は、国家座標第IX系 $X=36,148.896$ 、 $Y=-45,052.475$ である。

2 調査の方法

発掘調査では、細かく分割した調査区ごとに掘削重機などを使用した表土掘削、残土運搬、埋め戻しを行い、現場作業員の手作業によって遺構検出と精査を行った。低地にかかる上根遺跡では調査区に排水側溝を設けて発掘調査を行った。

出土遺物については、遺構地点別取り上げ及び調査区一括取り上げを適宜行った。笠松遺跡、天良七堂遺跡の出土遺物は、笠松遺跡A・B・C・D・E・F区と注記した。遺構断面測量は直実測を行い、遺構平面測量はデジタル平板測量による。遺構写真はデジタルカメラと6×7版モノクロカメラを併用し、発掘調査担当者が地上



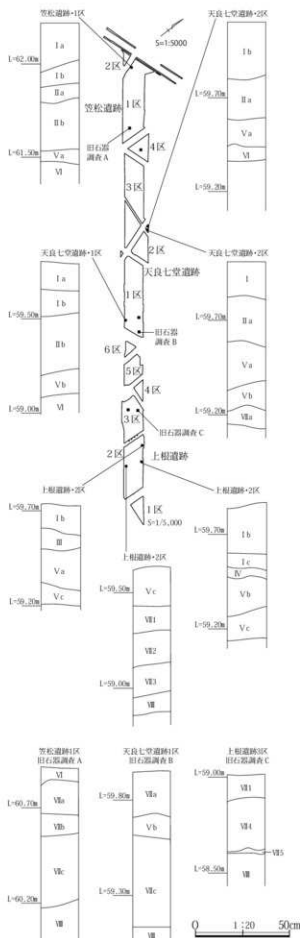
第2図 笠松遺跡・天良七堂遺跡・上根遺跡 遺跡位置図「この地図の内容にあたっては、和田市長の了承を得て、同市長の2,500分の1の地形図を使用し複製したものである。」

撮影及び高所作業車等を使用して写真撮影を行った。上根遺跡1区～4区では測量委託業者による空中写真撮影を実施した。

第5節 基本土層

笠松遺跡、天良七堂遺跡、上根遺跡の基本土層は以下のとおりである。上根遺跡は、圃場整備により表土下層の第II層は削平され、2区において第III層As-B混土層及び第IV層As-B堆積層が認められる。各層位の主な時代は、第II層から第III層は中世から近世に相当し、第IV層As-B堆積層から第V層は古墳時代から奈良・平安時代、第VI層は縄文時代に相当する。第VII層より下層については旧石器時代の調査での土層記録を基にして以下のとおり基本土層を設定した。第VI層ローム漸移層から下層の礫を多量に含む第VIII層との間にある上部ローム層とみられる第VII層は北部の笠松遺跡及び天良七堂遺跡と低地に位置する上根遺跡では湧水等の影響で堆積状況に違いが認められるが類似する地層として枝番号で分類している。

- 基本土層地点
 - 旧石器調査地点
- 笠松遺跡、天良七堂遺跡、上根遺跡
- I a 層 黒褐色土(7.5YR3/2)親表土 客土
- I b 層 黒褐色土(7.5YR2/2)耕作土
- I c 層 灰褐色土(10YR4/2)水田耕作土
- II a 層 黒褐色土(10YR3/2)砂質
- II b 層 黒褐色土(10YR3/2)砂質 褐色土塊を斑状に含む
- III層 暗褐色土(10YR3/3) As-B混土層
- IV層 暗褐色土(10YR3/3) As-B堆積層
- V a 層 黒褐色土(10YR3/2)ローム塊少量含む 粘性締まりあり
- V b 層 黒褐色土(10YR3/1)砂質 ローム塊を僅かに含む
- V c 層 黒褐色土(10YR3/1)灰白色シルト質土を斑に含む
- VI層 黄褐色土(10YR5/6)ローム漸移層 黒色土塊を含む
- VII a 層 浅黄色粘質土(2.5Y7/4)シルト質土 黒褐色土粒を含む
- VII b 層 明黄褐色粘質土(2.5Y6/6)粗粒 VII a より粘性あり
- VII c 層 淡黄色粘質土(2.5Y8/3)シルト質土 細粒 粘性強い
- VIII層 黒褐色粘質土(10YR3/1)灰白色シルト質土を斑に含む
- IX層 灰白色砂(7.5YR8/1)細粒砂 火山灰質
- X層 灰黄色土(2.5Y7/3)シルト質土 黒褐色土小塊を含む
- XI層 灰黄色土(10YR4/3)砂粒とX層の混土。白色粒1%黄色～黄白色軽石1%以下
- XII層 黒褐色砂(2.5Y3/1)下層から礫を多量に含む
- XIII層 灰黄色粘質土(2.5Y7/2)礫を多量に含む



第3図 笠松遺跡・天良七堂遺跡・上根遺跡 基本土層

第2章 地理的および歴史的環境

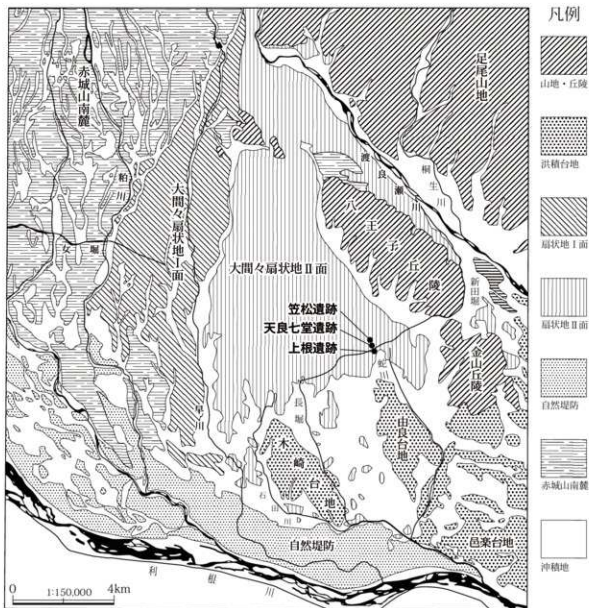
第1節 遺跡の位置と周辺の地形

笠松遺跡、天良七堂遺跡は、群馬県太田市新田小金井町、上根遺跡は群馬県太田市寺井町に所在する。

関東地方の北西部となる群馬県において太田市は県南東部に位置する。太田市は、伊勢崎市、みどり市、桐生市、邑楽郡大泉町、邑楽郡邑楽町のほか、東部を流れる渡良瀬川をほぼ挟んで栃木県足利市、南部を流れる利根川を挟んで埼玉県熊谷市や深谷市などの自治体と隣接している。太田市は明治時代以降、周辺町村と度重なる編

入や合併を行って現在に至っている。近年では平成17年(2005年)3月28日に太田市、新田郡新田町、尾島町、藪塚本町の1市3町と合併し現在の太田市に至る。

太田市街地となる東武鉄道桐生線太田駅より北西約6km、治良門橋駅から南西約1.2kmに位置する。笠松遺跡に接する主要地方道足利伊勢崎線は東西方向に走行し、主要地方道太田大間々線(現道)のほか国道17号上武道路や国道50号桐生バイパスなどと合流するなどアクセス道として利便性が高い道路である。また平成23年3月に全面開通した北関東自動車道の太田藪塚インターチェン



第4図 笠松遺跡・天良七堂遺跡・上根遺跡 周辺の地形区分図 (能登編 1981「アーバンポタ」19より作成)

ジ、太田桐生インターチェンジの開設により主要な交通網が発達する地域である。太田市城西町には大規模な住宅団地である城西の杜が造られるなど開発が進められている。

本遺跡は太田市のおよそ中央部に位置する。標高はおおよそ62～58mであり、一見平坦地に見えるが、北側から南側へ緩やかに傾斜して下る地形である。この地形は、群馬県の中央部から東側に聳える赤城山(標高1,827.6m)東側の大間々扇状地に起因する。扇状地は河川が山地から平地に移る所などに見られる堆積平野であり、山側の谷口を頂点とした扇状地となるものである。大間々扇状地は、第四紀洪積世後期に渡良瀬川によって形成された地形である。群馬県みどり市大間々町を扇頂とし、太田市北西部から伊勢崎市に至る標高50m～55mの線を扇端とする。南北およそ18km、東西幅およそ13kmの大規模な扇状地である。現在の行政区分で言うと、桐生市、太田市、伊勢崎市、みどり市などの地域を占め、関東地方の中でも特に規模が大きい。大間々扇状地は形成時期が異なる5つの形成面から構成されている。その中でも主体となるのが、古期に形成された大間々扇状地第Ⅰ面(桐原面)、新期に形成された大間々扇状地第Ⅱ面(藪塚面)という二つの面である。古期には、渡良瀬川によって洪積台地が浸食され桐原面を形成した。そののちに藪塚面が形成された。残された洪積台地が木崎台地や由良台地である。本遺跡周辺では、扇状地端部に見られる湧水地が多く存在しており、古くから灌漑用として利用されてきた。

本遺跡の東方には八王子丘陵及び金山丘陵がある。八王子丘陵は北西から南東方向に延びる分離丘陵である。金山丘陵は八王子丘陵の南東に位置する分離丘陵である。八王子丘陵と金山丘陵はごく低い鞍部を境にして離れているが、かつては一続きだったと考えられている。どちらも以前は足尾山地と一続きであり、足尾山地の延端部であったものに断層が生じ谷となり、大間々扇状地を形成した渡良瀬川が流路を東に変えたことにより、現在の独立した丘陵になったとされる。

本遺跡の南側には、沖積世に形成された沖積低地が広がっている。沖積低地も元々扇状地として形成された。扇状地では火山灰が降下し、ローム層として堆積したが、低地では火山灰がローム層として堆積しなかったと考えられる。

第2節 周辺の遺跡

本遺跡周辺地域では、旧石器時代以降の各時代の遺跡があることが知られている。以下に時代ごとに概観する。

旧石器時代

本遺跡周辺における旧石器時代の遺跡は少ない。八王子丘陵周辺の成塚住宅団地遺跡群(24)では、尖頭器などが出土している。同じく西長岡宿遺跡(30)ではサイドスクレイパーなどが出土している。

縄文時代

縄文時代全般を通して、八王子丘陵や金山丘陵周辺から遺跡がみつまっている。

成塚住宅団地遺跡群で草創期の柳葉形尖頭器が出土している。早期では西長岡宿遺跡で撫糸文土器、押型文土器が出土している。中期では成塚住宅団地遺跡群から中期後半の竪穴住居が1軒検出されている。後期では、西長岡宿遺跡で竪穴住居7棟、配石遺構200基が検出されている。本遺跡(天良七堂遺跡(2))からは後期の竪穴住居が検出されている。

弥生時代

太田市域の弥生時代遺跡は、丘陵及び沖積地内の低台地においてわずかに検出されている。これは、広大な沖積低地を開拓する術を持っていなかったからであると考えられる。本遺跡周辺では、八王子丘陵に接する大間々扇状地の台地上にある西野原遺跡(32)から中期後半から後期の竪穴住居が7軒検出されている。

古墳時代

太田市域における前期古墳時代の墳墓の特徴として、古墳と周溝墓が挙げられる。前期古墳の特徴として、丘陵端部の傾斜を利用し、古墳を築いている。全長55mを測る前方後円墳である寺山古墳は、金山丘陵北西に所在する。八王子丘陵の南端部にある成塚山古墳群(27)で調査された成塚山古墳群1号墳は、4世紀に築造された方墳である。周溝墓は、成塚住宅団地遺跡群にて8基が明らかにされている。古墳時代になると、弥生時代には未開であった沖積低地を開発するようになり、集落の姿も判明するようになる。集落は沖積低地内の低台地やその周辺に形成されていたようである。前期の集落遺跡としては石田川遺跡が有名であるが、本遺跡周辺では中屋敷・中村田遺跡(23)などがある。

中期になると、市域では沖積地内の微高地に古墳が築かれるようになる。東日本最大の前方後円墳である太田天神山古墳が築かれたのはこの時期である。本遺跡周辺では、前方後円墳の鶴山古墳(14)、帆立貝式古墳の亀山古墳(39)などが築かれている。中期の遺跡は、沖積低地内の低台地やその周辺地域など、前期集落の立地と同じ場合が多い。前沖遺跡、新田東部遺跡群、堂原遺跡などが挙げられる。

後期になると、八王子丘陵や金山丘陵において埴輪生産や須恵器生産が始まる。埴輪窯としては、八王子丘陵周辺では駒形神社埴輪窯跡や成塚住宅団地遺跡群が、金山丘陵周辺では金井口埴輪窯跡などが知られている。

後期の集落は大間々扇状地端部の台地や八王子丘陵・金山丘陵、高林台地などに分布する傾向がある。成塚住宅団地遺跡群や堂原遺跡などである。

後期から終末期にかけて、人々は八王子丘陵や金山丘陵及び沖積低地内の微高地に群集を築いている。本遺跡周辺では、上強戸古墳群、大鷲梅古墳群、貧乏塚古墳群等が挙げられる。また、後期には、本遺跡の北約1kmに墳丘長74mの前方後円墳である二ツ山古墳1号墳(36)、墳丘長45mの前方後円墳である二ツ山古墳2号墳(37)が築造される。この古墳の被葬者がのちの当地の発展の基礎を作ったと考えられる。

奈良・平安時代

本遺跡周辺は古代には新田郡に属していたが、この地域には重要な遺跡が集中し、郡の中心部をなしていたことが分かっている。

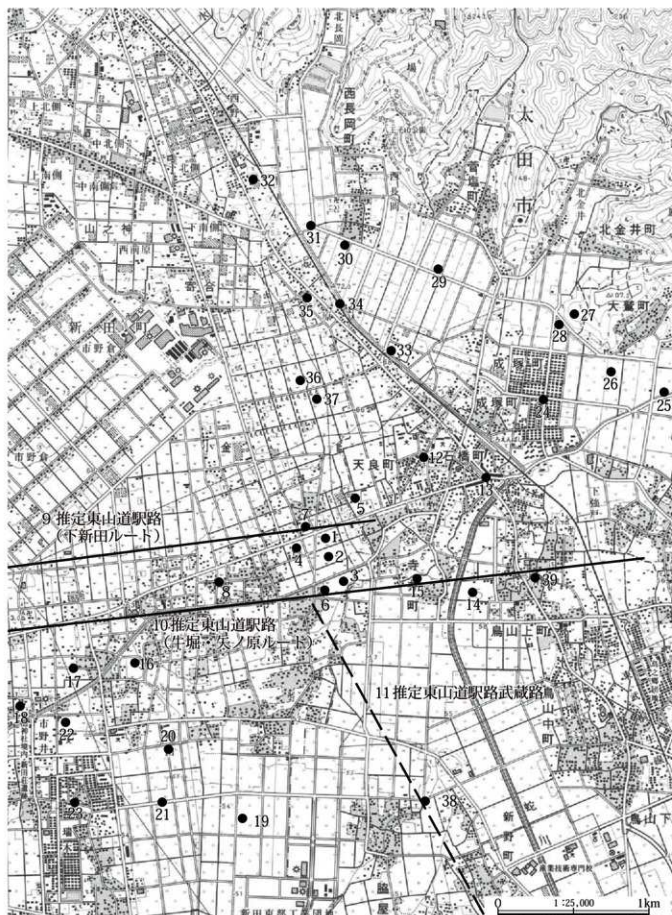
天良七堂遺跡は昭和30(1955)年に群馬大学によって総柱の礎石建物が発掘調査されて以来、周辺で多くの建物跡が確認されていることから、新田郡衙であろうと推定されてきたが、平成19(2007)年に太田市教育委員会によって郡庁跡(5)が確認され、新田郡衙であることが確定した。翌平成20年には国史跡に指定され、現在太田市教育委員会による確認調査が継続して行われている。郡庁跡は1辺約90mと全国最大規模であり、四方を長大な掘立柱建物で囲み、中央に正殿と前殿が建てられている。周辺には数多くの倉庫が建ち並び、それらがさらに溝で囲まれ、南側に推定東山道駅路の下新田ルート(9)が通過している。本遺跡はその西側近くに位置しているため関連施設が存在が考えられ、実際北側隣接地では平

成4・5年に旧新田町教育委員会によって掘立柱建物が確認されている(4・笠松遺跡)。天良七堂遺跡の北東には7世紀後半に創建された寺井庵寺(12)があり、中心部の調査はされていないものの、大規模な寺院であったと考えられている。本遺跡の西側には基壇をもつ2棟の瓦葺き総柱建物が調査されている入谷遺跡(8)、唐三彩陶枕が出土した境ヶ谷遺跡(17)がある。また、東山道駅路と推定されている2本の古代道路跡、下新田ルート(9)と牛堀・矢ノ原ルート(10)が東西に通過し、さらに近年新野脇屋遺跡群(38)で東山道武蔵路と思われる古代道路跡(11)が確認され、それが本遺跡の西側で牛堀・矢ノ原ルートと合流すると見られている。このように本遺跡の周辺は古代新田郡を理解する上で重要な遺跡が集中する地域である。

周辺では上野井遺跡(16)の調査によって奈良時代の竪穴住居が検出された。村田・本郷遺跡(20)では昭和59・61年の調査によって掘立柱建物や竪穴住居が検出され、中溝遺跡(19)では昭和61・62年の調査で掘立柱建物や竪穴住居のほか9～10世紀の瓦片が出土した。赤城南遺跡(22)では昭和50年の調査によって竪穴住居、掘立柱建物などが調査された。上強戸遺跡群(25)では7世紀代の水田が検出されている。大鷲遺跡(26)、成塚遺跡群(28)、鳥谷戸遺跡(31)からはAs-Bで埋没した水田が検出されている。西野原遺跡、峯山遺跡では大規模な製鉄遺構が調査されている。この時代には古墳時代金山丘陵周辺で始まった須恵器生産が引き続き行われていた。須恵器生産以外にも、鉄生産が行われていた。八王子丘陵では西野原遺跡、峰山遺跡など、金山丘陵では菅ノ沢遺跡、高太郎皿遺跡などで鉄生産遺構が検出されている。

中近世

平安時代後半になり、全国で私領開発が進み、荘園が成立するようになった。当地では、保元二年(1157)源義重(新田義重)によって新田荘が形成された。鎌倉時代末期には元弘三年(1333)年新田義貞をはじめとする新田一族が新田荘の生品神社(18)に参集し鎌倉に向けて挙兵したとされている。石橋地藏久保遺跡(13)では中世から近世の溝などが検出されている。



第5図 笠松道跡・天良七堂道跡・上根道跡 周辺の道跡(1:25000)

第2表 笠松遺跡・天良七堂遺跡・上堰遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	概要	文献	時代
1	笠松遺跡	本報告書	『群理文年報29』2010	古墳・奈良・平安・中世・近世
2	天良七堂遺跡	本報告書	『群理文年報29』2010	縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世
3	上堰遺跡	本報告書	『群理文年報30』2011	縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世
4	笠松遺跡	古墳時代から平安時代の竪穴住居、掘立柱建物、土坑、溝などが調査された。	『新田町誌』、新田町教委 第21集「天良七堂遺跡・笠松遺跡」1999	古墳・奈良・近世
5	天良七堂遺跡	平成20年国指定史跡「上野国新田郡浮跡」西側正倉城では礎石建物、掘立柱建物、竪穴住居、溝などの遺構、新田部分跡からは礎石建物、掘立柱建物、石敷き道構、道路状遺構などが調査された。	『新田町誌』、新田町教委 第19集「新田町内遺跡Ⅰ」1999、第21集「天良七堂遺跡・笠松遺跡」1999、第24集「新田町内遺跡Ⅱ」2000、第26集「新田町内遺跡Ⅲ」2001、太田市教委「埋蔵文化財調査年報3」1993、第37集「天良七堂遺跡Ⅱ」2004、「太田市内遺跡4」2009、「太田市内遺跡5」2010、「天良七堂遺跡Ⅱ」2010	奈良・平安
6	上堰遺跡	推定東山道駅路の側溝や古墳時代の住居などが調査されている。新田町調査分。	新田町教委「新田町内遺跡Ⅰ」1999、第24集「新田町内遺跡Ⅱ」2000、第36集「新田町内遺跡Ⅴ」2004	縄文・古墳
7	堀廻遺跡	奈良・平安時代の掘立柱建物、溝、中近世も溝、井戸が調査された。	『群理文年報30』2011	奈良・平安・中世
8	入谷遺跡	古代の礎石建物、掘立柱建物、大溝のほか7世紀の瓦などが検出されている。	新田町教委 第3冊「入谷遺跡」1981、第6冊「入谷遺跡Ⅱ」1981、第8冊「入谷遺跡Ⅲ」1987、第31集「入谷遺跡Ⅳ」2002	古墳・奈良
9	推定東山道駅路(下新田ルート)	北側と南側の側溝および道路硬化面が検出され、路面幅約11mの道路状遺構が調査された。	新田町教委 第35集「藤塚遺跡・下新田ルート・推定東山道駅路」2004、第38集「新田町内遺跡Ⅵ」2005	古代
10	推定東山道駅路(牛堀・矢ノ原ルート)	高崎市東部～太田市北西部で確認されている古代道路跡。路面幅約12m。	新田町教委 第24集「新田町内遺跡Ⅱ」2000、第35集「藤塚遺跡・下新田ルート・推定東山道駅路」2004、第36集「新田町内遺跡Ⅴ」2004、第38集「新田町内遺跡Ⅵ」2005 太田市教委「太田市内遺跡5」2010	古代
11	推定東山道駅路武蔵路	新野脇屋遺跡群では南東から北西にかけて延長640m、心々距離9.0m-13.7mの幅を持つ道路状遺構が調査された。	太田市教委「新野脇屋遺跡群発掘調査報告書」2010	奈良・平安
12	寺井麻寺	古代寺院跡、竪穴住居、土坑、溝などが調査され、古代の瓦が出土した。	太田市教委「埋蔵文化財発掘調査年報1」1991、「太田市内遺跡6」2011(太田市教委)	奈良・平安
13	石橋地蔵久保遺跡	古墳時代から奈良・平安時代の集落跡などが調査された。	群理文第425集「石橋地蔵久保遺跡」2007	古墳・奈良・平安
14	鶴山古墳	5世紀後半の前方後円墳。県史跡指定(昭和26年)	太田市教委「埋蔵文化財調査年報」平成3年	古墳
15	牛堀・矢ノ原ルート・久保田畑遺跡	東山道駅路(牛堀・矢ノ原ルート)1箇所、竪穴住居9軒が調査された。	太田市教委「太田市内遺跡5」2010	古墳
16	上野井遺跡	古墳時代から奈良・平安時代の竪穴住居、掘立柱建物、井戸、道路状遺構などが調査された。	新田町教委「新田町誌」、第13集「境ヶ谷戸遺跡・原宿遺跡・上野井Ⅱ遺跡」1994、第19集「新田町内遺跡Ⅰ」1999、第24集「新田町内遺跡Ⅱ」2000年、第29集「新田町内遺跡Ⅳ」2002、第38集「新田町内遺跡Ⅵ」2005、第39集「上野井遺跡」2005	古墳・奈良・平安・中近世
17	境ヶ谷戸遺跡	奈良・平安時代の竪穴住居、土坑、溝などが調査され、平成6年度の調査では唐三彩陶器が出土した。	新田町教委 第13集「境ヶ谷戸遺跡・原宿遺跡・上野井遺跡Ⅱ」1994、「新田町内遺跡Ⅰ」1999、第29集「新田町内遺跡Ⅳ」2002	奈良・平安・近世
18	生品神社	史跡新田荘遺跡の一部。国指定史跡「新田義貞平兵衛殿地」	『新田町誌』	奈良・平安
19	中溝遺跡	古墳時代から平安時代の竪穴住居、掘立柱建物、中近世の方形館跡、掘立柱建物、溝、井戸、墓坑などが調査された。	『新田町誌』、新田町教委 第11集「新田東部遺跡群」1993	古墳・奈良・平安
20	村田・本郷遺跡	古墳時代の集落跡。2008年の調査では住居跡2軒、土坑9基、煎釜か所が検出された。	『新田町誌』、新田町教委 第11集「新田東部遺跡群」1993、「新田町内遺跡Ⅰ」1999、太田市教委「太田市内遺跡3」2008	古墳・奈良・平安
21	中屋敷東遺跡	古墳時代、奈良・平安時代の竪穴住居、溝、円形周溝などが調査された。	第11集「新田東部遺跡群」1993(新田町教委)	古墳・奈良・平安
22	赤城南遺跡	古墳時代の竪穴住居、平安時代の竪穴住居や掘立柱建物、近世の溝などが調査された。	新田町教委「新田町誌」、第4冊「市野井赤城南遺跡」1984、第36集「新田町内遺跡Ⅴ」2004、第38集「新田町内遺跡Ⅵ」2005	古墳・奈良・平安・近世
23	中屋敷・中村田遺跡	古墳時代前期から後期の竪穴住居、掘立柱建物、方形周溝墓、土坑、奈良・平安時代の竪穴住居、掘立柱建物、溝、土坑、中世の館跡、溝、堀、井戸などが調査された。	新田町教委「中屋敷・中村田遺跡」1997	古墳・奈良・平安・中世
24	成塚住宅団地遺跡群	縄文時代中期後半、弥生時代後期、奈良・平安時代の集落、周溝墓、古墳群などが調査された。	群馬県企業局、太田市教委「成塚住宅団地Ⅰ」1990、「成塚住宅団地Ⅱ」1990、「成塚住宅団地Ⅲ」1992	縄文・古墳・奈良・平安

第2章 地理的および歴史的環境

番号	遺跡名	概要	文献	時代
25	上強戸遺跡群	古墳時代後期から平安時代後期の水田跡、中世初期跡、殿治土房などが調査された。	群理文第443集「上強戸遺跡群」2008、群理文第453集「上強戸遺跡群(1)」2009、群理文第507集「上強戸遺跡群(2)」2010	古墳・奈良・平安・中世
26	大鷲遺跡	古墳時代の型六状遺構や土坑、溝、井戸、奈良・平安時代の掘立柱建物や水田、中近世の掘立柱建物や溝などが調査された。	群理文第456集「大鷲遺跡」2008	古墳・奈良・平安・中世・近世
27	成塚向山古墳群	古墳時代前期の住居、古墳時代前期の1号墳、古墳時代後期の2号墳が調査された。	太田市教委「市内遺跡XVI」、群理文第426集「成塚向山古墳群遺跡」2008	弥生・古墳
28	成塚遺跡群	古墳時代前期の土坑や溝、浅間軽石で埋没した水田やそれに伴う溝や温め状遺構が調査された。	群理文第501集「成塚遺跡群」2010	古墳・奈良・平安・中世・近世
29	菅塩遺跡群	縄文時代早期後半から前期前半及び晩期後半の遺物が出土。古墳時代の型六状住居や土坑、中近世の水田や畑などが調査された。	群理文第451集「菅塩遺跡群」2008	古墳・奈良・平安・中世・近世
30	西長岡宿遺跡	縄文時代後期の型六状住居、配石遺構、古墳時代の型六状住居、平安時代の型六状住居、井戸、中近世の土坑、井戸などが調査された。	群理文第490集「西長岡宿遺跡(1)」2010、群理文第504集「西長岡宿遺跡(2)」2010	縄文・古墳・平安・中世・近世
31	鳥谷戸遺跡	浅間軽石で埋没した水田や排水用と考えられる溝が調査された。	群理文第456集「西野原遺跡(3) (4)鳥谷戸遺跡」2008	平安・中世・近世
32	西野原遺跡	縄文時代、弥生時代、古墳時代、平安時代の集落、古代、奈良・平安時代製鉄・鍛冶遺構などが調査された。	群理文第387集「西野原遺跡(1) (2)」2006、群理文第447集「西野原遺跡(3) (4)鳥谷戸遺跡」2008、群理文第456集「西野原遺跡(5) (7)鳥谷戸遺跡」2009	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世
33	菅塩西両台遺跡	中世前半の鍛冶関連遺物を含む溝や中世から近世の土坑、井戸、土塀、溝、道路などが調査された。	群理文第209集「西長岡南遺跡・菅塩西両台遺跡・成塚西両台遺跡Ⅲ」1996	縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世
34	西長岡南遺跡	古墳時代の型六状住居、土坑、古墳、中近世以降の溝、近世以降の土坑や道路などが調査された。	群理文第209集「西長岡南遺跡・須賀塩西両台遺跡・成塚永昌寺遺跡・成塚石橋遺跡Ⅲ」1996、群理文第228集「西長岡南遺跡Ⅱ・Ⅲ」1997	古墳・中近世
35	西長岡横塚古墳群	昭和60年度の調査において第28号墳主体部より小型の家型石棺が出土した。	太田市教委「西長岡横塚古墳群発掘調査概報」1986、「市内遺跡」1994	古墳
36	二ツ山古墳一号墳	6世紀後半～7世紀初頭の前方後円墳、昭和23年県指定史跡。	「新田町誌」	古墳
37	二ツ山古墳二号墳	6世紀後半～7世紀初頭の前方後円墳、平成11年に2号墳の埋没が調査された。昭和59年県指定史跡。	新田町教委「第26集」新田町内遺跡Ⅲ」2001	古墳
38	新野脇屋遺跡群	古墳、古墳時代から奈良平安時代にかけての住居、東山道武蔵路などが調査された。	太田市教委「新野脇屋遺跡群発掘調査報告書」2010	古墳・奈良・平安
39	龍山古墳	全長約58m、墳丘径30m余りを測る、5世紀末に築造される、帆立貝式古墳の形状をとどめている。	太田市「太田市史」1996	古墳

参考文献

- 『新田町誌第一巻通史編』1990 新田町
- 『新田町誌第二巻資料編』1990 新田町
- 『太田市史』1996 太田市
- 『歴史の遺調査報告書(東山道)』1979 群馬県教育委員会
- 『上毛古墳総覧』群馬県史蹟名勝天然記念物調査報告書第5号
- 『アーバンポタ19』1981 久保田鉄工株式会社
- P54図-1 赤城山南麓周辺の地形と中世荘園の分布より引用、一部加筆
- 『天良七堂遺跡、笠松遺跡』1999 新田町文化財調査報告書第21集
- 『藤塚遺跡・下新田ルート、推定東山道駅跡』2004 新田町文化財調査報告書第35集
- 『高林三人遺跡・八反田遺跡』2005 群理文第357集
- 『新田町内遺跡VI』2004 新田町文化財調査報告書第36集
- 『天良七堂遺跡Ⅱ』2004 新田町文化財調査報告書第37集
- 『天良七堂遺跡Ⅱ』2010 太田市教育委員会
- 『石橋城久保遺跡』2007 群理文第425集
- 『新野脇屋遺跡群発掘調査報告書』2010 太田市教育委員会
- 『新田郡衙と東山道駅跡予備集』2011 太田市教育委員会

第3章 笠松遺跡

第1節 笠松遺跡の概要

1・2区では、古墳時代～奈良・平安時代の竪穴住居、奈良・平安時代～中近世の掘立柱建物、基壇状遺構、粘土探掘坑、柵列、土坑、ピット、井戸、溝が検出された。

1区の遺構分布状況は、北側及び南側に集中し中央部は遺構の検出が少ない(第6・7図参照)。調査面標高は61.60～60.60mで南側が1mほど低く傾斜する。平成4・5年度の太田市教育委員会(旧新田町教育委員会)の発掘調査で、1・2区の北側隣接地で連続する掘立柱建物や溝などが検出されている。

第2節 1区の調査成果

1区の発掘調査では、ローム漸移層(基本土層第VI層)及びローム面を遺構確認面として、古墳時代から中近世に至る遺構が検出された。

1 古墳時代以降の遺構と遺物

検出された遺構は、竪穴住居3軒、掘立柱建物13棟、柵列2条、基壇状遺構1基、土坑23基、ピット261基、粘土探掘坑5基、井戸1基、溝15条である。以下のとおり遺構ごとに記す。

(1) 竪穴住居

1区から検出された竪穴住居は3軒であり、調査区外に出るものや他の遺構と重複するため、部分的な調査となったものもある。時代別に見ると7世紀から8世紀前半に属する。竪穴住居は発掘調査による番号順に掲載した。なお、3号竪穴住居は整理段階で住居としての確証がないと判断したため2号粘土探掘坑に変更した。

1号竪穴住居(第8図 PL.2・31)

位置 X=392～395、Y=-326～329

形状・規模 平面は長方形。規模は長軸長3.13m、短軸長2.44m、壁高約5cm、床面積は6.97㎡。

主軸方向 N-32°-W

重複 南西壁が1号溝に切られ、壁上端は消失しているが床面下の貯蔵穴は残存する。

埋没土 下層にローム粒・塊、黒褐色土が堆積。自然埋

没か人為的かは不明。

床面 北側から南側にかけて緩やかに下る。使用による硬化面は不明瞭である。掘り方は黄褐色ローム塊及び暗褐色土を含む黒褐色土により床面を構築する。

竈 南壁中央部からやや東寄りに付設される。燃焼部底面は根拠乱を受けて残存状態は不良である。規模は焚口幅38cm、燃焼部奥行き34cmである。径60cmの焼土範囲内から構築材の一部と思われる25cm大の礫が出土する。掘り方埋土は10cmほどの掘り込みに、黒色土とロームを混在させる人為的埋土で、燃焼部床面を整えている。

貯蔵穴 南西隅から検出された。平面形状は不定形であり東側は不明瞭である。埋土上層からは多くの土器片など集中して出土するが、底部からの出土は見られない。埋没土は黒褐色土を主体とする自然堆積と考えられる。

柱穴 床面調査、掘り方調査でも検出できなかった。

他の施設 掘り方調査によって住居南西隅からピット1基(P1)が検出された。平面形は円形で、長径42cm、短径39cm、深さ21cmである。断面に柱痕は認められず、検出位置からも柱穴とは考え難い。

掘り方 床下のローム面を5～15cmの深さで掘り込む。著しい凹凸面だが床下施設は認められない。

遺物出土状態 第8図1・3は床面直上、同図5は貯蔵穴の埋土からの出土であり住居に伴うと考えられる。同図2・4は掘り方からの出土である。非掲載遺物は土師器大破片403.3g、土師器小破片14.2g、須恵器大破片13.3gである。

所見 出土遺物から時期は7世紀前半と考えられる。

2号竪穴住居(第9図 PL.12)

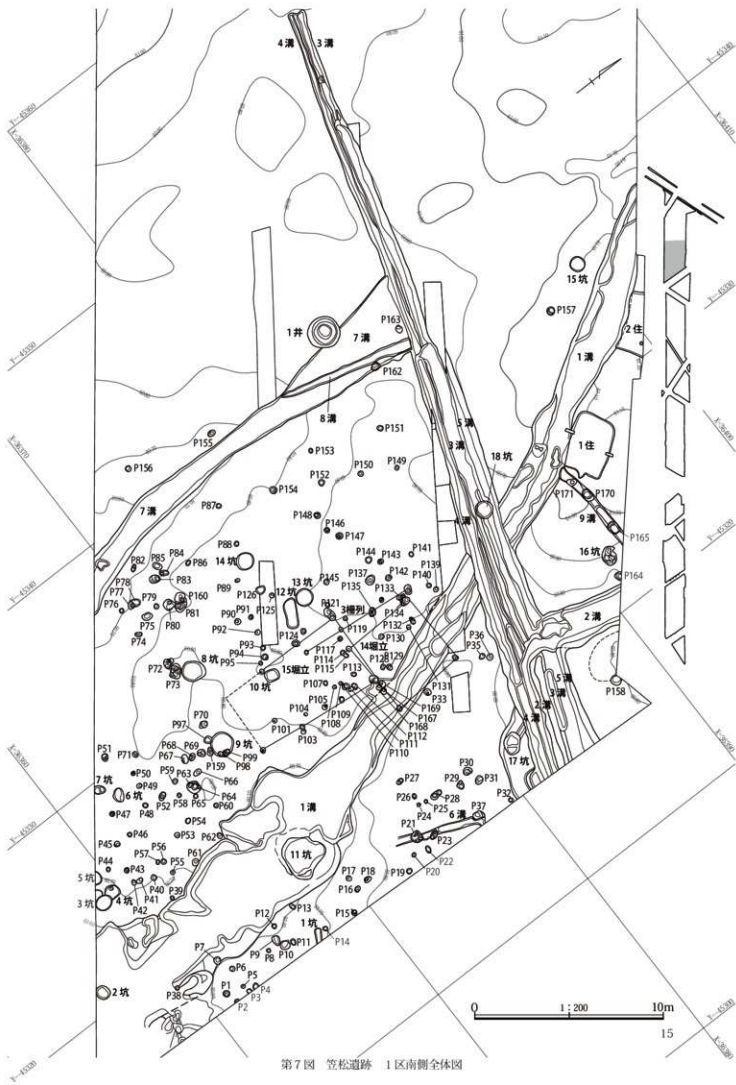
位置 X=398～401、Y=-329～333

形状・規模 調査区北東境で検出され、南西部で1号溝と重複するため、全体の形状や規模は不明である。検出部規模は3.45m、壁高10～21cmである。

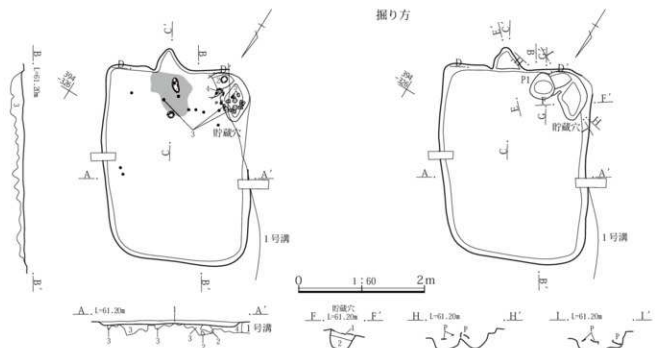
主軸方向 北西-南東と推定される。

重複 1号溝に南西半部を切られる。

埋没土 ローム塊を含む黒褐色土を主体とする土で埋没する。埋没土中にローム塊や焼土粒・塊が混入し、レン

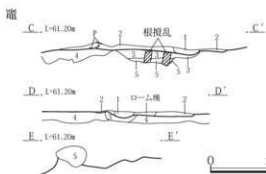


第7图 笠松道跡 1区南侧全体图

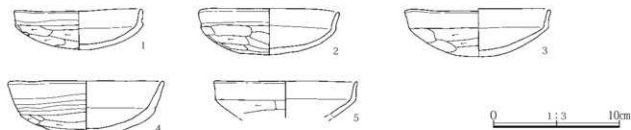


- 1 黒褐色土 ローム中粒・大塊5%
- 2 黄褐色ローム塊
- 3 黒褐色土 暗褐色土を含む ローム中粒・大塊5%
- 4 3層と同質でやや黒味を帯びる

- 貯蔵穴
- 1 黒褐色土 ローム中粒1% 底部に径5mmの焼土粒を含む
 - 2 黒褐色土 1層より黒味少ない ローム土との混土



- 竈
- 1 黒褐色土 ローム中粒5% 焼土中粒1%
 - 2 暗褐色土 ローム中粒3% 1層より黄色味あり やや明るい色調 焼土粒1%以下
 - 3 1層に類似しローム粒少なく焼土粒多い
 - 4 竈穴住居層方土
 - 5 ローム主体 4層土を含む



第8図 1区1号竈穴住居と出土遺物

ズ状堆積が認められないことから人為的による埋没の可能性がある。

床面 南東壁周辺でやや高くなるが、全体的に凹凸は少なくほぼ平坦である。使用による硬化面は不明瞭であるが、東寄りの1号ピット周辺でやや締まる。

貯蔵穴・柱穴 床面精査では検出できなかった。

他の施設 床下土坑2基、ピット2基が検出された。1号土坑の平面形状は隅丸長方形で、規模は長軸70cm、短軸61cm、深さ18cm。2号土坑の平面形状は不整形円形で、規模は長径96cm、短径93cm、深さ20cmである。P1の平面形状は長方形で、規模は長辺20cm、短辺15cm、深さ7cmである。P2の平面形状は不整形円形で、規模は長径28

cm、短径27cm、深さ38cmである。1号床下土坑は位置と形状から貯蔵穴の可能性がある。

床下の状態 5～10cmの深さで大小の凹凸が著しいローム面となる。1号溝との重複部分に2号竪穴住居掘り方が残存し、床下から2基の土坑が検出された。掘り方埋土はローム塊を多量に含む人為的埋土である。また1号溝重複部分に沿って幅17～46cm、深さ4～5cmの溝状の掘り込みが認められたが、壁溝との確認はできなかった。

遺物出土状態 非掲載遺物は土師器大破片64.5gである。

所見 床面直上からの遺物がないため時期は明確にはできないが、重複する1号溝(8世紀後半代)や住居埋没土

下層出土遺物から6世紀から7世紀と考えられる。

4号竪穴住居(第10図 PL. 2・31)

位置 X=435～438, Y=-381～384

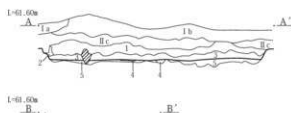
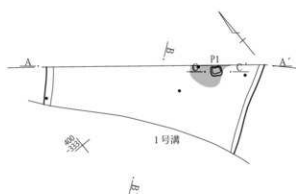
形状・規模 北側は調査区外のため不明。平面形状は長方形と考えられる。規模は東西長2.44m、壁高7～13cmである。

主軸方向 N-72°-E

重複 なし。

埋没土 炭化物や焼土大塊、ローム塊などを多量に混入するため人為的な埋没と考えられる。

床面 ほぼ水平であり、硬化面は不明瞭である。地山を床としており掘り方はない。

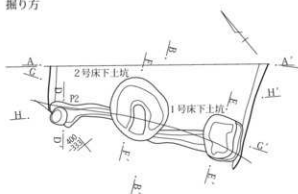


A-A'-B'-B''

- 1 黒褐色土 ローム小粒 焼土塊1%
- 2 暗褐色土 やや黒色味がある
- 3 黒褐色土 ローム塊多く人為的埋土と思われる
- 4 黒褐色土 ローム中粒1% 掘り方埋土
- 5 黒褐色土 3層に近似的 やや黄色味を帯びる 掘り方埋土
- 6 暗褐色土 黒褐色土小塊 ローム小塊少量含む 2号床下土坑埋没土
- 7 薄い黄褐色土 ローム大塊を多量に含む 2号床下土坑埋没土



掘り方



P1

1 暗褐色土 ローム大粒2% 焼土中粒1% 炭化物1%

P2

1 黒褐色土 ローム中粒・中塊5%

1号床下土坑



2号床下土坑



1号床下土坑

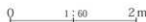
1 暗褐色土 ローム土を含む 下位は黄色味あり

2 黒褐色土 ローム中粒・小塊2%

2号床下土坑

1 黒褐色土 ローム中粒・大塊2%

2 黒褐色土とロームの混土 ローム大塊を含む



第9図 1区2号竪穴住居

竈 東壁に付設される。主軸方向は住居主軸と同じ。規模は焚口幅50cm、燃焼部奥行き50cmである。燃焼部床面住居床よりやや高く、ほぼ平坦である。焚口から貯蔵穴周辺に構築材と考えられる礫が散乱する。

貯蔵穴 南東隅に位置し、平面形状は円形で、規模は長径52cm、短径51cm、深さ28cmである。埋没は自然堆積と考えられる。

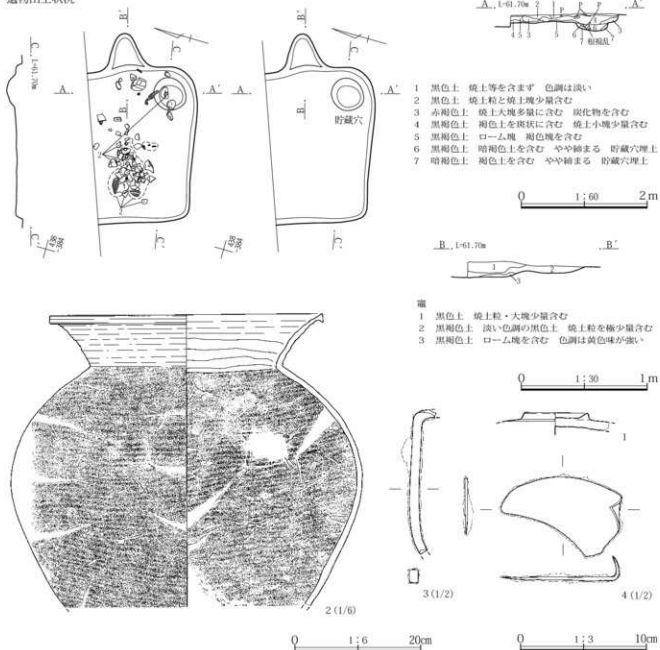
柱穴・周溝 床面精査でも検出できなかった。

遺物出土状態 竈に対面する西半分の床面から裏片が散

乱し(第10図2)、埋没土からは杯蓋片(同図1)や鉄製品(同図3・4)が出土した。非掲載遺物は土師器大破片3.5g、土師器小破片17.6g、須恵器大破片71.4g、須恵器小破片0.6gが出土する。

所見 床面及び埋没土に炭化物片及び焼土塊が多く焼失住居の可能性がある。時期は出土遺物から8世紀前半と考えられる。

遺物出土状況



第10図 1区4号竈穴住居と出土遺物

(2)掘立柱建物

1区からは13棟の掘立柱建物が見つかった。建物の時期は、出土遺物が少ないために特定できないものが多いが、14・15号掘立柱建物は中近世、その他の建物は古代に属すると考えられる。古代の建物群の性格については第6章第2節に記述した。

1号掘立柱建物(第11・12図 PL. 3)

ほぼ同一位置での建て替えが認められるので、新しいものをA、古いものをBと呼び分けることにする。

位置 X=424～439 Y=-370～381

重複 北東部に4号粘土採掘坑が重複し、本建物が新しい。6号・7号掘立柱建物の東辺の柱穴と、本建物の東辺とは重複するが、新旧関係を確認できなかった。

主軸方向 AはN-23°-W、BはN-25°-W

規模・形態 A・Bともに桁行5間、梁行3間の、いわゆる側柱建物である。Aの柱穴はP1～16である。掘り方は一辺88～164cmの方形か長方形で、柱痕から復元できる柱径は30～35cmである。建物規模は桁行12.15m(東辺と西辺の平均)で40.5尺、梁行5.42m(北辺と南辺の平均)で18尺に復元でき、面積は65.43㎡である。柱間寸法は第3表のとおりであるが、特に桁行の柱間寸法にばらつきがある。梁行は、それぞれ東側2間の柱間は5.7尺でほぼ等しいが、西側の柱間はやや広がっている。Bの柱穴はAに破壊されているものが多いが、11基を確認できた。掘り方は一辺74～143cm程度の方形ないし長方形と推定される。柱痕が認められるものは少ないが、柱径は30cmと推定される。建物規模は桁行12.71m(東辺と西辺の平均)で42.4尺、梁行4.99m(北辺と南辺の平均)で16.6尺に復元できるが、北辺はやや狭くなっている。面積は67.48㎡である。柱間寸法は不明なところもあるが、第4表のとおりであり、これもばらつきが大きい。

出土遺物 P16の柱痕から須恵器瓶が出土している。

所見 今回の調査区では最大規模の建物である。柱痕から出土した須恵器瓶は8世紀末～9世紀のものであり、建物の規模や柱穴の形状も合わせ考えると、その前後の時期のものと考えられる。

2号掘立柱建物(第13図 PL. 3)

位置 X=416～421、Y=-387～390

規模・形態 調査できたのは一線に並ぶピット3基のみであり、これを東辺として西の調査区外に延びていく建物と思われる。柱穴の掘り方は径70～85cmの円形で

ある。3基とも柱痕が残り、それによって計測すると東辺の長さは4.47m(14.9尺)、柱間は北から2.13m(7.1尺)、2.34m(7.8尺)なので、本来7尺+8尺=15尺を意識した設計なのではないだろうか。

出土遺物 なし。

所見 全体規模や形状は不明であり、遺物もないので時期は特定できない。

3号掘立柱建物(第14図 PL. 3)

位置 X=409～416、Y=-383～389

重複 東側に1号基壇状遺構が重複し本建物が新しく、中央には12号溝が重複し本建物が古い。

主軸方向 N-57°-E

規模・形態 西側が調査区外となるため、全形は不明であるが、南辺で3間分を確認しており、南北3間、東西3間かそれ以上の総柱建物である。ただし、東辺の柱穴は北端のものを除いて小さく、柱筋もややずれているところがあり、そのためこれは廂のような施設であり、その西側の部分が建物本体であると思われる。柱穴の掘り方は径55～73cmの円形ないし楕円形であるが、東辺のP6・9・13は0.23～0.31mと小さい。断面や掘り方底面の柱の当たりからみて、各柱の直径は20cm前後である。建物の規模は、廂と思われる東辺で5.16m、建物本体の東辺のP2～P12では5.59m、南辺は東端のP13を除き、P10～P12で3.62mである。柱間は、各柱筋が歪んでいるため、部分によりかなり差があり一定していないが、本体東辺のP2～P12で見ると、北から1.89m+1.71m+1.99mとなり、中央間が狭い。本体東辺と廂との幅は1.80～1.84mでほぼ一定し、6尺を意識しているようである。

出土遺物 なし。

所見 東側に廂状の施設をもつ総柱の掘立柱建物である。出土遺物はなく、時期は特定できない。

4号掘立柱建物(第15図 PL. 3)

位置 X=439～442、Y=-368～374

重複 西に14号溝、東に15号溝が重複し、本建物が古い。

主軸方向 南辺の方位はN-68°-E。

規模・形態 柱穴はP1～4の4基見つかり、東端(P3・4)は2基が重複している。断面形を見るとP1・2・4が類似しているが、柱間から考えてP1～3の3基が組み合うものと思われ、それを南辺として北側の調査区外に延びる建物であろう。ただし、東側も調査区が近

いで、こちら側にも延びる可能性があり、南辺が2間だとは断定できない。P 4は建て替えか、あるいは別の掘立柱建物のものである可能性が考えられるが、この付近は調査区が狭いので、組み合う柱穴は見つかっていない。柱穴はP 1は円形、P 2は方形、P 3・4も方形と推定され、いずれにも柱痕が見られる。規模は長さ5.47m、柱間は西から2.70+2.77mであり、いずれも9尺を意識したものであろう。

出土遺物 なし。

所見 南辺しか調査できなかった。南側の5号掘立柱建物に長さ・方位が類似しているの、同様な建物である可能性があるが、距離が近いので同時存在とは考えられない。主要地方道足利・伊勢崎線歩道拡幅工事に伴う旧新田町教育委員会による発掘調査によって検出されたピットには、本建物の柱穴と考えられるものがある(第6図)。出土遺物はないが、建物方位が1号掘立柱建物に近似するので、時期も近接していると思われる。

5号掘立柱建物(第16図 PL. 4)

位置 X=432~441, Y=-367~373

重複 14号溝、219~221・223号ピットが重複し、本建物が古い。

主軸方向 西辺の方位はN-19°-W。

規模・形態 調査区内では2間×2間の総柱建物であるが、東側は調査区外となるので、東にさらに延びている可能性もある。柱穴はP 1~8の8基があり、歪みはあるものいずれも方形ないし長方形である。そのうち北東部(P 3・4)と南西隅(P 7・8)は2基重複し、建て替えあるいは別の建物の重複が考えられるが、形態や柱間から考えてP 4・7と他の4基とで1棟の建物と判断した。北辺は5.63mで、柱間は西から2.92m+2.71mであり、やや端数があるが、10尺+9尺=19尺を意識したものである。西辺は6.26mで、柱間は北から2.86m+3.40mであり、これもやや誤差があるが、完数値をとると10尺+11尺であると思われる。

出土遺物 なし。

所見 いずれの辺も柱間が9~11尺と、非常に広い建物である。出土遺物はないが、1号掘立柱建物と建物方位が近似するので、近い時期のものと考えられる。

6号掘立柱建物(第17図 PL. 4)

位置 X=429~437, Y=-372~379

重複 東辺の北側2本の柱穴が1号掘立柱建物柱穴P 5・

6が重複するはずであるが、調査時に把握できず、新旧関係は不明である。北東側には4号粘土採掘坑が重複し、本建物が新しい。

主軸方向 N-23°-W

規模・形態 桁行・梁行2間の南北棟の総柱建物である。柱穴は北東の2基を除く7基が発見され、掘り方は径33~72cmの円形である。P 7を除く6基には柱痕が認められ、復元できる柱の径は10~15cmである。桁行は6.18mで、西辺の柱間は北から2.98m+3.20mであり、10尺+10.6尺と非常に広い。梁行は南辺で4.54mで、柱間は西から2.15m+2.39mであり、7.2尺+8尺である。面積は28.38㎡である。

出土遺物 なし。

所見 出土遺物がなく、時期は特定できない。重複するはずの1号掘立柱建物とは新旧関係が把握できなかったが、方位が一致するので近い時期が考えられ、さらに、柱穴の形状からみて、この建物が新しい可能性が強いものと思われる。

7号掘立柱建物(第18図 PL. 4)

位置 X=424~430, Y=-370~377

重複 東辺の柱穴P 3・P 6は1号掘立柱建物柱穴P 8・9の掘り方底面で確認できたものであり、新旧関係は確認できなかった。

主軸方向 東西方向を計測してN-74°-E

規模・形態 ほぼ正方形の、2間×2間の総柱建物で、南東隅の柱穴は確認できなかった。P 8は攪乱で上面を壊されているが、他の7基は径47~78cmのやや歪んだ円形である。柱痕は5基で確認でき、それから復元すると柱径は10~20cmである。規模は中央で計測して南北4.26m、柱間は北から2.08m+2.18m、東西4.29m、柱間は西から2.24m+2.05mであり、面積は18.32㎡である。

出土遺物 なし。

所見 出土遺物がなく時期は特定できない。重複するはずの1号掘立柱建物とは新旧関係が把握できなかったが、柱穴の形状からみて本建物が新しい可能性が強いものと思われる。8号掘立柱建物とは方向が一致する。

8号掘立柱建物(第19・20図 PL. 4)

位置 X=423~430, Y=-382~388

重複 9号掘立柱建物、263号ピットより本建物が新しく、264号ピットより古い。

主軸方向 N-16°-W

規模・形態 2間×2間の南北棟であり、周辺の建物から考えて総柱建物と推定されるが、中央部を264号ピットに破壊されているため、断定できない。南辺がやや歪み、また、各辺の中央の柱穴の位置も不揃いである。各柱穴は径61～95cmの円形ないし楕円形である。規模は東辺5.09m、西辺5.22m、北辺4.84m、南辺4.82mで、面積は24.73㎡である。柱間は不揃いで、計測値は第11表参照。

出土遺物 なし。

所見 出土遺物がなく時期は特定できない。7号掘立柱建物とは方向がほぼ一致する。

9号掘立柱建物(第21・22図 PL. 4)

位置 X=425～431、Y=-383～391

重複 8号掘立柱建物と261～264号ピットと重複し、本建物が古い。

主軸方向 N-70°-E

規模・形態 桁行3間、梁行2間の東西棟の総柱建物である。南西の8本の柱穴は2本ずつの布掘りになっている。その他の柱穴は径63～83cmの円形であり、東辺中央の柱穴は確認できなかった。桁行は5.70mで、柱間はやや不揃いだが、平均すると西から1.87m+2.30m+1.52mであり、完数尺だとすると6尺+8尺+5尺を意識していると思われる。梁行は4.67～4.73mで、柱間は平均すると北から2.36m+2.34mであり、いずれも8尺に少し欠ける長さとなる。面積は26.72㎡である。

出土遺物 なし。

所見 出土遺物がなく時期は特定できない。北側にある1号柵列とは方向が一致し関連施設の可能性がある。

11号掘立柱建物(第23図 PL. 4)

位置 X=433～436、Y=-387～391

重複 236・243号ピットと重複し、236号が古い、243号とは新旧不明である。

主軸方向 不明。

規模・形態 重複のある3基のピットを確認できた。北に隣接した旧新田町教育委員会の調査区でも3基のピットが並んでいるのが確認されているので(2号掘立柱建物と呼ばれている)、それと組み合わせ、その南辺をなすものと考えられる。本書では、断面で確認できたものをP1～5と名付けて報告するが、実際にはそれ以上の重複があり、数回の建て替えが想定できる。しかし、調査区内ではそれがどのように組み合わせるかは把握でき

ず、規模、主軸方向などは確定できない。現状では、東西2間、南北1間以上の総柱建物であるということ以外は不明である。

出土遺物 なし。

所見 出土遺物がなく時期は特定できない。

12号掘立柱建物(第24図 PL. 4)

位置 X=413～419、Y=-373～379

重複 1号基礎遺構と重複する。版築土を切っていることから、本建物が新しい。

主軸方向 N-64°-E

規模・形態 桁行3間、梁行2間の東西棟の総柱建物である。柱穴は径33～82cmの円形で、不揃いな配置であり、全形も歪んでいる。規模は桁行北辺で5.05m、南辺で4.92m、梁行東辺で3.16m、西辺で3.46mであり、面積は16.43㎡である。柱間の計測値は第14表参照。

出土遺物 なし。

所見 調査当時は桁行2間梁行1間の隣接する2棟の掘立柱建物と考えたが、柱穴埋没土が類似することから整理作業によって桁行3間、梁行2間の総柱建物とした。出土遺物がないので時期は特定できない。

14号掘立柱建物(第25図)

位置 X=377～381、Y=-323～327

重複 15号掘立柱建物より古い。1号溝との新旧関係は不明である。

主軸方向 N-3°-W

規模・形態 南北4.00～4.06m、東西4.08～4.10mのほぼ正方形の建物で、南北1間、東西2間の側柱建物と想定される。北辺中間の柱穴は1号溝に破壊されたらしい。

出土遺物 なし。

所見 規模や形状から時期は中近世と考えられる。

15号掘立柱建物(第26・27図)

位置 X=325～332、Y=-325～329

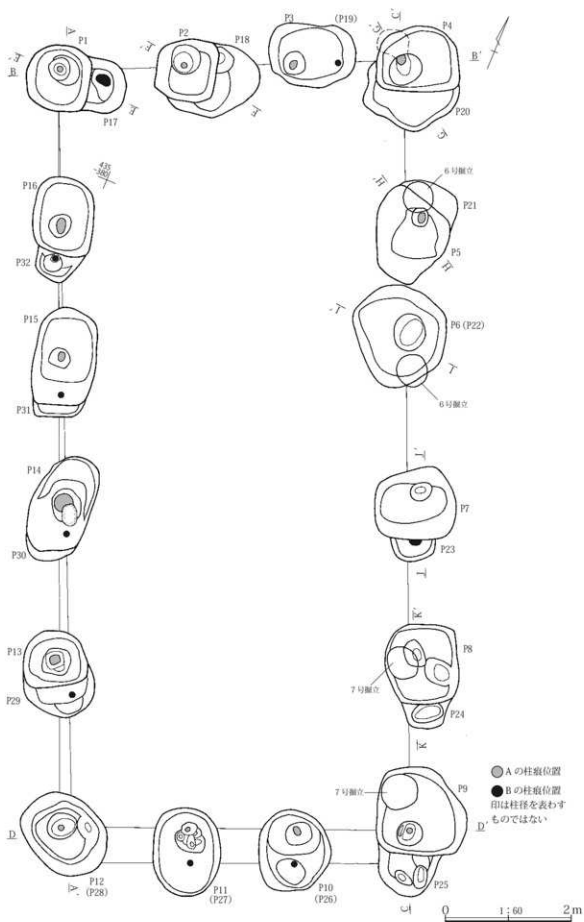
重複 14号掘立柱建物より新しい。

主軸方向 N-3°-E

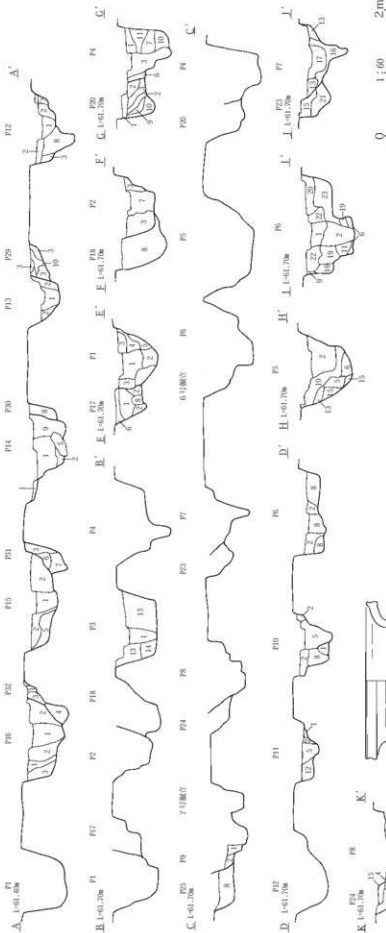
規模・形態 桁行3間、梁行1間の南北棟の側柱建物である。東辺7.04m、北辺4.40mで、南西隅の柱穴が確認されていないため西辺、南辺は不明であるが、北辺に比べ南辺が短く、全体として台形に近い外形である。

出土遺物 P6から須恵器片57gが出土しているが、混入と考えられる。

所見 規模や形状から時期は中近世と考えられる。



第11図 1区1号掘立柱建物



第3表 空松遺跡1区1A号掘立柱建物計測表

柱/NO.	柱径(m)	柱高(m)	礎石(m)	礎石高(m)	形状	面積(m ²)	面積の2倍(m ²)
P-1	9.6	102	73	溝3.4方面	P1-P2 1.94	—	—
P-2	9.6	92	87	方籠	P2-P3 1.72	P17	59.4
P-3	13.6	98	97	方籠	P3-P4 1.72	P18	69.6
P-4	12.8	104	94	方籠	P4-P5 2.46	P19	70.0
P-5	10.2	118	89	方籠	P5-P6 1.91	P20	43.3
P-6	15.4	144	82	方籠	P6-P7 2.50	P21	63.6
P-7	13.8	110	81	方籠	P7-P8 2.60	P22	—
P-8	13.8	110	61	方籠	P8-P9 2.77	P23	39.6
P-9	13.8	110	62	方籠	P9-P10 1.12	P24	—
P-10	13.8	110	64	方籠	P10-P11 1.73	P25	69.6
P-11	14.0	104	74	方籠	P11-P12 2.03	P26	—
P-12	14.0	110	72	方籠	P12-P13 2.70	P27	—
P-13	9.4	88	57	方籠	P13-P14 2.50	P28	49.6
P-14	9.4	94	66	方籠	P14-P15 2.28	P29	—
P-15	15.4	96	58	方籠	P15-P16 2.11	P30	—
P-16	12.1	96	74	方籠	P16-P17 2.46	P31	—
P-17	—	—	—	—	—	P32	49.6

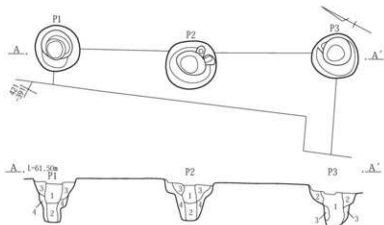
第4表 空松遺跡1区1B号掘立柱建物計測表

柱/NO.	柱径(m)	柱高(m)	礎石(m)	礎石高(m)	形状	面積(m ²)	面積の2倍(m ²)
P-17	—	—	—	—	—	—	—
P-18	—	—	—	—	—	—	—
P-19	—	—	—	—	—	—	—
P-20	—	—	—	—	—	—	—
P-21	—	—	—	—	—	—	—
P-22	—	—	—	—	—	—	—
P-23	—	—	—	—	—	—	—
P-24	—	—	—	—	—	—	—
P-25	—	—	—	—	—	—	—
P-26	—	—	—	—	—	—	—
P-27	—	—	—	—	—	—	—
P-28	—	—	—	—	—	—	—
P-29	—	—	—	—	—	—	—
P-30	—	—	—	—	—	—	—
P-31	—	—	—	—	—	—	—
P-32	—	—	—	—	—	—	—

- 1区1号掘立柱建物
- 1 褐色土
 - 2 褐色土と黄褐色土塊を含む
 - 3 黒褐色土と黄褐色土塊の混土
 - 4 黄褐色土と黄褐色土塊を含む
 - 5 褐色土 黄褐色土塊多量を含む
 - 6 褐色土 黄褐色土塊多量を含む
 - 7 暗褐色土 黄褐色土粒・黄褐色土を伴うを含む
 - 8 暗褐色土と黄褐色土塊の混土
 - 9 褐色土 黄褐色土塊を含む
 - 10 黄褐色土 褐色土を伴うを含む
 - 11 黒褐色土
 - 12 黄褐色土 黄褐色土粒を含む
 - 13 黄褐色土 ローム塊多量を含む
 - 14 黄褐色土 ローム塊少量を含む
 - 15 黒褐色土 ローム塊少量を含む
 - 16 黄褐色土 ローム塊少量を含む
 - 17 暗褐色土 ローム塊・褐色土人塊を含む
 - 18 黄褐色土 ローム塊ごく多量を含む
 - 19 黄褐色土 ローム・人塊を含む
 - 20 黒褐色土 ローム人塊・褐色土塊を含む
 - 21 黄褐色土 ローム人塊多量を含む
 - 22 黄褐色土 黒色土を含む
 - 23 暗褐色土と黄褐色土の混土

第12図 1区1号掘立柱建物土層断面図と出土遺物

第3章 笠松遺跡



P 1

- 1 黒色土 ローム小塊少量含む 柱痕
- 2 黒色土 ローム塊多量に含む 柱痕
- 3 黒褐色土 ローム中塊 斑状の褐色土塊少量含む
- 4 黒褐色土 ローム大塊多量に含む

P 2

- 1 黒色土 ローム小塊少量含む 柱痕
- 2 黒褐色土 ローム小塊多量に含む 締まりなし 柱痕
- 3 黒褐色土 淡い色調 褐色土塊を斑状に含む
- 4 黒褐色土 ローム大塊多量に含む 色調も明るい

第5表 笠松遺跡1区2号掘立柱建物計測表

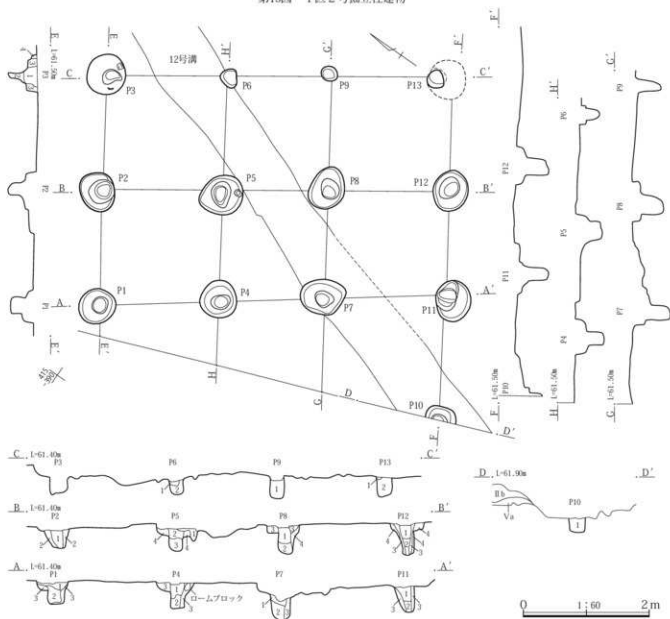
柱ノ30	断 面 (cm)			形状	柱間の寸法 (cm)
	直径	壁厚	高さ		
P 1	73	70	68	円形	P1-P2 2.13
P 2	85	75	65	円形	P2-P3 2.31
P 3	73	70	68	円形	-

P 3

- 1 黒色土 ローム小塊少量含む 柱痕
- 2 黒褐色土 ローム大塊多量に含む 色調は明るい
- 3 黒褐色土 ローム小塊多量に含む 黄色味が強い

第13図 1区2号掘立柱建物

0 1:60 2m



第14図 1区3号掘立柱建物

0 1:60 2m

1区3号掘立柱建物土層注記

P 1

- 1 黒褐色土 ローム小塊少量含む
- 2 黒褐色土 ローム小~大塊少量含む
- 3 黒褐色土 ローム塊多量を含む

P 2

- 1 黒色土 均一土 柱痕
- 2 黒褐色土 ローム小塊少量含む

P 3

- 1 黒褐色土 粘性ややあり締まり弱い 柱痕
- 2 黒褐色土 1層に類似 粘性あり 柱痕
- 3 暗褐色土 黄褐色土小塊微量含む 粘性締まりややあり
- 4 暗褐色土 2層より締まりあり

P 4

- 1 黒褐色土 ローム粒少量含む 淡い色調 柱痕
- 2 黒色土 色調は1層より黒い 柱痕
- 3 黒褐色土 ローム塊多量を含む

P 5

- 1 黒褐色土 ローム塊なし
- 2 黒色土 1層より黒い色調の均一土 柱痕
- 3 黒色土 ローム塊と褐色色を含む 2層より明るい色調 柱痕
- 4 黒褐色土 ローム大塊を含む

P 6

- 1 黒褐色土 ローム小粒 1%
- 2 黒褐色土 ローム小粒・大塊 3%

P 7

- 1 黒褐色土 ローム小塊少量含む
- 2 黒褐色土 ローム小塊多量を含む ローム大塊少量含む
- 3 黒褐色土 ローム塊多量を含む

P 8

- 1 黒褐色土 ローム粒少量含む 淡い色調の黒色土 柱痕
- 2 黒色土 1層より色調は黒い 柱痕
- 3 黒色土 ローム大塊と斑状の褐色土を含む
- 4 黒褐色土 ローム塊多量を含む

P 9

- 1 黒褐色土 ローム小粒・小塊 1% やや締まる

P 10

- 1 黒色土 ローム大塊を含む

P 11

- 1 黒褐色土 小粒のローム粒少量含む 淡い色調 柱痕
- 2 黒色土 1層より色調は黒い 柱痕
- 3 黒褐色土 多量のローム塊を含む

P 12

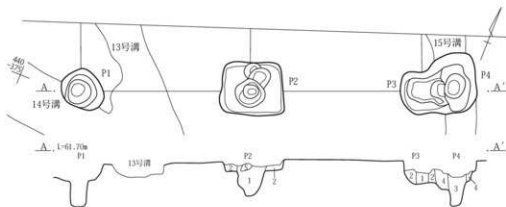
- 1 黒褐色土 ローム粒少量含む 淡い色調の黒色土 柱痕
- 2 黒色土 1層より色調は黒い 柱痕
- 3 黒色土 ローム小塊と斑状の褐色土を含む
- 4 黒褐色土 ローム塊多量を含む

P 13

- 1 黒褐色土 緻密2層の黒褐色土を含む
- 2 黒褐色土 1層より黒味あり 褐色土中粒 1%

第6表 笠松遺跡1区3号掘立柱建物計測表

柱穴NO.	縦 横(m)			形状	柱間の寸法(m)	
	長さ	短径	深さ		P1-P2	P2-P3
P 1	58	55	37	円形	1.83	1.93
P 2	63	55	33	円形	1.84	1.89
P 3	64	62	45	円形	1.86	
P 4	60	59	45	円形	1.75	1.65
P 5	72	63	42	円形	1.84	1.71
P 6	31	25	32	円形	1.64	
P 7	73	67	69	楕円形	1.72	1.11
P 8	69	55	50	楕円形	1.72	1.94
P 9	38	33	39	円形	1.69	
P 10	50	22	33	-	1.98	
P 11	65	55	52	楕円形	1.64	
P 12	65	56	53	楕円形	1.80	
P 13	29	27	29	円形	-	



1区4号掘立柱建物土層注記

P 2

- 1 暗褐色土 粘性ややあり締まり弱い 柱抜き取り痕か
- 2 黄褐色土 粘性あり締まりややあり

P 3、P 4

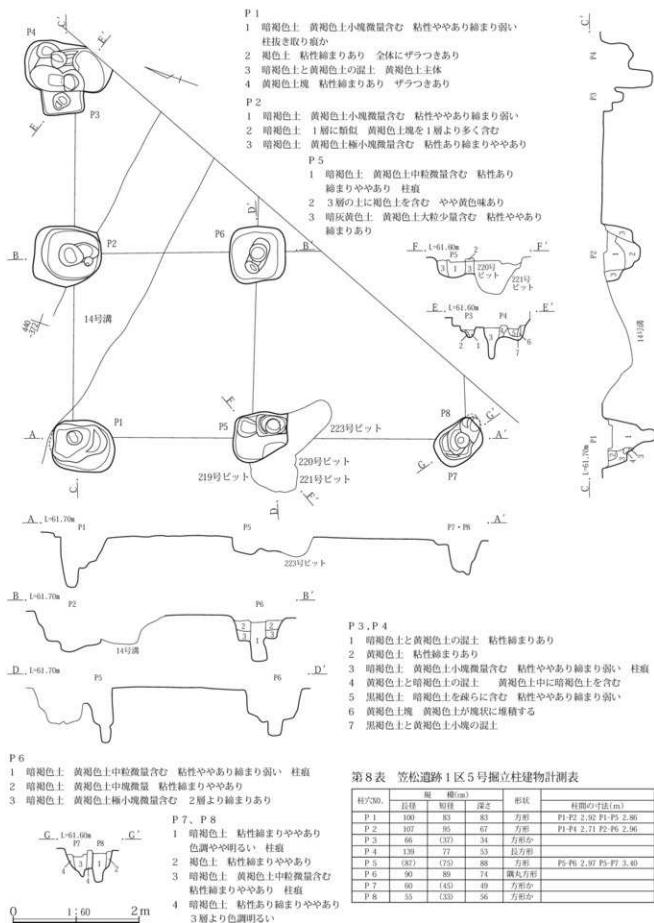
- 1 暗褐色土 下層で黄褐色土を含む 柱痕
- 2 灰黄色土 上層で暗褐色土を含む
- 3 暗褐色土と黄褐色土上の混土 黄褐色土小粒を含む 柱痕
- 4 暗褐色土 黄褐色土塊を含む

第7表 笠松遺跡1区4号掘立柱建物計測表

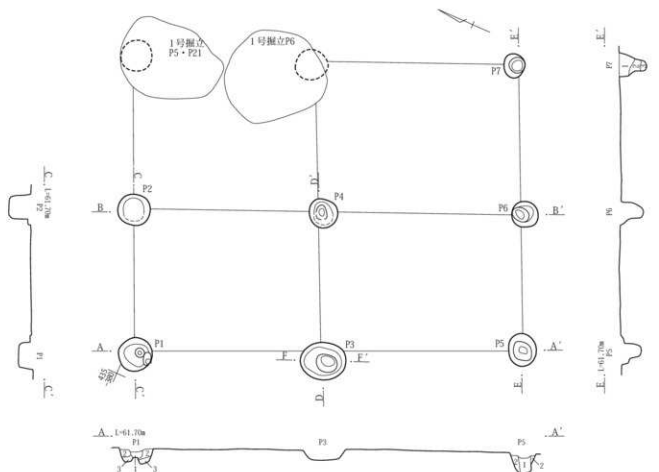
柱穴NO.	縦 横(m)			形状	柱間の寸法(m)	
	長さ	短径	深さ		P1-P2	P2-P3
P 1	70	60	65	楕円形	2.70	
P 2	102	84	60	方形	2.77	
P 3	70	(47)	38	方形か		
P 4	95	77	72	方形か		

0 1:60 2m

第15図 1区4号掘立柱建物



第16図 1区5号掘立柱建物



P 1

- 1 黒褐色土 ローム小塊多量に含む 柱痕
- 2 黒褐色土 ローム塊多量に含む 1層より明るい色調
- 3 黄褐色土 ローム塊多量に含む

P 5

- 1 暗褐色土 ローム小塊 黒色土塊少量含む 柱痕
- 2 黒褐色土 ローム塊の量が多い

P 7

- 1 褐色土 粘性ややあり締まり強い
- 2 暗褐色土 粘性ややあり締まり強い
- 3 暗褐色土 2層に類似 粘性強い



P 2

- 1 暗褐色土 ローム小塊 黒色土塊少量含む 柱痕
- 2 暗褐色土 1層より明るい色調
- 3 黒褐色土 淡い色調の黒色土でローム小塊多量に含む

P 4

- 1 暗褐色土 ローム小塊少量 黒色土塊少量含む 柱痕
- 2 黒褐色土 淡い色調の黒色土 ローム小塊多量に含む
- 3 黒色土 黒味の強い黒色土でローム塊を含む



P 6

- 1 暗褐色土 P 2の1層より黄色味が強い 柱痕
- 2 黒褐色土 淡い色調の黒色土 ローム小塊多量に含む

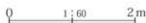


P 3

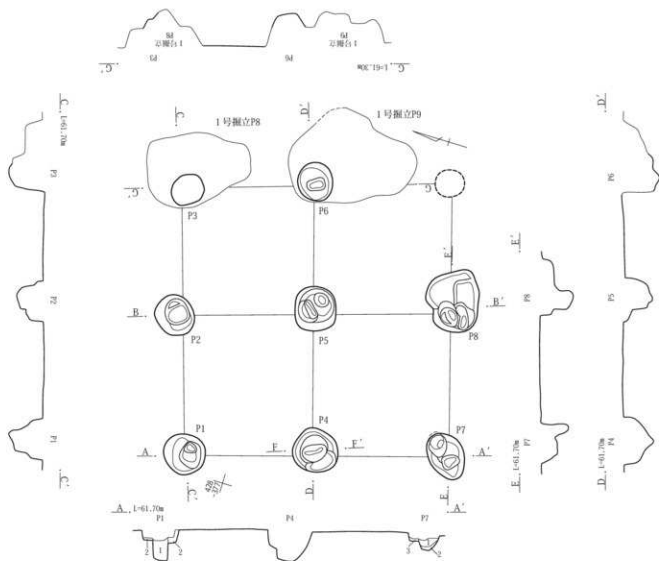
- 1 褐色土 ローム小塊少量 黒色土塊少量含む 柱痕
- 2 黒褐色土 淡い色調の黒色土 ローム小塊多量に含む

第9表 笠松遺跡1区6号掘立柱建物計測表

柱穴30.	幅 横(cm)			形状	面積積28㎡
	長径	短径	調査		
P 1	55	54	25	円形	P1-P2 2.27 P1-P2 2.98
P 2	52	49	37	円形	P2-P4 2.94
P 3	72	60	38	円形	P3-P4 2.21 P3-P5 3.20
P 4	48	45	43	円形	P4-P6 3.24
P 5	52	44	34	円形	P5-P6 2.15
P 6	44	43	37	円形	P6-P7 2.30
P 7	39	33	44	円形	



第17図 1区6号掘立柱建物



- P 1
- 1 黒褐色土 黄褐色土中粒少量含む 粘性ややあり締まり弱い 柱痕
 - 2 黒褐色土と黄褐色土の混土

- P 7
- 1 黒褐色土 黄褐色土中粒少量含む 粘性ややあり締まり弱い
 - 2 黒褐色土と黄褐色土の混土
 - 3 暗褐色土と黄褐色土の混土 粘性やや強く締まりあり



- P 2
- 1 黒褐色土 黄褐色土中粒少量含む 粘性ややあり締まり弱い 柱痕
 - 2 黒褐色土 粘性ややあり締まりあり
 - 3 黄褐色土塊 締まりあり粘性やや弱い

- P 5
- 1 黒褐色土 黄褐色土中粒少量含む 粘性ややあり締まり弱い 柱痕
 - 2 黄褐色土と黒褐色土の混土
 - 3 暗褐色土と黄褐色土の混土 粘性やや強く締まりあり



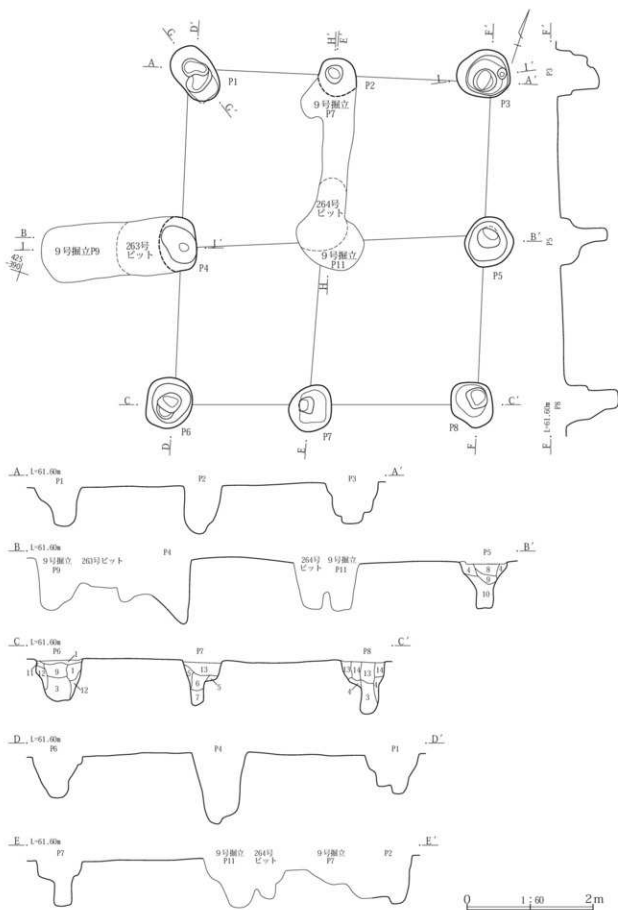
- P 4
- 1 黒褐色土 黄褐色土中粒少量含む 粘性ややあり締まり弱い 柱痕
 - 2 黒褐色土 粘性ややあり締まりあり
 - 3 黒褐色土と黄褐色土の混土

第10表 笠松遺跡1区7号掘立柱建物計測表

柱ノ30	掘 堀 (cm)			形状	断面積 (m ²)
	径径	距径	深さ		
P 1	68	65	54	円形	P1-P2 2.23 P1-P1 2.04
P 2	67	59	39	円形	P2-P3 2.03 P2-P5 2.06
P 3	53	47	56	円形	P3-P4 2.10
P 4	73	68	50	円形	P4-P5 2.24 P4-P7 2.15
P 5	70	65	48	円形	P5-P6 2.05 P5-P8 2.18
P 6	62	56	58	円形	
P 7	78	57	46	楕円形	P7-P8 2.25
P 8	74	(46)	53	円形	

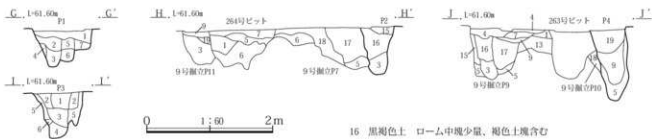
0 1:60 2m

第18図 1区7号掘立柱建物



第19図 1区8号掘立柱建物

第3章 笠松遺跡



8号掘立柱建物

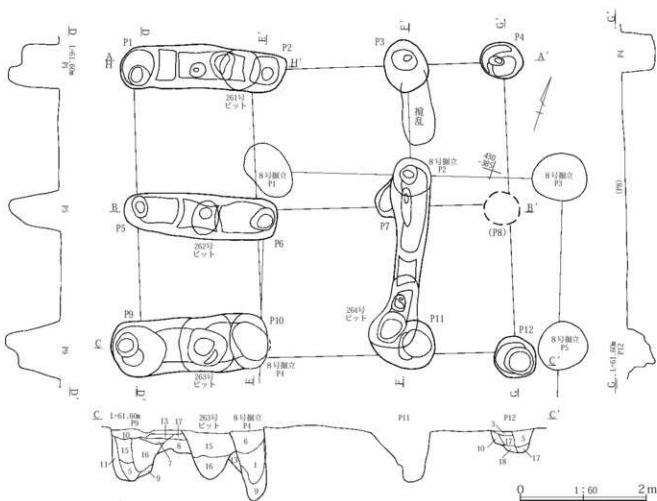
- 1 黒褐色土 ローム塊少量含む
- 2 黒褐色土 ローム大塊少量含む
- 3 黒褐色土 均質
- 4 黒褐色土 ローム小塊多量に含む
- 5 黒褐色土 ローム塊多量に含む
- 6 黒褐色土 ローム塊程かに含む
- 7 黒褐色土 ローム小塊やや多量に含む
- 8 黒褐色土 ローム粒・小塊含む
- 9 黒褐色土 ローム小塊少量含む
- 10 にぶい黄褐色土 ローム粒・塊多量に含む
- 11 褐色土 ローム中塊含む
- 12 黄灰色土 ローム塊やや多量に含む
- 13 黒褐色土 褐色土塊含む
- 14 黒褐色土 ローム粒少量含む
- 15 褐色土 ローム塊含む

- 16 黒褐色土 ローム中塊少量、褐色土塊含む
- 17 黒褐色土 ローム大塊多量に含む
- 18 黒褐色土 ローム塊ごく多量に含む
- 19 黒褐色土 ローム大塊含む

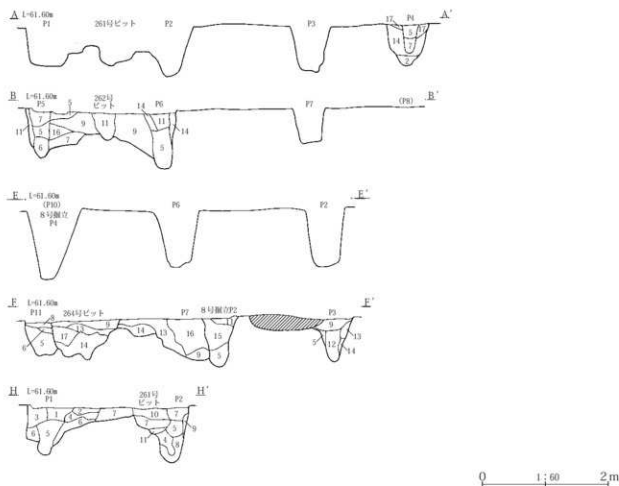
第11表 笠松遺跡1区8号掘立柱建物計測表

柱穴NO.	断 面 (cm)			形状	面積24.73㎡	
	直径	間径	深さ		柱礎の寸法(m)	
P 1	95	61	61	楕円形	P1-P2	2.35 P 1-P4 2.86
P 2	100	60	76	円形	P2-P3	2.49
P 3	86	77	70	円形	P3-P5	2.52
P 4	87	160	115	楕円形	P4-P6	2.46
P 5	82	74	72	円形	P5-P8	2.58
P 6	83	72	68	楕円形	P6-P7	2.12
P 7	79	68	71	楕円形	P7-P8	2.70
P 8	78	68	85	楕円形		

第20図 1区8号掘立柱建物土層断面図



第21図 1区9号掘立柱建物



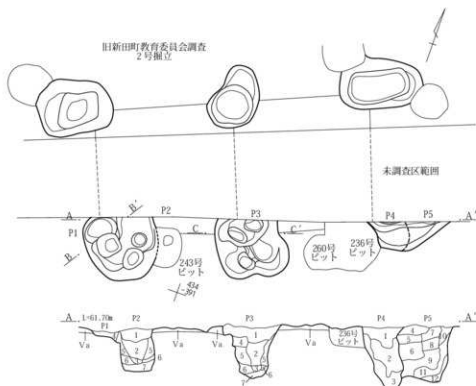
9号掘立柱建物

- 1 黒褐色土 ローム小塊含む
- 2 黒褐色土 ローム粒含む
- 3 黄色土 黒褐色土塊含む
- 4 黄色土 ローム塊含む
- 5 黒褐色土
- 6 黒褐色土 ローム大塊含む
- 7 黒褐色土 ローム塊少量含む
- 8 褐色土
- 9 黒褐色土 ローム塊多量に含む
- 10 黒褐色土 ローム小塊多量に含む
- 11 褐色土 ローム塊少量含む
- 12 黒褐色土 ローム塊やや多量に含む
- 13 黒褐色土 ローム塊ごく多量に含む
- 14 黒褐色土 ローム小塊僅かに含む
- 15 黒褐色土 ローム中塊少量、褐色土塊含む
- 16 黒褐色土 17層より黒くローム塊の量は少ない
- 17 黄褐色土 ローム塊とローム粒少量含む
- 18 に赤い黄褐色土 ローム小塊多量に含む

第12表 笠松遺跡1区9号掘立柱建物計測表

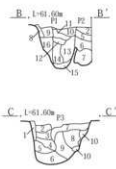
柱穴NO.	縦 横(cm)			形状	面積26.72㎡ 柱間の寸法(m)
	長径	短径	深さ		
P 1	263	68	81	長方形	P1-P2 1.80 P1-P5 2.37
P 2			91		P2-P3 2.19 P2-P6 2.37
P 3	(83)	68	70	楕円形	P3-P4 1.48 P3-P7 2.34
P 4	70	63	65	円形	P4-P12 4.73
P 5			80		P5-P6 1.87 P5-P8 2.30
P 6	243	70	90	長方形	P6-P7 2.30 P6-P9 2.34
P 7			67		P7-P11 2.37
P 10	(313)	(63)	80	長方形	P11-P12 1.56
P 8			85		P 9-P10 1.72
P 9	248	89	—	長方形	P10-P11 2.42
P 11	70	64	45	円形	

第22図 1区9号掘立柱建物土層断面図



P 1、P 2

- 1 暗褐色土 明るい色調 1～5cm大のローム塊少量含む
- 2 黄褐色土 ローム大塊多量に含む 色調は黄色が強い
- 3 黒色土 黒味の強い黒色土 ローム塊少量含む
- 4 黄褐色土 皿層と近似 ローム塊を含まない
- 5 黒褐色土 2層より黒い色調 ローム塊少量含む
- 6 黒色土 3層に近似 ローム塊多量に含む
- 7 黄色土 ローム塊主体 黒色土塊を含む
- 8 黒褐色土 ローム塊を含む やや明るい
- 9 黒色土 均一土 淡い色調
- 10 黒褐色土 ローム中塊を含む
- 11 黒褐色土 ローム塊少量含む 2層より明るい色調
- 12 黒褐色土 ローム塊を僅かに含む
- 13 黒褐色土 ローム大塊多量に含む 明るい色調
- 14 黒褐色土 6層に近似 ローム塊少量含む
- 15 黒褐色土 ローム塊6、7層より少ない
- 16 黒褐色土 ローム小塊・中塊2%含む



P 4、P 5

- 1 黒褐色土 褐色土を斑状に含む ローム塊少量含む
- 2 黒褐色土 ローム小塊を1層より多く含む
- 3 黒褐色土 ローム小塊多量に含む
- 4 暗褐色土 全体に黄色が強い ローム大塊多量に含む
- 5 黒褐色土 1、2層より明るい色調 3層に近似する
- 6 黒褐色土 5層より明るい色調 ローム大塊少量含む
- 7 黒褐色土 5層に近似 ローム塊少量含む
- 8 黒色土 6、7層より黒味を増す
- 9 黒褐色土 ローム大塊多量に含む
- 10 黒褐色土 7層に近似 ローム塊を含まない
- 11 黒褐色土 10層に近似 やや黒味を増す
- 12 黒褐色土 ローム塊多量に含む

P 3A-A'

- 1 黒褐色土 少量のローム塊と黒色土塊を含む
- 2 黒色土 1層より黒味を増す ローム小塊を1層より多く含む
- 3 黒色土 2層より黒味を増す ローム塊少量含む
- 4 暗褐色土 ローム小塊多量に含む
- 5 黒色土 色調は2層と同一 2層よりローム小塊多量に含む
- 6 黒色土 5層に近似 ローム大塊を含む
- 7 黄褐色土 ローム塊主体 黒色土塊を含む

P 3C-C'

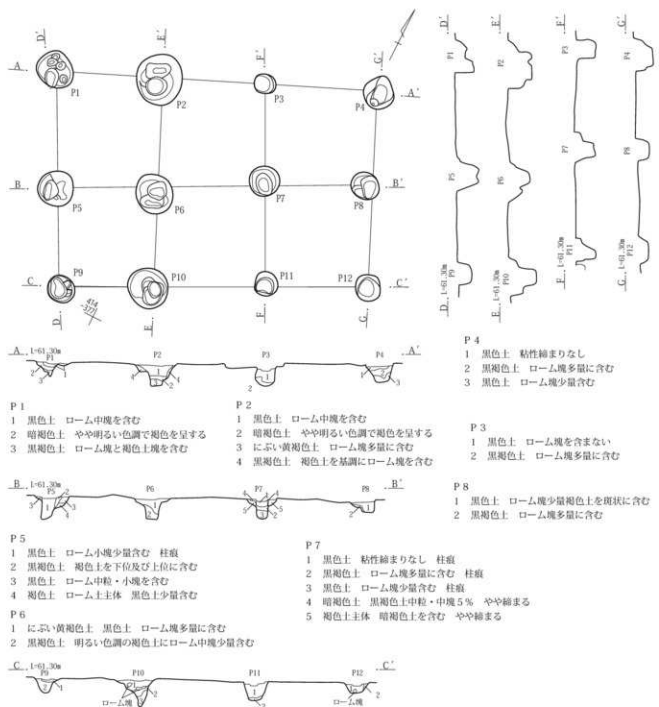
- 1 黒褐色土 ローム塊少量含む 明るい色調
- 2 黒褐色土 ローム塊を1層より多く含む
- 3 黒色土 ローム粒を僅かに含む 1、2層より黒い
- 4 黒色土 3層に近似 ローム塊の量は多い
- 5 黒色土 4層より黒くローム塊も僅かに多い
- 6 黒褐色土 ローム大塊多量に含む
- 7 黒褐色土 2層より明るい色調
- 8 黒色土 ローム塊を含まない均一土
- 9 黒褐色土 8層を基調にローム大塊を含む
- 10 黒褐色土 ローム中塊を含む 壁の崩落土

第13表 笠松道跡1区11号掘立柱建物計測表

柱ノ30.	幅 厚 (cm)			形状	柱間の寸法(m)
	直径	厚	深さ		
P 1	115	(100)	67	不明	P1-P3 2.02
P 2			68	不明	
P 3	(100)	102	80	不明	P3-P4 2.15
P 4	(65)	(45)	96	不明	
P 5	(78)	(66)	88	不明	



第23図 1区11号掘立柱建物



第14表 笠松道跡1区12号掘立柱建物計測表

柱7300	縦 横 (cm)			形状	面積16.0cm	
	直径	間隔	長さ		柱間の寸法(cm)	
P 1	62	53	30	円形	P1-P2 1.59	P1-P5 1.83
P 2	82	73	36	円形	P2-P3 1.74	P2-P6 1.79
P 3	36	33	32	円形	P3-P4 1.72	P3-P7 1.66
P 4	54	47	30	円形	P4-P8 1.54	
P 5	57	56	36	円形	P5-P6 1.53	P5-P9 1.53
P 6	66	59	34	円形	P6-P7 1.78	P6-P10 1.57
P 7	48	48	33	円形	P7-P8 1.67	P7-P11 1.59
P 8	47	42	18	円形	P8-P12 1.62	
P 9	45	43	21	円形	P9-P10 1.48	
P 10	67	63	42	円形	P10-P11 1.80	
P 11	39	38	31	円形	P11-P12 1.64	
P 12	42	39	16	円形		

第24図 1区12号掘立柱建物

0 1:60 2m

第3章 笠松遺跡



P 2
1 暗褐色土 ローム中粒・小塊 5%



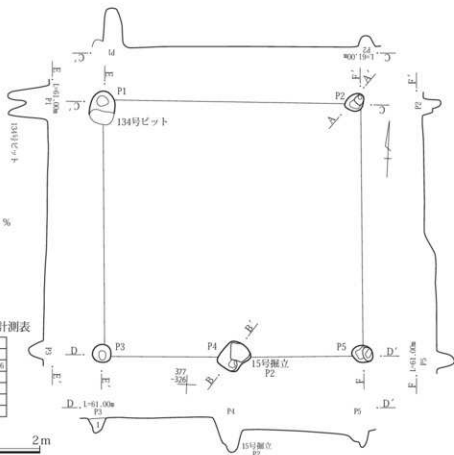
P 4 (15号掘立柱建物P 2と重複)
1 黒褐色土 やや砂質 ローム中粒・大塊 5%
2 1層よりローム粒・塊を多く含む
3 1層に類似する ローム粒・塊 2%
4 ローム上主体 黒褐色土を含む

P 3
1 暗褐色土 ローム中粒・中塊 3%

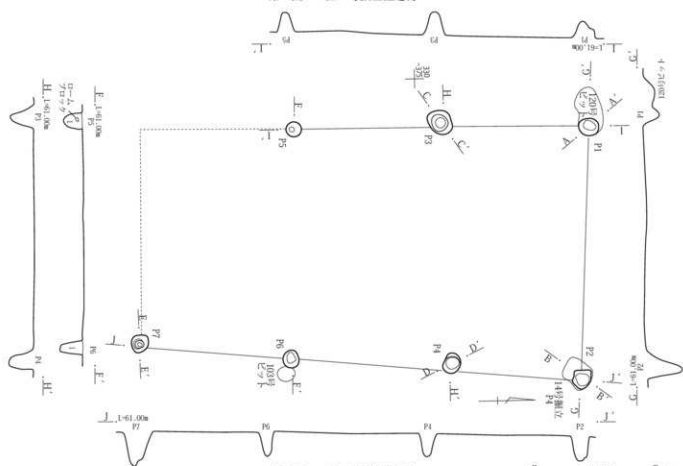
第15表 笠松遺跡1区14号掘立柱建物計測表

柱穴NO.	規模(cm)			形状	面積16.53㎡	
	長径	短径	高さ		柱間の寸法(cm)	
P 1	300	39	66	円形	P1-P2 4.08	P1-P3 4.06
P 2	31	27	29	円形	P2-P5 4.00	
P 3	29	28	23	円形	P3-P4 2.01	
P 4	47	38	40	方形	P4-P5 2.06	
P 5	35	28	28	円形		

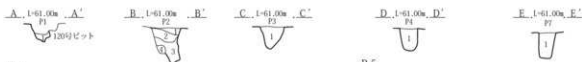
0 1:60 2m



第25図 1区14号掘立柱建物



第26図 1区15号掘立柱建物



P 1

1 暗褐色土 ローム小粒・中塊 5%

P 2 (14号掘立柱建物 P 4 と重複)

1 黒褐色土 やや砂質 ローム中粒・大塊 5%

2 1層よりローム粒・塊を多く含む

3 1層に類似する ローム粒・塊 2%

4 ローム上主体 黒褐色土を含む

P 3

1 暗褐色土 ローム中粒・大塊 5%

P 4

1 黒褐色土 やや砂質 ローム中粒・大塊 1%

P 7

1 暗褐色土 ローム中粒・大塊 5% 黄色味帯びる

P 5

1 黒褐色土 ローム中粒・大塊 3%

P 6

1 黒褐色土 やや砂質 ローム中粒・小塊 3%

第16表 笠松遺跡1区15号掘立柱建物計測表

柱730	幅 横 (cm)			形状	面積36.55㎡	
	長さ	短径	深さ		柱間の寸法(m)	
P 1	32	28	26	円形	P1-P2 4.04	P1-P3 2.32
P 2	38	30	56	円形	P2-P4 2.10	
P 3	44	37	37	楕円形	P3-P4 3.38	P3-P5 2.39
P 4	33	26	39	楕円形	P4-P6 2.50	
P 5	24	24	30	円形	P5-P6 3.75	
P 6	28	26	36	円形	P6-P7 2.44	
P 7	30	27	40	円形		

0 1:60 2m

第27図 1区15号掘立柱建物柱穴土層断面図

(3) 柵列

1区で調査した柵列は2条である。これらはビットが直線状に並ぶものの、建物として把握できなかったため、柵列としたものである。調査時に(E区)2号柵列としたものは、整理作業の結果、3号掘立柱建物の一部と判断したので、欠番とした。

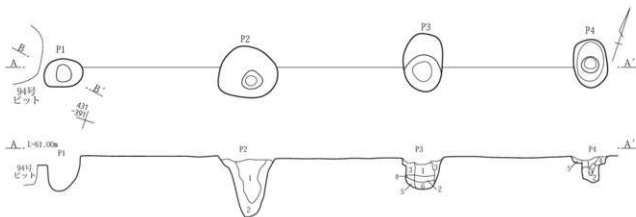
1号柵列(第28図 PL. 4)

位置 X=431~433, Y=-385~391

主軸方向 N-71°-E

規模・形態 長さは5.59mである。柱穴は径30~62cmの楕円形で、柱間は西から1.98m+1.83m+1.78mであり、西ほど長いが、本来6尺等間を意図していたのではないだろうか。

出土遺物 なし。



P 1

1 黒色土

2 黒色土 1層と色調は同一 ローム塊少量含む

P 2

1 黒色土 ローム塊を含まない均一土

2 黒褐色土 ローム大塊少量含む 色調は明るい

P 3

1 黒褐色土 淡い色調 褐色土を斑状に含む

2 黒褐色土 1層に近似 黒味は強い

3 黒褐色土 1層にローム塊を含む 褐色味が強い

4 黒色土 黒味の強い黒色土

5 明黄褐色土 ローム塊

6 黒褐色土 均一土 明るい色調

P 4

1 黒褐色土 明るい色調の黒色土 均一土

2 黒褐色土 均一土 淡い色調

3 褐色土 ローム塊少量含む

4 褐色土 褐色土を多量に含む

5 褐色土 褐色土を含む

第17表 笠松遺跡1区1号柵列計測表

柱730	幅 横 (cm)			形状	柱間の寸法(m)	
	長さ	短径	深さ			
P 1	62	30	36	楕円形	P1-P2 1.98	
P 2	62	54	64	楕円形	P2-P3 1.83	
P 3	62	40	33	楕円形	P3-P4 1.78	
P 4	56	35	27	楕円形		

第28図 1区1号柵列

0 1:40 1m

所見 出土遺物がないので時期は特定できない。南にある9号掘立柱建物とは柱筋が揃わないが、方位が近いので関連が考えられる。

3号櫓列(第29図)

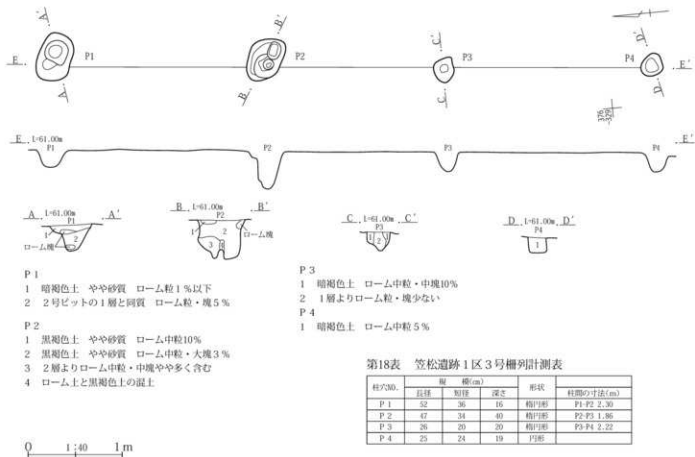
位置 X=375~382, Y=-327~328

主軸方向 N-5°-E

規模・形態 長さは6.38mである。柱穴は小さく、径20~52cmの円形ないし楕円形で、柱間は北から2.30m+1.86m+2.22mであり、中央が狭い。

出土遺物 なし。

所見 出土遺物がないので時期は特定できない。14号掘立柱建物に隣接するが、方向は揃わないので関連は不明である。



第29図 1区3号櫓列

(4) 基壇状遺構

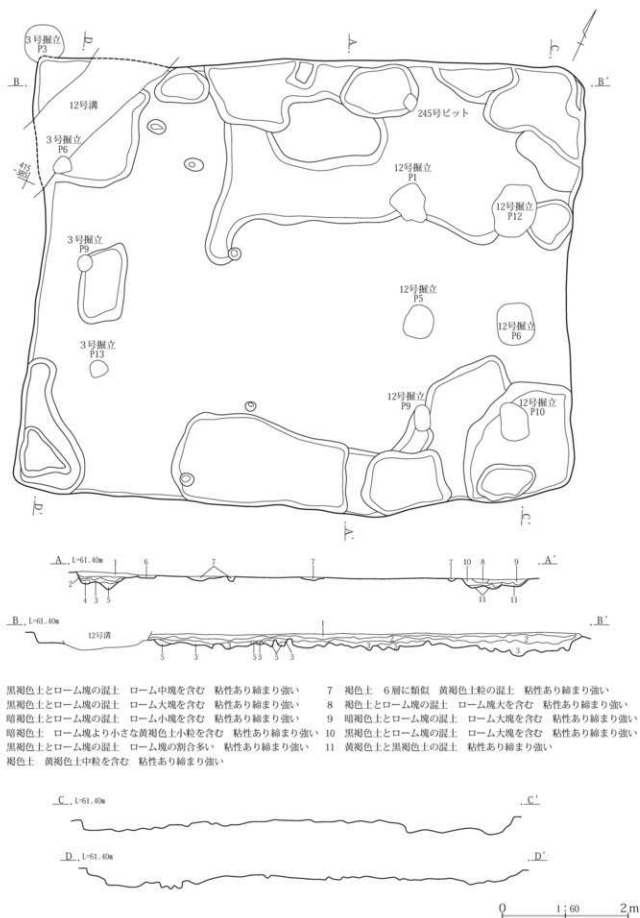
1区北部の掘立柱建物群の南限地点に1基検出された。

1号基壇状遺構(第30図 PL. 4・5)

X=410~420, Y=-375~385にある。方形の掘り込みの内部が硬く締まり、それが基壇の掘り込み地菜と類似している形状であるため、「基壇状遺構」と名付けたものである。3号・12号掘立柱建物、12号溝と重複し、本遺構が古い。形態はやや歪んだ長方形で、規模は中央付近で計測して長さ8.34m、幅7.10m、面積は60.20㎡であり、建物の基壇とすると非常に小規模である。主軸方向はN-67°-Eである。上面を後世の攪乱によって

削平されているため、現状では底面近くのごくわずかな部分が残っているものと考えられ、中央付近から東辺中央にかけては地山が現れてしまっており、礎石据え付けの痕跡等は全く認められない。掘り方底面までは深いところでも36cmしか残っていないが、内部の土は硬く締まっている。北部(B-B'セクション)では5~10cmの厚さで3層に分けることができるが、各層は水平ではなく凹凸があり、整った版築ではない。遺物が出土しないので時期は特定できないが、主軸方位は1号掘立柱建物と直交しており、近い時期のものであると考えられる。

南東約6mに8世紀代の遺物を出土する1号粘土探掘坑があり、版築土の探掘に関連する可能性がある。



第30図 1区1号基壇状遺構掘り方と断面図

(5) 土坑・ピット

1区から検出された土坑は23基、ピットは261基であり調査区南側及び北側に集中する。ほとんどの遺構が共存する出土遺物がなく詳細な時期判定をすることはできない。このため埋没土を基本土層と対比させて時期を判定した。また、埋没状況については人為的な様相が認められるものについては文中に記した。記述がないものについては自然埋没土と考えている。遺構番号については調査時南側と北側それぞれで符番していたが、整理段階で通し番号に変更した(5頁第1表参照)。以下には遺物が伴うものや形状や埋没土に一定の特徴が認められるものについて取り上げる。なお、各遺構の形状や計測値等については第19表の計測表を参照された。

2号土坑(第31図)

ローム粒・塊及び炭化物を僅かに含む黒褐色砂質土で埋没する。出土遺物はなく、時期の確定はできなかった。

3号土坑(第31図)

人為的埋土が堆積し、4号土坑を切る。円形で底面は平坦。出土遺物はなく、時期は確定できない。

4号土坑(第31図)

ローム粒・塊を含む人為的埋土が堆積する。3号土坑と重複し、3号土坑より古い。残存状態が良好でなく底面のみの検出である。4号土坑より古い埋没土に大きな時期差は見られず、時期の確定はできなかった。

8号土坑(第31・33図)

ローム粒・白色軽石を僅かに含む黒褐色土で埋没する。底面は僅かな凹凸が見られ壁は斜めに立ち上がる。遺物は中世の常滑陶器甕(第33図1)が出土している。非掲載遺物は土師器片6gである。出土遺物から時期は中世に遡りうる。

9号土坑(第32図)

97・98・99号ピットと重複する。97号ピットに切られるが、98・99号ピットとの新旧関係は不明。整った円形で底面は平坦であり壁は斜めに立ち上がる。出土遺物はない。埋没土の類似から8号土坑と同時期の可能性はある。

11号土坑(第32・33図)

平面は不定形で断面形状は浅い台形。西壁は中位から下位にかけて折れる。埋没土中に大きさの異なる自然礫を多量に混入し、これらは埋没段階で投棄されたものと考えられる。深さ約1.8mで底面は湧水層となっているため井戸の可能性はある。遺物は中世皿(第33図11坑-1)、羽釜(同図11坑-2)が出土している。非掲載遺物は土師器大破片142.6g、土師器小破片164.4g、須恵器小破片142.4gである。出土遺物から時期は中世に遡りうる。

12号土坑(第32図 PL. 5)

平面形状は長方形を呈する。底面は平坦であり壁は緩やかに立ち上がる。埋没土はローム粒・塊を含む黒褐色砂質土である。2層中はローム塊を多く混入し人為的埋没土の様相が窺える。非掲載遺物は土師器小片が出土している。時期は平安時代以前の可能性がある。

13号土坑(第32・33図)

平面形状は円形を呈する。埋没土は12号土坑と同質である。底面付近はローム塊を多く混入し、人為的埋没土の様相が窺える。遺物は埋没土から中近世の皿(第33図)が出土している。非掲載遺物は土師器大破片10.4g、須恵器大破片10.7gである。出土遺物から時期は平安時代以前の可能性がある。

15号土坑(第32図)

黄褐色土、ローム粒を僅かに含む暗黒褐色土で埋没する。埋没土が8号土坑と類似するため時期は中世まで遡る可能性がある。

18号土坑(第32図 PL. 3)

3・5号溝と重複し、これらに切られる。底面はほぼ平坦面であり壁は垂直に立ち上がる。全体にローム塊を多く含んでおり、人為的埋没土と考えられる。出土遺物はない。時期は不明である。

21号土坑(第32図)

埋没土の確認状況から東半を4号粘土探堀坑に切られる。底面は平坦であり壁は斜めに立ち上がる。埋没土

はローム塊を含む人為的埋土と思われる。出土遺物はない。8世紀から9世紀代と考えられる4号粘土採掘坑に切られているため時期は奈良・平安時代以前と考えられる。

23号土坑(第33図)

10号溝に切られる。このため北半部は遺失し底面の一部が残存する。埋没土はローム塊を多量に含むことから人為的埋没の様相が窺える。10号溝との新旧関係から奈良時代以前と考えられる。

1号ビット(第33図)

底面は平坦であり壁は斜めに立ち上がる。埋没土は黄褐色土やローム粒・塊を含む暗褐色砂質土である。出土遺物はなく、時期の確定はできなかった。

2号ビット(第33図)

埋没土はローム粒・塊を含む暗褐色土である。形状から柱穴の可能性も考えられたが、周辺に相関する柱穴は見られない。出土遺物はなく、時期の確定はできなかった。

3号ビット(第33図)

埋没土はローム粒・塊を多量に含む。形状から柱穴の可能性がある。出土遺物はなく、時期の確定はできなかった。

27号ビット(第33図)

埋没土は自然堆積か。断面は柱穴形状だが、出土遺物はなく、時期の確定はできなかった。

33号ビット(第33図)

埋没土はローム粒・塊を多量に含む。硬く締まった2層の状況から柱穴の抜き取り穴の可能性もある。周辺には対応する柱穴は見られない。出土遺物はなく、時期の確定はできない。

56号ビット(第33図)

断面形から柱穴の可能性がある。対応する柱穴は認められない。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。出土遺物はなく、時期の確定はできなかった。

69号ビット(第33図)

埋没土はローム粒を少量含む黒褐色土である。遺物は羽釜小片が1点出土しており、時期は平安時代以降である。

77号ビット(第33図)

78号ビットに切られている。埋没土はローム粒・塊を含む暗褐色砂質土である。出土遺物はない。時期は不明。

78号ビット(第33図)

77号ビットを切っているが、埋没土の違いは僅かで、時期差はあまりないものと考えられる。出土遺物はない。時期は不明。

80号ビット(第33図)

81号ビットを切る。埋没土はローム粒・塊を含む人為的埋土である。出土遺物はなく、時期の確定はできなかった。

81号ビット(第33図)

160号ビットを切り、80号ビットに切られるが、埋没土は80号ビットに類似しており、時期差は見られないものと思われる。出土遺物はなく、時期の確定はできなかった。

97号ビット(第33図)

9号土坑を切っている。埋没土はローム粒を少量含む暗褐色土である。出土遺物はないが、中世と推定される9号土坑を切っているため、中世以降と考えられる。

98号ビット(第34図)

9号土坑底面で検出されたが、新旧関係は確認できなかった。埋没土はローム粒を少量含む黒褐色土である。出土遺物はなく、時期は確定できない。

99号ビット(第34図)

9号土坑底面で検出されたが、新旧関係は確認できなかった。埋没土はローム粒・塊を含む黒褐色土である。出土遺物はなく時期の確定はできない。

111号ピット(第34図)

112号ピットを切っている。埋没土はローム粒・塊を含む黒褐色土である。出土遺物はなく時期の確定はできない。

112号ピット(第34図)

111号ピットに切られる。出土遺物はなく、時期の確定はできない。

133号ピット(第34図)

134号ピット、14号掘立柱建物の柱穴P1と重複し、これらに切られる。本来、14号掘立柱建物の柱穴に伴った可能性がある。出土遺物はなく、14号掘立柱建物との重複関係から中近世以前と考えられる。

134号ピット(第34図)

133号ピットを切り、14号掘立柱建物の1号ピットに切られる。埋没土はローム粒・塊を少量含む黒褐色土である。出土遺物はなく、14号掘立柱建物との重複関係から中近世以前と考えられる。

154号ピット(第34・36図 PL.5)

埋没土はローム粒・塊を少量含む黒褐色土である。埋没土中から砥石(第36図1)が出土している。この砥石は天良七堂遺跡3区31号ピットから出土した砥石と接合したが、天良七堂遺跡3区31号ピット出土砥石では使用面に使用減りが認められる。遺物から時期を確定することはできないが、埋没土でも時期限定はむずかしい。

160号ピット(第34図)

81号ピットに切られている。埋没土はローム粒を少量含む暗褐色砂質土である。出土遺物はなく、時期の確定はできなかった。

165号ピット(第34図)

9号溝に切られている。埋没土はローム粒を少量含む暗褐色土である。出土遺物はなく、時期の確定はできなかった。

167号ピット(第34図)

1号溝に切られる。出土遺物はなく、遺構の新旧関係から8世紀以前の可能性がある。

168号ピット(第34図)

169号ピットを切っている。埋没土はローム粒を少量含む黒褐色土である。出土遺物はなく、時期の確定はできなかった。

173号ピット(第34図)

174号ピットに切られている。埋没土はローム粒を少量含む暗褐色土である。出土遺物はなく、174号ピットとの重複関係から古代以前と考えられる。

174号ピット(第34図)

173号ピットを切っている。埋没土は基本土層のV層に対応する。出土遺物はなく、埋没土から古代以前の遺構である可能性がある。

212号ピット(第34図)

213・214号ピットに切られる。埋没土は基本土層のV層に対応する。出土遺物はなく、埋没土から古代以前の遺構である可能性がある。

213号ピット(第34図)

214号ピットに切れ、212号ピットを切っている。埋没土は黄褐色粒を僅かに含む暗褐色土である。出土遺物はなく、時期の確定はできなかった。

214号ピット(第34図)

212・213号ピットを切っている。埋没土は粘性を帯びた暗褐色土である。出土遺物はなく、時期の確定はできなかった。

215号ピット(第34図)

19号土坑に切られている。埋没土は粘性を帯びた黒褐色土である。出土遺物はなく、時期の確定はできない。

218号ピット(第34図)

埋没土は黄褐色土粒・塊を含む暗褐色土と黄褐色土の混土であり、北西側で新しいピットと重複している可能

性がある。出土遺物はく、時期の限定はできなかった。

219号ピット(第35図)

220・221号ピットと5号掘立柱建物P5に切られる。出土遺物はないが、5号掘立柱建物に切られていることから古代以前と考えられる。

220号ピット(第35図)

221号ピットに切れ、219号ピット、5号掘立柱建物P5を切っている。埋没土は締まりの弱い暗褐色土である。5号掘立柱建物P5を切っていることから時期は古代以降である。

221号ピット(第35図)

219・220号ピットと重複し、これらを切る。埋没土はを帯びた暗褐色砂質土である。出土遺物はないが、埋没土と219・220号ピットとの重複から、時期は古代以降と考えられる。

225号ピット(第34図)

北側半分は調査区外のため全容は不明である。埋没土層から柱の抜き取り穴の可能性がある。出土遺物はなく、時期の限定はむずかしい。

231号ピット(第35図)

楕円形の掘り方を有する柱穴で、1・2層は形状から柱抜き取り痕の可能性がある。出土遺物はなく、埋没土からも時期は限定できない。

233号ピット(第35図)

1・2層は形状から柱痕の可能性がある。出土遺物はなく、埋没土からも時期は限定できない。

236号ピット(第35図)

260号ピットを切り、11号掘立柱建物P4に切られている。埋没土はローム塊を少量含む暗褐色土である。北側でピットと重複している可能性がある。出土遺物はなく、時期は不明である。

240号ピット(第35図)

1号掘立柱建物柱穴P9、241号ピットとの重複関係は不明である。埋没土は、白色軽石及び褐色土を僅かに含む基本土層V層に相当する。出土遺物はないが、埋没土から時期は古代と考えられる。

241号ピット(第35図)

1号掘立柱建物柱穴P9、240号ピットとの新旧関係は不明である。埋没土は黄褐色土を含む暗褐色土である。出土遺物はなく、時期は古代と考えられる。

242号ピット(第35図)

250号ピットに切られている。埋没土はローム塊を多量に含む黄褐色土と黒褐色土である。出土遺物はなく、時期の限定はできない。

243号ピット(第35図)

11号掘立柱建物柱穴P2と重複するが新旧関係は不明である。埋没土はローム粒と塊を含む黄褐色土及び黒色土であり、1層は柱痕の可能性がある。出土遺物はなく、埋没土からも時期は限定できない。

244号ピット(第35図)

ほぼ垂直に深く掘り込まれた形状から、柱穴の可能性がある。埋没土は白色軽石及び褐色土粒を含む基本土層V層に相当する。出土遺物はないが、埋没土から時期は古代以前の可能性がある。

247号ピット(第35図)

8世紀後半と考えられる10号溝に切られている。埋没土は粘性を帯びた黒褐色土(基本土層V層)である。出土遺物はないが、10号溝より古いので、8世紀後半以前と考えられる。

250号ピット(第35図)

242号ピットを切っている。埋没土はローム塊を少量含む人為的堆積かどうかは判断できない。出土遺物はなく、時期は不明である。

251号ピット(第36図)

北側が南側より一段深く掘り込まれている。埋没土はローム塊を多く含むことから、人為的な埋没の可能性が高い。出土遺物はないが、重複関係から8世紀後半以降と考えられる。

260号ピット(第36図)

236号ピットに切られている。1・2層は形状から柱痕の可能性はある。出土遺物はないが、埋没土から時期は確定できなかった。

261号ピット(第36図)

9号掘立柱建物柱穴P2を切っている。埋没土はローム塊を含む黒色土で、人為的埋没土と考えられる。出土遺物はないが、9号掘立柱建物との重複関係から、古代の遺構である。

262号ピット(第36図)

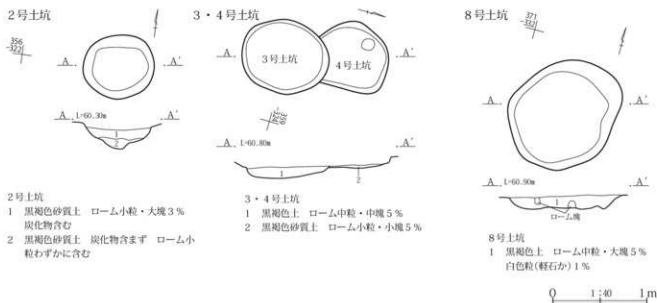
9号掘立柱建物の布掘り部埋土を切っている。埋没土はローム塊を少量含む褐色土である。出土遺物はないが、埋没土と9号掘立柱建物との重複から、古代の遺構である。

263号ピット(第36図)

9号掘立柱建物柱穴P8・9の布掘りを切り、8号掘立柱建物柱穴P4に切られている。9号掘立柱建物の布掘り内で検出されており、掘立柱建物の柱穴になる可能性もあるが対応する柱穴が確定できない。埋没土はローム塊を含む黒褐色土及び黄褐色土で、出土遺物はないが、8・9号掘立柱建物との重複から古代の遺構である。

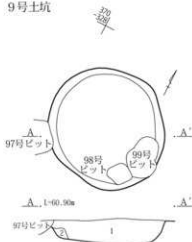
264号ピット(第36図)

9号掘立柱建物柱穴P11を切る。埋没土はローム塊を含む黒褐色土で人為的堆積と考えられる。検出位置は9号掘立柱建物の布掘り内でありP11より新しい柱穴の可能性もある。出土遺物はないが、9号掘立柱建物との重複から古代の遺構である。



第31図 1区2・3・4・8号土坑

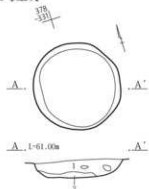
9号土坑



9号土坑

- 1 黒褐色土 ローム小粒・小塊5%
- 2 1層上にローム中粒15%含む

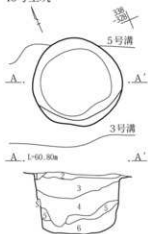
13号土坑



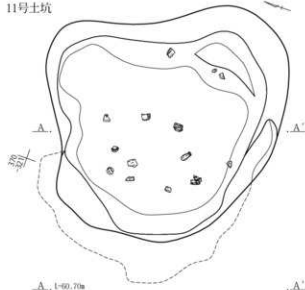
13号土坑

- 1 黒褐色砂質土 ローム中粒・大塊3%含む
- 2 黒褐色砂質土 1層よりロームやや多い

18号土坑



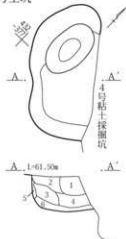
11号土坑



11号土坑

- 1 暗褐色土 下層部は締まり強い 全体に砂質で粘性締まりややあり
- 2 黄褐色ローム塊
- 3 暗褐色土 1層に類似 締まりあり
- 4 黄褐色土 粘性ややあり締まりあり
- 5 黄褐色土塊
- 6 暗褐色土 3層に類似 締まりあり、砂質
- 7 暗褐色土 6層に類似 ローム小粒・小塊3%、3~15cmの礫を含む
- 8 砂層 暗褐色土を含む 2~7cmの礫を含む 湧水あり

21号土坑



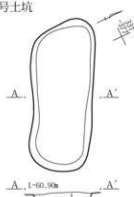
18号土坑

- 1 黄褐色粘質土 ローム塊
- 2 暗褐色土 粘性締まりややあり
- 3 暗褐色土 2層に類似 黄褐色土粒・塊を含む
- 4 暗褐色土と黄褐色土の混土 暗褐色土主体 締まりなし
- 5 暗褐色土と黄褐色土の混土 4層より全体的に色調暗い
- 6 黒褐色土 黄褐色土塊を含む 粘性締まりあり

21号土坑

- 1 暗褐色土 明るい色調 ローム塊などなし
- 2 黒褐色土 1層より黒味を増す 褐色土塊を斑状に含む
- 3 黒色土 ローム大塊少量含む
- 4 黒色土 ローム塊を含まない均一土
- 5 黄色土 壁崩落土でローム主体 黒色土塊少量含む
- 6 黒褐色土 ローム中塊少量含む

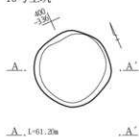
12号土坑



12号土坑

- 1 黒褐色砂質土 ローム中粒・小塊5%
- 2 黒褐色砂質土、1層よりローム多い

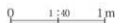
15号土坑



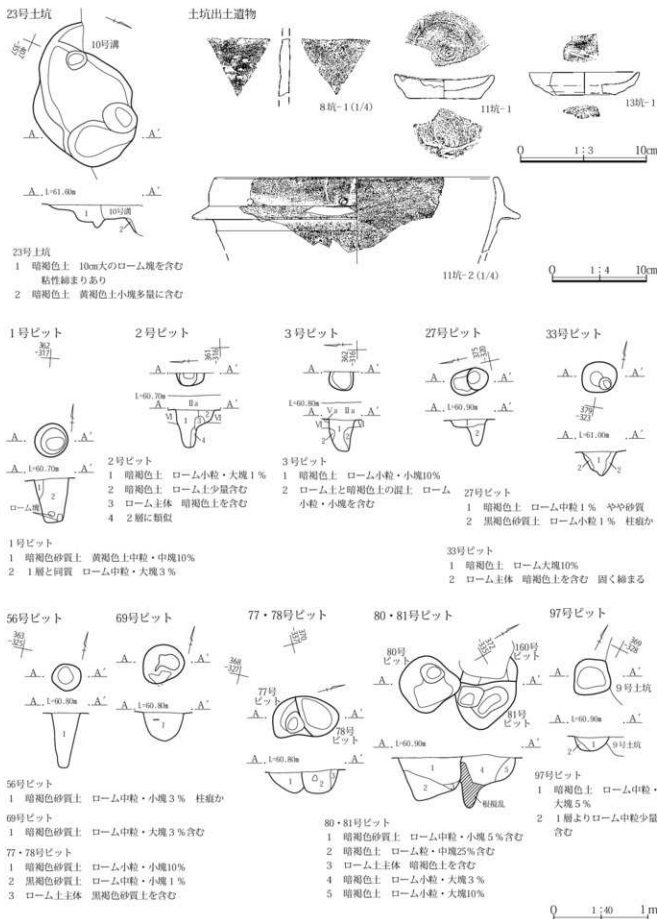
15号土坑

- 1 暗褐色土 緻密 黄褐色土中粒1%含む
- 2 暗褐色土 ローム中粒・大塊2%含む

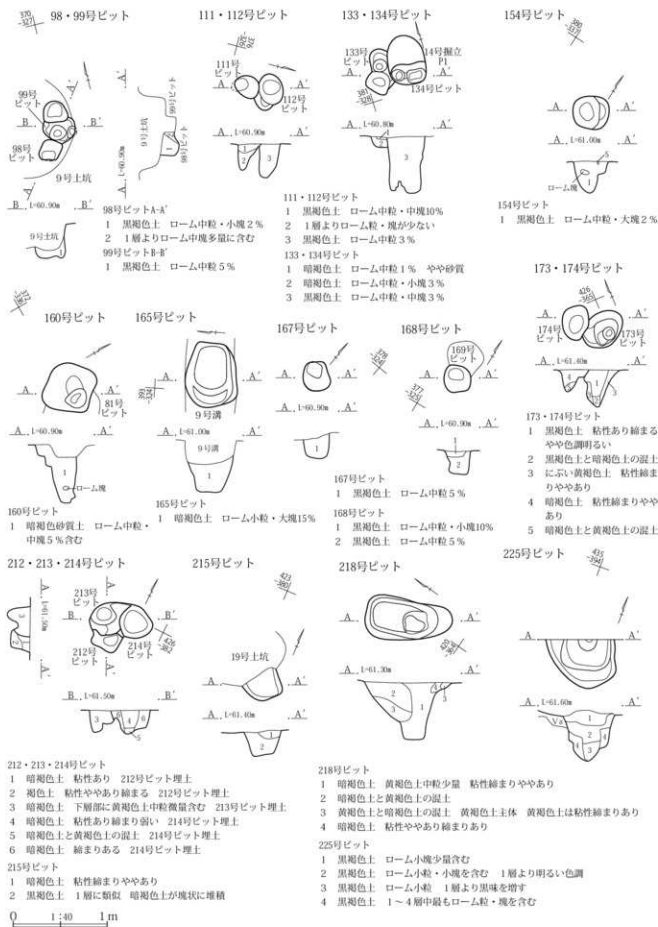
第32図 1区9・11・12・13・15・18・21号土坑



第3章 笠松遺跡



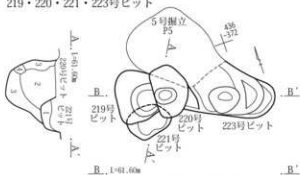
第33図 1区23号土坑と8・11・13号土坑の出土遺物、1・2・3・27・33・56・69・77・78・80・81・97号ピット



第34図 1区98・99・111・112・133・134・154・160・165・167・168・173・174・212～215・218・225号ピット

第3章 笠松道跡

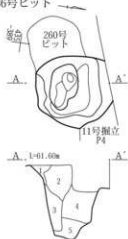
219・220・221・223号ピット



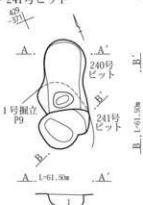
220・221号ピット

- 1 暗褐色砂質土 粘性ややあり締まり弱い 221号ピット埋土
- 2 暗褐色土 黄褐色土大塊をやや多く含む 220号ピット埋土
- 3 暗褐色土 220号ピット埋土
- 4 黄褐色土塊

236号ピット



240・241号ピット



236号ピット

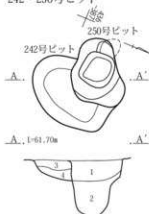
- 1 褐色土
- 2 暗褐色土 1層より黒い ローム小塊少量含む
- 3 暗褐色土 2層に近辺 黒味を増す ローム中塊を含む
- 4 黒褐色土 1〜7m大のローム塊多量に含む人為的埋土
- 5 黒色土

240・241号ピット

240号・241号ピット

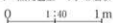
- 1 黒褐色土 灰褐色を帯びる 褐色土中粒 1% 白色軽石 1%以下
- 2 暗褐色土 粘性ややあり締まりあり
- 3 暗褐色土と黄褐色土の混土

242・250号ピット



242・250号ピット

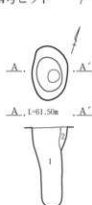
- 1 黒褐色土 ローム中塊少量 褐色土を斑状に含む 250号ピット埋土
- 2 黒色土 3〜10cm大のローム塊少量含む 250号ピット埋土
- 3 黄褐色土 1〜5cm大のローム塊多量に含む 242号ピット埋土
- 4 黒褐色土 1、2層より黒い色調の黒色土 242号ピット埋土



243号ピット



244号ピット



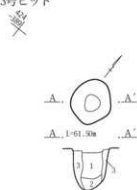
243号ピット

- 1 黒褐色土 黄褐色土中粒・白色軽石 1%以下 やや締まる 柱状か
- 2 黒褐色土 4層と1層の混土 ハードロームの中粒・小塊 1%含む
- 3 暗褐色土 地山崩落上か
- 4 黒褐色土 黄褐色土中粒・大塊 1%含む
- 5 全体的にローム土を含む 黄褐色帯びる

244号ピット

- 1 黒褐色土 白色軽石 1% 下位はやや粘性あり 褐色土中粒を少量含む
- 2 黒褐色土 1層より緻密でやや締まり弱い

233号ピット



231号ピット



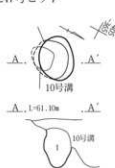
231号ピット

- 1 黒色土 均一
- 2 黒褐色土 1層より淡い色調 ローム塊少量含む
- 3 黒色土 1層と近辺 ローム塊少量含む
- 4 黒褐色土 1〜5cm大のローム塊多量に含む

233号ピット

- 1 黒褐色土 黄褐色土小粒 1%以下 やや締まる
- 2 黒褐色土 1層よりやや黒色味を帯びる
- 3 黒褐色土 1層より黄色味あり ローム中粒・小塊 5% やや締まる

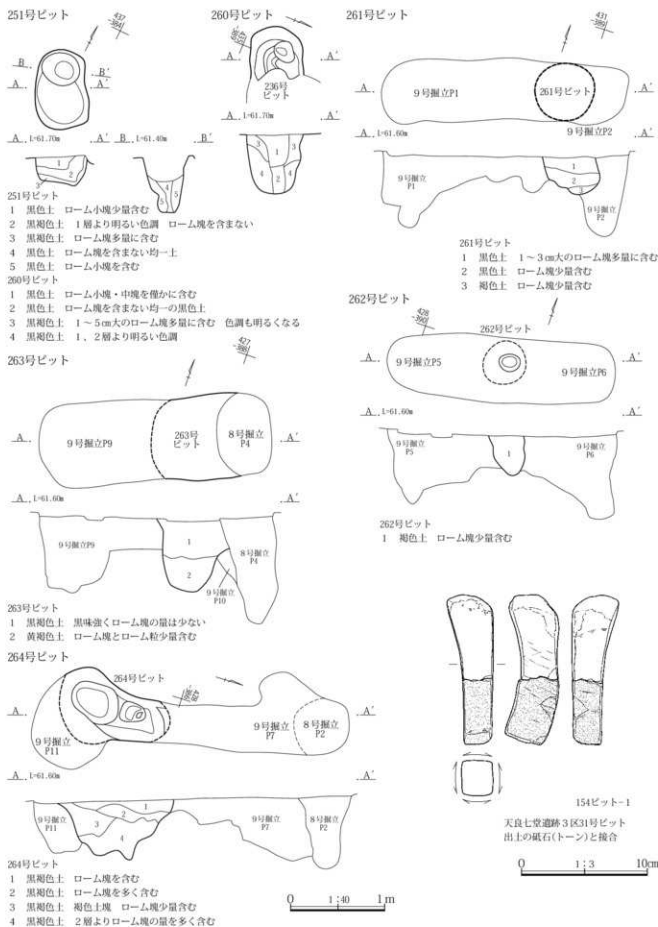
247号ピット



247号ピット

- 1 黒褐色土 粘性あり締まり強い

第35図 1区219・220・221・223・231・233・236・240～244・247・250号ピット



第36図 1区251・260～264号ビットと154号ビットの出土遺物

(6) 粘土採掘坑

1区から検出された粘土採掘坑は5基である。いずれも上部ローム層を掘り抜き、ローム以外の土で人為的に埋め戻した痕跡が認められることから粘土採掘坑と判断した。1号竪穴状遺構は1号粘土採掘坑、3号竪穴住居は2号粘土採掘坑、1区北側から検出された3号土坑は3号粘土採掘坑に変更した。

1号粘土採掘坑(第37図 PL. 5)

位置 X=409~414, Y=-364~369

重複 なし。主軸方向 N-28°-W

形状・規模 平面形状は不整形円形と方形の結合したもので、規模は長軸長4.79m、短軸長4.09m、深さ87cmである。2基の粘土採掘坑の重複が想定され、埋没土から南側の不整形円形部が古いと思われる。

埋没土 暗褐色土及び黒褐色土と淡黄褐色粘質土の混土や黄褐色土大塊などが混在する人為的埋没土である。

出土遺物 埋没土中から杯と皿各1点(第37図1・2)と古代の瓦1点(同図3)が出土した。磨石(同図4)は混入と思われる。非掲載遺物は土師器大破片3.6g、土師器小破片31.1g、須恵器大破片22.6g、須恵器小破片2.9gである。

所見 地山の基本土層VIIb・c層を採掘したと考えられ、1号基壇状遺構に隣接していることから、地業に必要な土取を行った可能性がある。出土遺物から時期は8世紀前半と考えられる。

2号粘土採掘坑(第38図 PL. 5)

位置 X=404~409, Y=-379~384

重複 なし。主軸方向 N-66°-E

形状・規模 平面形状は長方形を呈し、規模は長軸長5.57m、短軸長4.04m、深さ76cmである。

埋没土 上層はローム粒や白色軽石を僅かに含み、下層はローム粒・塊を含む人為的埋没土と考えられる。

出土遺物 埋没土から須恵器製の破片が1点(第38図1)出土した。非掲載遺物は土師器大破片59.5g、土師器小破片29.2g、須恵器小破片6.2gである。

所見 当初3号住居として精査した。形状から廃棄した竪穴住居を利用して粘土採掘をした可能性がある。出土遺物から時期は古代と考えられる。

3号粘土採掘坑(第38・39図 PL. 5・31)

位置 X=413~415, Y=-352~355

重複 なし。主軸方向 N-70°-W

形状・規模 平面形状は不定形を呈し、規模は長径2.67m、短径1.75m、深さ1.57mである。西壁側は斜め下方に掘り込まれている。

埋没土 上層から中層にかけて小・大礫を多量に混入する人為的埋没土である。

出土遺物 埋没土中から小型の皿2点(第39図1・2)と甕(同図3)が出土した。非掲載遺物は土師器大破片147.8gが出土する。時期は小型の皿の存在から11世紀代と考えられる。

4号粘土採掘坑(第39図 PL. 5)

位置 X=431~439, Y=-372~379

重複 4号粘土採掘坑埋没土を1・6号掘立柱建物柱穴P3が切る。

主軸方向 N-33°-W

形状・規模 平面形状は不整形円形の連なる楕円形を呈し、規模は長径9.52m、短径3.25m、深さ1.20mである。ほぼ平坦な底面をなし、北壁はオーバーハンクシ、中央ピットは深さ1.5mを測る。基本土層VIIb・c層を採掘したことがわかる。

埋没土 下層は多量のローム土を含む人為的埋没土であり、南側から北側へ埋め戻しながら掘削している。

出土遺物 なし。

所見 南側から4単位で順次採掘し、北端が最終段階である。1・6号掘立柱建物との重複から時期は8世紀代以前と考えられる。

5号粘土採掘坑(第40図 PL. 5)

位置 X=409~412, Y=-351~353

重複 10号溝を切っている可能性が高い。

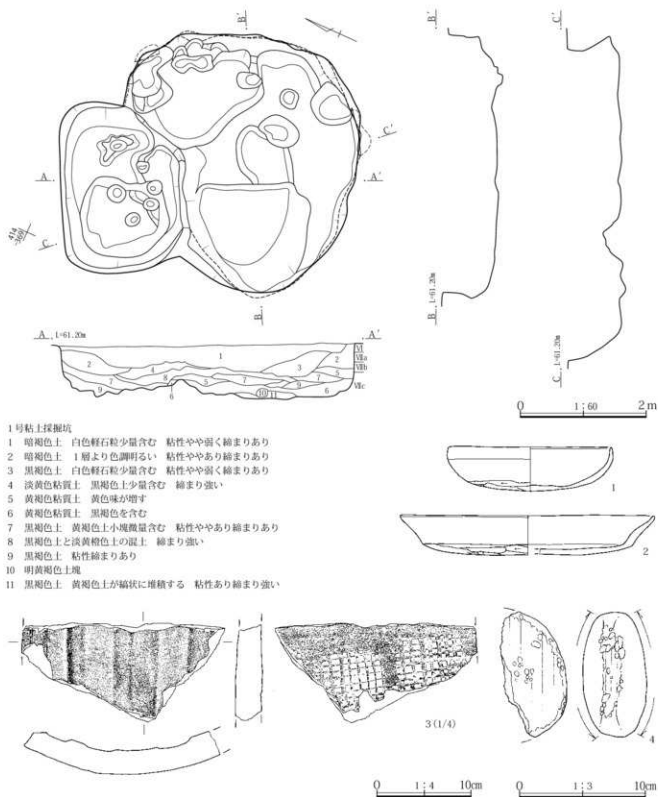
主軸方向 N-7°-W

形状・規模 平面形状は不整形楕円形を呈し、規模は長径3.20m、短径2.23m、湧水により底部まで掘削できず深さ0.58m以上である。壁面はオーバーハンクシ、袋状の断面形状を呈する。

埋没土 10号溝との重複で削平されているため判然としない。

遺物 なし。

所見 10号溝との重複から時期は古代以降と考えられる。

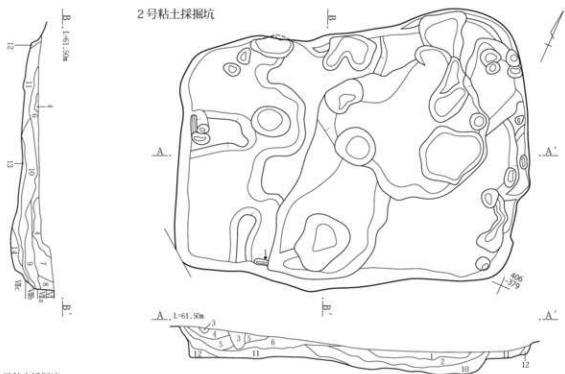


1号粘土探掘坑

- 1 暗褐色土 白色軽石粒少量含む 粘性やや弱く締まりあり
- 2 暗褐色土 1層より色調明るい 粘性ややあり締まりあり
- 3 黒褐色土 白色軽石粒少量含む 粘性やや弱く締まりあり
- 4 淡黄色粘質土 黒褐色土少量含む 締まり強い
- 5 黄褐色粘質土 黄色味が増す
- 6 黄褐色粘質土 黒褐色を含む
- 7 黒褐色土 黄褐色土小塊微量含む 粘性ややあり締まりあり
- 8 黒褐色土と淡黄褐色土の混土 締まり強い
- 9 黒褐色土 粘性締まりあり
- 10 明黄褐色土塊
- 11 黒褐色土 黄褐色土が幅状に堆積する 粘性あり締まり強い

第37図 1区1号粘土探掘坑と出土遺物

2号粘土探掘坑

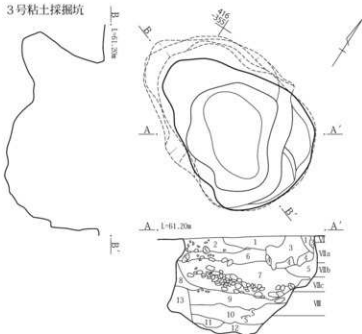


2号粘土探掘坑

- 1 黒褐色土 ローム中粒・小塊2%、6世紀代様名山起源パミスを少量含む
- 2 黒褐色土 ローム中粒と6世紀代様名山起源パミスを少量含む
- 3 黒褐色砂質土 粗粒土
- 4 黒褐色土 白色軽石1%含む
- 5 黒褐色土 より黒色味のある黒褐色土、ローム小粒3%、白色軽石1%以下を含む
- 6 黒褐色土 やや固く締まる ローム中粒・小塊1% 白色軽石(FM軽石か)2%
- 7 暗褐色土 全体的にやや締まる またローム中粒・小塊5% 黒褐色土中塊3%
- 8 黒褐色土 ローム中粒2% やや締まる
- 9 黒褐色土 白色軽石1%以下含む
- 10 黒褐色土 白色軽石1%以下で、やや締まる
- 11 黒褐色土 ローム中粒・大塊7%、白色軽石1%以下で、やや締まる
- 12 黒褐色土とローム土の混土
- 13 黒色土 ローム中粒1%ほど含む
- 14 黒褐色土 ローム中粒・大塊を10%含む 人為的埋土



3号粘土探掘坑



3号粘土探掘坑

- 1 暗褐色土 白色軽石粒を含む 粘性弱い・締まりあり
- 2 暗褐色土 1層に類似 2cm以下の小礫を含む
- 3 褐色土 粘性ややあり締まりあり
- 4 黄褐色土 粘性ややあり締まり強い 全体にザラつきあり
- 5 灰黄褐色粘質土 黒色土小塊を含む 粘性締まり強い
- 6 暗褐色土 黄褐色土小粒微量含む 粘性弱くやや締まる
- 7 黒褐色土 粘性ややあり締まりあり
- 8 黒褐色土 黄褐色土粒少量含む
- 9 黄褐色土 粘性あり締まりややあり 全体にザラつきあり
- 10 暗褐色土 粘性締まりあり 全体にザラつきあり
- 11 黒褐色土 粘性締まりあり 全体にザラつきあり
- 12 黄灰色土 黄褐色土粒少量含む
- 13 褐色土 黄褐色土粒・大塊多量に含む

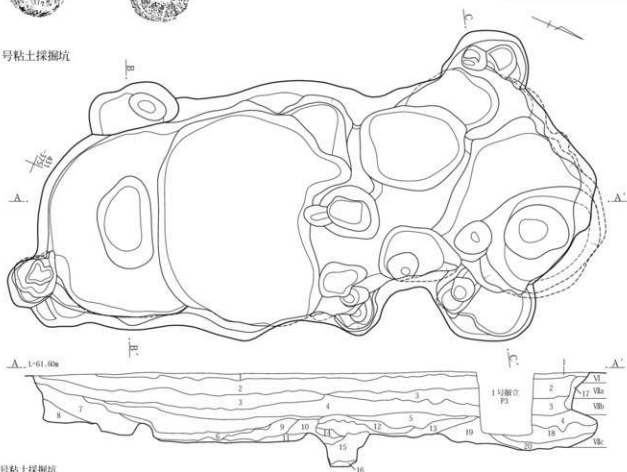
0 1:60 2m

第38図 1区2・3号粘土探掘坑と2号粘土探掘坑の出土遺物

3号粘土探掘坑出土遺物



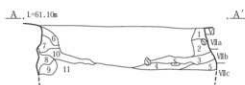
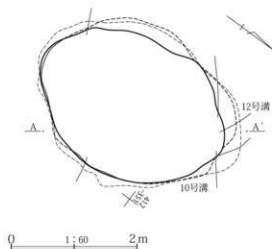
4号粘土探掘坑



4号粘土探掘坑

- 1 褐色土 色調はやや黒色 粘性細まりなし
- 2 黒褐色土 褐色土塊を含む ローム塊少量含む
- 3 暗褐色土 褐色土塊を斑状に含む ローム塊多量に含む
- 4 黒褐色土 色調は黒色 ローム塊少量含む
- 5 黒褐色土 ローム小塊少量 大塊多量に含む
- 6 黒色土 均一 ローム小塊少量含む
- 7 黒褐色土 ローム大塊を含む 色調は明るい
- 8 黒褐色土 ローム小 大塊を含む
- 9 黄褐色土 黒褐色土を含む ローム大塊多量に含む
- 10 黒色土 褐色土塊 ローム塊少量含む
- 11 黒褐色土
- 12 黒褐色土 ローム大塊少量含む 粘性細まり強い
- 13 黒褐色土 ローム大塊多量に含む
- 14 灰黄褐色土 ローム大塊主体
- 15 褐色土 黒褐色土塊を含む ローム大塊多量に含む
- 16 にぶい黄褐色土 黒褐色土塊を含む ローム大塊主体
- 17 褐色土 ローム塊を含む
- 18 黒褐色土 ローム小塊 褐色土塊を含む
- 19 暗褐色土 黒褐色土塊を含む ローム塊多量に含む
- 20 黒褐色土 ローム塊と黒色土塊が互層で堆積

第39図 1区3号粘土探掘坑の出土遺物と4号粘土探掘坑



- 1 褐色土 ローム小塊を含む
- 2 黒褐色土 5～15cm大のローム塊多量を含む
- 3 青灰砂層 As-Bではない青灰色砂 山砂か
- 4 黒褐色土 ローム小塊と黒色土塊13層の砂の混土
- 5 黒褐色土 3～5cm大のローム塊を含む
- 6 暗褐色土 ローム小塊を含む 明るい色調
- 7 黒褐色土 5～8cm大のローム塊を含む
- 8 黄色土 ローム塊
- 9 黒褐色土 黒色土とローム塊の混土
- 10 黒色土 褐色土塊を斑状に含む
- 11 黒色土 ローム塊少量含む

第40図 1区5号粘土採掘坑

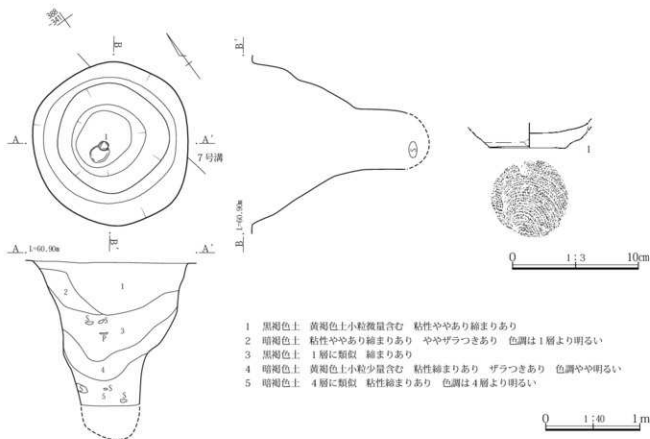
(7) 井戸

1区から検出された井戸は、1区南側に位置する1基だけである。

1号井戸(第41図 PL. 5)

X=385～387、Y=-340～342に位置する。7号溝と重複しているが、新旧関係は不明である。平面形状は不整形円形を呈し、長径1.72m、短径1.64m、湧水のため掘削できなかったため深さは不明瞭だが、ボーリングに

よって底面の深さを推定した。断面形は漏斗状を呈し、素堀りの井戸であった可能性が高い。埋没土中には大小礫を含み、埋没状況は自然埋没と考えられる。遺物は埋没土中から須恵器杯底部1点(第41図1)が出土した。非掲載遺物は土師器小破片112.5g、須恵器大破片150.3gが出土する。遺構確認面から約1.5m下の灰色粘質土層が湧水層であった可能性が高い。出土遺物から時期は10世紀代と考えられる。



第41図 1区1号井戸と出土遺物

- 1 黒褐色土 黄褐色土小粒微量含む 粘性ややあり締まりあり
- 2 暗褐色土 粘性ややあり締まりあり ややザラつきあり 色調は1層より明るい
- 3 黒褐色土 1層に類似 締まりあり
- 4 暗褐色土 黄褐色土小粒少量含む 粘性締まりあり ゼラつきあり 色調やや明るい
- 5 暗褐色土 4層に類似 粘性締まりあり 色調は4層より明るい

(8)溝

1区から検出された溝は15条である。1・10号溝は埋没土と出土遺物から8世紀後半代、2～5号溝は東方へ給排水する水路と考えられる。

1号溝(第42・43・48図 PL.5・31)

X=353～405、Y=-316～337に位置する。1・2号竪穴住居、3・4・5・9号溝、2・11号土坑、7・38・61・167号ピットと重複する。1号竪穴住居・2号竪穴住居を1号溝が切る。3・4・5号溝に切られ、9号溝との関係は不明。埋没土の確認状況から北西から緩やかに南に向きを変えて走行し、底面標高は北西端60.92m、南端60.29m、比高0.63m、勾配は1.16%とほぼ平坦である。北西側及び南側は調査区外となるため長さは54.46m以上、上面幅1.36～6.34m、深さ24～39cmである。下層はローム塊、礫などを含み、上層は暗褐色土による自然堆積と考えられ、水流の痕跡を示す砂層等は認められない。埋没土から双耳杯(第48図1)、甕(同図2)、底面から甕同(図3)が出土しており、遺構に伴うと考えられる。非掲載遺物は土師器大破片23.9g、土師器小破片33.1g、須恵器大破片5,695.1gである。底面付近から出土した中世の陶器甕(同図4)は混入と考えられる。遺構重複関係と出土遺物から時期は8世紀後半代と考えられる。

2号溝(第44・48図 PL.5・6)

X=381～390、Y=-315～321に位置する。3・4・5号溝と重複する。3号溝に切られる。4・5号溝との切り合いは確認できなかった。南北から東西方向に屈曲する部分を検出した。断面は椀形。底面標高は北端60.27m、東端60.25m、南北部は平坦で東端のみやや浅い。屈曲部を含めた総延長は12.25m、幅2.22m、深さは最深で50cmを測る。走行から3～5溝に合流する南北溝だろう。埋没は自然堆積と考えられ、底面付近に水成堆積層が認められる。埋没土から江戸時代の陶器碗(第48図1)が出土し遺構に伴うと考えられる。非掲載遺物は須恵器大破片20gである。出土遺物から時期は近世と考えられる。

3号溝(第44・48図 PL.6)

X=383～396、Y=-316～355に位置する。1・2・4・5号溝、18号土坑と重複する。2・4・5号溝埋没土を3号溝が切る。18号土坑は3号溝に切られて検出された。西から東に走行し、底面標高は西端60.83m、東端60.44m、比高39cmである。勾配は1.02%と、ほとんど傾斜はみられない。長さは42.00m、上面幅0.40～1.52m、深さは最深で53cmを測る。埋没土の状況から自然堆積と考えられるが、水流の痕跡を示す証拠は認められなかった。埋没土から近世の陶器瓶(第48図1)のほか磁器1点、土師器大破片77.7g、須恵器大破片105.8gが出土している。出土した遺物及び埋没土から時期は近世と考えられる。

4号溝(第44・48図 PL.6)

X=380～395、Y=-315～355に位置する。1・2・3・8号溝と重複する。4号溝が1号溝に切られ、3号溝を切る。2・7・8号溝との関係は不明だが、7・8号溝は支脈溝の可能性あり。西から東に走行し、底面標高は西端60.84m、東端60.26m、比高58cmである。勾配は0.98%であり、ほとんど傾斜していない。検出された長さは42.40m、上面幅は最大で94cm、深さは最深49cmを測る。埋没は自然堆積と考えられ、埋没土に水流の痕跡は認められなかった。常滑陶器甕(第48図1)が出土し遺構に伴うと考えられる。非掲載遺物は土師器大破片41.3g、須恵器大破片23.2gである。時期は中世～近世と考えておきたい。

5号溝(第44図 PL.6)

X=384～391、Y=-315～336に位置する。1・2・3号溝、18号土坑と重複する。1号溝を切り、3号溝に切られる。18号土坑は5号溝に切られている。2号溝との新旧関係は不明。標高は西端60.73m、東端60.42m、比高31cmで緩やかな傾斜をみせる。検出された長さは16.20m、上面幅1.28～2.00m、深さは最深で33cmである。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられ、底部に水成堆積層が認められる。出土遺物はなく3号溝と同様近世に属すると考えられる。

6号溝(第43図 PL.6)

X=373～377、Y=-315～317に位置する。21・

23・37号ピットと重複し、新旧関係は確認できなかった。北北東から南南西に走向し、底面標高は南南西60.80m、北北東60.77mで、高低差はほとんど見られない。北端部で東方に屈曲する可能性がうかがえるが、調査区外で確認できない。検出された長さは4.54m、上面幅28～51cm、最大深さ12cmである。埋没土はローム塊の多い人為的堆積と考えられる。出土遺物はなく埋没土からも時期は限定できない。

7号溝(第45図 PL. 6)

X=367～391, Y=-337～341に位置する。4・8号溝、1号井戸と重複し、埋没土の確認状況から8号溝に切られる。1号井戸との新旧関係は不明。北から南に走行し、底面標高は北端60.81m、南端60.49m、比高32cmで、南に向かってわずかに傾斜しているが、埋没土に水流の痕跡は確認できない。長さは24.02m以上、上面幅は北端で4.22m、南端で0.94m、深さは最大深24cmを測る。4号溝重複部分は扇状に幅が広がる。埋没土はわずかで自然堆積と思われる。出土遺物はなく埋没土からも時期限定はできなかった。

8号溝(第45図 PL. 6)

X=382～390, Y=-337～340に位置する。4・7号溝と重複し、7号溝を切る。4号溝から分岐する支流の可能性はある。北から南に走り、底面標高は南西端60.76m、北東端60.71m、比高5cmで南へ若干の傾斜を示す。検出された長さは7.48m、上面幅18～66cm、深さ4～11cmである。埋没は自然堆積と考えられる。出土遺物はなく埋没土からも時期限定はできなかった。

9号溝(第42図 PL. 6)

X=391～392, Y=-322～328に位置する。1号溝・165号ピットと重複し、165号ピットを切る。1号溝から分岐する支流溝の可能性はある。底面標高は西端60.89m、東端60.79m、比高10cmで、高低差は僅かである。検出部長さは5.18m、上面幅46～52cm、深さ13～26cmを測る。埋没土から水流の痕跡は認められなかった。出土遺物はなく埋没土からも時期限定はできなかった。

10号溝(第45・46・48・49図 PL. 6・31)

X=399～446, Y=-346～379に位置する。23号土坑、247号ピット、11・12号溝、5号粘土探掘坑と重複する。埋没土の確認状況から23号土坑を切り11・12号溝に切られる。247号ピットは10号溝に切られるピットである。10号溝が5号粘土探掘坑埋没土を切る。底面標高は南西端60.55m、北東端60.47mで、比高8cmとほとんど平坦である。断面は台形状で土層断面から埋没後の掘り直しが認められる。1区北トレンチ調査で検出された南北に走行する溝も断面形状と堆積土の類似から10号溝の一部と考えられる。この北トレンチで検出された溝と連続すると考えた場合、東西走向10号溝が調査区東外側で北北西に屈折し、直線的に延びて連続したと認定できる。10号溝の検出された長さは32.5m、上面幅は最大で2.70m、底面幅は1.10～1.50m、深さは最大深74cmを測る。埋没土はAs-B層に覆われ、中層下はレンズ状の堆積が認められ自然埋没と考えられる。埋没土から杯蓋、盤、杯、甕が出土し、底面付近からも杯、甕が出土し、いずれも8世紀後半～9世紀代である。埴輪片は混入と考えられる。非掲載遺物は土師器小破片3.9g、須臾器大破片279.1g、須臾器小破片11.4gである。時期は埋没土や出土遺物から8世紀後半～9世紀代と考えられる。

11号溝(第46図)

X=392～420, Y=-358～369に位置する。22号土坑、246号ピット、10・12号溝と重複する。10号溝を切り、12号溝に切られる。埋没土の確認状況から11号溝より22号土坑が古く、246号ピットが新しい。北東から南西に走向し、底面標高は北東端61.22m、南西端60.92m、比高30cm、勾配は0.91%である。北端及び南西端より調査区外となる。検出部長さは32.8m、上面幅25～73cm、深さ3～15cmを測る。As-B混土を含む黒褐色砂質土による自然埋没と考えられるが、水流の痕跡は確認できなかった。出土遺物はなく、埋没土から中世と考えられる。

12号溝(第47図)

X=408～421, Y=-345～387に位置する。3号掘立柱建物P5・P6・P7・P10号、1号基壇状遺構・10・11号溝と重複する。1号基壇状遺構・10号溝・11号溝より新しいことは確認できるが、3号掘立柱建物の柱

六との関係は確認できなかった。南から北に延びて、ほぼ直角に折れ東方に向きを変えて走る。標高は南西端61.05m、北東端60.98m、この間の比高7cmで目立った傾斜はない。底面標高は屈曲部が最も低い。長さは南北部分が12m、東西部が38.4mを図る。上面幅は東西部東半が狭く0.18m、屈曲部では1.10mを測る。検出面からの最大深さは34cmである。砂質土ブロックによる埋没で、流水痕認められない。南部の形状から掘り直しの重複の可能性が高い。出土遺物はなく遺構重複関係から時期は中世以降と考えられる。

13号溝(第47図 PL. 6)

X=439~441, Y=-372~374に位置する。14号溝と重複し新旧関係は確認できなかった。北西から南東方向に走り、底面標高は北西端61.31m、南端61.29mで、比高2cmとほぼ平坦である。検出した規模は長さ2.12m、上面幅0.52~1.00m、深さ18~20cmである。自然堆積による埋没と考えられるが、水流の痕跡は認められない。出土遺物はなく、埋没土及び遺構新旧関係からも時期は決めがたい。

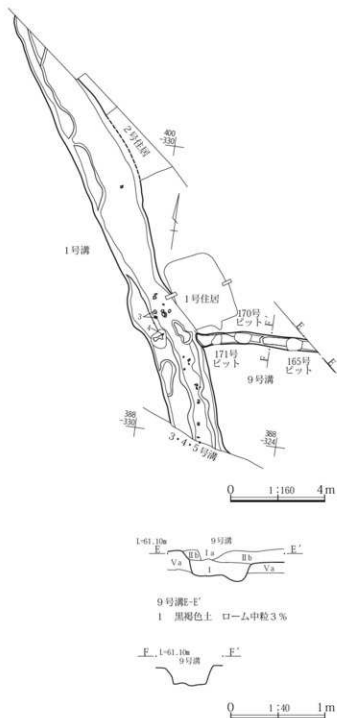
14号溝(第47図 PL. 6)

X=438~440, Y=-368~377に位置する。13号溝、4号掘立柱建物及び5号掘立柱建物の柱穴と重複し、本溝が新しい。東西方向に走る整った断面葉研状の溝で、長さ9.60m、上面幅0.70~1.14m、深さ44~48cmを測る。底面標高は西端61.09m、東端61.03m、比高は6cmで、ほぼ平坦といってよい。水流の痕跡は認められなかったが、東方向へ流れる傾斜である。埋没土はレンズ状の堆積状況が認められ自然埋没と考えられる。出土遺物はなく埋没土から時期は古代以降と考えられる。

15号溝(第47図 PL. 6)

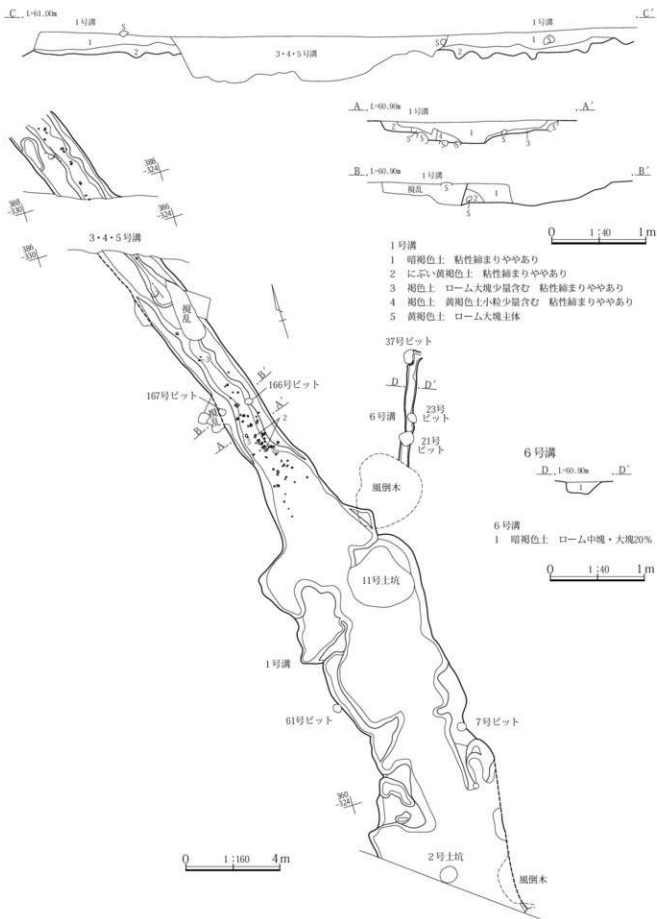
X=440~443, Y=-367~369に位置する。4号掘立柱建物と5号掘立柱建物の柱穴と重複する。埋没土の確認状況から4号掘立柱建物P4、5号掘立柱建物P4の上面を15号溝が切る。やや傾いて南北に走る。長さは2.65m以上、上面幅48~66cm、深さ10~18cmである。底面標高は南南東61.44m、北北西61.41m、比高は3cmでほぼ平坦。水流の痕跡は確認できない。出土遺物はな

くVa層に覆われた埋没土から時期は奈良・平安時代と考えられる。

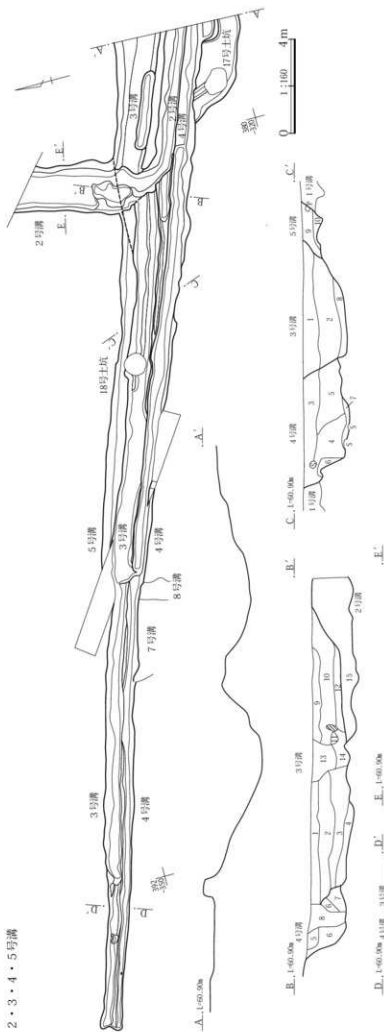


第42図 1区1・9号溝

第3章 笠松道跡



第43図 1区1・6号溝



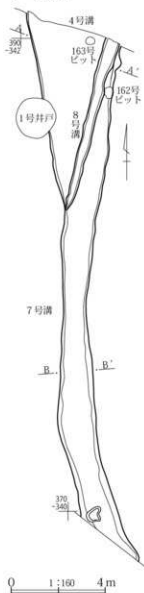
第2節 1区の調査成果

- 2-4号溝群-B'
- 1 暗褐色土 黄褐色細小粒少量含む 粘性細まりややあり
 - 2 暗褐色土 黄褐色土小粒少量含む 3層より粘性細まりあり
 - 3 暗褐色土と黄褐色土の混土 A-A' 10層に類似する 全体に色調明るい
 - 4 暗褐色土と黄褐色土の混土 3層に類似 細まりあり
 - 5 暗褐色土 黄褐色土小粒微量含む 粘性細まりややあり 1層より細まる
 - 6 暗褐色土と黄褐色土の混土 A-A' 6層に類似
 - 7 暗褐色土と黄褐色土の混土 6層より黄褐色土を多く含む 0.5m以下の小礫層を含む
 - 8 暗褐色土と黄褐色土の混土 4号溝より新しい感じの埋没土か
 - 9 暗褐色土 粘性弱く細まりややあり 全体に色調つきあり
 - 10 暗褐色土 9層に類似 細まりあり
 - 11 褐色土 黄褐色土中粒少量含む
 - 12 褐色土 11層より色調やや暗い ローム塊を含む 細まりあり
 - 13 暗褐色土 粘性ややあり細まりあり 色調やや明るい
 - 14 暗褐色土 13層に類似 ローム塊を含む
 - 15 暗褐色土 下部部にローム塊を含む 粘性細まりあり 2号溝埋没土

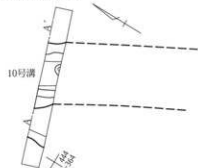
- 3-4号溝群-B'
- 1 暗褐色土 褐色土中粒1% 細まりあり
 - 2 黒褐色土 ローム小粒・大塊2% 細まりあり
- 3-5号溝群-C'
- 1 暗褐色土 黄褐色土小粒少量含む 粘性細まりややあり 3号溝埋没土
 - 2 暗褐色土と黄褐色土の混土 黄褐色土塊を含む 粘性あり 3号溝埋没土
 - 3 暗褐色土 黄褐色細小粒微量含む 粘性細まりややあり 4号溝埋没土
 - 4 暗褐色土 黄褐色土小粒少量含む 3層より粘性細まりあり 4号溝埋没土
 - 5 暗褐色土 黄褐色土小粒微量含む 粘性細まりややあり 1層より細まる 4号溝埋没土
 - 6 暗褐色土 20mm以下のローム塊 0.5m以下の小礫含む 5層より粘性高 4号溝埋没土
 - 7 暗褐色土 暗褐色土小粒微量含む 5層より粘性高 4号溝埋没土
 - 8 暗褐色土 暗褐色土と塊山の混土 3号溝埋没土
 - 9 暗褐色土 6、7層より粘性細まりあり 5号溝埋没土
 - 10 暗褐色土と黄褐色土の混土 暗褐色土を多く含む 5号溝埋没土

第44図 1区2~5号溝

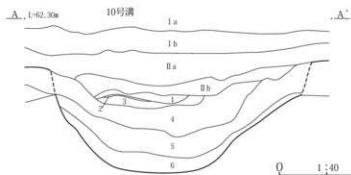
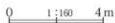
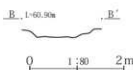
7・8号溝



1号北トレンチ
10号溝(南北部分)



- 7・8号溝
1 褐色土 ローム小塊少量含む 粘性締まりややあり 7号溝埋没土
2 暗褐色土 粘性あり締まりややあり 8号溝埋没土

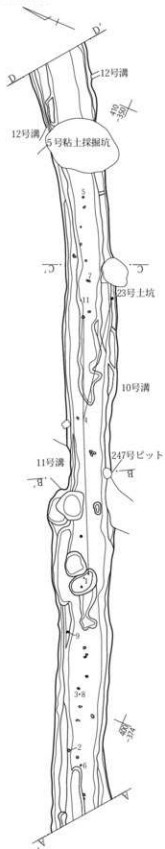


10号溝A-A'

- 1 暗褐色砂質土 As-B湿土層
- 2 As-B
- 3 黒褐色土 黄褐色土塊微量含む As-B下黒褐色土
- 4 暗褐色土 粘性締まりややあり
- 5 暗黄褐色土 粘性締まりあり
- 6 黄褐色土 粘性非常に強く締まりあり

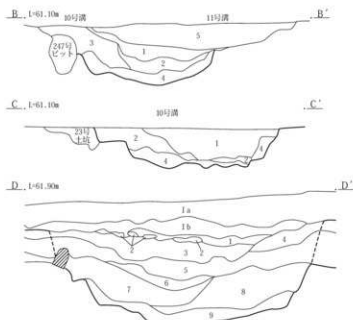


10号溝(東西部分)



第45図 1区7・8・10号溝

10号溝



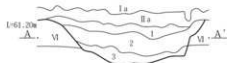
10号溝B-B' C-C'

- 1 黒褐色土 黄褐色土小粒・含む 粘性締まりややあり 色調やや明るい
- 2 暗褐色土 黄褐色土中粒含む 粘性ややあり締まりあり
- 3 褐色土 2層に類似し、色調明るい
- 4 暗褐色土と黄褐色土塊の混土 暗褐色土主体 粘性強く締まりあり
- 5 暗褐色土 As-B含む粘性と締まりあり(11号溝)

10号溝D-D'

- 1 As-B混土
- 2 As-B 部分的に小豆色の灰層がみられる
- 3 黒褐色土 黄褐色土塊微量含む
- 4 暗褐色土 粘性締まりややあり
- 5 暗褐色土と黒褐色土の混土 粘性弱い 締まりあり
- 6 暗褐色土とローム塊の混土
- 7 黒褐色土 黄褐色土小粒含む 粘性締まりややあり
- 8 暗褐色土 黄褐色土中粒含む 粘性締まりややあり
- 9 暗褐色土と黄褐色土の混土 粘性強い

11号溝



11号溝A-A'

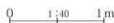
- 1 黒褐色土 やや暗色味あり
- 2 黒褐色土 1層よりやや暗色味あり ローム中粒1%以下 やや砂質でやや締まる
- 3 黒褐色土 2層と同じ色調 ローム中粒・大塊5% やや砂質で締まり粘性あり

C-C' l=61.20m

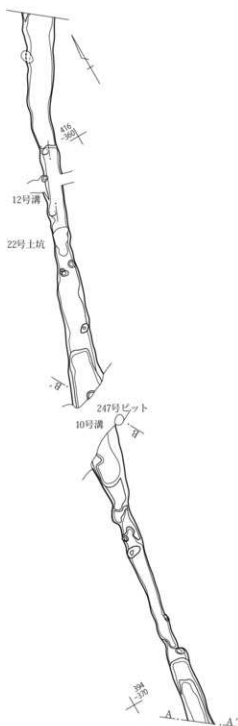


11号溝C-C'

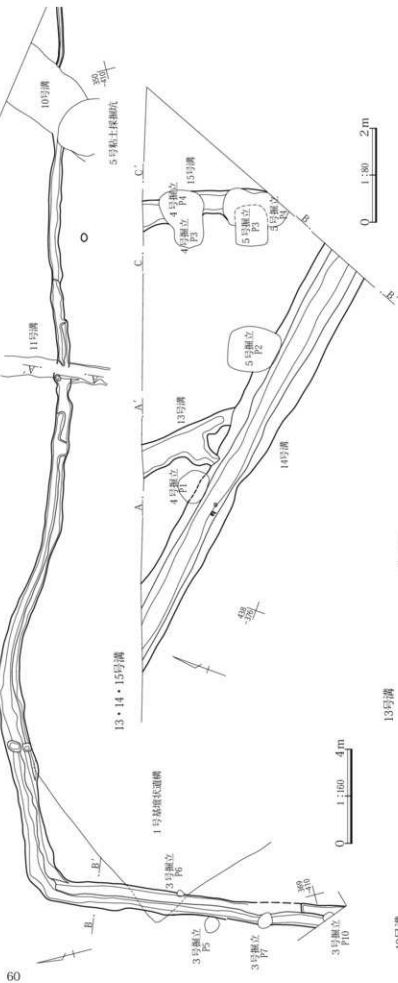
- 1 黒褐色土 やや砂質 褐色土中粒・大塊3%



11号溝



第46図 1区10号溝の断面図と11号溝



12号溝



1 黒褐色土 中砂質 褐色土中粒・大塊2%



13号溝



13号溝
1 暗褐色土 粘性あり締まりややあり
2 暗褐色土 5層に類似 5層より締まりあり
3 におい・黄褐色土 粘性ややあり締まりあり

14号溝



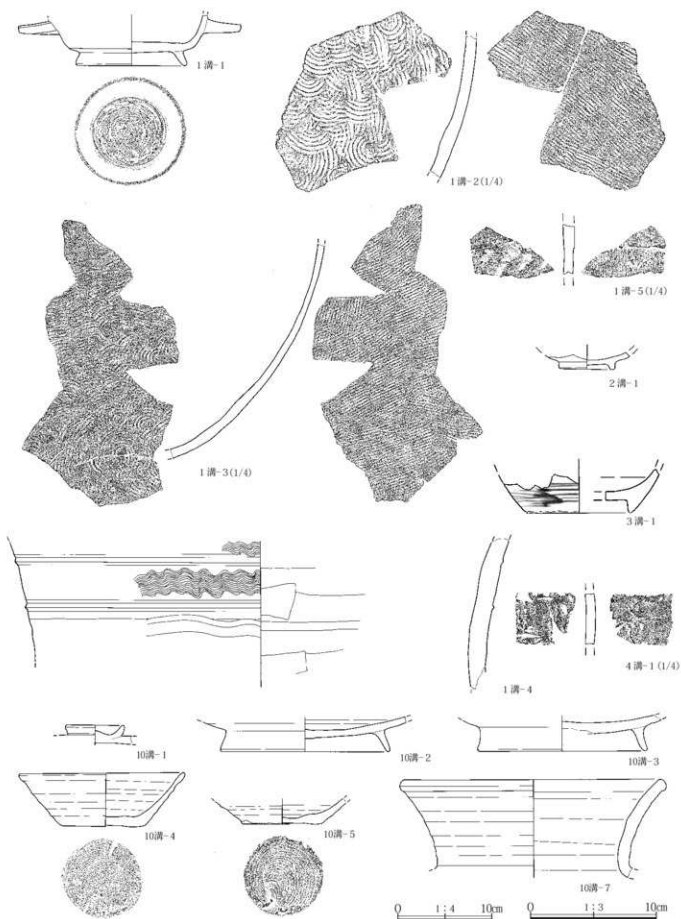
14号溝
1 黒褐色土 黄褐色土小粒含む 粘性ややあり締まりあり
2 黄褐色土 粘性弱く締まり強い
3 黒褐色土 黄褐色土中粒・含む 締まりあり
4 黄褐色土塊
5 黒褐色土 ローム小塊を含む 粘性締まりあり
6 黒褐色土と黄褐色土の混土

15号溝

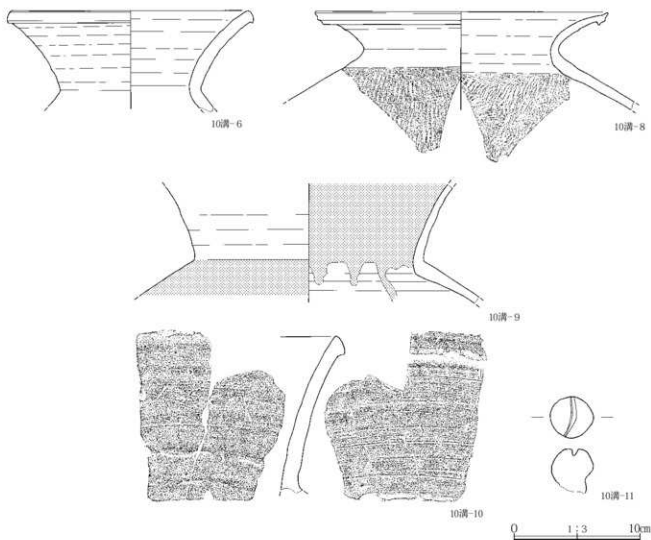


15号溝
1 黒褐色土主体 褐色土を含む 土の入り方から粗粒層か
2 褐色土 IV層に類似 やや色味強い

第47図 1区12～15号溝



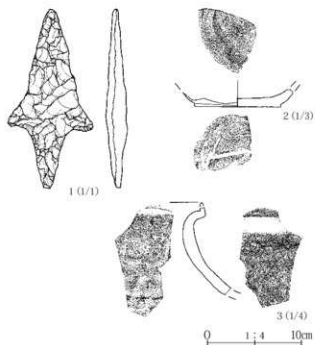
第48図 1区1～4・10号溝の出土遺物



第49図 1区10号溝の出土遺物

2 遺構外の遺物

1区からは、縄文時代以降の遺物が遺構外から出土しており、縄文時代では有茎尖頭器(1)や加工痕のある剥片が出土している。古墳時代から奈良・平安時代の非掲載遺物の総重量は土師器大破片101.3g、土師器小破片27.0g、須恵器大破片560g、須恵器小破片130.0gにすぎない。中世から近世に帰属する遺構外遺物は、13世紀の陶器甕(3)や中世以降の皿(2)が出土する。非掲載遺物は中世の国産陶器5点、近世では国産磁器1点、国産施釉陶器4点、国産陶器1点、時期不詳の瓦1点が出土している。



第50図 1区遺構外の出土遺物

第3節 2区の調査成果

笠松遺跡2区は道路を挟み1区の西側に位置する。標準土層VI層上面を遺構確認面とした。同一面での遺構確認調査によって奈良・平安時代から中近世に至る土坑、ピット、溝が検出された。

1 奈良・平安時代以降の遺構と遺物

検出遺構は土坑6基、ピット5基、溝3条に上る。ほぼ三角形の調査の中央部から西側にかけて溝が検出され、東側に土坑やピットが分布する。いずれも埋土の特徴から古代～近世に属すると推定されるが限定できない。

(1) 土坑・ピット

1区から検出された土坑は6基、ピットは5基である。遺物の出土したものや柱痕等の特徴が認められる土坑、ピットを取り上げて記載し、これ以外の全ての土坑、ピットを含めて第19表に計測値を掲げた。

1号土坑(第52図PL. 6)

平面楕円、断面椀形で1号溝北西岸80cmで検出。壁際はローム土を含む人為的埋没土が堆積する。出土遺物はなく、時期は不明。

5号土坑(第52図PL. 6)

堆積状況から人為的埋没土の可能性あり。出土遺物はなく、埋没土からも時期限定はできない。

6号土坑(第52図PL. 6)

平面長方形で、底部付近のみ検出した。底面は僅かな窪みが認められるがほぼ平坦面であり壁はやや垂直に立ち上がる。ローム塊を含む人為的埋没土と考えられる。出土遺物はなく、埋没土からも時期は限定できない。

1号ピット(第52図)

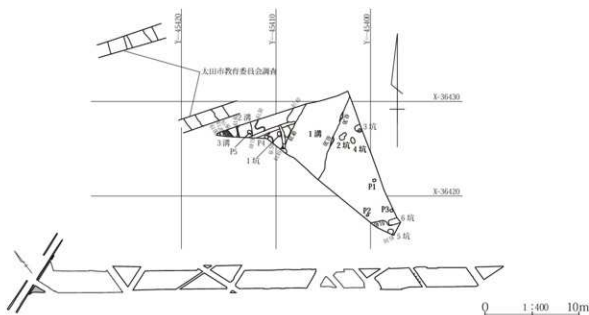
平面不整形円形、断面碗形。埋没土は砂質土による自然堆積と考えられる。出土遺物はなく、時期は限定できない。

3号ピット(第52図)

平面円形で、断面円錐形。埋没土は砂質土による自然堆積と考えられる。出土遺物はなく、埋没土からも時期は限定できない。

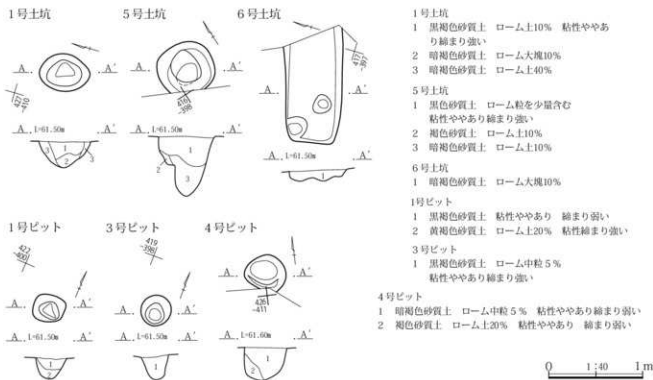
4号ピット(第52図)

平面不整形円で、断面は深い碗形。ローム粒を多量に含む人為的埋没土と考えられる。出土遺物はなく、埋没土からも時期は限定できない。



第51図 笠松遺跡 2区全体図

第3章 笠松遺跡



第52図 2区1・5・6号土坑と1・3・4号ピット

(2) 溝

2区から検出された溝は3条である。

1号溝(第53図 PL. 6)

X=421~431, Y=-402~409に位置する。重複する遺構はない。北から南に走向し、底面標高は北端60.02m、南端59.98m、比高4cmである。高低差は僅かであるが水流は南から北に流れていたと想定される。検出した規模は長さ9.62m、上面幅3.86~5.12m、最大深さ1.84mである。埋没状況から2度掘り直されたと思われる。第一段階は礫層まで掘り込まれたあと2~10層によって埋没する。第二段階は13~17層であり、ローム塊や川原石を含む自然堆積と考えられ、底部に水成堆積が認められる。最終段階で川原石を多量に含む1層によって埋没したと考えられる。埋没土から江戸時代の皿(第53図1)、焙烙(同図2)が出土する。非掲載遺物は古代瓦1点のほか須恵器大破片257.8g、須恵器小破片86.6gが出土する。埋没土及び出土遺物から時期は中世から近世と考えられる。

2号溝(第53図 PL. 6)

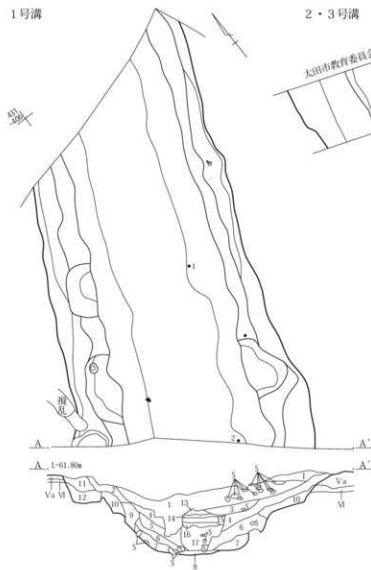
X=426, Y=-412~414に位置する。重複する遺構はない。北から南に走向し、底面標高は北端61.51m、

南端61.45m、比高6cmである。高低差は僅かである。調査区外となるため長さは1.52mしか検出されず、上面幅1.42~1.60m、深さ22cmを測る。埋没は自然堆積と考えられる。水流の痕跡は認められない。出土遺物はないが、埋没土が1号溝に近似することから時期は中世から近世と考えておく。

3号溝(第53図 PL. 6)

X=426, Y=-414~416に位置する。重複する遺構はない。調査区西端に位置するため溝東側縁辺部のみの検出であり、溝ではなく土坑状の遺構である可能性もある。長さは1.00m以上、上面幅1.30m以上、深さ70cmである。ローム塊を含む締まりのない褐色土で人為的に埋められていると思われる。水流の痕跡は認められない。太田市教育委員会(旧新田町教育委員会)による主要地方道足利・伊勢崎線歩道拡幅工事に伴う発掘調査で検出された2号溝と連続する位置にあるが、土層が異なり、同一の溝とは思えない。出土遺物はなく、ここでは時期限定の根拠は得られなかったが、埋土に締まりがないことから、新しい時期のものであると考えられ、この遺構によって2号溝が破壊されている可能性が強い。

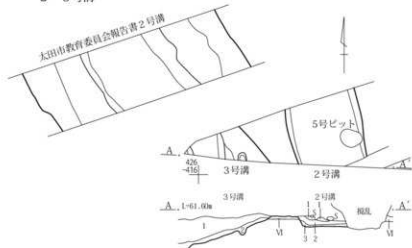
1号溝



1号溝

- 1 黒色土 砂質 1～30cm大の河原石多量に含む 粘性締まりなし
- 2 黒褐色土 2～3cm大のローム塊を含む 締まり粘性なし
- 3 黒色土 色調やや灰色 1～5cm大の河原石を含む 粘性締まりあり
- 4 黒色土 ローム塊を含む
- 5 褐色土 砂質土 締まりややあり
- 6 褐色土 5層に近似 色調は明るい 少量の礫を含む
- 7 褐色土 6層に近似 色調やや黒い
- 8 褐色土 ローム塊多量に含む
- 9 褐色土 黒色土とローム塊を多量に含む
- 10 黄褐色土 ローム塊主体 黒色土塊を含む 壁の崩落土
- 11 褐色土 表上に類似 粘性締まりなし
- 12 黒褐色土 ローム小塊多量に含む
- 13 黒色土 3層に近似 3層より灰色がかかる
- 14 褐色砂質土 ローム小塊多量に含む 色調明るい
- 15 黒色土 13層に近似 やや明るい色調
- 16 褐色土 14層に近似 砂質
- 17 黒色土 色調は灰色がかかる 粘性ややあり

2・3号溝



2号溝

- 1 黒色土 2層より色調黒い 粘性締まりなし
- 2 褐色土 1層より全体に明るい色調 粘性締まりなし
- 3 褐色土 1～3cm大の褐色土塊を含む 粘性締まりなし

3号溝

- 1 褐色土 ローム塊少量含む 粘性締まりなし
- 2 褐色土 ローム塊多量に含む 粘性締まりなし

0 1:80 2m



0 1:3 10cm



0 1:4 10cm

第53図 2区1・2・3号溝と1号溝の出土遺物

2 遺構外の遺物

2区からは、中世から近世に帰属する遺物が出土する。非掲載遺物であるが、中世の国産焼締陶器1点、近世の焙烙1点、時期不詳瓦1点が出土している。

第3章 笠松道跡

第19表 笠松道跡土坑・ピット計測表

区No	位置	形状	主軸方位	規模(m)長/短/深
1区1	366-316	長方形	N-65°W	(1.66) / 0.70 / 0.37
2	350-320	円形	-	0.75 / 0.67 / 0.22
3	338-324	円形	-	0.93 / 0.78 / 0.16
4	359-324	不定形	-	(0.77) / 0.73 / 0.11
5	359-325	不定形	-	0.75 / (0.37) / 0.10
6	361-329	不定形	N-30°E	0.60 / 0.45 / 0.19
7	362-328	不定形	N-35°W	0.72 / 0.57 / 0.12
8	369-330	不定形	N-14°E	1.22 / 1.10 / 0.14
9	368-326	円形	-	1.53 / 1.22 / 0.20
10	373-329	隅丸方形	N-16°E	0.77 / 0.63 / 0.32
11	367-318	不定形	N-33°W	2.60 / 2.33 / 0.42
12	373-329	不定形	N-38°W	1.63 / 0.63 / 0.14
13	376-330	円形	-	0.94 / 0.92 / 0.19
14	373-333	円形	-	0.98 / 0.91 / 0.19
15	399-335	円形	-	0.80 / 0.78 / 0.20
16	390-322	不定形	N-52°W	1.00 / 0.75 / 0.57
17	380-317	不定形	N-19°W	1.19 / 0.86 / 0.39
18	337-328	円形	-	0.95 / 0.93 / 0.62
19	421-379	不定形	N-50°E	1.13 / 0.77 / 0.41
20	418-356	円形	-	1.02 / 1.02 / 0.24
21	431-375	不定形	N-43°W	1.43 / 0.70 / 0.45
22	410-362	不定形	N-23°E	1.21 / 0.60 / 0.33
23	407-356	不定形	N-46°E	1.5 / (1.04) / 0.34
2区1	426-409	楕円形	N-35°W	0.53 / 0.40 / 0.26
2	425-402	不定形	N-40°E	0.92 / 0.59 / 0.37
3	426-400	不定形	N-65°E	(0.32) / (0.38) / 0.41
4	425-401	楕円形	N-18°W	0.65 / 0.41 / 0.64
5	415-397	不定形	N-7°W	0.61 / 0.57 / 0.63
6	416-396	不定形	N-75°E	1.27 / 0.63 / 0.11

ピット

区No	位置	形状	主軸方位	規模(m)長/短/深
1	360-316	円形	-	0.36 / 0.34 / 0.46
2	361-316	不定形	-	(0.30) / (0.13) / 0.40
3	362-316	不定形	-	(0.29) / (0.20) / 0.32
4	363-316	不定形	-	(0.33) / (0.25) / 0.23
5	361-316	円形	-	0.21 / 0.21 / 0.11
6	362-317	円形	-	0.30 / 0.28 / 0.41
7	361-318	円形	-	0.37 / 0.36 / 0.38
8	364-317	隅丸方形	-	0.21 / 0.21 / 0.22
9	364-317	不定形	N-70°W	0.54 / 0.40 / 0.37
10	364-316	楕円形	N-35°E	0.52 / 0.45 / 0.43
11	365-316	不定形	N-68°W	0.36 / 0.26 / 0.14
12	365-318	円形	-	0.28 / 0.25 / 0.16
13	366-318	楕円形	N-70°E	0.35 / 0.23 / 0.21
14	367-316	円形	-	0.28 / 0.23 / 0.22
15	368-316	円形	-	0.30 / 0.25 / 0.35
16	369-316	円形	-	0.35 / 0.25 / 0.23
17	369-317	円形	-	0.30 / 0.27 / 0.36
18	370-317	不定形	-	0.40 / 0.25 / 0.44
19	372-315	円形	-	0.30 / 0.27 / 0.32
20	374-316	円形	-	0.25 / 0.21 / 0.19
21	373-316	不定形	N-18°E	0.64 / 0.60 / 0.21
22	374-316	楕円形	N-84°W	0.40 / 0.26 / 0.25
23	374-316	不定形	N-27°W	0.47 / 0.31 / 0.20
24	375-318	円形	-	0.20 / 0.19 / 0.20
25	375-318	円形	-	0.20 / 0.20 / 0.12
26	375-318	円形	-	0.30 / 0.22 / 0.27
27	375-320	不定形	N-12°W	0.40 / 0.26 / 0.28
28	376-318	不定形	N-2°W	0.65 / 0.28 / 0.42
29	377-317	不定形	N-63°W	0.47 / 0.35 / 0.39
30	378-318	不定形	N-30°E	0.47 / 0.30 / 0.30
31	378-317	楕円形	N-22°W	0.48 / 0.35 / 0.35
32	379-315	円形	-	0.26 / 0.23 / 0.17
33	379-322	円形	-	0.36 / 0.32 / 0.25
35	382-322	不定形	N-4°W	0.35 / 0.22 / 0.24
36	382-321	不定形	N-8°W	0.35 / 0.31 / 0.20
37	377-315	不定形	N-16°E	0.58 / 0.35 / 0.43
38	359-319	円形	-	0.24 / 0.22 / 0.18

区No	位置	形状	主軸方位	規模(m)長/短/深
39	361-322	円形	-	0.24 / 0.21 / 0.20
40	361-323	隅丸方形	N-72°E	0.28 / 0.25 / 0.41
41	361-324	不定形	N-20°E	0.35 / 0.25 / 0.45
42	360-324	不定形	N-73°W	0.30 / 0.23 / 0.21
43	360-325	円形	-	0.29 / 0.27 / 0.33
44	360-325	円形	-	0.25 / 0.23 / 0.21
45	361-326	不定形	N-19°E	0.31 / 0.27 / 0.29
46	362-326	円形	-	0.24 / 0.24 / 0.19
47	362-328	円形	-	0.30 / 0.27 / 0.24
48	363-327	円形	-	0.29 / 0.26 / 0.19
49	364-328	円形	-	0.28 / 0.27 / 0.28
50	364-329	円形	-	0.24 / 0.22 / 0.10
51	363-330	不定形	N-79°W	0.41 / 0.33 / 0.15
52	364-327	楕円形	N-27°W	0.47 / 0.31 / 0.27
53	364-325	隅丸方形	N-8°E	0.28 / 0.27 / 0.18
54	364-325	円形	-	0.22 / 0.20 / 0.24
55	362-323	隅丸方形	N-5°E	0.32 / 0.27 / 0.20
56	362-324	円形	-	0.30 / 0.28 / 0.58
57	362-324	円形	-	0.25 / 0.20 / 0.15
58	365-326	隅丸方形	N-84°E	0.23 / 0.21 / 0.19
59	365-327	円形	-	0.30 / 0.25 / 0.15
60	366-325	隅丸方形	N-44°W	0.25 / 0.23 / 0.27
61	363-323	不定形	N-31°W	0.39 / 0.33 / 0.36
62	365-323	円形	-	0.31 / 0.27 / 0.55
63	366-326	円形	-	0.26 / 0.24 / 0.16
66	366-326	楕円形	-	0.46 / 0.27 / 0.34
67	366-327	楕円形	N-73°W	0.48 / 0.35 / 0.35
69	367-327	円形	-	0.44 / 0.40 / 0.31
70	368-328	不定形	N-2°W	0.49 / 0.36 / 0.42
71	364-329	円形	-	0.31 / 0.26 / 0.25
72	369-331	不定形	N-14°W	0.60 / 0.42 / 0.28
73	369-331	不定形	N-41°W	0.79 / 0.54 / 0.46
74	368-334	楕円形	N-30°E	0.37 / 0.22 / 0.16
75	369-335	楕円形	-	0.50 / 0.38 / 0.27
76	369-336	円形	-	0.24 / 0.23 / 0.10
77	369-336	不定形	N-83°W	(0.40) / (0.30) / 0.20
78	369-335	不定形	N-33°W	0.50 / 0.35 / 0.25
79	370-335	円形	-	0.30 / 0.26 / 0.23
80	371-334	不定形	N-30°E	0.65 / 0.61 / 0.45
81	371-334	不定形	N-30°W	(0.83) / (0.60) / 0.55
82	370-327	楕円形	N-32°W	0.38 / 0.20 / 0.24
83	371-336	楕円形	N-28°E	0.56 / 0.42 / 0.41
84	371-336	楕円形	N-27°E	0.48 / 0.26 / 0.29
85	371-336	楕円形	N-55°E	0.55 / 0.34 / 0.16
86	373-336	楕円形	N-34°W	0.31 / 0.22 / 0.14
87	376-337	円形	-	0.29 / 0.24 / 0.14
88	376-335	円形	-	0.27 / 0.24 / 0.20
89	374-333	楕円形	N-4°E	0.29 / 0.20 / 0.18
90	374-331	円形	-	0.34 / 0.33 / 0.42
91	374-331	円形	-	0.26 / 0.25 / 0.16
92	374-330	円形	-	0.30 / 0.26 / 0.25
93	373-330	円形	-	0.27 / 0.25 / 0.12
94	373-329	不定形	N-12°E	0.35 / 0.34 / 0.40
95	373-329	円形	-	0.22 / 0.21 / 0.19
97	368-327	隅丸方形	N-29°W	0.39 / 0.37 / 0.14
98	368-327	不定形	N-37°W	0.22 / 0.20 / 0.19
99	368-326	不定形	-	0.46 / 0.32 / 0.14
101	371-326	円形	-	0.25 / 0.25 / 0.30
103	372-325	不定形	-	0.28 / 0.23 / 0.17
104	373-325	円形	-	0.20 / 0.18 / 0.19
105	374-325	隅丸方形	N-47°E	0.25 / 0.23 / 0.41
107	375-326	円形	-	0.28 / 0.23 / 0.23
108	375-326	不定形	-	0.22 / 0.18 / 0.18
109	375-326	円形	-	0.20 / 0.19 / 0.26
110	375-325	円形	-	0.38 / 0.33 / 0.35
111	376-325	円形	-	0.27 / 0.23 / 0.28
112	376-325	不定形	N-70°E	0.33 / 0.26 / 0.35
113	376-326	楕円形	N-31°E	0.29 / 0.21 / 0.18
114	376-327	楕円形	N-33°W	0.27 / 0.20 / 0.31
115	376-327	不定形	N-62°E	(0.27) / 0.21 / 0.15

第3節 2区の調査成果

区No	位置	形状	主軸方位	規模(m)長/短/深
117	377-327	楕円方形	-	0.25/0.23/0.18
119	378-328	円形	-	0.24/0.23/0.16
121	377-329	円形	-	0.27/0.26/0.29
124	375-329	不定形	N-59°W	0.30/0.26/0.21
125	375-331	円形	-	0.27/0.26/0.15
126	375-332	不定形	N-20°E	0.50/0.40/0.14
128	378-325	楕円方形	N-30°W	0.28/0.21/0.34
129	378-325	楕円方形	N-78°W	0.32/0.25/0.29
130	379-326	円形	-	0.30/0.27/0.21
131	380-326	円形	-	0.22/0.20/0.34
132	380-326	楕円形	N-87°W	0.43/0.22/0.36
133	381-327	不定形	N-6°E	0.49/0.20/0.12
134	381-327	不定形	N-73°W	0.37/0.21/0.35
136	380-328	円形	-	0.27/0.23/0.23
137	380-329	楕円形	N-14°W	0.55/0.44/0.36
139	382-326	円形	-	0.28/0.26/.28
140	382-327	円形	-	0.27/0.26/0.18
141	382-329	円形	-	0.27/0.24/0.11
142	381-328	楕円形	N-8°W	0.33/0.29/0.14
143	381-329	円形	-	0.30/0.29/0.19
144	380-330	円形	-	0.35/0.34/0.16
145	378-330	円形	-	0.32/0.30/0.26
146	380-332	円形	-	0.37/0.34/0.34
147	380-332	円形	-	0.28/0.27/0.29
148	380-333	楕円方形	N-20°E	0.31/0.31/0.24
149	385-333	円形	-	0.23/0.20/0.16
150	383-334	円形	-	0.30/0.30/0.16
151	385-335	円形	-	0.34/0.30/0.29
152	381-335	円形	-	0.34/0.30/0.28
153	382-336	円形	-	0.26/0.22/0.14
154	379-336	円形	-	0.38/0.35/0.33
155	378-340	楕円形	N-64°E	0.43/0.30/0.23
156	373-341	円形	-	0.31/0.31/0.12
157	386-334	円形	-	0.44/0.41/0.17
158	387-317	不定形	N-58°E	0.55/0.51/0.31
159	368-327	不定形	N-73°W	0.48/0.27/0.35
160	371-334	楕円方形	N-80°W	0.50/0.48/0.62
162	387-338	楕円形	N-3°W	0.47/0.38/0.36
163	389-338	円形	-	0.38/0.32/0.24
164	390-321	不定形	N-38°W	0.48/0.36/0.29
165	392-323	楕円形	N-88°E	0.68/0.55/0.30
167	377-324	楕円形	N-50°E	0.31/0.28/0.27
168	375-324	円形	-	0.28/0.28/0.25
169	377-324	不定形	N-58°E	0.39/0.38/0.31
170	392-325	楕円長方形	-	0.70/0.43/0.33
171	291-326	不定形	N-80°E	0.53/0.39/0.60
172	425-365	円形	-	0.36/0.33/0.27
173	425-364	楕円形	N-64°E	0.45/0.35/0.40
174	425-365	楕円形	N-30°E	0.38/0.28/0.23
175	420-365	円形	-	0.44/0.40/0.39
176	420-361	円形	-	0.34/0.32/0.37
177	437-373	円形	-	0.36/0.33/0.18
178	436-373	円形	-	0.27/0.26/0.24
179	436-373	円形	-	0.25/0.25/0.26
180	437-370	円形	-	0.26/0.24/0.34
181	435-371	楕円形	N-78°E	0.46/0.34/0.22
182	435-371	楕円形	N-33°E	0.36/0.29/0.17
183	435-370	楕円形	N-39°E	0.42/0.32/0.40
184	433-385	楕円形	N-60°E	0.40/0.33/0.62
185	433-383	円形	-	0.25/0.22/0.26
186	432-381	円形	-	0.39/0.36/0.27
187	431-382	円形	-	0.31/0.31/0.22
188	432-381	円形	-	0.34/0.26/0.36
189	428-381	円形	-	0.32/0.30/0.25
190	426-380	円形	-	0.72/0.62/0.45
191	427-379	円形	-	0.28/0.26/0.36
192	425-381	楕円形	N-80°E	0.52/0.40/0.35
193	423-381	楕円長方形	N-29°W	0.63/0.33/0.28
194	423-382	楕円形	N-80°W	0.67/0.38/0.25
195	424-384	不定形	N-19°W	0.48/0.25/0.15
196	424-385	円形	-	0.33/0.31/0.40
197	423-384	円形	-	0.55/0.54/0.43

区No	位置	形状	主軸方位	規模(m)長/短/深
198	422-385	円形	-	0.38/0.36/0.41
199	421-385	円形	-	0.26/0.25/0.22
200	421-385	不定形	N-78°E	0.42/0.32/0.33
201	422-387	円形	-	0.36/0.30/0.34
202	421-387	円形	-	0.39/0.34/0.28
203	421-387	円形	-	0.40/0.34/0.25
204	421-387	不定形	N-25°W	0.60/0.28/0.28
205	418-386	円形	-	0.55/0.49/0.18
206	418-385	円形	-	0.47/0.38/0.18
207	418-384	円形	-	0.68/0.58/0.17
208	418-384	円形	-	0.39/0.36/0.23
209	421-385	不定形	N-11°W	0.73/0.35/0.20
210	420-385	不定形	N-2°W	0.91/0.39/0.25
211	421-381	円形	-	0.27/0.27/0.26
212	425-382	不定形	-	0.33/0.19/0.20
213	425-382	不定形	-	0.33/0.31/0.24
214	425-382	不定形	-	0.35/0.35/0.25
215	421-379	不定形	N-41°E	0.39/0.27/0.27
216	423-373	不定形	N-70°E	0.32/0.16/0.22
217	422-388	円形	-	0.31/0.29/0.26
218	420-363	楕円形	N-35°W	0.93/0.41/0.61
219	435-372	不定形	-	0.56/0.40/0.56
220	435-372	不定形	N-11°E	0.65/0.36/0.51
221	435-372	不定形	-	0.45/0.18/0.18
222	436-370	楕円形	N-57°E	0.56/0.42/0.43
223	435-371	楕円形	N-71°W	0.84/0.53/0.36
224	426-369	楕円形	N-76°W	0.75/0.58/0.39
225	433-393	不定形	N-45°E	0.63/0.55/0.53
226	433-392	不定形	N-55°E	1.18/0.71/0.10
227	433-392	不定形	N-43°E	0.43/0.40/0.33
228	431-393	円形	-	0.57/0.49/0.44
229	431-392	楕円形	N-7°E	0.77/0.51/0.41
230	432-389	不定形	N-39°W	1.13/0.45/0.33
231	434-387	楕円形	N-71°E	0.83/0.69/0.65
232	431-391	楕円形	N-15°W	0.66/0.48/0.29
233	423-388	円形	-	0.46/0.42/0.45
234	419-386	円形	-	0.37/0.33/0.18
235	419-386	円形	-	0.38/0.37/0.17
236	435-388	不定形	N-67°E	0.77/0.76/0.79
237	433-392	不定形	N-50°W	0.86/0.56/0.28
238	423-378	円形	-	0.62/0.62/0.29
239	432-370	不定形	-	0.52/0.30/0.56
240	427-370	不定形	N-25°E	0.94/0.41/0.17
241	427-370	不定形	N-27°W	0.41/0.33/0.25
242	435-386	不定形	N-10°E	0.92/0.66/0.22
243	434-391	不定形	N-14°W	0.62/0.37/0.68
244	421-360	楕円形	N-20°W	0.57/0.38/0.85
245	418-379	楕円方形	-	0.23/0.20/0.14
246	419-360	楕円形	-	0.58/0.39/0.36
247	404-364	楕円形	N-52°E	0.47/0.36/0.42
248	417-375	不定形	N-20°W	0.31/0.24/0.18
249	415-374	円形	-	0.34/0.30/0.21
250	436-386	不定形	N-46°E	0.76/0.51/0.60
251	435-383	楕円形	N-30°E	0.84/0.54/0.31
252	433-386	楕円形	N-61°E	0.52/0.33/0.27
253	434-383	楕円形	N-72°E	0.43/0.37/0.24
254	432-383	円形	-	0.44/0.39/0.34
255	431-384	円形	-	0.39/0.34/0.17
256	431-384	楕円形	N-72°W	0.32/0.28/0.24
257	430-384	円形	-	0.26/0.20/0.17
258	429-394	不定形	N-19°W	0.56/0.18/0.34
259	433-395	不定形	N-18°W	0.36/0.17/0.40
260	435-388	不定形	N-22°W	0.76/0.45/0.62
261	430-388	不定形	N-72°E	0.62/0.56/0.39
262	427-387	不定形	N-71°E	0.45/0.37/0.42
263	425-388	不定形	N-71°E	0.83/0.75/0.76
264	428-385	不定形	N-17°W	(1.15/0.57/0.63)
2区1	422-400	円形	-	0.34/0.30/0.21
2	418-401	楕円形	N-55°E	0.26/0.21/0.14
3	419-398	円形	-	0.32/0.32/0.25
4	428-411	円形	-	0.44/0.38/0.36
5	427-413	楕円形	N-77°E	0.48/0.36/0.24

第4章 天良七堂遺跡

第1節 天良七堂遺跡の概要

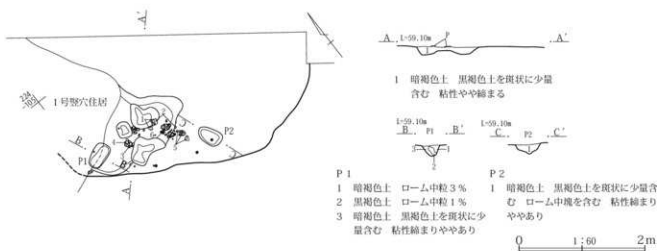
1区～4区では縄文時代～奈良・平安時代の竪穴住居・竪穴状遺構、縄文時代～近世の掘立柱建物・土坑・ピット・柵列・井戸・溝・殿治遺構・谷地が検出された。1区ではおもに竪穴住居が集中し、2・3区は谷地縁辺部から重複する溝が検出されている。1・4区では旧石器時代の試掘調査を行ったが遺構の検出及び人的遺物の出土はみられなかった。

第2節 1区の調査成果

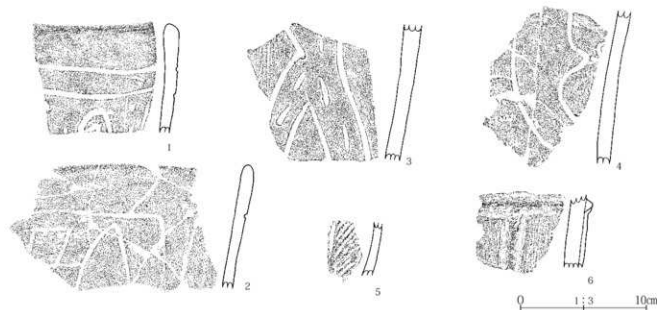
1区の調査区は道路を挟み北部及び西部に分かれる。発掘調査ではローム漸移層(基本土層第VI層)及びびローム面を遺構確認面として、縄文時代から近世に至る遺構を検出した。以下、時代別に記載する。

1 縄文時代の遺構と遺物

検出された遺構は、竪穴住居1軒、土坑6基、ピット



第54図 1区7号竪穴住居



第55図 1区7号竪穴住居の出土遺物



第56図 天良七堂遺跡 1区全体図

5基である。縄文時代の遺構は1区のみ認められた。遺物は土器および石器で、土器の時期は早期から後期である。以下のとおり遺構ごとに記す。

(1) 竪穴住居

1区から検出された竪穴住居は、後期初頭に属する1軒のみである。調査区外や他の遺構と重複するため部分的な調査となった。

7号竪穴住居(第54・55図 PL. 8)

位置 X=221~224, Y=-101~105

形状・規模 1号竪穴住居との重複及び北側が調査区外となるため不明である。検出部の規模は4.45m、壁高1cmほどである。

重複 古墳時代に属する1号竪穴住居に切られる。

埋没土 後世に削平され残存状態は不良である。

床面 床面は削平のため不明瞭である。

炉・周溝 床面精査で検出できなかった。

柱穴 南西壁際から2基が検出された。平面形状は楕円形で、P1は長径42cm・短径25cm・深さ21cm、P2は長径40cm・短径25cm・深さ15cmを測る。

その他の施設 南西壁際の遺物が出土する範囲に深さ5~10cmの土坑状の掘り込みがある。

遺物出土状態 称名寺式の土器片が床面直上から出土した。

所見 出土遺物から時期は縄文時代後期初頭と考えられる。

(2) 土坑・ピット

1区から検出された縄文時代の土坑は6基、ピット5基で、出土遺物や埋没土から中期~後期に属すると考えられる。11号土坑、92・94号ピットは7号竪穴住居が検出された調査区南側に位置する。遺構の埋没状況は人為的な様相が認められるものについては文中に記した。記述がないものについては自然埋没土と考えている。

1号土坑(第57図)

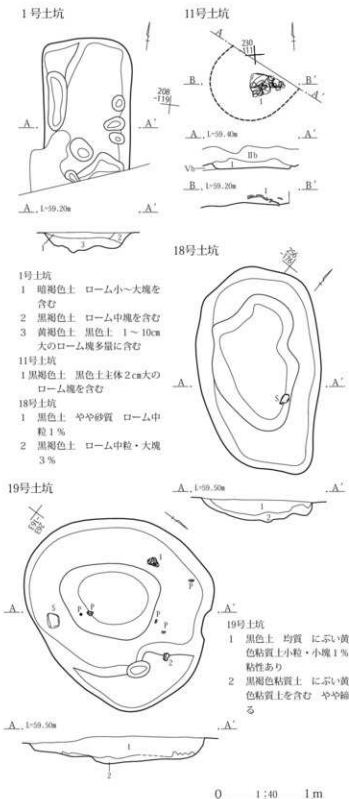
ローム大塊を多量に含む暗褐色土や黒褐色土で埋没する。

11号土坑(第57図 PL. 8・32)

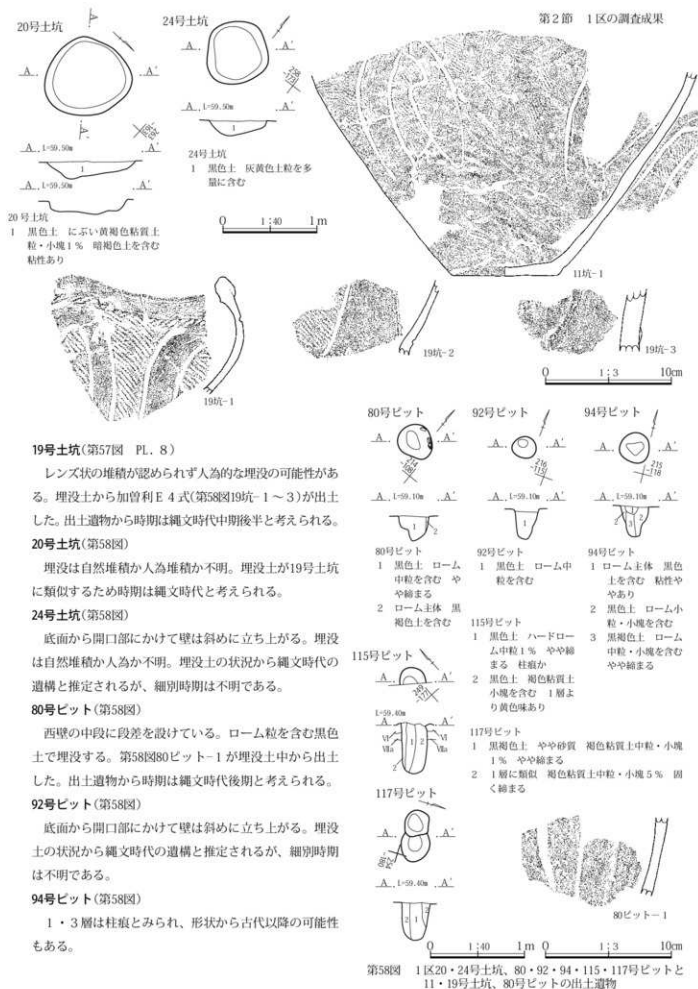
ローム塊を含む黒褐色土で埋没する。称名寺式の深鉢(第58図11坑1)は10m離れた7号竪穴住居の出土遺物と接合した。出土遺物から時期は縄文時代後期初頭と考えられる。

18号土坑(第57図 PL. 8)

遺物の出土はない。埋没土の状況から縄文時代の遺構と推定されるが、細別時期は不明である。



第57図 1区1・11・18・19号土坑



第58図 1区20・24号土坑、80・92・94・115・117号ピットと11・19号土坑、80号ピットの出土遺物

115号ピット(第58図)

北半部のみを検出である。人為的な埋没土で充填した可能性がある。1層は柱痕とみられ形状から古代以降の可能性もある。

117号ピット(第58図)

平面形状から2基のピットが重複する可能性がある。1層は柱痕とみられ、形状から古代以降の可能性もある。

2 古墳時代以降の遺構と遺物

検出された遺構は、竪穴住居12軒、掘立柱建物5棟、柵列3条、土坑26基、ピット126基、竪穴状遺構3基、溝9条、鍛冶遺構1基である。以下のとおり遺構ごとに記す。

(1)竪穴住居

1区では竪穴住居が12軒検出された。調査区外や他の遺構と重複するため部分的な調査となったものもある。時期は5世紀前半から9世紀後半であるが、遺構番号順に掲載した。

1号竪穴住居(第59～61図 PL. 8・32)

位置 X=220～229、Y=-103～114

形状・規模 後世の削平により残存状態は不良である。平面形状は方形で、規模は長軸長8.40m、短軸長8.36m、壁高2～10cmである。

軸方向 N-60°-E

重複 3号柵列P5・6・7と重複し、埋没土の確認状況から1号竪穴住居が古い。

埋没土 埋没状況から自然埋没と考えられる。炭化物及び焼土粒は床面直上に多く認められる。

床面 東壁から西壁面に約3～5cm緩やかに下る。中央部は周辺部より約1～2cm低く使用による硬化面は不明瞭であった。掘り方はローム塊と黒色土を含む褐色土で埋め、床面を構築していた。

炉 中央部からやや北西寄りに位置する。平面形状は不定形で、規模は長径120cm、短径52cm、深さ12cmである。焼土塊を含む黒褐色土や黄褐色土により埋没していた。

貯蔵穴 南東隅から検出され平面形状は不定形で、規模は長径105cm、短径102cm、深さ55cmである。ローム小・大塊及び焼土塊を含む黒褐色土による人為的な埋没の可能性もある。貯蔵穴底面から高杯(第59図1)が出土した。

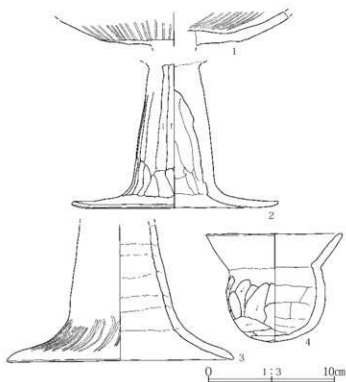
溝溝 規模は幅11～28cm、深さ約19cmであり、黒色土

小塊を含む褐色土により埋没していた。

柱穴 床面調査によって3基検出され、壁際から等距離で対角線上に位置することから主柱穴と考えられる。北東隅の1基は調査区外で検出されなかった。規模は、P1(長径45cm・短径38cm・深さ86cm、楕円形)、P2(径44cm、深さ79cm、円形)、P3(長径75cm、短径53cm、深さ93cm、楕円形)である。柱穴間はP1～P2間が5.20m、P2～P3間が5.00mである。

他の施設 床面精査及び掘り方調査で、11基のピットが検出された。これらは柱穴間に位置することから、屋内空間を仕切る支柱や床根太関連痕跡と考えられる。規模は、P4(径30cm、深さ23cm、円形)、P7(長径39cm、短径26cm、深さ66cm、楕円形)、P8(長径41cm、短径34cm、深さ59cm、楕円形)、P9(径40cm、深さ33cm、円形)、P12(長径59cm、短径38cm、深さ43cm、楕円形)、P13(径20cm、深さ33cm、円形)、P14(径35cm、深さ47cm、円形)、P15(径29cm、深さ40cm、円形)、P16(長径47cm、短径38cm、深さ44cm、楕円形)、P17(径23cm、深さ28cm、円形)であり、調査区外に延びるP20は推定径50cm、深さ44cmである。P17から北壁に長さ90cmの間仕切溝を検出。

掘り方 床面からローム面まで約5～10cm掘り込まれ凹凸が著しい。床下施設は検出されなかった。

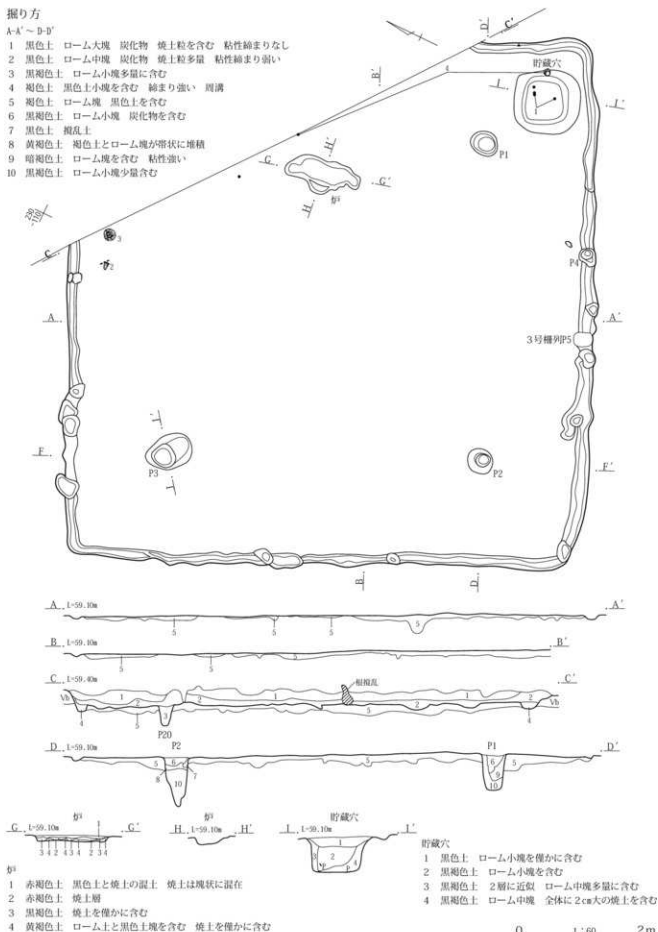


第59図 1区1号竪穴住居の出土遺物

掘り方

A-A' ~ D-D'

- 1 黒色土 ローム大塊 炭化物 焼土粒を含む 粘性締まりなし
- 2 黒色土 ローム中塊 炭化物 焼土粒多量 粘性締まり弱い
- 3 黒褐色土 ローム小塊多量に含む
- 4 褐色土 黒色土小塊を含む 締まり強い 円溝
- 5 褐色土 ローム塊 黒色土を含む
- 6 黒褐色土 ローム小塊 炭化物を含む
- 7 黒色土 粗乱土
- 8 黄褐色土 褐色土とローム塊が帯状に堆積
- 9 暗褐色土 ローム塊を含む 粘性強い
- 10 黒褐色土 ローム小塊少量含む



第60図 1区1号竪穴住居

第4章 天良七堂遺跡

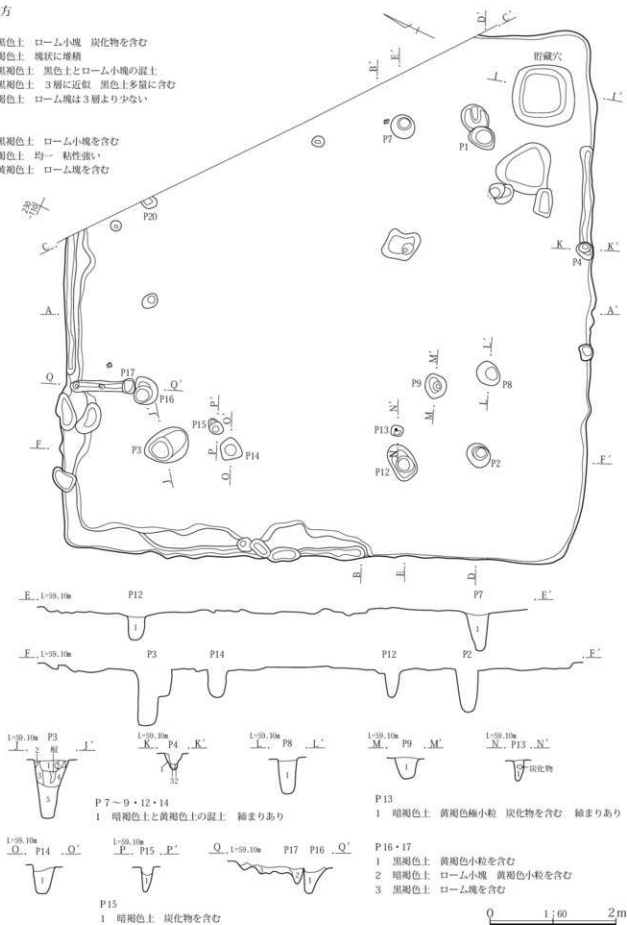
掘り方

P 3

- 1 黒色土 ローム小塊 炭化物を含む
- 2 褐色土 塊状に堆積
- 3 黒褐色土 黒色土とローム小塊の混土
- 4 黒褐色土 3層に近似 黒色土多量を含む
- 5 褐色土 ローム塊は3層より少ない

P 4

- 1 黒褐色土 ローム小塊を含む
- 2 褐色土 均一 粘性強い
- 3 黄褐色土 ローム塊を含む



P 7 ~ 9 · 12 · 14
1 暗褐色土と黄褐色土の混土 締まりあり

P 13
1 暗褐色土 黄褐色極小粒 炭化物を含む 締まりあり

P 14
1 暗褐色土 炭化物を含む

P 15
1 暗褐色土 炭化物を含む

P 16 · 17
1 黒褐色土 黄褐色小粒を含む
2 暗褐色土 ローム小塊 黄褐色小粒を含む
3 黒褐色土 ローム塊を含む

第61図 1区1号竪穴住居掘り方

遺物出土状態 床面の北壁際から第59図2・3、貯蔵穴から同図1・4が出土した。非掲載遺物は土師器片33g。

所見 出土遺物から時期は5世紀前半と考えられる。

2号竪穴住居 (第62・63図 PL. 9・32)

位置 X=206~112, Y=-120~127

形状・規模 調査区境で検出される平面形状は方形と想定される。確認できた東壁の長さ6.36m、北壁の長さ4.5m、壁高16~23cmである。

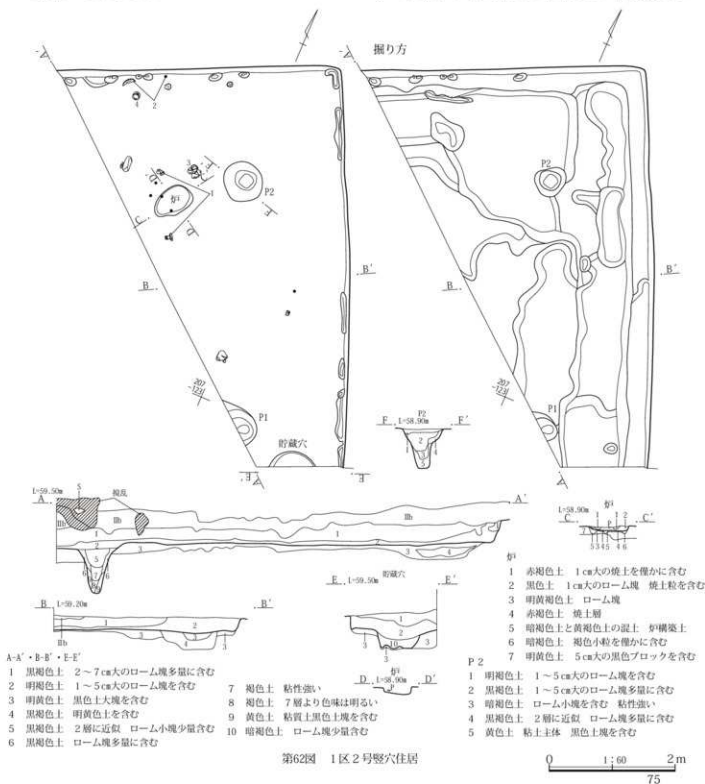
主軸方向 N-21°-W

重複 なし。

埋没土 下層にローム塊を多量に含む、上層は自然堆積と思われる。

床面 床面のレベル差は少なくほぼ平坦であるが、硬化面は不明瞭である。南東側の貯蔵穴周辺は下がり気味で、掘り過ぎている可能性がある。

炉 中央部からやや北西寄りに位置する。不整楕円形状



を呈し、長径65cm、短径50cm、深さ10cmを測る。使用面に赤褐色焼土層が認められた。

貯蔵穴 南東部コーナーにあり、略円形を呈す。床面を下げ過ぎて確認できなかったが、上面は隅丸方形形状を呈すると見られる。長軸73cm・深さ27cmを測る。

周溝 東壁際の一部に幅約10cm、深さ5～7cmの僅かな溝状の窪みが断続的に認められた。

柱穴 柱穴2基が検出された。P1は推定径80cm、深さ78cm、P2は長径66cm、短径61cm、深さ62cmを測る。柱穴間の距離は3.92mを測る。

掘り方 壁際の幅30～40cmを残し、その内側を約20cm溝状に掘り下げている。床下施設は検出されていない。

遺物出土状態 炉周辺の床面直上から第63図1・3、壁際から同図2・4が出土する。非掲載遺物として土師器片201gがある。

所見 出土遺物から時期は5世紀前半と考えられる。

3号竪穴住居(第64・65図 PL. 9・32・33)

位置 X=219～225、Y=-123～129

形状・規模 平面形状は長方形で、規模は長軸長5.42m、短軸長4.04m、壁高2～11cm、床面積は21.79㎡である。

主軸方向 N-50°-E

重複 1・2・7号溝と重複し、遺構確認状況から3号竪穴住居が古いと判断された。

埋没土 床面まで削平され、埋没土は不明である。

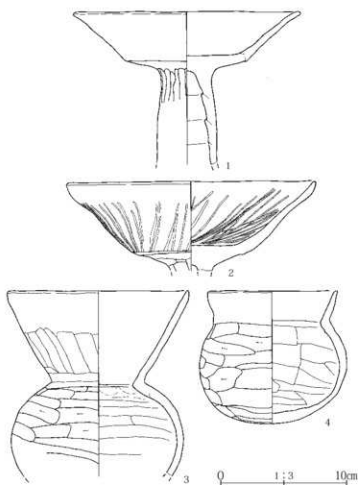
床面 床面のレベル差はなく、平坦である。床面の硬化面は確認できなかった。掘り方は全体を浅く掘り窪めており、黒褐色土により床面を構築していた。

炉 中央部から西寄りの位置で検出された。削平のため全体の規模や形状は不明である。焼土層がわずかに残存していた。平面形状は不定形で、長径37cm、短径23cm、深さ3cmを測る。

貯蔵穴 南東隅に検出された。不整円形を呈し、長径83cm・短径77cm・深さ24cmを測る。埋土は人為的な埋没状態を示していた。貯蔵穴内の上層から下層にかけて第65図1～9・11が出土した。

周溝 規壁に沿って全周し、底面は凹凸があり深さ2cm、～8cmを測る。

他の施設 掘り方調査段階で壁際から8基のピットが検出された。規模は、P1(長径36cm、短径29cm、深さ19cm、楕円形)、P2(長径35cm、短径18cm、深さ14cm、



第63図 1区2号竪穴住居の出土遺物

楕円形)、P3(径20cm、深さ9cm、円形)、P4(径20cm、深さ17cm、円形)、P5(径28cm、深さ14cm、円形)、P6(径22cm、深さ29cm、円形)、P7(径23cm、深さ20cm、円形)、P8(長径33cm、短径26cm、深さ19cm、楕円形)であり、いずれも柱痕は認められなかったが、配置から柱穴となった可能性は高い。

掘り方 床面からローム面まで約5cm掘り込まれる。住居西間仕切り溝(2.5×1.5m)が確認された。

遺物出土状態 床面の南壁際から第65図10が出土する。非掲載遺物は土師器片225gである。

所見 出土遺物から時期は5世紀前半と考えられる。

4号竪穴住居(第66・67図 PL. 9・10・33)

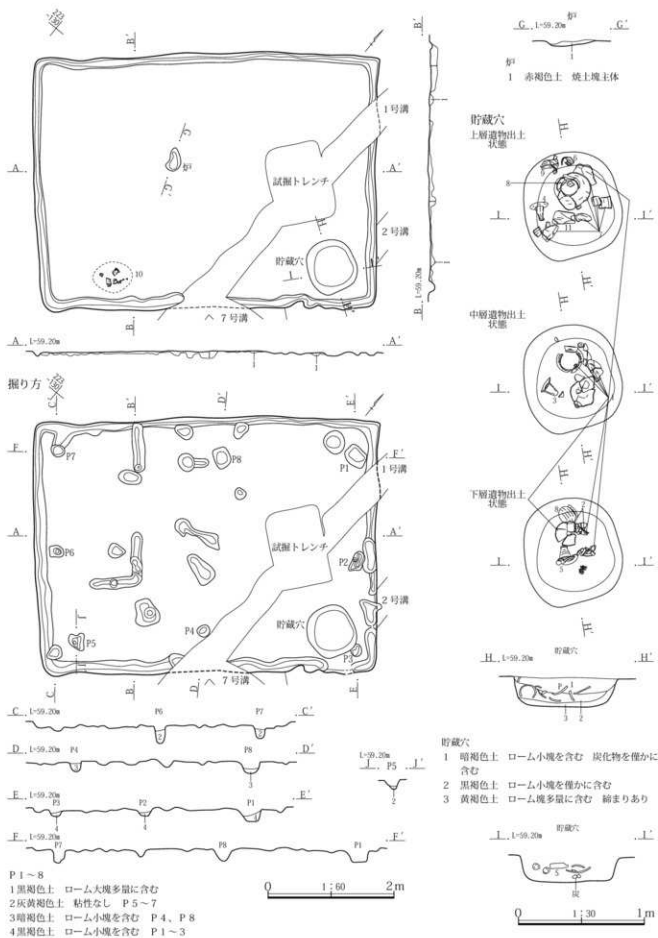
位置 X=236～244、Y=-123～132

形状・規模 主柱穴の位置からみて一辺7m程度の方形住居になると見られる。

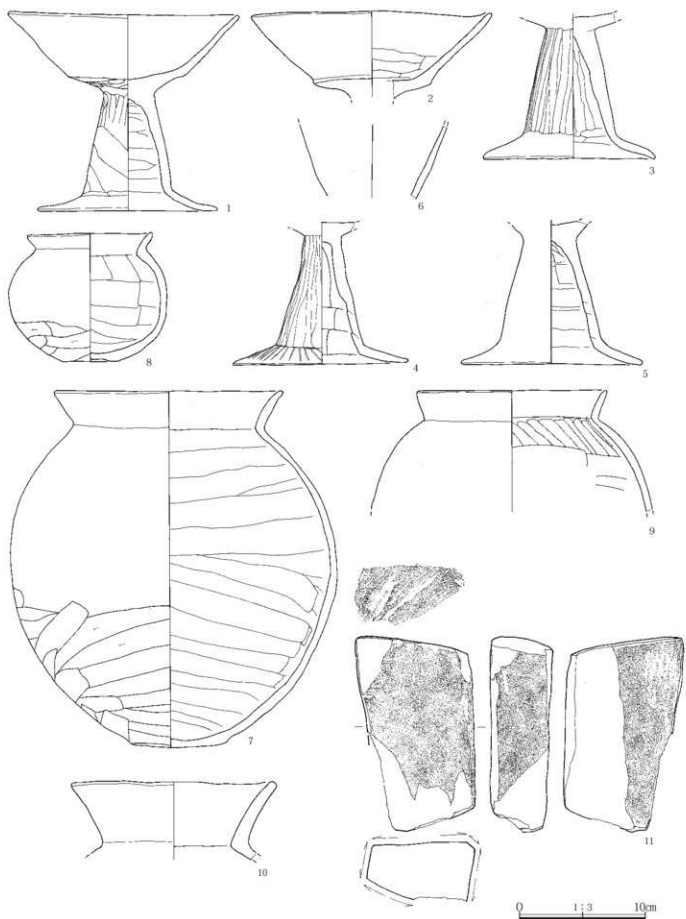
主軸方向 N-63°-E

重複 7号土坑と重複し、遺構確認状況から7号土坑が新しい。

第2節 1区の調査成果



第64図 1区3号竪穴住居



第65図 1区3号竪穴住居の出土遺物

埋没土 ローム塊を僅かに含む明黄褐色土により埋没していた。

床面 北壁から南壁にかけて3～5cm緩やかに下る。床面の硬化面は不明瞭である。掘り方は全体を10cmほど掘り留めており、暗褐色土及び黒褐色土とロームの混土により床面を構築する。

炉 調査区境で検出された。炉の概形は楕円形状を呈し、厚さ約5cmの焼土層が確認された。

貯蔵穴 位置的にP4としたものが貯蔵穴に該当するものと見られる。

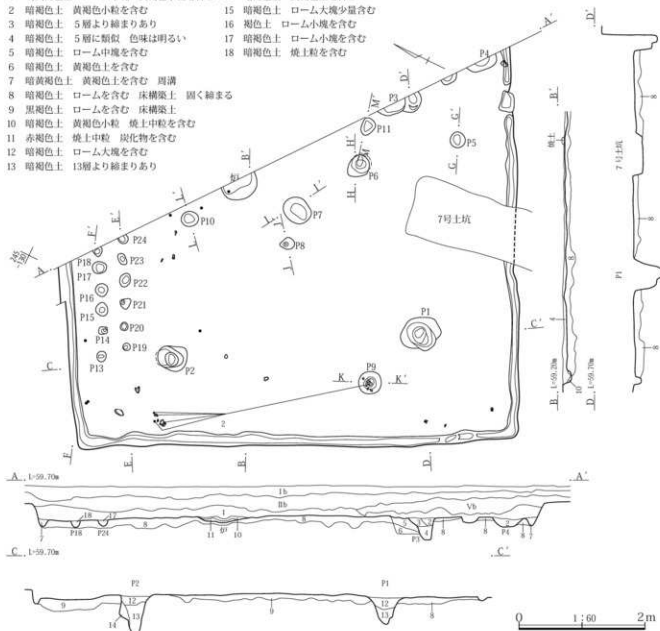
周溝 規模は幅10～23cm、深さ2～14cmである。

柱穴 3基が検出され、対角線上に位置することから主柱穴と考えられる。規模は、P1(径63cm、深さ48cm、円形)、P2(長径46cm、短径40cm、深さ63cm、楕円形)、P3(推定径40cm、深さ37cm)である。柱穴間はP1～P2間が3.96m、P1～P3間が3.63mを測る。

他の施設 北壁際に径12～23cm深さ5～20cmを測る小ピット12基が連続しており25cm間隔に並んでいることから、板敷等の上部施設を支えた下部構造としての性格を想定することができる。主柱穴としたもののほかに9基のピットが検出された。規模は、P5(径25cm、深さ21cm、円形)、P6(長径40cm、短径32cm、深さ63cm、楕

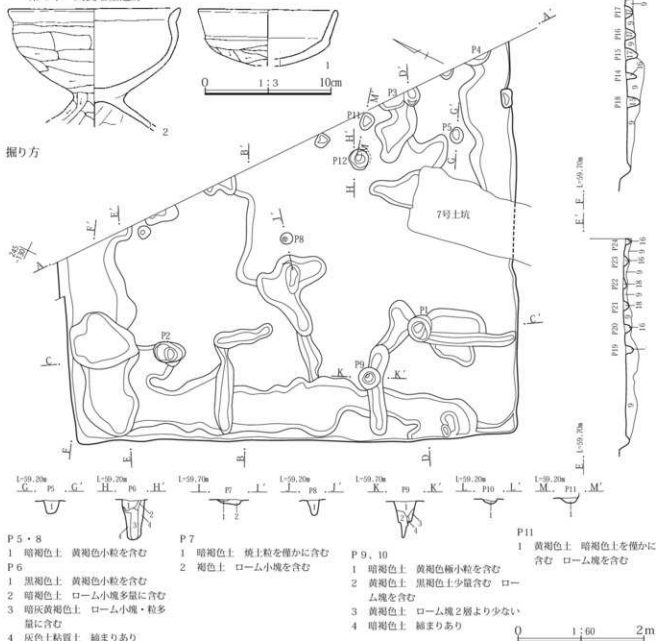
A-A' ~ F-F'

- | | | | | |
|---------|------------|----------|---------|-----------|
| 1 明黄褐色土 | ローム中塊 | 黄褐色小粒を含む | 14 暗褐色土 | 黄褐色土を含む |
| 2 暗褐色土 | 黄褐色小粒を含む | | 15 暗褐色土 | ローム大塊少量含む |
| 3 暗褐色土 | 5層より締まりあり | | 16 褐色土 | ローム小塊を含む |
| 4 暗褐色土 | 5層に類似 | 色味は明るい | 17 暗褐色土 | ローム小塊を含む |
| 5 暗褐色土 | ローム中塊を含む | | 18 暗褐色土 | 焼土粒を含む |
| 6 暗褐色土 | 黄褐色土を含む | | | |
| 7 暗黄褐色土 | 黄褐色土を含む | 周溝 | | |
| 8 暗褐色土 | ロームを含む | 床構築土 | 固く締まる | |
| 9 黒褐色土 | ロームを含む | 床構築土 | | |
| 10 暗褐色土 | 黄褐色小粒 | 焼土中粒を含む | | |
| 11 赤褐色土 | 焼土中粒 | 炭化物を含む | | |
| 12 暗褐色土 | ローム大塊を含む | | | |
| 13 暗褐色土 | 13層より締まりあり | | | |



第66図 1区4号壁穴住居

第4章 天良七堂遺跡



第67図 1区4号竪穴住居掘り方と出土遺物

円形)、P 7 (径45cm、深さ7cm、円形)、P 8 (径23cm、深さ24cm、円形)、P 9 (径36cm、深さ35cm、円形)、P 10 (径28cm、深さ8cm、円形)、P 11 (長径27cm、短径21cm、深さ9cm、楕円形)、P 12 (径34cm、深さ53cm、円形)であり、10cm未満の浅いものと30cmより深いものがあり、これには中近世の柱穴とすべきものも含まれる可能性がある。

掘り方 中央部を浅く壁際を深く掘り窪めている。西壁際に長さ2.4m、幅1.5mで三等分するL字状の間仕切り溝2カ所がある。

遺物出土状態 P 9から第67図1、北西壁際の床面直上及びP 9底面付近から同図2が出土する。非掲載遺物は

土師器片307g、須恵器片31gがある。

所見 出土遺物から時期は6世紀前半と考えられる。

5号竪穴住居(第68図 PL.10・33・34)

位置 X=236~241、Y=-158~165

形状・規模 南西側が調査区外に延びているが、住居の形状は方形と想定される。東壁5.30m、壁高8~10cmを測る。

主軸方向 N-67°-E

重複 6・8号溝に切られる。

埋没土 ローム粒・塊、白色軽石を含む黒褐色土により自然堆積していた。白色軽石はBr-FAの可能性もある。

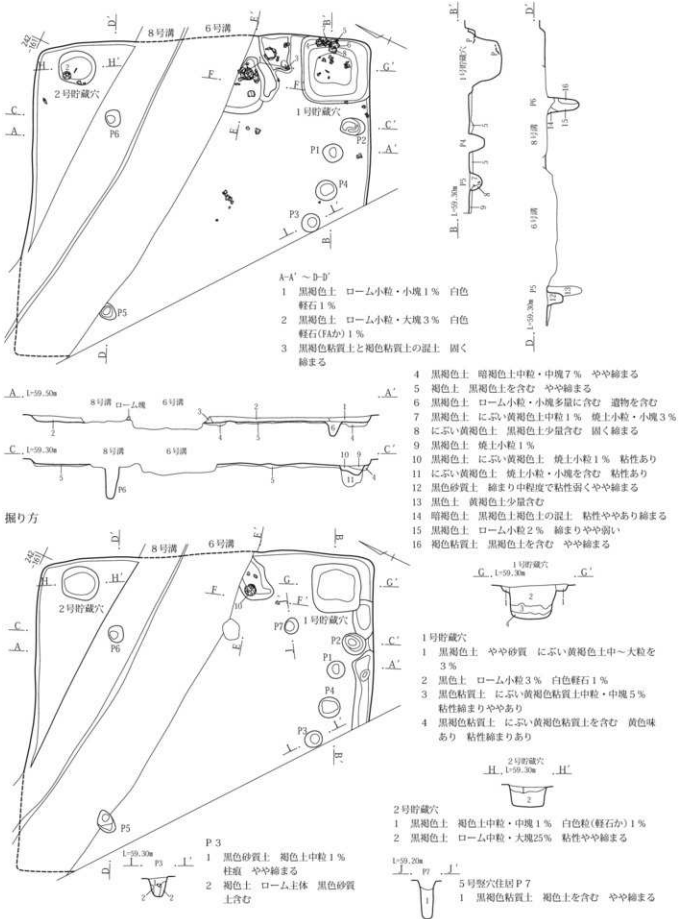
床面 床面のレベル差はなく平坦である。床面の硬化面

- P 5・8
1 暗褐色土 黄褐色小粒を含む
P 6
1 黒褐色土 黄褐色小粒を含む
2 暗褐色土 ローム小塊多量に含む
3 暗灰黄褐色土 ローム小塊・粒多量に含む
4 灰色土粘質土 締まりあり

- P 7
1 暗褐色土 焼土粒を僅かに含む
2 褐色土 ローム小塊を含む

- P 9、10
1 暗褐色土 黄褐色極小粒を含む
2 黄褐色土 黒褐色土少量含む ローム塊を含む
3 黄褐色土 ローム塊2層より少ない
4 暗褐色土 締まりあり

- P 11
1 黄褐色土 暗褐色土を僅かに含む ローム塊を含む

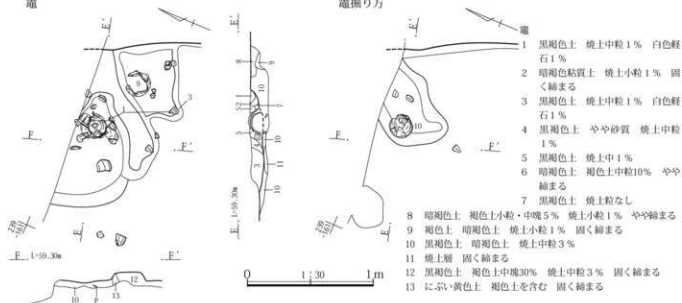


第68図 1区5号貯穴住居

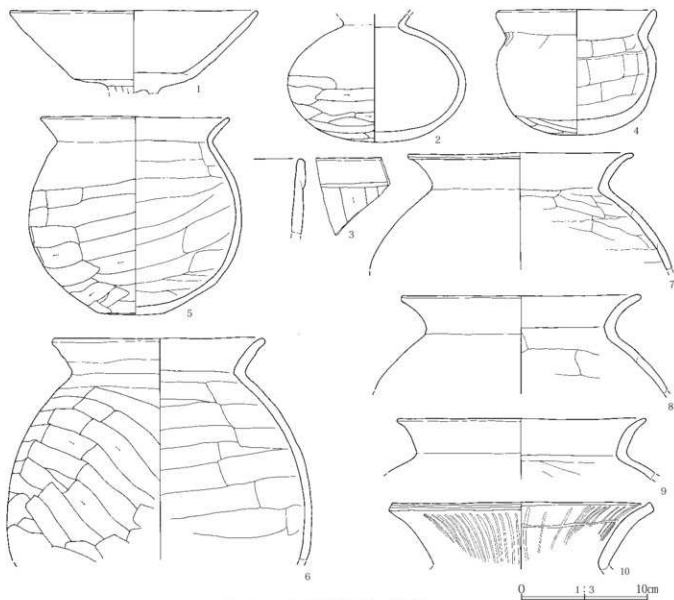
0 1:60 2m

竈

竈掘り方



- 1 黒褐色土 焼土中粒1% 白色軽石1%
- 2 暗褐色粘質土 焼土小粒1% 固く締まる
- 3 黒褐色土 焼土中粒1% 白色軽石1%
- 4 黒褐色土 やや砂質 焼土中粒1%
- 5 黒褐色土 焼土中1%
- 6 暗褐色土 褐色土中粒10% やや締まる
- 7 黒褐色土 焼土粒なし
- 8 暗褐色土 褐色土小粒・中塊5% 焼土小粒1% やや締まる
- 9 褐色土 暗褐色土 焼土小粒1% 固く締まる
- 10 黒褐色土 暗褐色土 焼土中粒3%
- 11 焼土層 固く締まる
- 12 黒褐色土 褐色土中塊30% 焼土中粒3% 固く締まる
- 13 にぶい黄色土 褐色土を含む 固く締まる



第69図 1区5号竈穴住居竈と出土遺物

は不明瞭である。掘り方は全体を浅く掘り窪めており、褐色土及び暗褐色土粒・塊を含む黒褐色土の混土により床面を構築していた。

竈 東壁中央部から1号貯蔵穴寄りに付設される。6号溝との重複のため左袖部を遺失する。確認できる焚口幅47cm、右袖61cm、焚口から燃焼部奥行125cmである。竈使用面及び掘り方から出土した第69図1・10は支脚に転用された可能性がある。

貯蔵穴 貯蔵穴2基が検出された。1号貯蔵穴は竈右側で検出された。平面形状は隅丸方形で、規模は長軸1.11m、短径1.03m・深さ0.51mを測り、底部及び開口部付近から裏類(第69図5～8)が出土した。2号貯蔵穴は竈を挟み東北隅に検出された。平面形状は不整形円で、長さ59cm、短径53cm、深さ34cmを測り、埋没土はローム粒・塊を含む黒褐色土により人為的に埋まっていた。

周溝 南壁際に幅25cmで検出された。

柱穴 床面精査から検出されたP5・6、掘り方調査で検出されたP7は対角線上に位置することから主柱穴と考えられる。柱穴間はP5～P6間が2.92m、P6～P7間が2.81mを測る。P5は長径37cm、短径25cm、深さ60cm、P6は長径27cm、短径24cm、深さ50cm、P7は長径26cm、短径23cm、深さ50cmである。

他の施設 4基のピットが検出されている。南壁に近く検出されたP1・P4は出入口の施設の可能性がある。規模はP1が径30cm・深さ23cm、P2が長径39cm・短径27cm・深さ16cm、P3が径30cm・深さ31cm、P4が径35cm・深さ22cmを測る。

掘り方 全体を浅く2～8cm掘り窪め、凹凸面は少ない。

遺物出土状態 床面及び竈、貯蔵穴周辺に集中する。第69図1は竈使用面から、同図4～6・8は1号貯蔵穴から、第同図10は竈掘り方、同図2は2号貯蔵穴から出土した。非掲載遺物は土師器片1,719gがある。

所見 出土遺物から時期は5世紀後半と考えられる。

6号竪穴住居(第70図 PL.10)

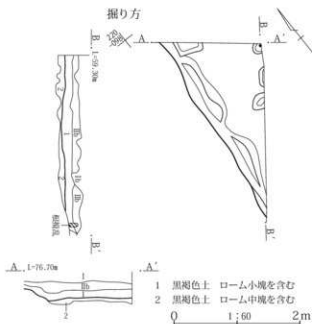
位置 X=216～219、Y=-096～079

形状・規模 調査区域に西壁の一部が検出された。壁高9～11cmである。

主軸方向 不明。

重複 なし。

埋没土 埋没は黒褐色土による自然堆積と考えられる。



第70図 1区6号竪穴住居

床面 僅かな窪みがあるがほぼ平坦である。

柱穴・周溝 検出されていない。最大幅40cmで浅い凹みが壁にそって検出されている。

遺物出土状態 非掲載遺物であるが埋没土から土師器片74g、須臾器片27gが出土した。

所見 出土遺物から時期は7世紀後半と考えられる。

8号竪穴住居(第71・72図 PL.10・11・34)

位置 X=252～256、Y=-148～154

形状・規模 平面形状は方形で規模は長軸長5.24m、短軸長5.14m、壁高12～26cm、床面積は26.72㎡である。

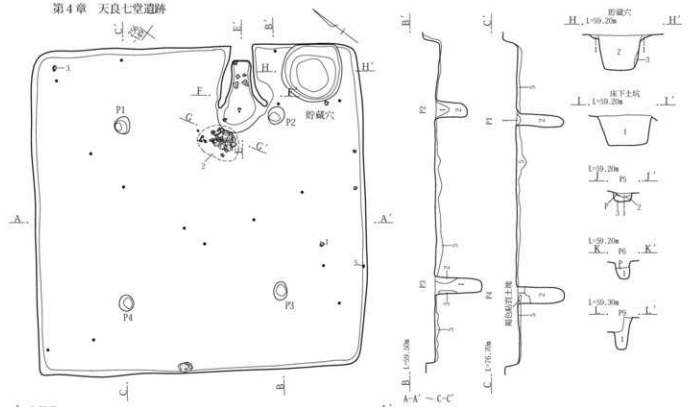
主軸方向 N-52°-E

重複 なし。

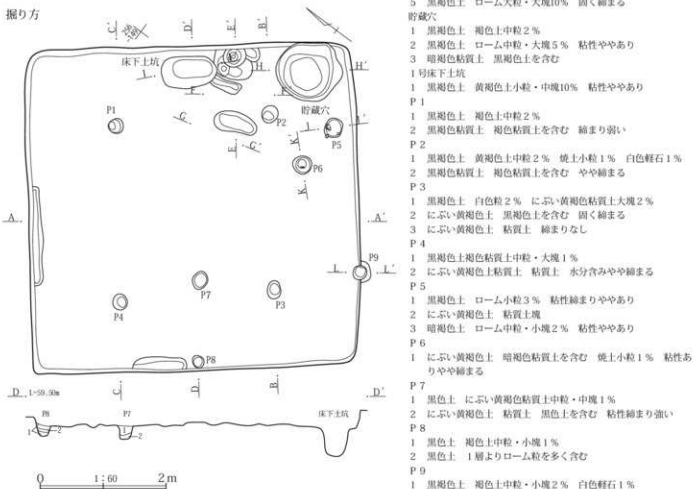
埋没土 埋没はローム粒及び白色軽石を含む黒褐色土により自然堆積していた。壁面の崩落が認められる。

床面 壁際より中央部は1～2cm低い。床面の硬化面は不明瞭である。掘り方は全体を浅く掘り窪め、ローム塊を含む黒褐色土により床面を構築していた。

竈 北東辺中央からやや貯蔵穴寄りに構築されていた。竈の構築では壁より20cmほど内側に煙道が立ち上がるような構造であるが、上部については不明である。残存状態は燃焼部の天井と両袖の焚口側は壊されていたが、両袖の燃焼部奥側は比較的良好であった。規模は全長1.45m、幅0.92m、燃焼部は長さ1.18m、幅0.50mを測る。掘り方は煙道部下に土坑状の掘り込みが検出された。竈内からの遺物の出土は見られなかったが、燃焼部前から

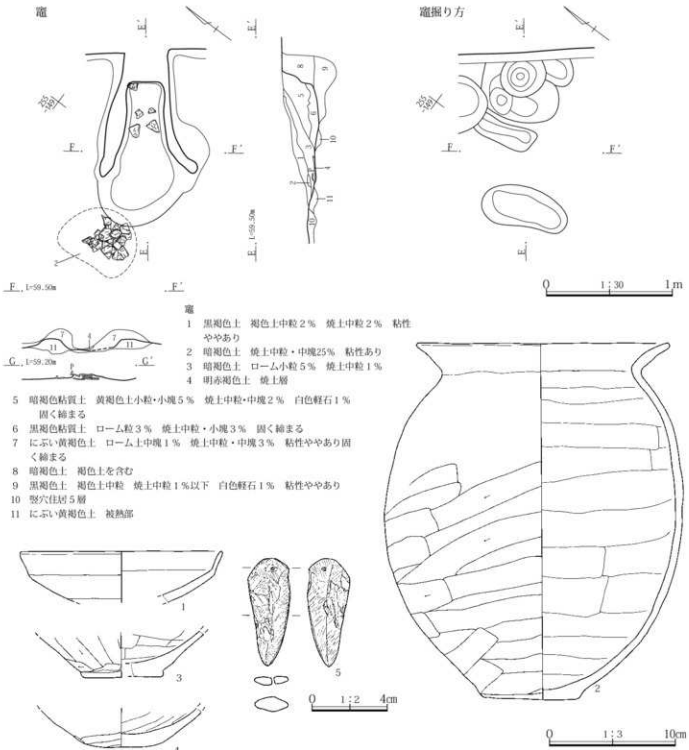


掘り方



- A-A' 1:59.30m
- B-B' 1:59.30m
- C-C' 1:76.30m
- 貯蔵穴 H., 1:59.20m
- 床下土坑 L., 1:59.20m
- I., 1:59.20m
- I', 1:59.20m
- K., 1:59.20m
- K', 1:59.30m
- I', 1:59.30m
- 黒褐色土 褐色土中粒・大塊5% 粘性ややあり
- 黒褐色土 ローム小粒・小塊7% 粘性ややあり
- 黒褐色土 ローム大粒・大塊5% 粘性弱い
- 黒褐色土 ロームを含む
- 黒褐色土 ローム大粒・大塊10% 固く締まる
- 貯蔵穴
- 1 黒褐色土 褐色土中粒2%
- 2 黒褐色土 ローム中粒・大塊5% 粘性ややあり
- 3 暗褐色粘質土 黒褐色土を含む
- 1号床下土坑
- 1 黒褐色土 黄褐色土小粒・中塊10% 粘性ややあり
- P1
- 1 黒褐色土 褐色土中粒2%
- 2 黒褐色粘質土 褐色粘質土を含む 締まり弱い
- P2
- 1 黒褐色土 黄褐色土中粒2% 焼土小粒1% 白色軽石1%
- 2 黒褐色粘質土 褐色粘質土を含む やや締まる
- P3
- 1 黒褐色土 白色粒2% にぶい黄褐色粘質土大塊2%
- 2 にぶい黄褐色土 黒褐色土を含む 固く締まる
- 3 にぶい黄褐色土 粘質土 締まりなし
- P4
- 1 黒褐色土褐色粘質土中粒・大塊1%
- 2 にぶい黄褐色土粘質土 粘質土 水分含みや締まる
- P5
- 1 黒褐色土 ローム小粒3% 粘性締まりややあり
- 2 にぶい黄褐色土 粘質土塊
- 3 暗褐色土 ローム中粒・小塊2% 粘性ややあり
- P6
- 1 にぶい黄褐色土 暗褐色粘質土を含む 焼土小粒1% 粘性ありやや締まる
- P7
- 1 黒土土 にぶい黄褐色粘質土中粒・中塊1%
- 2 にぶい黄褐色土 粘質土 黒色土を含む 粘性締まり強い
- P8
- 1 黒土土 褐色土中粒・小塊1%
- 2 黒土土 1層よりローム粒を多く含む
- P9
- 1 黒褐色土 褐色土中粒・小塊2% 白色軽石1%

第71図 1区8号整穴住居



第72図 1区8号竈穴住居竈と出土遺物

は土師器甕(第72図2)が出土している。なお、燃焼部から煙道部にかけて径10cm前後の礫が数個残っており、補強などに使用されたものと見られる。

貯蔵穴 南東隅から検出され、埋没土はローム粒・塊を多量に含み人為的な埋没土と考えられる。平面形状は不整円形で、規模は長径95cm、短径92cm、深さ58cmを測る。開口部の浅い段は蓋を設置した痕跡の可能性がある。

周溝 掘り方の調査で、壁際に溝状の窪みが確認されたが、判然としなない。

柱穴 主柱穴4基を検出した。対角線上に位置することから主柱穴と考えられる。規模は、P 1(径27cm、深さ75cm、円形)、P 2(径28cm、深さ50cm、円形)、P 3(長径29cm、短径22cm、深さ74cm、楕円形)、P 4(径26cm、深さ74cm、円形)である。柱穴間はP 1～P 2間2.42m、

P 2～P 3間2.75m、P 3～P 4間が2.49m、P 1～P 4間が2.80mを測る。

他の施設 掘り方調査でピット5基が検出された。規模は、P 5 (径32cm、深さ9cm、円形)、P 6 (径31cm、深さ28cm、円形)、P 7 (径29cm、深さ25cm、円形)、P 8 (径22cm、深さ14cm、円形)、P 9 (径23cm、深さ26cm、円形)である。P 5埋没土から第72図4が出土する。床下土坑は竈左側から検出され、平面形状は楕円形で規模は長径89cm、短径51cm、深さ49cmである。竈構築のために掘られたと考えられる。

掘り方 全体を浅く10cmほど掘り留めている。

遺物出土状態 床面直上から土師器杯(第72図1)や剣形石製模造品(同図5)、竈焚口付近から土師器甕(第72図2)が出土した。非掘載遺物は剥片や土師器片965gがある。

所見 出土遺物から時期は6世紀後半と考えられる。

9号竪穴住居(第73・74図 PL.11・34)

位置 X=251～256、Y=-156～161

形状・規模 平面形状は方形で、規模は長軸長5.06m、短軸長4.86m、壁高3～15cm、床面積は23.20㎡である。

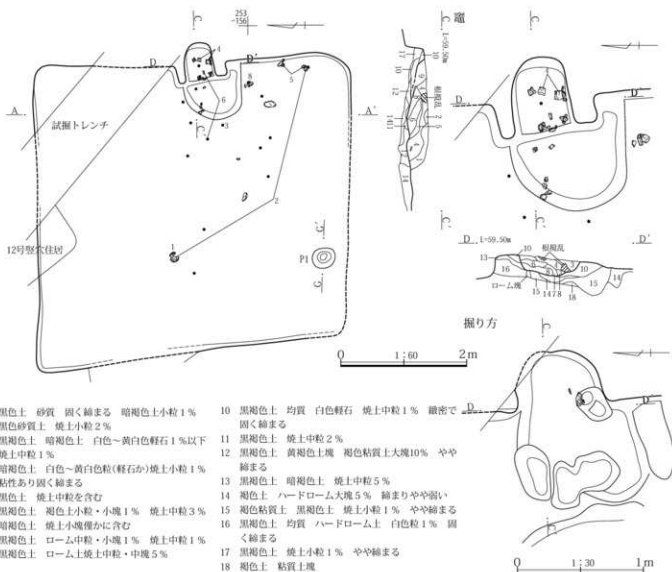
主軸方向 N-90°-W

重複 12号竪穴住居と重複する。出土遺物から9号竪穴住居が新しい。

埋没土 埋没は自然堆積と考えられる。

床面 北側から南側にかけて約8cm緩やかに下る。使用による硬化面は不明瞭である。掘り方は褐色土とハードローム塊を含む黒褐色土により床面を構築する

竈 東壁中央部に付設される。規模は幅1.06m、右袖22cm、左袖29cm、焚口幅40cm、燃焼部奥行59cmである。



竈

- | | |
|-------------------------------------|---------------------------------|
| 1 黒色土 砂質 固く締まる 暗褐色土小粒1% | 10 黒褐色土 均質 白色軽石 焼土中粒1% 緻密で固く締まる |
| 2 黒色砂質土 焼土小粒2% | 11 黒褐色土 焼土中粒2% |
| 3 黒褐色土 暗褐色土 白色～黄白色軽石1%以下 焼土中粒1% | 12 黒褐色土 黄褐色土塊 褐色粘質土大塊10% やや締まる |
| 4 暗褐色土 白色～黄白色粒(軽石か)焼土小粒1% 粘性あり固く締まる | 13 黒褐色土 暗褐色土 焼土中粒5% |
| 5 黒色土 焼土中粒を含む | 14 褐色土 ハードローム大塊5% 締まりやや弱い |
| 6 黒褐色土 褐色土小粒・小塊1% 焼土中粒3% | 15 褐色粘質土 黒褐色土 焼土小粒1% やや締まる |
| 7 暗褐色土 焼土小塊僅かに含む | 16 黒褐色土 均質 ハードローム土 白色粒1% 固く締まる |
| 8 黒褐色土 ローム中粒・小塊1% 焼土中粒1% | 17 黒褐色土 焼土小粒1% やや締まる |
| 9 黒褐色土 ローム土焼土中粒・中塊5% | 18 褐色土 粘質土塊 |

第73図 1区9号竪穴住居

埋没土に天井部の崩落による輪状の堆積が認められる。掘り方は焼土粒やハードローム土塊を含む黒褐色土や褐色粘質土により使用面を整える。

貯蔵穴 掘り方調査段階で竈右側から検出された。平面形状は不整形形で、規模は長径76cm、短径60cm、深さ28cmである。黒色土と褐色土の混土が輪状に認められ自然堆積と考えられる。

周溝・柱穴 床面精査、掘り方調査で検出できなかった。

他の施設 床面精査から1基、掘り方調査で1基のピットが検出された。規模は、P1(径28cm、深さ43cm、円形)、P2(長径30cm、短径23cm、深さ36cm、楕円形)である。中央部から1・2号床下土坑が検出され1号床下土坑を2号床下土坑が切る。1号床下土坑の平面形状は不整形で、規模は長径124cm、短径112cm、深さ36cmである。2号床下土坑の平面形状は不整形で、規模は長径86cm、短径70cm、深さ16cmである。竈構築のために掘られたと考えられる。

掘り方 南半部の掘り方は大小ピット状や溝状の窪みが

認められ、支柱穴となるピットが含まれ可能性がある。

遺物出土状態 第74図1～3・5・7・8は床面直上から、同図4・6は竈使用面から出土する。非掲載遺物は土師器片738g、須恵器小18gである。

所見 出土遺物から時期は9世紀第4四半期と考えられる。

10号竪穴住居(第76図 PL.11・12)

位置 X=249～256、Y=-161～166

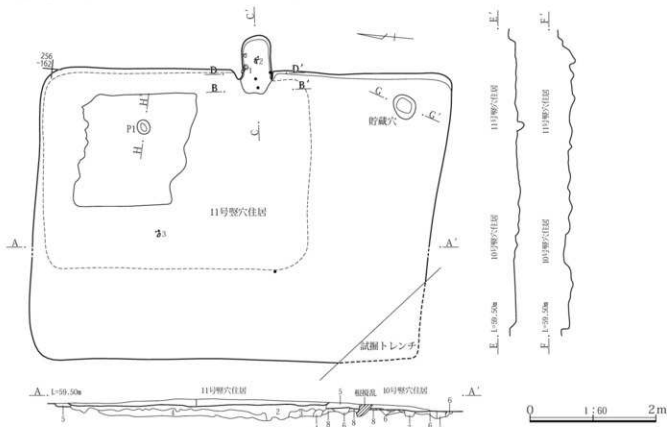
形状・規模 平面形状は隅丸長方形で、長軸長6.52m、短軸長4.64m、壁高1～15cm、床面積は28.80㎡である。

主軸方向 N-82°-E

重複 11号竪穴住居と重複し、検出状況から11号竪穴住居が新しい。

埋没土 ローム粒・塊を含む黒褐色土で埋没しており、埋没状況は判断できなかった。

床面 南側及び西側に床面が残存した。11号竪穴住居の掘り方がなかった部分に残存したものと考えられる。床面は北側と南側では約5cmの比高があり、使用による硬

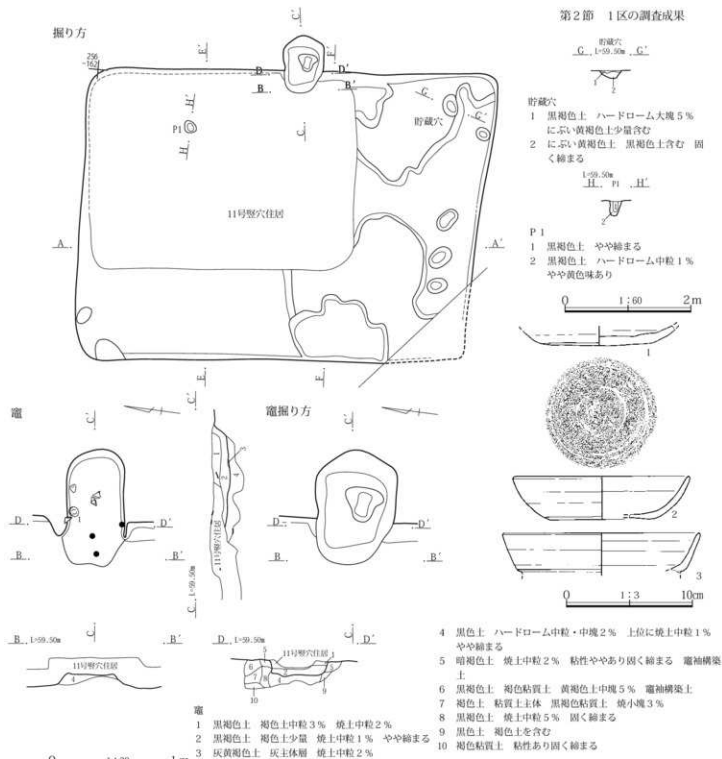


10・11号竪穴住居

- | | |
|--|---|
| <p>1 黒色土 黒褐色土を斑状に含む 黄褐色土中粒・大塊1% 白色軽石(角閃石あり)1%</p> <p>2 黒色土 ハードローム大塊多量に含む やや締まる</p> <p>3 黒色土 ハードローム中粒・大塊50% やや締まる</p> | <p>4 暗褐色土 黒色土少量含む 黄褐色ローム小粒3% 粘性ややあり</p> <p>5 黒褐色土 均質 ハードローム中粒・小塊1%</p> <p>6 黒褐色土 ハードローム中粒・大塊10%</p> <p>7 黒褐色土 ハードローム小粒・中塊5%</p> <p>8 黄褐色土 ハードローム塊主体</p> |
|--|---|

第75図 1区10・11号竪穴住居

第2節 1区の調査成果



第76図 1区10・11号竪穴住居と10号竪穴住居の出土遺物

化面は不明瞭である。

竪 東壁中央部に付設されており、11号竪穴住居竪の下部で検出した。規模は、両袖幅66cm、右袖長12cm、左袖長15cm、焚口幅47cm、燃焼部奥行71cmである。使用面に灰層が残存した。左右の袖はローム塊を含む黒褐色土と褐色粘質土で構築され、黒色土で燃焼床を固く整えていた。

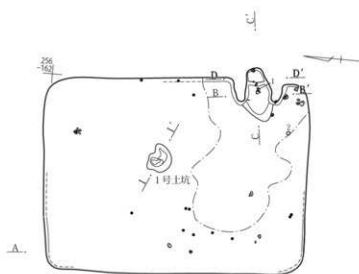
貯蔵穴 南東隅に位置し、平面形状は不整形で、規模は長径48cm、短径45cm、深さ12cmである。人為的埋没と

考えられる。

周溝 床面精査、掘り方調査でも検出できなかった。

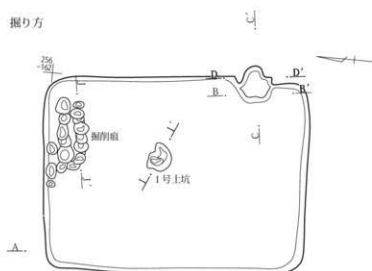
他の施設 床面精査でP 1基を検出した。平面形状は円形で、規模は径23cm、深さ26cmである。11号竪穴住居内で検出したが、埋没土に類似することから、10号竪穴住居のピットと判断した。

掘り方 床面全体を10～20cmほど掘り窪められていた。ピット状の窪みが認められるが、床下土坑のような施設は検出されなかった。

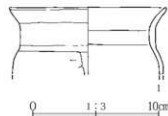


1号土坑
1号土坑
1 黒色土 ハードローム中粒・大塊10%

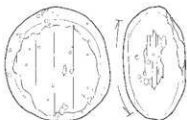
掘り方



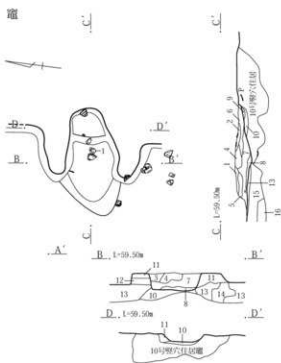
掘り方
1号土坑
10号掘り穴
0 1:60 2m



0 1:3 10cm



2 (1/2) 0 1:2 4cm



竈掘り方



0 1:30 1m

11号竈穴住居層

- 1 黒褐色土 白色軽石1% 焼土中粒1% 炭化物1%
- 2 暗褐色土黒褐色土 焼土中粒1% 粘性ややあり
- 3 暗褐色土 遺物を含む やや締まる
- 4 黒褐色土 褐色土中粒1% 焼土中粒1%
- 5 暗褐色土 やや締まる
- 6 黒色土黒褐色土 焼土中粒2% ローム小粒1%
- 7 黒褐色土 焼土中粒2% ローム中粒3% 炭化物1%
- 8 黒色土 炭混土層 焼土小粒1%
- 9 黒褐色土 焼土中粒1%
- 10 暗褐色粘質土 焼土中粒1% 固く締まる
- 11 褐色粘質土 黄褐色土中粒2% 焼土中粒1% 竈袖構築土
- 12 黒色土 褐色粘質土中粒5% 焼土中粒1% 竈袖構築土
- 13 黒色土 褐色土中粒1% やや締まる
- 14 明黄褐色土 ハードローム塊
- 15 黒色土 竈穴住居3層
- 16 暗褐色土 褐色土中粒を含む やや暗色味帯びる

第77図 1区11号竈穴住居と出土遺物

遺物出土状態 竈使用面から須恵器杯(第76図1・2)、床面直上から高台付杯(同図3)が出土した他、土師器片159gが出土した。

所見 時期は、出土遺物から8世紀前半と考えられる。

11号竪穴住居(第76・77図 PL.12・34)

位置 X=251~256, Y=-161~165

形状・規模 平面形状は隅丸長方形で、長軸長4.10m、短軸長3.12m、壁高9~18cm、床面積は12.86㎡である。

主軸方向 N-88°-E

重複 10号竪穴住居と重複し、検出状況から11号竪穴住居が新しい。北壁と東壁の一部は、10号竪穴住居の壁面とほぼ同位置となる。

埋没土 黄褐色土粒・塊や白色軽石を含む黒色土を主体

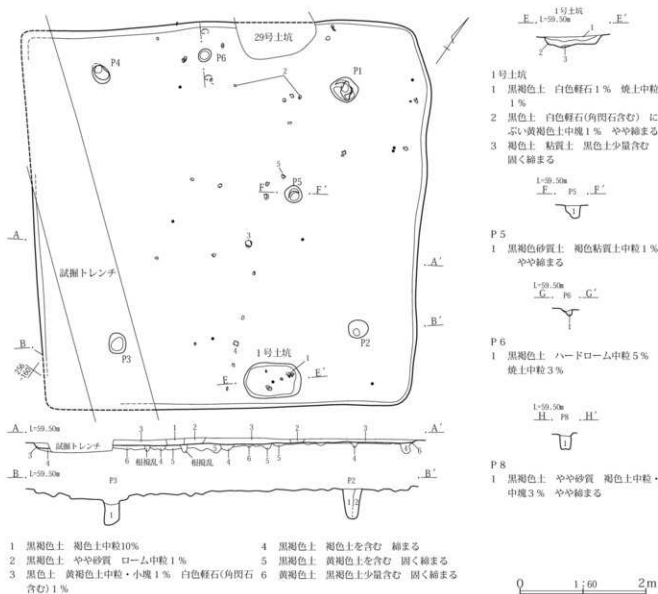
に埋没しており、埋没状況は判然としなない。

床面 竈周辺から西壁際まで、硬化面が認められた。床面は、多量のローム塊を含む黒色土で構築している。

竈 東壁の南東部に付設されている。10号竪穴住居の竈と同位置である。規模は両袖幅80cm、右袖長29cm、左袖長35cm、焚口幅36cm、燃焼部奥行60cmである。構築時に深く掘り込まれなかったため下部に10号竪穴住居竈の使用面が残した。

貯蔵穴・周溝 床面精査、掘り方調査でも検出できなかった。

他の施設 床面精査で1号土坑を検出した。平面形状は不定形で、規模は長径45cm、短径40cm、深さ20cmである。ローム粒を含む黒色土で埋没していた。



第78図 1区12号竪穴住居

掘り方 全体に掘り窪められており、北壁付近で検出したピット状の窪みは、掘り方の掘削痕と考えられる。

遺物出土状態 竈埋没土から土師器小型甕(第77図1)が、使用痕のある礫(同図2)は壁際の床面直上から出土した。他に土師器片683gが出土した。

所見 時期は9世紀第3四半期と考えられる。

12号竪穴住居(第78・79図 PL.12・13・34)

位置 X=255~263, Y=-154~163

形状・規模 平面形状は方形で、規模は長軸長6.24m、

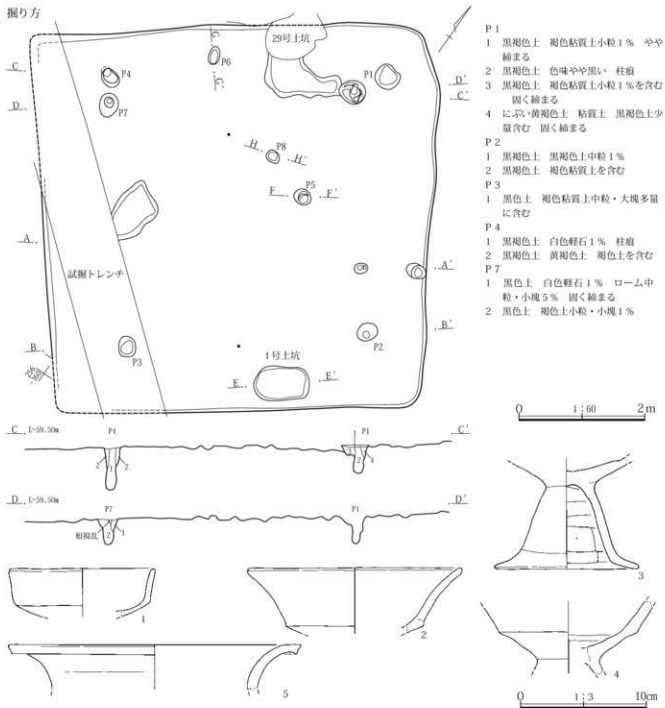
短軸長6.10m、壁高3~9cm、床面積は37.52㎡である。

主軸方向 N-34°-W

重複 9号竪穴住居、29号土坑と重複し、埋没土の確認状況などから12号竪穴住居が古い。

埋没土 黄褐色土粒・塊や白色軽石を含む黒色土を主体に埋没しており、自然堆積と考えられる。

床面 壁際より中央部は2~3cm低く構築されており、硬化面は不明瞭である。床面は黄褐色土、褐色土、黒褐色土の混土で構築されていた。



第79図 1区12号竪穴住居掘り方と出土遺物

炉・貯蔵穴・周溝 床面精査、掘り方調査でも検出できなかった。

柱穴 床面精査によって4基検出され、対角線上に位置することから主柱穴と考えられる。規模は、P1(径41cm、深さ45cm、円形)、P2(径32cm、深さ51cm、円形)、P3(径32cm、深さ42cm、円形)、P4(長径32cm、短径25cm、深さ68cm、楕円形)で、柱穴間はP1～P2間は3.85m、P2～P3間は3.82m、P3～P4間は4.40m、P1～P4間は3.90mである。

他の施設 床面精査でピット1基、掘り方調査でピット2基と土坑1基(1号土坑)を検出した。規模は、P5(径27cm、深さ20cm、円形)、P6(長径23cm、短径20cm、深さ4cm、楕円形)、P7(径39cm、深さ41cm、円形)、P8(径23cm、深さ26cm、不整形円形)である。P6の埋没土には焼土粒が認められた。1号土坑は南壁際で検出したもので、平面形状は楕円形で、規模は長径91cm、短径57cm、深さ18cmである。埋没土は、2層に分解でき自然埋没と思われる。検出した位置から貯蔵穴の可能性はある。

掘り方 床面全体が5～10cmほど掘り窪められていた。大小の窪みがみられるが床下土坑のような施設は検出されなかった。

遺物出土状態 杯(第79図1)は1号土坑底面から、高杯(同図2～4)、甕(同図5)は床面直上から出土した。他に土師器片793g、須恵器片22gが出土した。

所見 出土遺物から時期は6世紀代以降と考えられる。

13号竪穴住居(第80図 PL.13・34)

位置 X=261～262、Y=-160～161

形状・規模 竈だけを検出したものであり、平面形状と規模は不明である。

主軸方向 不明。

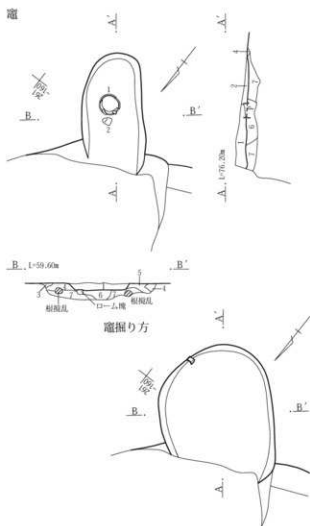
重複 12号竪穴住居と重複し、埋没土の確認状況から13号竪穴住居が新しい。

埋没土・床面 攪乱され検出できなかった。

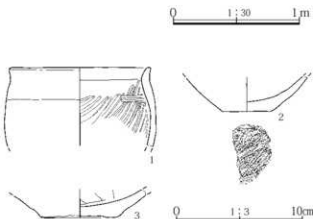
竈 規模は焚口幅40cm、燃焼部奥行長61cmである。褐色粘質土で竈袖部を構築していた。白色軽石や焼土粒を含む黒褐色土は天井崩落土と考えられる。使用面は褐色土と焼土粒を含む黒褐色土で構築されていた。

遺物出土状態 竈使用面から第80図1・2、埋没土から同図3が出土した他、土師器片247gが出土した。

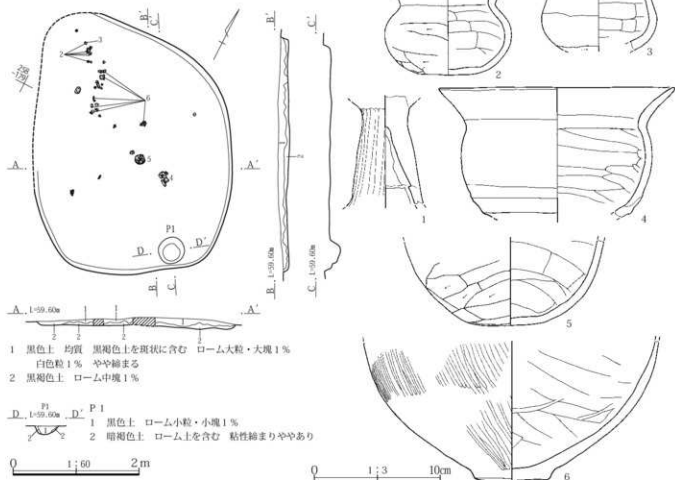
所見 出土遺物から時期は6世紀代と考えられる。



- 1 黒褐色土 白色軽石1%以下 焼土中粒10%
- 2 黒褐色土 白色粒 焼土小粒1%
- 3 黒褐色土 褐色土を含む
- 4 褐色土 粘性ややあり固く締まる 竈袖構築土
- 5 褐色土 黒褐色土を含む 竈袖構築土
- 6 黒褐色土 焼土中粒5%
- 7 黒色土 黄褐色土中粒1% 焼土粒1%



第80図 1区13号竪穴住居と出土遺物



第81図 1区1号竪穴状遺構と出土遺物

(2) 竪穴状遺構

1区から検出された竪穴状遺構は3基である。ローム土を人為的に掘り込み、出土遺物はあるが床面及びかや竈などの内部施設が検出されないため、竪穴状遺構とした。時期別には古墳時代1基、奈良・平安時代2基である。

1号竪穴状遺構(第81図 PL.14・34・35)

位置 X=255~259, Y=-175~179

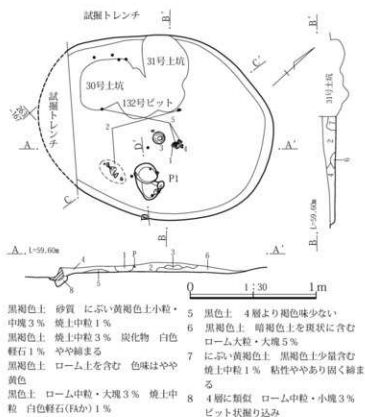
形状・規模 攪乱のため西壁の一部を遺失する。平面形状は不定形で、確認できた規模は長軸長4.13m、深さ15cmである。

主軸方向 N-30°-W

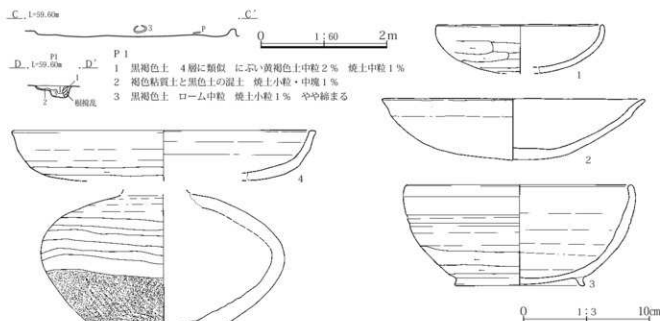
重複 なし。

埋没土 埋没土はローム粒・塊及び白色粒を含む黒色土や黒褐色土であり、自然堆積と考えられる。

内部施設 1号ビットが南壁際から検出される。平面形状は円形で、規模は長径43cm、短径42cm、深さ16cmである。埋没は自然堆積と考えられ柱痕は認められない。



第82図 1区2号竪穴状遺構



第83図 1区2号竪穴状遺構と出土遺物

遺物出土状態 底面付近から第81図2・6が出土する。

非掲載遺物は土師器片624gである。

所見 出土遺物から時期は5世紀前半と考えられる。

2号竪穴状遺構 (第82・83図 PL.14・35)

位置 X=262~265, Y=-163~167

形状・規模 攪乱により南西部を遺失する。平面形状は楕円形で、検出された規模は長軸長3.36m、短軸長2.94m、深さ17cmである。

主軸方向 N-55°-W

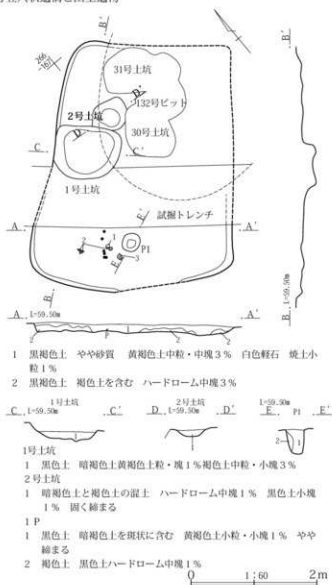
重複 3号竪穴状遺構と重複するが、土層からは新旧関係不明である。2号竪穴状遺構埋没土を30・31号土坑、132号ピットが切る。

埋没土 埋没土は焼土粒及び炭化物、白色軽石を含む黒褐色土及び黒色土であり、人為的な埋没土と考えられる。

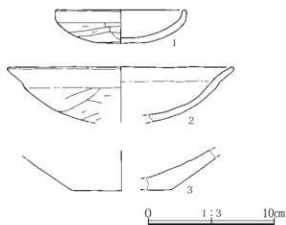
内部施設 南東部から1号ピットが検出され、平面形状は不定形で、規模は長径58cm、短径43cm、深さ18cmである。埋没土は焼土粒を含む黒色土及び黒褐色土、褐色粘質土であり、人為的埋没と考えられる。柱痕は認められない。

遺物出土状態 中央底面付近から鉢(第83図3)が出土し、同図1・2・4・5は埋没土からの出土である。非掲載遺物は土師器片162g、須恵器片119gである。

所見 出土遺物から時期は7世紀末~8世紀初頭と考えられる。



第84図 1区3号竪穴状遺構



第85図 1区3号竪穴状遺構の出土遺物

3号竪穴状遺構(第84・85図 PL.14・35)

位置 X=261~265, Y=-164~169

形状・規模 攪乱及び2号竪穴状遺構との重複のため不明である。平面形状は不整隅丸長方形と想定される。検出された北西壁の長さ3.88m、南西壁の長さ3.17m、深さ15cmである。

主軸方向 N-51°-E

重複 2号竪穴状遺構、30・31号土坑、132号ピットと重複するが、土層からは新旧関係不明である。

埋没土 埋没土は黄褐色粒・塊、焼土粒、白色軽石を含む黒褐色土であり、人為的埋没と考えられる。

内部施設 土坑2基、ピット1基が検出された。1号土坑は北西壁際から検出され、平面形状は不整隅丸長方形で、規模は長径110cm、短径84cm、深さ24cmである。人為的な埋没と考えられる。2号土坑の平面形状は不定形で、規模は長径54cm、短径53cm、深さ14cmである。人為的な埋没と考えられる。1号ピットは北西壁際中央部から検出され、平面形状は円形で、規模は長径31cm、短径28cm、深さ41cmである。人為的な埋没と考えられる。これらは重複遺構であった可能性も考えられる。

遺物出土状態 底面から第85図3、埋没土から第85図1・2が出土する。非掲載遺物は土師器片27gである。

所見 出土遺物から時期は8世紀第1四半期と考えられる。

(3)掘立柱建物

1区から検出された掘立柱建物は5棟である。1区北部に位置する4・5号掘立柱建物は、調査区外となるため南側のみの検出である。中央部から検出された2・3号掘立柱建物、北部から検出された4・5号掘立柱建物は同規模であり2棟が隣接した位置にある。出土遺物がほとんどなく詳細な時期を特定することができない。

1号掘立柱建物(第86図 PL.13・14・35)

位置 X=216~224, Y=-129~138

重複 なし。

主軸方向 N-69°-E

規模・形態 桁行4間、梁行2間の東西棟。いわゆる側柱建物で桁行6.11m、梁行5.49mである。柱穴の計測値等は第20表のとおりであるが、柱穴の規模は26~42cmの円形及び楕円形で、柱痕は直径10~15cm、P2・4・6・P8~12で確認できた。柱間は桁行が5尺等間、梁間が9尺と推定される。

出土遺物 柱穴P12底部から出土した木片(第86図1)は、加工の痕跡は認められないが柱材の可能性はある。

所見 隣接地から本遺構と主軸方向が近似する3号溝が検出される。3号溝を挟むように同じく主軸方向が類似する1・2号欄列が検出されている。南北を軸とし、調査区外でこれら欄列と直交する可能性がある3号欄列も検出されている。1号掘立柱建物と、溝及び欄列は有機的に機能している可能性も考えられる。木片以外に出土遺物はなく詳細な時期は特定できない。

2号掘立柱建物(第87図 PL.13)

位置 X=242~247, Y=-163~168

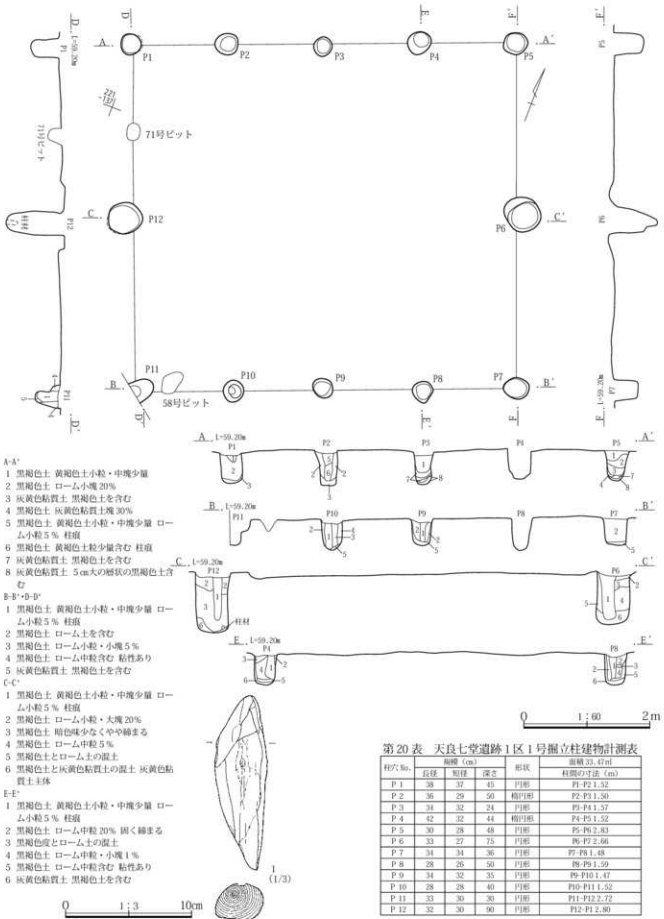
重複 なし。

主軸方向 N-S

規模・形態 南北2間、東西2間、北辺4.68m、東辺4.58mの総柱建物である。柱穴の計測値等は第21表のとおりであるが、柱穴の規模は23~33cmの円形で、柱痕は直径12~16cm、すべての柱穴において確認できた。柱間は8尺を基準としたと推定され、P1の位置がやや内側に入っており、P1-P2とP1-P8の寸法が短くなっている。

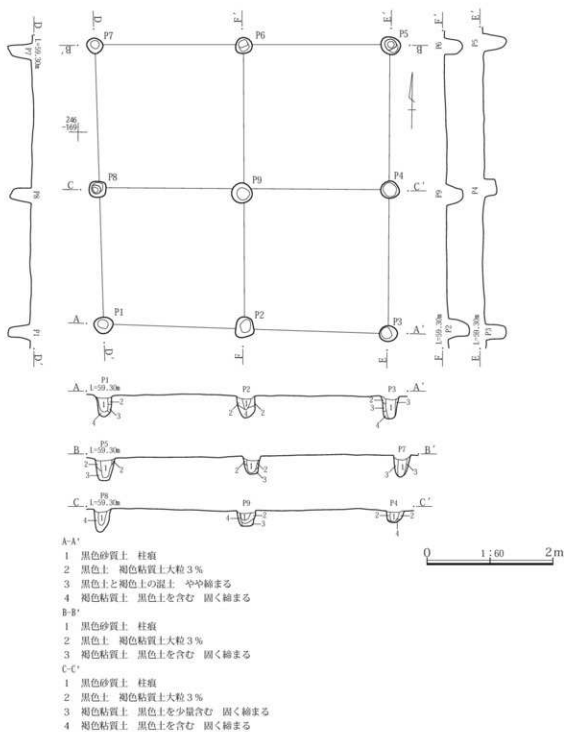
出土遺物 柱穴埋没土から8世紀以前の土師器片が出土しているが、小破片のため掲載していない。

所見 東側から3号掘立柱建物が検出され、建物の規模、主軸方向、埋没土が類似する。何らかの関係性があるこ



第20表 天良七堂遺跡1区1号掘立柱建物計測表

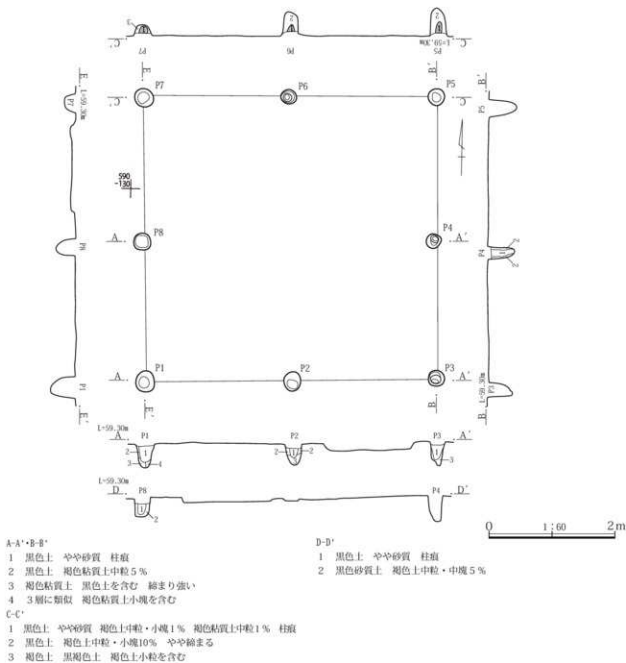
柱穴 No.	掘削 (cm)			形状	面積 33.47㎡
	長径	短径	深さ		
P 1	38	37	43	円形	P1-P2 1.52
P 2	36	29	50	楕円形	P2-P3 1.50
P 3	31	32	24	円形	P3-P4 1.37
P 4	42	32	44	楕円形	P4-P5 1.52
P 5	30	28	48	円形	P5-P6 2.83
P 6	33	27	75	円形	P6-P7 2.66
P 7	34	34	36	円形	P7-P8 1.48
P 8	28	26	50	円形	P8-P9 1.59
P 9	34	32	35	円形	P9-P10 1.47
P 10	28	28	40	円形	P10-P11 1.52
P 11	33	30	30	円形	P11-P12 2.72
P 12	32	30	90	円形	P12-P1 2.90



第87図 1区2号掘立柱建物

第21表 天良七堂遺跡1区2号掘立柱建物計測表

柱穴No.	規模 (cm)			形状	遺積 20.90ml 柱脚の寸法 (cm)
	長径	短径	高さ		
P 1	31	26	25	円形	P1-P2 2.28
P 2	33	28	30	楕円形	P2-P3 2.28 P9 2.22
P 3	28	25	30	円形	P3-P4 2.28
P 4	30	28	17	円形	P4-P5 2.30 P4-P9 2.30
P 5	32	28	37	円形	P5-P6 2.33
P 6	26	25	27	円形	P6-P7 2.33 P9 P6 2.27
P 7	25	23	40	円形	P7-P8 2.25
P 8	27	25	28	楕円形	P8-P9 2.30 P8-P1 2.27
P 9	33	32	26	円形	



第88図 1区3号掘立柱建物

第22表 天良七堂遺跡1区3号掘立柱建物計測表

柱穴 No.	掘幅 (m)			形状	面積 21.30㎡	
	長径	短径	深さ		柱間の寸法 (m)	
P1	33	30	31	円形	P1-P2 2.35	
P2	31	27	32	円形	P2-P3 2.30	
P3	25	25	31	円形	P3-P4 2.20	
P4	25	23	30	円形	P4-P5 2.28	
P5	27	26	44	円形	P5-P6 2.35	
P6	25	23	39	円形	P6-P7 2.32	
P7	32	29	18	円形	P7-P8 2.32	
P8	27	27	30	円形	P8-P1 2.24	

とが考えられる。8世紀以前の出土遺物はあるが1点のみであり詳細な時期は特定できない。

3号掘立柱建物(第88図 PL.13)

位置 X=242~247, Y=-157~161

重複 なし。

主軸方向 N-3°-W

規模・形態 南北2間、東西2間であり、北辺4.67m、東辺4.48mのいわゆる側柱建物である。建物中央部の柱穴は確認できなかった。柱穴の計測値等は第22表のとおりであるが、柱穴の規模は23~33cmの円形で、柱痕は直径12~16cm、すべての柱穴において確認できた。柱間は7.5尺を基準としているようであり各柱間が若干づつ異なる。

出土遺物 なし。

所見 2号掘立柱建物から約2m東側に位置し、建物の

規模や主軸方向、埋没土が類似することから同時期の可能性がある。何らかの関係性が考えられる。出土遺物がなく詳細な時期は特定できない。

4号掘立柱建物(第89図 PL.13)

位置 X=263~268, Y=-187~193

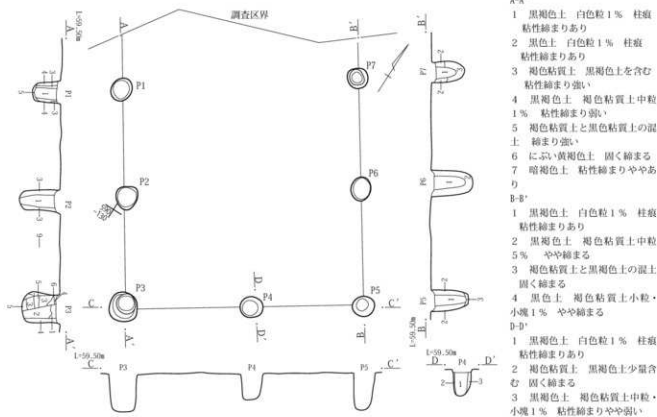
重複 なし。

主軸方向 N-33°-W

規模・形態 桁行2間以上、梁行2間のいわゆる側柱建物で調査区外に延びる建物である。柱穴の計測値等は第23表のとおりであるが、柱穴の規模は32~47cmの円形及び楕円形で、柱痕は直径17~21cmである。南辺の長さ3.81m、柱間は6尺等間を基準としたようであり、P3-P4間がやや長い。

出土遺物 なし。

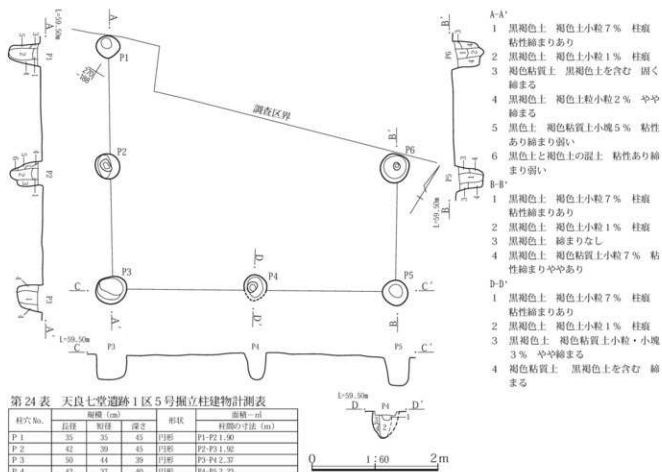
所見 東側に隣接して5号掘立柱建物が出た。主



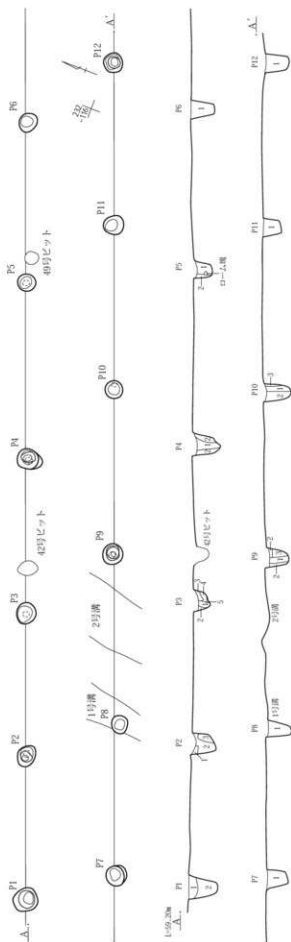
第23表 天良七堂遺跡1区4号掘立柱建物計測表

柱穴No.	規模 (cm)			形状	表積 - ni 柱脚の寸法 (m)
	長径	短径	深さ		
P 1	39	33	42	円形	P1-P2 1.70
P 2	37	35	62	楕円形	P2-P3 1.79
P 3	47	45	58	円形	P3-P4 2.04
P 4	37	33	40	円形	P4-P5 1.77
P 5	35	33	54	円形	P6-P7 1.84
P 6	38	32	60	円形	P7-P8 1.76
P 7	33	32	41	円形	-

第89図 1区4号掘立柱建物



1号櫛列



第25表 天良七堂遺跡1区1号櫛列計測表

柱穴No.	埋深 (cm)		形状	遺構名
	直径	深さ		
P 1	38	37	円筒形	柱穴の土層 (m)
P 2	35	29	40 円筒形	P1-P2 2.44
P 3	34	32	24 円筒形	P2-P3 2.28
P 4	42	32	24 円筒形	P3-P4 2.46
P 5	41	32	24 円筒形	P4-P5 2.52
P 6	33	27	33 円筒形	P5-P6 2.50
P 7	34	34	36 円筒形	P6-P7 2.40
P 8	28	26	40 円筒形	P7-P8 2.72
P 9	34	32	35 円筒形	P8-P9 2.60
P 10	28	26	40 円筒形	P9-P10 2.60
P 11	33	30	30 円筒形	P10-P11 2.60
P 12	32	30	36 円筒形	P11-P12 2.60

- P 1 黒褐色砂質土 柱礎
 2 黒褐色砂質土 ローム土30% 粘性ややあり
 P 2 暗褐色土 ローム土を含む やや締まる
 2 暗褐色砂質土 均質 やや締まる
 3 黒褐色土 ローム中粒 5%
 P 3 黒褐色砂質土 柱礎
 1 黒褐色土と黒褐色土の混土 黄色味あり
 2 ローム土と黒褐色土の混土 黄色味あり
 3 黒褐色土 1層に類似 ローム小粒 1% 締まりあり
 P 11, 12 1 黒褐色砂質土
- P 6, 7, 8 1 黒褐色砂質土 ローム土10%
 P 9 1 黒褐色砂質土 柱礎
 2 黒褐色土 ローム中粒10%
 3 黒褐色土 1層に類似 ローム小粒 1% 締まりあり
 P 10 1 黒褐色砂質土 柱礎
 2 ローム土と黒褐色土の混土 黄色味あり
 3 黒褐色土 1層に類似 ローム小粒 1% 締まりあり
 P 11, 12 1 黒褐色砂質土

- P 1 黒褐色砂質土 柱礎
 2 黒褐色土 1層より黒色味あり ローム小粒・小塊 5%
 P 5 1 黒褐色砂質土 P 1の1層と同質
 2 黒褐色土 ローム小粒40%

第91図 1区1号櫛列

出土遺物 柱穴の埋没土から非掲載遺物であるが土師器片、須恵器片が出土する。

所見 1号柵列から南側に隣接して1号掘立柱建物が出され、北側には走行方向が類似する3号溝が検出されている。それぞれ主軸方位が類似しており、何らかの関係性が想定される。出土遺物が少なく詳細な時期は不明。

2号柵列(第92図 PL.13・14)

位置 X=226～236、Y=-120～148

重複 2号柵列柱穴P1・2は5号溝、柱穴P8は4号溝と重複するが、新旧関係は不明である。

規模・形態 調査区外の北東及び南西に延長すると想定される。柱穴は12基検出され、確認できた長さ27.42mである。柱穴の計測値等は第26表のとおりであるが、規模は12～42cmの円形、楕円形、不定形となり柱痕は確認できなかった。柱間は1.80～4.60mと一定せず柱穴の通りもよくない。P10からP11の間は6号土坑で遺失した可能性がある。

出土遺物 なし。

所見 2号柵列の南側には走行方向が類似する3号溝、1号柵列、1号掘立柱建物が出出されている。それぞれ主軸方位が類似しており、何らかの関係性が想定される。出土遺物がなく詳細な時期は不明。

3号柵列(第92図 PL.14・35)

位置 X=215～230、Y=-104～110

重複 3号柵列P5・6・7・8が1号竪穴住居と重複し埋没土の確認状況から3号柵列が新しい。

規模・形状 調査区外の北西及び南東に延長すると想定される。柱穴は8基検出され、確認できた長さ16.17mである。柱間の寸法は第27表のとおりであるが、柱穴の規模は径14～30cmの楕円形及び不定形となり柱痕は確認できなかった。柱間は1.30～2.67mでP1からP2が短く、P6とP7は軸線に乗らない。

出土遺物 なし。

所見 柵列の形状や埋没土は2号柵列と類似する。それぞれ調査区外に延長すると、区外で直交する可能性が考えられる。出土遺物はなく詳細な時期は不明。

(5)土坑・ピット

1区から検出された土坑は土坑26基、ピット126基である。埋没土に一定の特徴が認められるものについて取

り上げる。埋没状況については文中に記し、記述がないものについては自然埋没土と考える。なお、各遺構の形状や計測値については第30表の計測表を参照されたい。

3号土坑(第93図 PL.14・35)

平面形状は長方形を呈し、断面形状は浅い方形を呈する。埋没土は、褐色土粒を少量含む暗褐色土であり、人為的な埋没土と考えられる。遺物は第93図3坑-1が出土したが混入と考えられる。時期は不明である。

4号土坑(第93図)

平面形状は楕円形を呈し、断面形状は浅い方形を呈する。4号土坑埋没土を1号溝が切る。時期は不明である。

6号土坑(第93図)

平面形状は長方形を呈し、断面形状は浅い方形を呈する。4号溝と重複するが新旧関係は不明である。非掲載遺物であるが埋没土から中世の焙烙1点が出土する。出土遺物から時期は中世以降と考えられる。

7号土坑(第93図 PL.35)

平面形状は長方形を呈し、断面形状は浅い方形を呈する。4号竪穴住居と重複し7号土坑の方が新しい。埋没土は、ローム大塊を多量に含む黒褐色土であり、人為的な埋没土と考えられる。南壁際の底面から第93図7坑-1が出土する。非掲載遺物は土師器片82g、須恵器片6gである。出土遺物から時期は古墳時代6世紀前半と考えられる。

8号土坑(第93図)

平面形状は方形を呈し、断面形状は浅い方形を呈する。非掲載遺物は土師器片20gが出土する。時期は不明である。

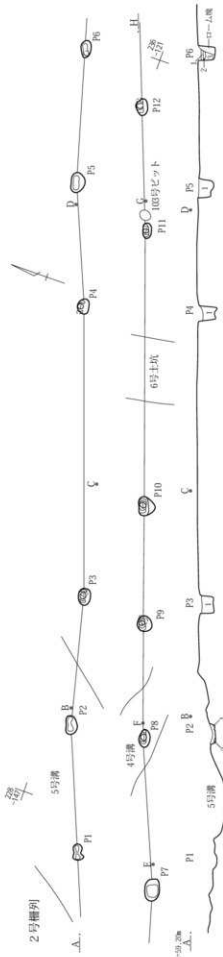
9号土坑(第93図 PL.14)

平面形状は不整形円形を呈する。6号溝と重複し、9号土坑が切る。埋没土は、ローム塊を多量に含む黒色土及び黒褐色土であり、人為的埋没土と考えられる。6号溝との重複から時期は10世紀以降と考えられる。

29号土坑(第93図)

西部を攪乱によって遺失しているため平面形状は不明である。12号竪穴住居と重複し、29号土坑が住居北壁を切る。埋没土から第93図29土-1が出土し、非掲載遺物は土師器片40gである。出土遺物から時期は8世紀以降と考えられる。

2号櫓列



2号櫓列P6
 1 黒色砂質土 やや締まる ローム小粒1% やや締まる やや赤色味あり
 2 黒色砂質土 均一
 3 黒色砂質土 ローム小粒1% やや締まる

2号櫓列P4
 1 黒色砂質土 ローム小粒・大塊5% やや締まる
 2 黒色砂質土 均一

2号櫓列P3
 1 黒色砂質土 ローム小粒1% やや締まる
 2 黒色砂質土 赤色土塊を含む

2号櫓列P2
 1 黒色砂質土 ローム小粒1% やや締まる
 2 黒色砂質土 赤色土塊を含む

2号櫓列P11
 1 黒色砂質土 均一
 2 黒色砂質土 ローム小粒1% やや締まる

2号櫓列P10
 1 黒色砂質土 ローム小粒・大塊5% やや締まる
 2 黒色砂質土 均一

2号櫓列P9
 1 黒色砂質土 ローム小粒1% やや締まる
 2 黒色砂質土 固く締まる

2号櫓列P5・7
 1 黒色砂質土 ローム土10% 締まりややあり
 2 黒色砂質土 赤色土塊を含む

2号櫓列P12
 1 黒色砂質土 ローム小粒1% ローム・大塊5% やや締まる

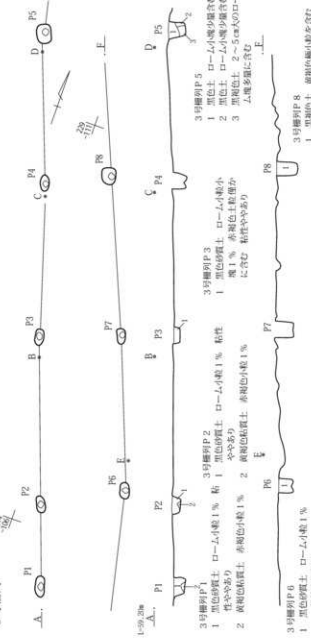
第26表 天良七堂遺跡1区2号櫓列計測表

柱穴No.	直径 (cm)	深さ	形状	説明
P1	26	12	8	不定形 P1-P22.02
P2	30	18	9	不定形 P2-P3.04
P3	30	19	26	不定形 P3-P4.09
P4	32	22	26	不定形 P4-P5.14
P5	32	22	26	不定形 P5-P6.14
P6	28	17	29	楕円形 P6-P7.20
P7	26	24	19	楕円形 P7-P8.24
P8	28	18	26	楕円形 P8-P9.10
P9	24	24	33	円形 P9-P10.38
P10	30	26	30	不定形 P10-P11.43
P11	26	18	25	楕円形 P11-P12.08
P12	26	18	30	不定形

第27表 天良七堂遺跡1区3号櫓列計測表

柱穴No.	直径 (cm)	深さ	形状	説明
P1	34	15	14	不定形 P1-P2.30
P2	28	13	18	不定形 P2-P3.17
P3	28	13	21	不定形 P3-P4.28
P4	26	15	21	楕円形 P4-P5.36
P5	30	23	24	不定形 P5-P6.36
P6	26	16	25	不定形 P6-P7.45
P7	26	14	26	不定形 P7-P8.37
P8	27	22	32	不定形

3号櫓列



3号櫓列P5
 1 黒色砂質土 ローム小粒1% 粘性
 2 赤色砂質土 赤色土塊1% やや締まる

3号櫓列P3
 1 黒色砂質土 ローム小粒1% 粘性
 2 赤色砂質土 赤色土塊1% 粘性
 3 黒色砂質土 赤色土塊1% 粘性

3号櫓列P2
 1 黒色砂質土 ローム小粒1% 粘
 2 赤色砂質土 赤色土塊1% 粘

3号櫓列P1
 1 黒色砂質土 ローム小粒1% 粘
 2 赤色砂質土 赤色土塊1% 粘

3号櫓列P8
 1 黒色砂質土 赤色土塊1% 粘

3号櫓列P5
 1 黒色土 ローム小塊少量含む
 2 黒色土 ローム小塊少量含む
 3 黒色土 2~5cm大のローム多量を含む

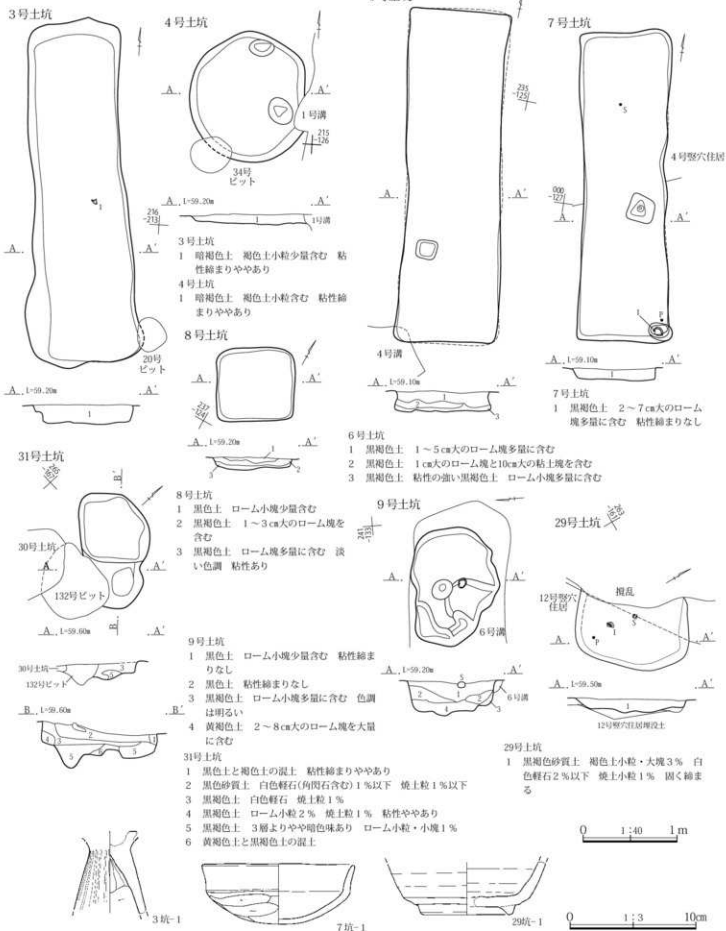
3号櫓列P4
 1 黒色土 赤色土塊少量含む
 2 黒色土 赤色土塊少量含む

3号櫓列P3
 1 黒色土 赤色土塊少量含む
 2 黒色土 赤色土塊少量含む

3号櫓列P6
 1 黒色砂質土 ローム小粒1% 粘性
 2 赤色砂質土 赤色土塊1% 粘性

3号櫓列P8
 1 黒色土 赤色土塊少量含む

第28図 1区2・3号櫓列



第93図 1区3・4・6～9・29・31号土坑と3・7・29号土坑の出土遺物

31号土坑(第93図)

平面形状は不整長円形を呈する。2号竪穴状遺構、132号ピットと重複し31号土坑が2号竪穴状遺構を切る。31号土坑埋没土を132号ピットが切る。埋没土は焼土粒・白色軽石を含む黒色土及び黒褐色土であり、人為的な埋没土と考えられる。2号竪穴状遺構との重複から7世紀末～8世紀初頭以降と考えられる。

1号ピット(第94図)

平面形状は楕円形を呈する。埋没土は、黒褐色砂質土であり自然埋没土と考えられる。時期は不明である。

6号ピット(第94図)

平面形状は不整長円形を呈する。埋没土は黒褐色土砂質土であり、自然埋没土と考えられる。遺物は非掲載であるが土師器片が1点出土する。時期は不明である。

10号ピット(第94図)

平面形状は楕円形を呈する。埋没土は粘質土であり、自然埋没土と考えられる。非掲載遺物は土師器片が出土する。時期は不明である。

20号ピット(第94図)

平面形状は楕円形を呈する。3号土坑と重複し、20号ピット埋没土が3号土坑に切られる。埋没土はローム粒を含む黒褐色砂質土であり、人為的な埋没土と考えられる。時期は不明である。

32号ピット(第94図)

平面形状は楕円形を呈する。1号溝と重複するが、新旧関係は不明。埋没土はローム粒を含む砂質土であり、人為的な埋没土と考えられる。時期は不明である。

33号ピット(第94図)

平面形状は不整長円形を呈する。1号溝と重複し33号ピットが切られる。埋没土はロームブロックを含んでおり、人為的な埋没土と考えられる。時期は不明である。

34号ピット(第94図)

平面形状は不整円形を呈する。4号土坑と重複し、埋没土の確認状況から34号ピットが古い。埋没土はローム粒を少量含む黒色砂質土であり、人為的な埋没土と考えられる。時期は不明である。

39号ピット(第94図)

平面形状は楕円形を呈する。埋没土はロームブロックを含んでおり、人為的な埋没土と考えられる。時期は不明である。

43号ピット(第94図)

平面形状は楕円形を呈する。埋没土は、ローム土及び焼土を含む黒褐色砂質土であり、人為的な埋没土と考えられる。非掲載遺物は土師器片77gである。時期は不明である。

57号ピット(第94図)

平面形状は楕円形を呈する。埋没土はロームブロックを含む黒褐色砂質土であり人為的な埋没土と考えられる。時期は不明である。

64号ピット(第94図)

平面形状は楕円形を呈するが、底部に僅かな窪みがある。埋没土はローム土を含む黒褐色砂質土、褐灰色土であり人為的な埋没土と考えられる。時期は不明である。

68号ピット(第94図)

平面形状は不整楕円形を呈する。6号溝と重複するが新旧関係は不明である。埋没土はローム土を少量含む黒褐色砂質土であり人為的な埋没土と考えられる。時期は不明である。

83号ピット(第94図)

平面形状は円形を呈する。埋没土はローム粒を含む暗褐色土とローム土の混土であり人為的な埋没土と考えられ、1層は柱礎の可能性はあるが、周囲に掘立柱建物を想定する柱穴はない。時期は不明である。

107号ピット(第94図)

平面形状は不整楕円形を呈する。埋没土は褐色土粒を僅かに含む黒褐色土を主体とし、上位は白色軽石を含む黒褐色土、黒褐色及び褐色粘質土の混土であり、人為的な埋没土と考えられる。時期は不明である。

108号ピット(第94図)

平面形状は楕円形を呈する。埋没土は黒褐色土及び黒色土が縞状に堆積し、人為的な埋没土と考えられる。時期は不明である。

110号ピット(第94図 PL.14)

平面形状は楕円形を呈する。埋没土はにぶい黄褐色土粒を含む黒褐色土であり、人為的な埋没土と考えられる。1層は柱礎の可能性はあるが、周囲に掘立柱建物を想定する柱穴はない。埋没土から高杯(第95図110ピット1)が出土する。出土遺物から時期は5世紀代と考えられる。

111号ピット(第95図)

平面形状は不整楕円形を呈する。埋没土は、にぶい黄

褐色土粒や白色粒を僅かに含む黒褐色土であり、人為的埋没と考えられる。時期は不明である。

127号ビット (第95図)

平面形状は不整楕円形を呈する。埋没土は黒褐色土及び褐色粘質土であり、人為的な埋没土と考えられる。2・3層は柱痕の可能性があるが、周囲に掘立柱建物を想定する柱穴はない。時期は不明である。

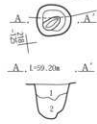
253
142

20号ビット



- 20号ビット
1 黒褐色砂質土 ローム小粒 5%

32号ビット



- 32号ビット
1 黒褐色砂質土 ローム土を微量に含む
2 暗褐色粘質土 ローム小粒少量含む 粘性ややあり

1号ビット

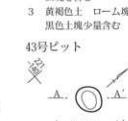
- 1 黒褐色砂質土 粘性ややあり 締まりあり

33号ビット



- 33号ビット
1 黒色土 ローム塊少量含む
2 黒褐色土 黒色土 ローム塊を含む
3 黄褐色土 ローム塊主体 黒色土塊少量含む

43号ビット



- 43号ビット
1 黒褐色砂質土 焼土小塊少量 ローム土 10%含む

6号ビット



- 6号ビット
1 黒褐色砂質土 粘性ややあり 締まりあり

10号ビット



- 10号ビット
1 黒褐色砂質土 粘性ややあり 締まりあり

10号ビット

- 1 黒褐色砂質土 粘性ややあり 締まりあり
2 暗灰褐色粘質土 ローム小粒少量含む 粘性 締まりややあり

34号ビット



- 34号ビット
1 黒色砂質土 ローム中粒 10%

34号ビット

- 1 黒色砂質土 ローム中粒 10%

107号ビット



- 107号ビット
1 黒褐色土 やや砂質 白色軽石 1% やや締まる

108号ビット



- 108号ビット
1 黒褐色土 やや砂質 白色軽石 1% やや締まる

110号ビット



- 110号ビット
1 黒褐色土 黄褐色粘質土中塊 2%

43号ビット



- 43号ビット
1 黒褐色砂質土 焼土小塊少量 ローム土 10%含む

39号ビット



- 39号ビット
1 黒褐色砂質土 ローム小粒微量を含む
2 暗褐色砂質土 ローム土 5%

57号ビット



- 57号ビット
1 黒褐色砂質土 ローム土 10%
2 黒褐色砂質土 ローム土 10% 粘性あり

107号ビット

- 1 黒褐色土 やや砂質 白色軽石 1% やや締まる
2 黒褐色粘質土と褐色粘質土の混土 固く締まる
3 黒褐色土 褐色土中粒 3% やや締まる

108号ビット

- 1 黒褐色土 やや砂質 白色軽石 1% やや締まる
2 黒色土 やや砂質
3 黒色土 黄褐色粘質土中塊 2%
4 黒色土 3層と同質

110号ビット

- 1 黒褐色土 土に黄褐色土小粒 1% 白色粒 1% 柱痕か やや締まる
2 1層と同質 土に黄褐色土小粒・中塊 5%

64号ビット



- 64号ビット
1 黒褐色砂質土 ローム土 10%
2 褐灰色粘質土 ローム土 5%

68号ビット



- 68号ビット
1 黒褐色砂質土 ローム土 5%

83号ビット



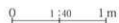
- 83号ビット
1 暗褐色土 ローム中粒 1%
2 ローム土と暗褐色土の混土

57号ビット

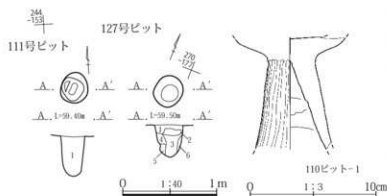
- 1 黒褐色砂質土 ローム土 10%
2 黒褐色砂質土 ローム土 10% 粘性あり

83号ビット

- 1 暗褐色土 ローム中粒 1%
2 ローム土と暗褐色土の混土



第94図 1区 1・6・10・20・32・33・34・39・43・57・64・68・83・107・108・110号ビット



111号ピット

1 黒褐色土 やや砂質 黄褐色土中粒・中塊2% 白色軽石1% やや締まる

127号ピット

- 1 黒褐色土 やや砂質 黄褐色土中粒・小塊2% 白色軽石1% 褐色中粒1% やや締まる
 2 褐色土 粘性ややあり固く締まる
 3 黒色土 粘り強1% 柱状か やや締まる
 4 黒褐色土 褐色中粒・塊1%
 5 褐色粘質土主体 黒褐色土を含む
 6 褐色粘質土 粘性なし固く締まる

第95図 1区111・127号ピットと110号ピットの出土遺物

(6)溝

1区から検出された溝は9条である。溝は中央部に集中し、1・2・6・8号溝は南北及び東西方向を意識した構築である。

1号溝(第96図 PL.14)

X=212~220, Y=-124~126に位置する。遺構確認状況から3号竪穴住居が古く、1号溝が4号土坑、33号ピットを切る。3号溝、1号柵列P8、32ピットとは新旧関係は不明。南北走行し東側80cm程に2号溝が並走する。溝底面標高は北端部で59.03m、南端部59.06mを測り比高差3cmで勾配率0.05%を測る。高低差はほとんど無いことから、通水目的の溝ではなく、区画溝の可能性はある。北側は緩やかな曲線を東側に向かい描く。発見長20.00mである。上面幅34~66cm、深さ3~9cmである。覆土は黄褐色土及び暗褐色土による自然堆積と考えられ、溝底面には水流の痕跡は認められていない。非掲載遺物には、土師器片39g、中世の喪1点が出土している。時期は出土遺物及び埋没土から中世と考えられる。

2号溝(第96図 PL.14)

X=224~220, Y=-122~124に位置する。3号竪穴住居、5号土坑、7号溝を切り、3号土坑に切られている。1号溝の北側部分に並走し東に向かい緩やかな曲線を描いている。溝底面の標高は北端部59.10m、南

端部59.09mを測り比高差0.01mで勾配率0.12%である。高低差はほとんど認められない。長さ13.42m、上面幅35~84cm、深さ3~8cmである。覆土は黄褐色土を含む暗褐色土による自然埋没と考えられる。溝底面には水流の痕跡は認められない。時期は、1号溝との走行方向と覆土の類似点から中世と考えられる。

3号溝(第97図 PL.14)

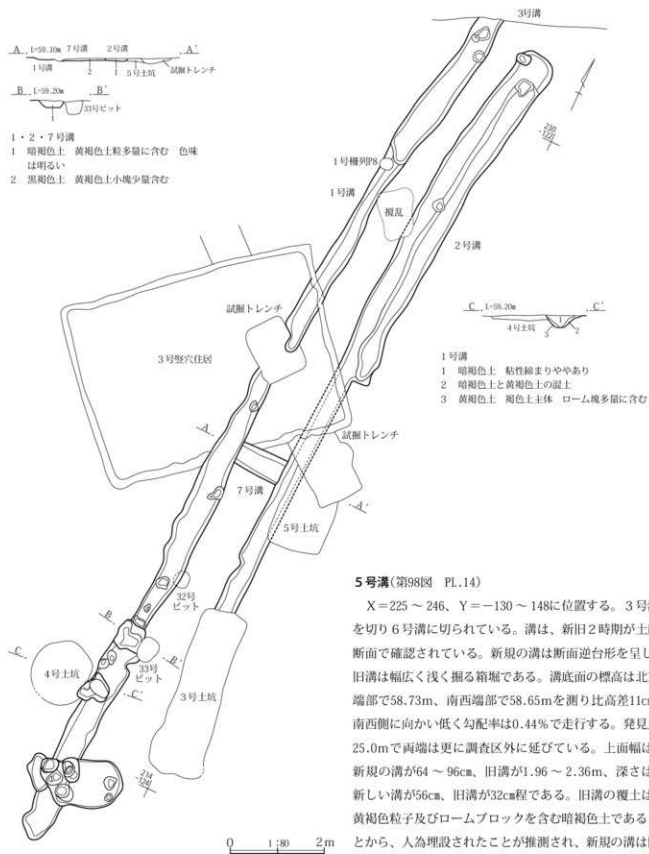
X=224~234, Y=-117~157に位置する。5号溝に切られている。1・4号溝、32号土坑、52号ピットとの新旧関係は不明。走行は北東-南西方向に直線走行する。この走行方向は、隣接する1号柵列及び2号柵列と類似し、南側5mに位置する1号掘立柱建物の北辺にも近似している。溝底面の標高は北東端部58.15m、南西端部58.14mを測り比高差1cmで勾配率0.03%を測る。比高差はほとんど無くほぼ平坦である。覆土は溝底面直上に黄褐色粘質土の堆積が認められ、水の停滞があったことを示している。このことから、通水目的の溝ではなく、区画溝の可能性はある。

発見長31.08mで両端は更に調査区外に延びている。上面幅6~130cm、深さ92~102cmを測り1区内で最も深く掘られた溝である。覆土の上層は南西側からの堆積が顕著であることから、人為的埋没が示唆される。出土遺物は溝底面から礫、覆土内から縄文土器が出土しているだけである。

時期は、5号溝に切られることから9世紀以前であることが判断される。そして、走行方向が前述1号及び2号柵列、1号掘立柱建物北辺と類似することから、これらの遺構と関連することが推測される。

4号溝(第97図 PL.14)

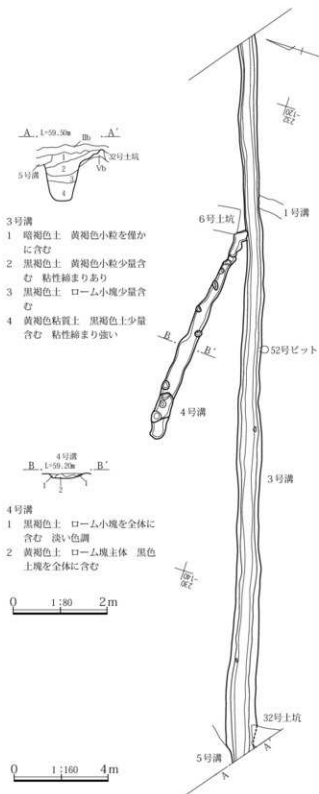
X=231~233, Y=-125~135に位置する。3号溝・2号柵列との新旧関係は不明である。走行は概ね東西走行し、3号溝の重複部分から東側では発見されていない。溝底面の標高は東端部で58.98m、西端部で59.04m、比高差6cmで勾配率0.62%を測り、東側に向けやや急な勾配を備えている。発見長9.66m、上面幅30~70cm、深さ4~11cmである。覆土は、ロームブロックを含む黒褐色土であることから、人為埋没の可能性が考慮される。また、黒褐色土はA s-B軽石を含めぬ山Va層土に対比されることから、当溝は、A s-B軽石降下以前の時期が判断される。



第96図 1区1・2・7号溝

5号溝(第98図 PL.14)

X=225~246、Y=-130~148に位置する。3号溝を切り6号溝に切られている。溝は、新旧2時期が土層断面で確認されている。新規の溝は断面逆台形を呈し、旧溝は幅広く浅く掘る箱堀である。溝底面の標高は北東端部で58.73m、南西端部で58.65mを測り比高差11cm、南西側に向かい低く勾配率は0.44%で走行する。発見長25.0mで両端は更に調査区外に延びている。上面幅は、新規の溝が64~96cm、旧溝が1.96~2.36m、深さは、新しい溝が56cm、旧溝が32cm程である。旧溝の覆土は、黄褐色粒子及びロームブロックを含む暗褐色土であることから、人為埋設されたことが推測され、新規の溝は旧溝の中央部を掘り直した状態で構築されている。出土遺物は第98図1~5の他に土師器1,325g、須恵器247gが出土している。溝の時期は出土遺物及び覆土の状態から9世紀代と考えられる。



第97図 1区3・4号溝

6号溝(第98図 PL.14)

X=238~240, Y=-132~167に位置する。5号竪穴住居、10号土坑、5号溝を切り9号土坑に切られている。溝底面の標高は、東端部で59.03m、西端部で58.95mを測り比高差8cmで勾配率は0.23%である。溝は東西

に直線的に走行し西側は緩やかな曲線を描く。東端部は調査区内で立ち上がり、西側は更に調査区外に延びている。また、当溝には8号溝が接する状態で並走している。溝の勾配方向が西側に向かうものの、溝の東側が調査区内で立ち上がることから通水を目的とすることは否定されよう。恐らく、何らかの区画を目的とする溝と推定される。発見長34.48m、上面幅0.94~1.14m、深さ10~31cmである。覆土は黄褐色小粒子を少量含む黒褐色でVa層に対比され、通水の痕跡は認められていない。埋没は自然堆積と考えられる。出土遺物は、古墳時代後期から10世紀に至る土師器片373g、須恵器79gが出土している。時期は、出土遺物から10世紀頃と推定される。

7号溝(第96図 PL.14)

X=207, Y=-124に位置する。3号竪穴住居を切り1・2号溝に切られる。東西走行するが発見長が短い。溝底面の標高は東西両端59.04mで比高差はない。発見長98cm、上面幅54~56cm、深さ1~5cmである。覆土は、ローム土の小塊を少量含む黒褐色土で地山Va層に対比される。出土遺物はなく、3号竪穴住居、1・2号溝との新旧関係、覆土の状態から、当溝の時期は5世紀~中世と推定される。

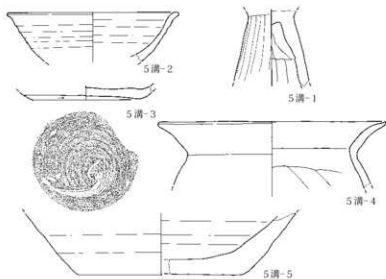
8号溝(第98図 PL.14)

X=239~241, Y=-145~167に位置する。5号竪穴住居、10号土坑を切る。溝底面の標高は西端部で59.13m、東端部で59.11mを測り比高差2cmで勾配率は0.09%である。ほぼ平坦な溝底面である。溝は前述6号溝の北側で接する状態で並走している。東西に直線的に走行し西側は緩やかな曲線を描く。東端部は調査区内で立ち上がり、西側は更に調査区外に延びている。発見長22.24m、上端幅40~58cm、深さ4~6cmである。覆土は、黄褐色小粒子を少量含む暗褐色土でVa層に対比され通水の痕跡は認められていない。埋没は自然堆積と考えられる。出土遺物は、古墳時代後期から9世紀に至る土師器片193g、須恵器89gが出土している。時期は、6号溝との状況、出土遺物から9世紀頃と推定される。

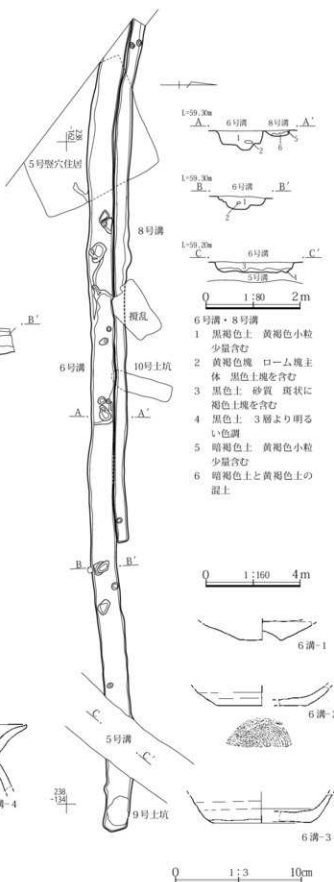
9号溝(第99図)

X=260~264, Y=-201~202に位置する。部分的な露呈であり重複関係は認められていない。溝底面の標高は、北端部で59.23m、南端部で59.31m、比高差8cmで勾配率2.20%に達する。部分的な発見であるため詳細

5号溝

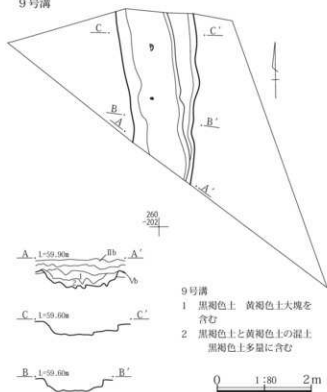


6・8号溝



第98図 1区5・6・8号溝と5・6号溝の出土遺物

9号溝



第99図 1区9号溝

は不明であり溝全体を反映しての数値とは異なると考えられる。発見長3.64m、上面幅1.20～1.64m、深さ16～30cmである。覆土は黄褐色塊を含む黒褐色土でVa層に対比され、溝底面直上には黒褐色土と黄褐色土の混土が堆積していることから、埋没は人為に因ることが推定される。

溝の時期は、良好な出土遺物が得られなかったが、覆土の状態から古代の遺構であることは確実視される。

(7) 鍛冶遺構

1区から検出された鍛冶遺構は1基である。調査区外となるため全体的な規模や形状は不明であるが、土器片のほか焼土塊とともに鉄滓が出土したことから鍛冶遺構とした。

1号鍛冶遺構(第100・101図 PL.14・35)

X=246～248, Y=-134～137に位置する。調査区外となるため南半部のみを検出である。形状は隅丸長方形と推定される。確認できた北西から南東の長さ1.92m、深さ16～31cmである。主軸方向はN-37°-Eである。上位層に攪乱が入り、炭や焼土を多量に含む黒色土及びローム土を含む暗褐色土や焼土塊による人為的な埋没土

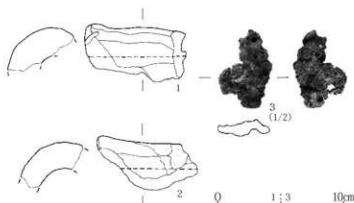
と考えられる。底面から礫が出土する。南西部の埋没土から輪羽口(第101図1・2)、鉄滓(第101図3)が出土する。非掲載遺物は土師器片536g、須恵器片77gである。遺構確認及び埋没土から多量の焼土粒・塊及び炭化物が出土し、鍛冶遺構の可能性はある。出土遺物から時期は古墳時代中期から後期と考えられる。

1号鍛冶遺構



第100図 1区1号鍛冶遺構

- 1号鍛冶遺構
- 1 黒色土 皮混土層
 - 2 黒色土 0.5～1.5cmの炭化物を含む 焼土小粒1%
 - 3 黒色土と硬土の混土 部分的に層・塊状に認められる やや締まる
 - 4 黒色土 2層より黒色味少くやや砂質 焼土小粒1% やや締まる
 - 5 2層に類似 粘性ややあり
 - 6 暗褐色土 ローム土を含む 1～5層より黄色味あり 粘性やや締まりやや弱い

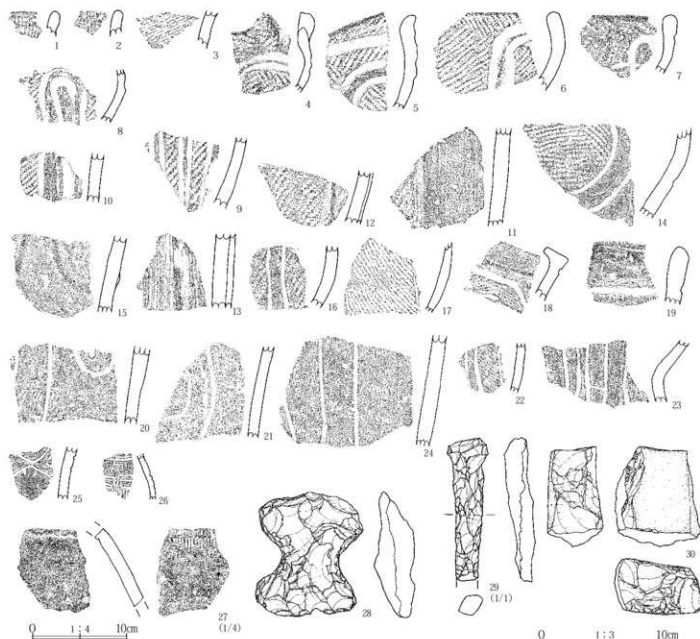


第101図 1区1号鍛冶遺構の出土遺物

3 遺構外の遺物(第102図 PL.35)

1区からは、縄文時代から近世に至る遺物が出土し、遺構外遺物も多数出土している。時代別には、縄文時代の遺物は遺構確認面などから夏島式(第102図1~2)、黒浜式(第102図3)、加曾利E3式(第102図4~12)、加曾利E4式(第102図13~17)、称名寺式(第102図18~24)、堀之内2式(第102図25)、中期後半(第102図26)が出土する。1・2・4・12号竪穴住居、3・6号溝埋没土から出土した遺物は混入と判断し遺構外出土遺物とした。非掲載遺物を含めると土器は早期、前期、中期、後期の122

点を数え57%が中期、40%が後期に属し中期から後期を主体とするが僅かであるが早期の撫系文系土器も含まれる。1区では後期の竪穴住居や中期から後期の土坑及びピットが検出されることから周辺からも遺構の検出が想定される。石器は打製石斧(第102図28)、石錐(第102図29)、三角錐形石器(第102図30)が出土する。非掲載遺物は削器、石鏃、剥片が出土する。古墳時代から奈良・平安時代の遺物総重量は、土師器片2,234g、須恵器片574gに上る。中世から近世の非掲載遺物は中世の甕(第102図27)のほか非掲載遺物として遺構確認面及び掘乱などから近世の国産磁器4点、国産施軸陶器5点、国産焼締陶器1点、近現代の十能瓦3点が出土している。



第102図 1区遺構外の出土遺物

第3節 2区の調査成果

2区はローム漸移層(基本土層第VI層)上面において遺構確認を行った。調査区は道路により北部、東部、西部の3カ所に分かれる。東・西部中央部分から北に向かって谷地形が形成されている。大間々扇状地扇端部の湧水を水源とする自然地形である。西部の北半部は谷地底部の湧水が著しかったため底部まで掘削していない。古墳時代の竪穴住居、奈良・平安時代の掘立柱建物、古墳時代から奈良平安時代の土坑、ピット、溝、古代の谷地が検出され、古墳時代から近世に至る遺物が出土した。調査区南端部に竪穴住居や掘立柱建物が検出され、中央部の谷地縁辺部に溝や土坑が集中して分布していた。谷地を利用していたことが考えられる。

1 古墳時代以降の遺構と遺物

検出された古墳時代から奈良・平安時代の遺構は、竪穴住居1軒、掘立柱建物1棟、土坑4基、ピット11基、溝12条、谷地1カ所である。以下のとおり遺構ごとに記す。

(1) 竪穴住居

2区から検出された竪穴住居は1軒である。調査区南端で検出にあるため北壁周辺のみ検出された。

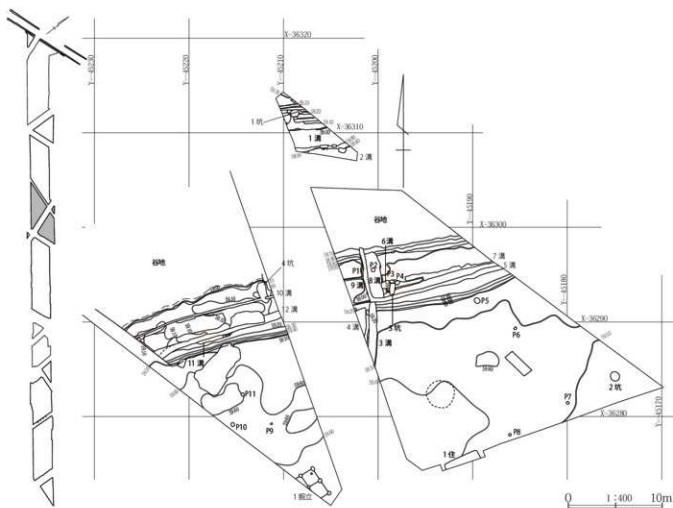
1号竪穴住居(第104図 PL.16)

位置 X=274~276、Y=-189~192

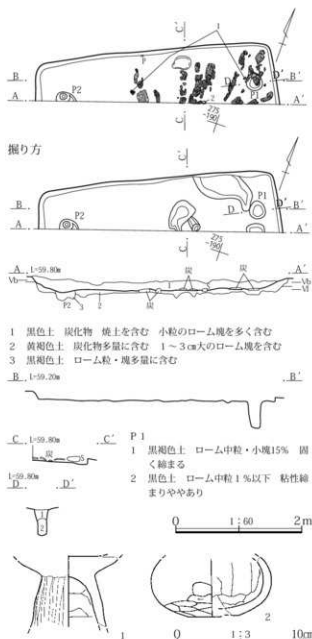
形状・規模 南部は調査区外となるため不明。確認できた北壁の東西長3.79m、壁高3~14cmである。

重複 なし。

埋没土 埋没土は炭化物、焼土、ローム塊を多量に含む



第103図 天良七堂遺跡 2区全体図



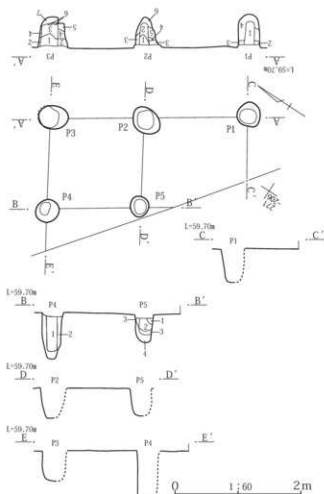
第104図 2区1号竪穴住居と出土遺物

黒褐色土であり、人為的埋没土の可能性ある。

床面 壁際より中央部が2~3cm低い。使用による硬化面は不明瞭であった。住居北東部床面直上から炭化材が多量に出土した。樹種はクスギで、外側部分などであるが炭化しているため遺存状態は不良。掘り方は炭化物及びローム塊を多量に含む黄褐色土により床面を構築する。好・壱・貯蔵穴は調査できた範囲の中では検出されなかった。

周溝 床面精査および掘り方調査では検出されなかった。

柱穴 床面精査で主柱穴と考えられるピット2基が検出



第105図 2区1号掘立柱建物

- P 1
 1 黒褐色土 黄褐色土中粒 2% 粘性締まりややあり
 2 黒褐色土 褐色土ハードローム大塊を含む
 3 黒褐色土 やや締まる
 4 黒色土 褐色粘質土中粒・大塊1% 粘性締まりあり
- P 2
 1 黒褐色土 ローム中粒・小塊1% 粘性ありやや締まり
 2 黒褐色土 褐色粘質土中粒1% 粘性ありやや締まる
 3 黒褐色土 ローム中粒・小塊1%
 4 褐色粘質土と黒褐色粘質土の混土 固く締まる
 5 3層に類似 粘性ややあり
 6 5層に類似 褐色粘質土小塊1%
- P 3
 1 黒褐色土 褐色粘質土中粒1% 粘性ありやや締まる
 2 褐色粘質土 黒褐色土を含む 固く締まる
 3 黒褐色土 やや締まる
 4 黒褐色土 褐色粘質土を少量含む
 5 2層に類似
 6 褐色粘質土塊 黒褐色土を含む
 7 褐色粘質土 黒褐色土を含む
- P 4
 1 黒褐色土 黒褐色粘質土中粒1% 粘性ありやや締まる
 2 黒褐色土 黒褐色粘質土を少量含む 固く締まる
- P 5
 1 黒褐色土と褐色土の混土 やや締まる
 2 黒褐色土 粘性ややあり
 3 褐色粘質土 黒褐色土を少量含む 固く締まる
 4 黒褐色土 粘性締まりあり

第28表 天良七登遺跡2区1号掘立柱建物計測表

柱穴No.	幅員 (m)			形状	柱間の寸法 (m)
	長さ	幅径	深さ		
P 1	38	37	40	円形	P1-P2 1.65
P 2	49	38	41	楕円形	P2-P3 1.49
P 3	47	37	38	楕円形	P3-P4 1.45
P 4	38	36	78	円形	P4-P5 1.49
P 5	35	30	42	円形	P2-P5 1.49

された。P 1は長さ28cm、短径25cm、深さ34cmである。黒色土とローム粒を含む黒褐色土により埋没し柱痕は認められない。P 2は南半部が調査区外となり床面から掘り込まれている。確認できる直径は32cm、深さ15cmである。P 1からP 2の柱間は3.05mである。

掘り方 床面からローム面まで5～10cm掘り込まれ、大小の窪みがみられるが床下施設は認められなかった。
遺物出土状態 床面直上から高杯(第104図1)、壺(第104図2)、非掲載遺物は土師器片33gが出土した。

所見 炭化材が多量に出土するため焼失住居の可能性はある。出土遺物から時期は5世紀代と考えられる。

(2) 掘立柱建物

2区の掘立柱建物は1棟である。調査区西南端から検出された。1区北端部の掘立柱建物と隣接し関連が想定される。

1号掘立柱建物(第105図 PL.16)

位置 X=271～274、Y=-205～208

重複 なし。

規模・形態 2区南端から見つかった建物で、建物北東部のみ記録することができた。P 1・2・3を東辺として調査区西側に延びていく建物で東西2間かそれ以上の総柱建物と考えられる。柱間の計測値等は第28表のとおりであるが柱穴の規模は30～49cmの円形及び楕円形で、柱痕は直径15～31cmで、すべての柱穴から確認できた。東辺は3.14m、柱間は東辺、北辺ともに5尺である。

出土遺物 なし。

所見 全体の規模は不明で、出土遺物がなかったことから時期は特定できなかった。

(3) 土坑・ピット

2区から検出された土坑は4基、ピットは11基である。遺物出土や柱痕などの特徴が認められる土坑、ピットについて詳述する。すべての土坑及びピットは第30表(152～153頁)において記した。

1号土坑(第106図 PL.16)

平面形状は円形である。埋没土は黒褐色土やローム塊を含む砂質の黒褐色土による人為的埋没土と考えられる。非掲載遺物は土師器片が出土する。断面形状は長方形を呈する。形状・規模から井戸の可能性も考えられる。時期は不明である。

2号土坑(第106図 PL.16)

平面形状は円形。断面形状は浅い方形を呈する。埋没土は褐色土塊やローム塊を含む黒色土であり、人為的埋没土と考えられる。出土遺物はなく時期は不明である。

3号土坑(第106図)

形状は長方形を呈する。埋没土の確認状況から6・8号溝より3号土坑が古い。埋没土はローム塊を多量に含む黄褐色土や黒色土であり、人為的埋没土と考えられる。



第106図 2区1～4号土坑

出土遺物はなく時期は不明である。

4号土坑(第106図)

平面形状は不整形長方形を呈し、断面形状は浅い方形を呈する。10号溝と重複しており、埋没土の確認状況から4号土坑が古い。埋没土はレンズ状に堆積しており自然埋没土と考えられる。出土遺物はなく時期は不明である。

1号ピット(第107図)

5号溝と重複し、埋没土の確認状況から1号ピットの方が古い。平面形状は円形、断面形状は台形を呈していたと推定される。出土遺物はなく時期は不明である。

3号ピット(第107図)

3号ピット埋没土を3号土坑が切っていた。平面形状は長円形、断面形は台形を呈する。底面は平坦で、埋没は自然堆積と考えられる。

4号ピット(第107図)

形状は不整形円形、断面形状は浅い方形を呈する。埋没土はローム塊を含む黒褐色土と黒色土であり、人為的埋没土と考えられる。出土遺物はなく時期は不明である。

6号ピット(第107図)

平面形状は円形、断面形状は三角形を呈する。土層断面図1層は柱痕と考えられる。柱穴を想定できるが、掘立柱建物などを想定する他の柱穴は不明である。出土遺物はなく時期は不明である。

8号ピット(第107図)

平面形状は円形、断面形状は長方形を呈する。土層断面図1層は柱痕と考えられる。柱穴を想定できるが、掘立柱建物などを想定する他の柱穴は不明である。出土遺物はなく時期は不明である。

10号ピット(第107図)

平面形状は円形、断面形状は三角形を呈する。断面形状から柱穴を想定できるが、掘立柱建物などを想定する他の柱穴は不明である。出土遺物はなく時期は不明である。

11号ピット(第107図)

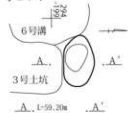
平面形状は円形、断面形状は三角形を呈する。断面形状から柱穴を想定できるが、掘立柱建物などを想定する他の柱穴は不明である。出土遺物はなく時期は不明である。

(4)溝・谷地

2区から検出された溝は12条である。2区は調査区中央から北に向かって落ち込む谷地状の地形を形成している。調査時には落ち込み部の底面は湛水していた。溝は

第3節 2区の調査成果

3号ピット

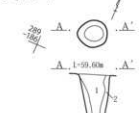


- 1 黒色土 1cm大のローム塊を含む 粘性締まりあり
- 2 黒色土 1層より明るい 粘性締まりあり
- 3 黒色土 1~3cm大のローム塊を含む 粘性締まりあり

- 1 黒色土 均質 粘性締まりなし
- 2 黒褐色土 1cm大のローム塊を含む 粘性締まりなし

- 1 黒色土 1~3cm大のローム塊を含む 粘性締まりあり

6号ピット



- 1 黒色土 均質 粘性締まりなし
- 2 黒褐色土 1cm大のローム塊を含む 粘性締まりなし

- 1 黒色土 1~3cm大のローム塊を含む 粘性締まりあり

8号ピット



- 1 黒色土 均質 粘性締まりなし
- 2 黒褐色土 3cm大のローム塊少量含む 粘性締まりなし
- 3 黒褐色土 ローム塊を多量を含む 粘性ややあり締まりなし

11号ピット



- 1 黒褐色土 柱痕か
- 2 1層と同色調だが暗褐色泥り固く締まる



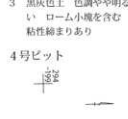
1号ピット



- 1 黒色土 ローム大塊を含む 粘性締まりあり
- 2 黒灰色土 ローム小塊少量含む 粘性締まりあり
- 3 黒灰色土 色調やや明るい ローム小塊を含む 粘性締まりあり

- 1 黒色土 1~3cm大のローム塊を含む 粘性締まりあり

4号ピット



- 1 黒色土 均質 粘性締まりなし
- 2 黒褐色土 1cm大のローム塊を含む 粘性締まりなし

- 1 黒色土 1~3cm大のローム塊を含む 粘性締まりあり

- 1 黒色土 1~3cm大のローム塊を含む 粘性締まりあり

- 1 黒色土 1~3cm大のローム塊を含む 粘性締まりあり

- 1 黒色土 1~3cm大のローム塊を含む 粘性締まりあり

- 1 黒色土 均質 粘性締まりなし
- 2 黒褐色土 3cm大のローム塊少量含む 粘性締まりなし
- 3 黒褐色土 ローム塊を多量を含む 粘性ややあり締まりなし

- 1 黒褐色土 柱痕か
- 2 1層と同色調だが暗褐色泥り固く締まる

- 1 黒褐色土 柱痕か
- 2 1層と同色調だが暗褐色泥り固く締まる

- 1 黒褐色土 柱痕か
- 2 1層と同色調だが暗褐色泥り固く締まる

- 1 黒褐色土 柱痕か
- 2 1層と同色調だが暗褐色泥り固く締まる

- 1 黒褐色土 柱痕か
- 2 1層と同色調だが暗褐色泥り固く締まる

第107図 2区1・3・4・6・8・10・11号ピット

この谷地の底面および南側の台地縁辺傾斜部から検出されており、谷地を人工的に開削して利用していたことが考えられる。以下に溝及び谷地について詳述する。

1号溝(第108図)

X=308~310, Y=-204~209位置する。2号溝と重複しており、土層断面の観察から1号溝が新しい。1号溝は東西方向の溝で、底面の標高は西端58.66m、東端58.56m、比高10cmであり、底面の傾斜はほとんどみられない。検出できた規模は、長さ4.60m、上端幅1.85~2.00m、深さ24~52cmである。埋没土の上位層はローム塊を含む黒色土から黒褐色土、下位層は黒色土や黒褐色土による自然堆積と考えられる。底部に水流の痕跡は認められない。遺物は埋没土から杯(第108図1)、非掲載遺物は土師器片312g、須恵器片721gが出土した。出

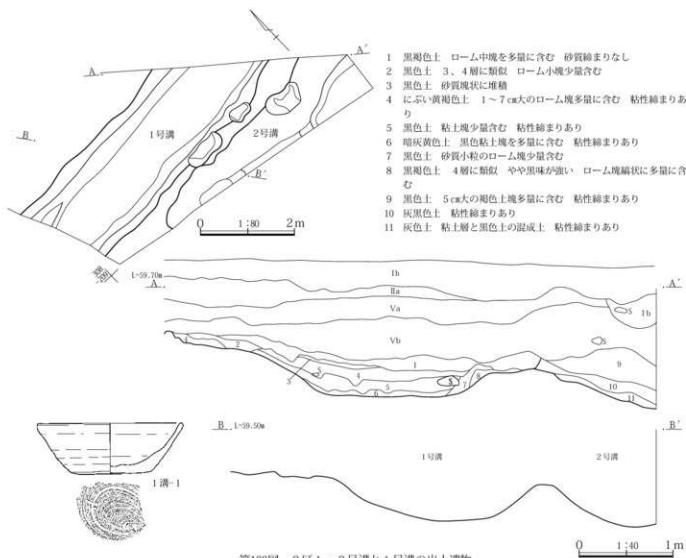
土遺物や埋没土から時期は平安時代と考えられる。

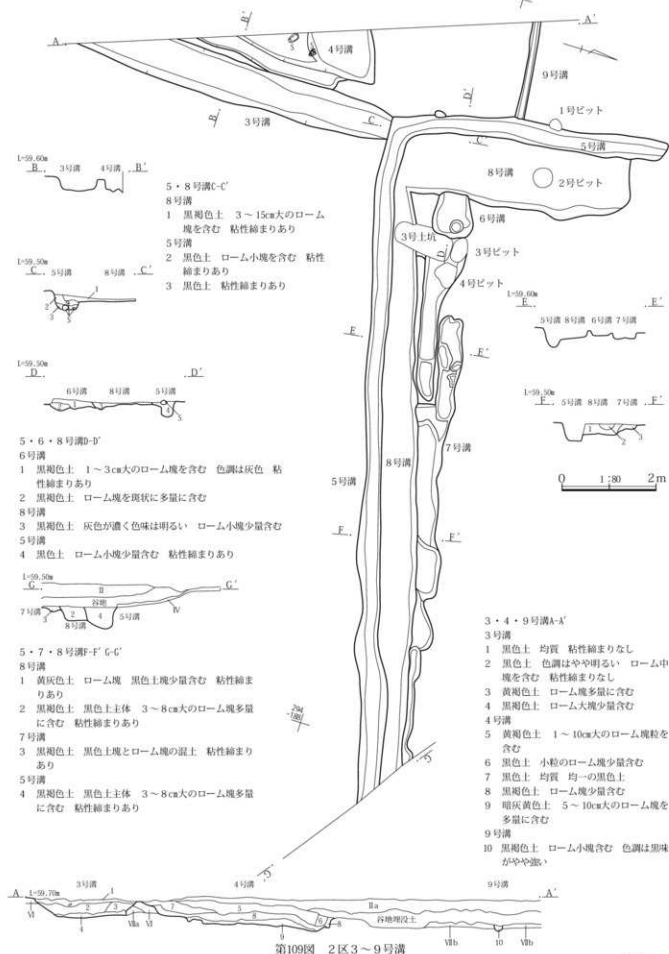
2号溝(第108図 PL.16)

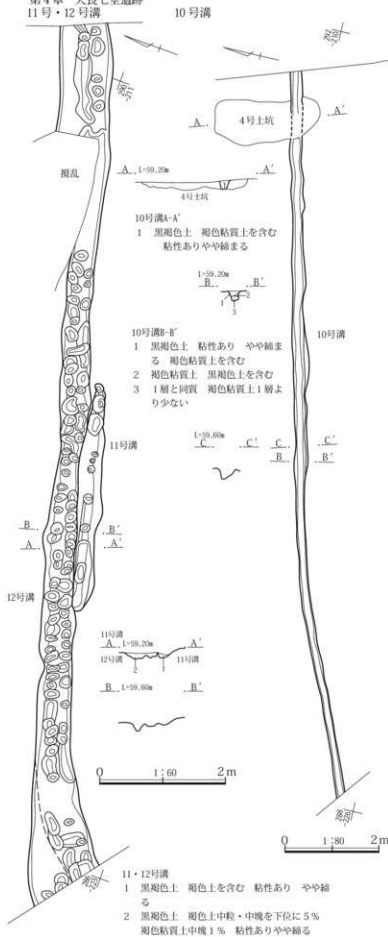
X=307~308, Y=-202~207に位置する。2号溝埋没土が1号溝に切られる。東西方向の溝で、底面の標高は西端58.93m、東端58.26m、比高67cmである。勾配は12.74%であり、底部に水流の痕跡が認められない。検出できた長さは5.26m、上端幅1.44m以上、深さ29~54cmである。レンズ状の堆積が認められたことから自然埋没と考えられる。1号溝との重複関係から平安時代以前の溝と考えられる。

3号溝(第108図 PL.16)

X=285~292, Y=-200~201に位置する。5号溝との新旧関係は不明。だが、5号溝屈曲部へ合流した可能性が高い。溝の方向は南北方向で、底面の標高は南端59.28m、北端59.15m、比高13cmである。勾配は1.90%







第110図 2区10・11・12号溝

でありわずかに南から北に緩やかに傾斜していた。検出された長さは6.86m、上端幅0.50～0.92m、深さ22～31cmである。埋没土に水流の痕跡は認められなかった。非掲載遺物は土師器小破片48g、須恵器大破片39gが出土する。時期は不明である。

4号溝(第109図)

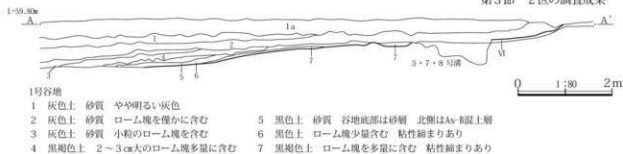
X=287～291, Y=-200～202に位置する。1号谷地と重複し、埋没土の確認状況から4号溝が古い。南北方向の溝で、底面の標高は南端59.29m、北端59.16m、比高13cmである。底面の勾配は4.29%で南から北に傾斜していた。検出できた長さは3.03m、上端幅0.36～1.16m、深さ12～26cmである。埋没土はローム塊を含む黒褐色土から黄褐色土による自然埋没と考えられるが、水流の痕跡はなかった。出土遺物はなく、時期は不明である。

5号溝(第109図)

X=292, Y=-186～201に位置する。5号溝埋没土が8号溝を切る。1号谷地より5号溝が古い。東西方向から西端で直角に北に向きを変え、北端で谷に直交して流れ込む。底面の標高は西端58.72m、東端58.66m、比高6cm、北端の標高は58.64m、西端との比高8cmであり、ほぼ平坦である。西端の標高がやや高く東端、北端が低いいため区画溝と考えられる。検出できた長さは20.20m、上端幅32～60cm、深さ30～44cmである。埋没土はローム塊を含む黒色土で、自然堆積と考えられる。遺物の出土はなく、時期は不明である。8号溝の南側及び西側に隣接して、同走向であることから、8号溝の掘り直しと考えられる。

6号溝(第109図)

X=283～294, Y=-195～199に位置する。6号溝埋没土が8号溝に切られる。東西方向の溝で、



第111図 2区1号谷地

底面標高は東端59.01m、西端58.87m、比高14cmである。底面の勾配は3.15%であり東から西に傾斜していた。検出できた長さは4.44m、上端幅30~88cm、深さ10~14cmである。埋没土はローム塊が多く、人為的堆積と推定される。出土遺物はなく時期は不明である。本来、7号溝と同一だった可能性が高い。

7号溝(第109図)

X=294~296、Y=-187~197に位置する。西側に平行する8号溝に切られる。東西方向の溝で、底面の標高は西端58.97m、東端58.93m、比高4cmである。底面はほぼ平坦で僅かに西から東に緩やかに傾斜していた。検出された長さは9.58m、上端幅10~84cm、深さ6~15cmである。埋没土は黒色土とローム塊の混成土を含む黒褐色土で、人為的埋没土の可能性ある。出土遺物はなく、時期は不明である。8号溝の前身であった可能性がある。

8号溝(第109図)

X=292~297、Y=-187~201に位置する。8号溝埋没土が7号溝を切る。5号溝に切られている。東西方向の溝が直角に北に向きを屈曲する。底面の標高は西端58.91m、東端58.81m、比高10cm、北端の標高は58.81m、西端との比高10cmで、底面はほぼ平坦であった。西端の標高が高く東端、北端がわずかに低いため区画溝と考えられる。検出された溝の長さは17.76m、上端幅0.40~1.48m、深さ10~27cmである。埋没土はローム塊を多量に含む黒褐色土で、人為的埋没土の可能性ある。出土遺物はなく、時期は不明である。5号溝の前身と考えられる。

9号溝(第109図 PL.16)

X=294、Y=-201~203に位置する。5号溝(8号溝)に直交して合流する。東西方向の溝で、底面の標高は西端58.96m、東端58.93m、比高3cmである。底面はほぼ平坦であった。検出された長さは2.10m、上端幅15~20cm、深さ6cmである。埋没土はローム小塊を含む黒褐色土で、

自然堆積と考えられる。水流の痕跡は認められなかった。出土遺物はなく、時期は不明である。

10号溝(第110図)

X=288~292, Y=-211~225に位置する。4号土坑埋没土を10号溝が切る。東西方向の溝で、底面の標高は西端58.92m、東端58.91m、比高1cmである。東西に走る谷に沿って走向し、9号溝に連続すると思われる(第103図参照)。検出できた長さは15.50m、上端幅16~34cm、深さ16~20cmである。底面標高にほとんど高低差が認められないが、5号溝に合流する水路と考えられよう。ただし、埋土に水流の痕跡は認められなかった。出土遺物はなく、時期は不明である。

11号溝(第110図)

X=287~288, Y=-215~219に位置する。12号溝と平行しており、どちらかが掘り直し溝と考えられる。東西走向の溝で、底面の標高は東端59.08m、西端59.04m、比高4cmと、底面の傾斜はみられない。検出できた規模は、長さ3.62m、上面幅16~42cm、深さ4~12cmである。底面には、ビット状の掘削痕跡が認められた。褐色粘質土を含む黒褐色土で埋没しており、水流の影響を受けた可能性がある。埋没土が12号溝と類似しており時期が近い可能性があるが、出土遺物はなく時期は不明である。

12号溝(第110図)

X=286~291, Y=-210~223に位置する。10号溝と2.5mの間隔で逆走しており、道路側溝とも考え得る。東西に走行する溝で、底面の標高は西端59.11m、東端59.03m、比高8cmで、底面の傾斜はほとんどみられない。検出できた長さは14.00m、上端幅0.40~1.22m、深さ6~23cmである。底面には、ビット状の2列の掘削痕跡が検出された。埋没土は11号溝埋没土に類似し、水流の影響で生成された堆積状況を示す。道路側溝ならば、推定東山道2ルートに挟まれて平行することになる。出土遺物はなく、時期は不明である。

1号谷地(第111図)

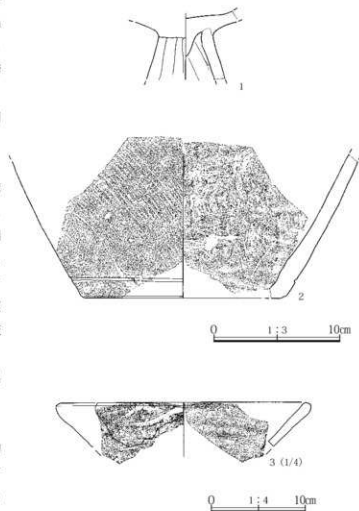
X=291~299, Y=-185~204に位置する。人工的な遺構ではないが、遺構のある古墳時代以降利用されてきたものと推定される。検出された1号谷地は北西から南東方向で、上端幅約25m、深さ1m以上である。埋没土の上層はローム塊を含む砂質の灰色土であり、下層に

かけAs-Bを含む中世の土層で埋没する。この谷地は3区へも続き、大きく蛇行するように流れていた。東山道の牛堀・矢ノ原ルートと下新田ルートに平行して挟まることから、路線上の障害となっただろう。

2 遺構外の遺物(第112図)

古墳時代から奈良・平安時代の遺物は、遺構確認面でも出土しており、そのうち高杯(第112図1)、甕(第112図2)を図示した。非掲載遺物の総重量は、土師器片338g、須恵器片646gである。石器は出土しなかった。

中世から近世の遺物は、遺構確認面から近世の国産施釉陶器9点、国産磁器3点、近現代の陶磁器7点、土器類3点が出土した。周辺に中世から近世の遺構の存在が想定される。ここでは13世紀の片口鉢(第112図3)を図示した。



第112図 2区遺構外の出土遺物

第4節 3区の調査成果

3区は、南西に谷を臨む緩い傾斜面で、古墳時代以降の遺構群が検出されている。

1 古墳時代以降の遺構と遺物

3区で検出された古墳時代から近世に至る遺構は、竪

穴住居4軒、掘立柱建物1棟、土坑24基、ピット36基、井戸1基、溝24条、谷地1カ所である。以下のとおり遺構ごとに記す。

(1) 竪穴住居

3区において検出された竪穴住居は4軒で、谷地北東縁辺部に分布する。調査区外及び重複遺構のため部分的な調査となった竪穴住居もあるが、時期は8世紀～9世紀である。竪穴住居は、発掘調査による番号順に掲載した。



1号竪穴住居(第114図 PL.18)

位置 X=317~320, Y=-243~246

形状・規模 後世の削平及び重複遺構のため全体の形状や規模は不明。平面形状は方形あるいは長方形を想定できる。全体を調査できた東壁の長さは3.37m、壁高1~15cmであった。

重複 1号竪穴住居西半部は2号竪穴住居に切られており、1号竪穴住居の方が古い。4号土坑とも重複し、1号竪穴住居が新しい。

埋没土 後世の削平のため残存状態は不良であった。

床面 床面は不明瞭であるが平坦である。掘り方は褐色土塊や白色粒を含む黒褐色土により床面を構築していた。

炉・竈・貯蔵穴・柱穴・周溝 床面精査及び掘り方調査で検出されなかった。

掘り方 床面からローム面まで約5~10cm掘り込まれる。中央部や北寄りに方形の掘り込みが認められるが床下施設は検出されなかった。

遺物出土状態 埋没土から杯(第114図1)、壺(第114図2)が出土した。ほかに非掲載遺物は土師器片27g、須恵器片5gが出土する。

所見 出土遺物から時期は9世紀前半と考えられる。

2号竪穴住居(第115図 PL.18)

位置 X=313~320, Y=-244~250

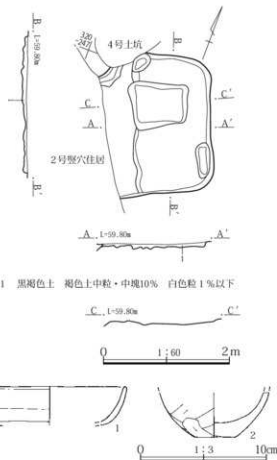
形状・規模 9号溝との重複のため全体の形状や規模は不明。平面形状は方形あるいは長方形を想定できる。全形を確認できた東壁の長さは6.50m、北壁の長さは4.15m、壁高1~17cmである。

重複 2号竪穴住居が1号竪穴住居西壁を切り、9号溝が2号竪穴住居を切っている。13号溝が住居中央部で北西から南東にかけて貫通しているが、2号竪穴住居との新旧関係は不明である。

埋没土 東半部の埋没土は1号竪穴住居に類似する。ローム粒・塊及び白色粒を含む黒褐色土で埋没していたが、自然堆積か人為埋没かは不明である。

床面 後世の削平により残存状態は不良。3層上面が床面と想定され、東壁から中央部にかけて3~4cm緩やかに低かった。掘り方はローム土と黒褐色土の混土により床面を構築し固く締まっていた。

炉・竈・貯蔵穴・周溝・柱穴 床面精査および掘り方調



第114図 3区1号竪穴住居と出土遺物

査を実施したが検出されなかった。

掘り方 床面からローム面まで約5cm掘り込まれ、床下施設は検出されなかった。

遺物出土状態 埋没土から杯(第115図1)、壺(第115図2)が出土した。ほかに土師器片161g、須恵器片14gが出土した。

所見 出土遺物から時期は9世紀後半と考えられる。

3号竪穴住居(第116図 PL.18)

位置 X=323~326, Y=-255~259

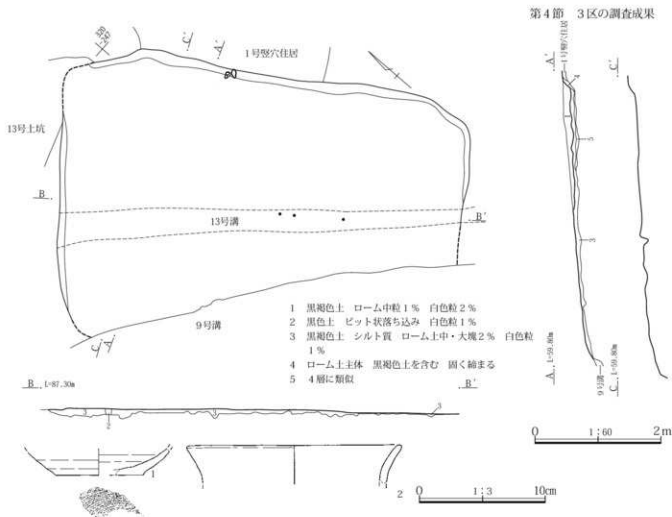
形状・規模 後世の削平により残存状態は不良。南西側は攪乱のため一部が失われていた。平面形状は不明といわざるを得ない。検出された規模は長軸長4.46m、短軸長3.56m、深さ1~8cm、床面積は11.74㎡である。

主軸方向 N-51°-W

重複 なし。

埋没土 後世の削平により埋没状況は不明である。

床面 後世の削平のため床面は不明瞭であった。壁際から中央部周辺は3~5cm低かった。掘り方は黒褐色土と



第115図 3区2号竪穴住居

褐色土の混土で床面を構築していた。

炉・竈・貯蔵穴・周溝 床面精査及び掘り方調査を実施したが検出されなかった。

柱穴 床面精査によりビット4基、掘り方調査により1基が検出された。いずれも楕円形で、規模(長径×短径×深さ(cm))は、P 1 (22×15×21)、P 2 (23×15×16)、P 3 (25×22×27)、P 4 (30×16×16)、P 5 (24×22×8)である。埋没土はローム粒・塊を含む黒褐色土である。2.01m離れたP 1とP 4は、形状からすれば柱穴の可能性があり、住居形状が不明確なため確定できなかった。

床下の状態 南側に土坑状の落ち込みが認められるが床下施設は検出されなかった。

遺物出土状態 床面直上から杯(第116図1)が出土した。ほかに土師器片132g、須恵器片28gが出土した。

所見 出土遺物から時期は8世紀前半と考えられる。

4号竪穴住居(第117・118図 PL.18)

位置 X=328～332、Y=271～282に位置する。

形状・規模 谷部の後世の削平により南側は未検出であ

るが、方形と推定される。確認できた北壁の東西長は10.44m、壁高7～47cmである。

重複 24号土坑と重複し、新旧関係は不明。

埋没土 埋没土はローム塊を含む褐色土で、レンズ状の堆積が認められ自然堆積と考えられる。

床面 壁際より中央部周辺は約10cm緩やかに低かった。

炉・竈・貯蔵穴・周溝・柱穴 床面精査および掘り方調査で検出されなかった。

遺物出土状態 埋没土から杯(第118図1)、杯蓋(第118図2)、甕(第118図3)が出土した。ほかに土師器片585g、須恵器片75gが出土する。

所見 出土遺物から時期は8世紀後半と考えられる。

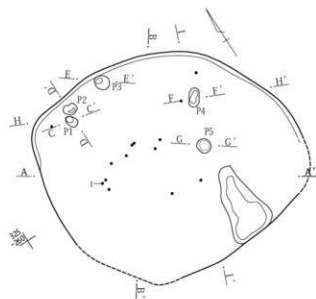
(2) 掘立柱建物

3区から検出した掘立柱建物は1棟のみである。調査区北側に位置している。

1号掘立柱建物(第119図 PL.18)

位置 X=345～351、Y=-269～275

重複 柱穴P 6が16号溝と、北西側で17号溝と重複し、



A. 1:60.30m

B. 1:60.30m

- 1 暗褐色土 10cm大の黄褐色塊を含む 粘性やや弱く締まりあり
- 2 黒褐色土 粘性ややあり締まりあり
- 3 黒褐色土 締まりあり
- 4 褐色土 地山ローム土と黒褐色土の混土
- 5 黒褐色土 褐色土中粒・小塊2%

I-I' 1:60.30m

I. 1:60.30m

I. 1:60.30m

P1
1 黒褐色土 に赤い黄褐色土中粒2%
粘性ややあり

P2
2 黒褐色土 ローム粒中心付近に含む
粘性あり

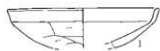
P3
3 黒褐色土 ローム粒1% 粘性あり

P4
4 黒褐色土 褐色土中粒・大塊10%

P5
1 黒褐色土 褐色ローム土中塊15%

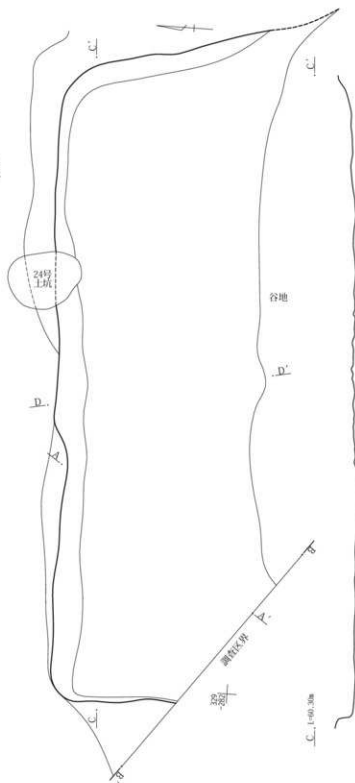
2 ローム主体 黒褐色土を含む

0 1:60 2m



0 1:3 10cm

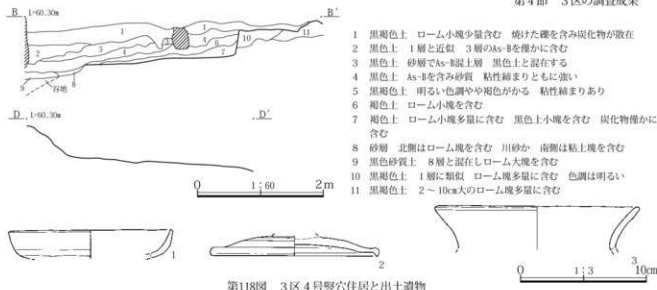
第116図 3区3号竪穴住居と出土遺物



A. 1:60.30m

0 1:60 2m

第117図 3区4号竪穴住居



第118図 3区4号竪穴住居と出土遺物

新旧関係は不明である。

主軸方向 N-77°-W

規模・形態 南辺4.75m、東辺4.63mのいわゆる側柱建物である。16・17号溝との重複のため未検出の柱穴もあるが、東西3間、南北3間と推定される。柱穴の計測値等は第30表のとおりである。柱穴は32～38cmの円形及び楕円形で、直径11～22cmの柱痕がP 8以外において確認できた。北辺と南辺の柱間は、ともに5尺である。東辺はP 4～P 5間が6尺、P 5～P 6間は10尺と長いので間に柱があった可能性が高い。

出土遺物 なし。

所見 時期の特定はできなかった。

(3) 土坑・ピット

3区から検出した土坑は24基、ピットは36基である。遺物出土や平面形状に特徴が認められる土坑、ピットについて詳述する。すべての土坑及びピットは第30表(152・153頁)において記す。

4号土坑(第120図 PL.18)

1号竪穴住居よりも古い。形状は長楕円形を呈する。底面は平坦であり壁は中段まで垂直となり開口部にかけて斜めに立ち上がる。埋没土にはレンズ状の堆積が認められることから、自然埋没と考えられる。出土遺物は、掲載しなかったが、土師器片132g、須恵器28gが出土した。重複関係から1号竪穴住居より古い、時期を確定することはできなかった。

5号土坑(第120図)

3号溝と重複し3号溝が新しい。平面形状は長楕円形

を呈する。下層は褐色粘質土塊を多く含み中層から上層はローム粒・塊を含む黒褐色土による自然堆積と考えられる。出土遺物は、掲載しなかったが土師器片14gである。時期は遺物からも確定することはできなかった。

6号土坑(第120図)

平面形状は、長楕円形を呈する。埋没土には、レンズ状堆積が観察できることから自然堆積と考えられる。出土遺物は、掲載しなかったが土師器片43gである。時期は遺物からも確定することはできなかった。

7号土坑(第120・121図 PL.18)

平面形状は円形を呈する。断面形状から井戸の可能性も考えられる。中央部にローム粒を含む帯状のにぶい黄褐色土が認められ、上下に明確に分層することができることから、人為的埋没の可能性が高い。埋没土中から台付甕(第121図7坑-1・2)が出土した他、土師器片77gが出土した。台付甕は古墳時代前期のものであるが、少量であり、遺構の時期を確定することはできず、時期不明である。

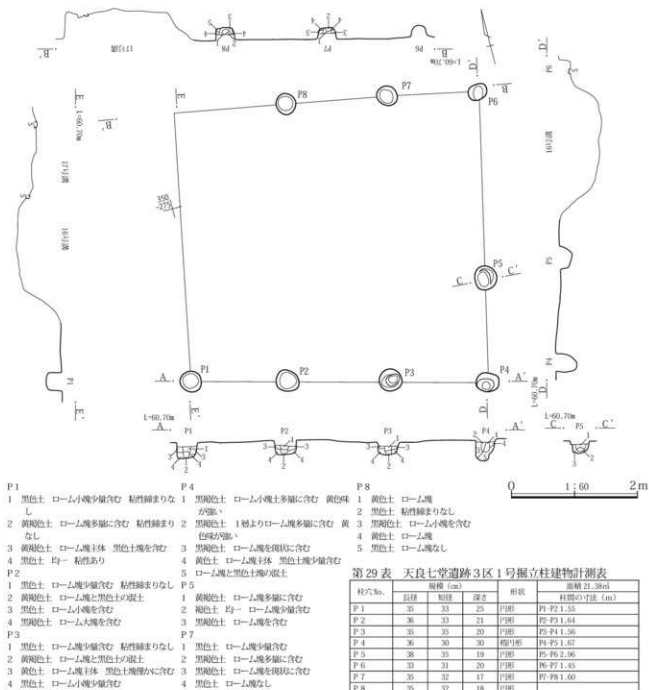
8号土坑(第121図)

平面形状は隅丸長方形を呈する。埋没土は、ローム粒・塊を含む黒褐色土がレンズ状堆積しており、自然堆積と考えられる。出土遺物はなく、時期不明である。

9号土坑(第121図 PL.18)

平面形状は円形で、断面形状は浅い方形を呈する。5号溝と重複し、新旧関係は不明である。ローム粒・塊を含む黒色砂質土主体で、堆積状況から人為的埋没と考えられる。遺物は埋没土中から中世の皿(第121図9土-1)

第4章 天良七堂遺跡



第119図 3区1号掘立柱建物

が出土した他、土師器片30gが出土している。時期は、出土遺物から中世以降と考えられる。

12号土坑(第121図)

平面形状は不整長円形で、断面形状は浅い方形を呈する。7・8号溝と重複し、埋没土の確認状況から12号土坑が新しい。灰黄褐色土粒・塊を含む黒褐色土で埋没しており、堆積状況から人為的埋没と考えられる。出土遺物は、掲載しなかったが埋没土中から土師器片8g、須恵器片3gが出土した。時期は、埋没土の状況が9号土

坑に類似しており、中世以降の可能性はあるが、遺物からは確定することができなかった。

13号土坑(第121図)

2号竪穴住居と重複し13号土坑が新しいと考えられる。平面形状は不整長方形で、断面形状は浅い方形を呈する。褐色土粒・塊、白色粒を含む黒褐色土で埋没しており、堆積状況から人為的埋没と考えられる。出土遺物はなく、時期を確定することはできなかった。

14号土坑(第121図 PL.19)

平面形状は円形を呈する。17号溝と重複し新旧関係は不明。底面や壁面、埋没土に多量の礫が含まれ、人為的埋没と考えられる。出土遺物は、掲載しなかったが土師器片7gが出土した。時期を確定できるような遺物出土がなかったため、時期不明である。

15号土坑(第121図)

16号溝と重複し、検出状況から15号土坑が新しい。ローム塊を多量に含む黒褐色土で埋没しており、堆積状況から人為的埋没土と考えられる。出土遺物はなく、時期の

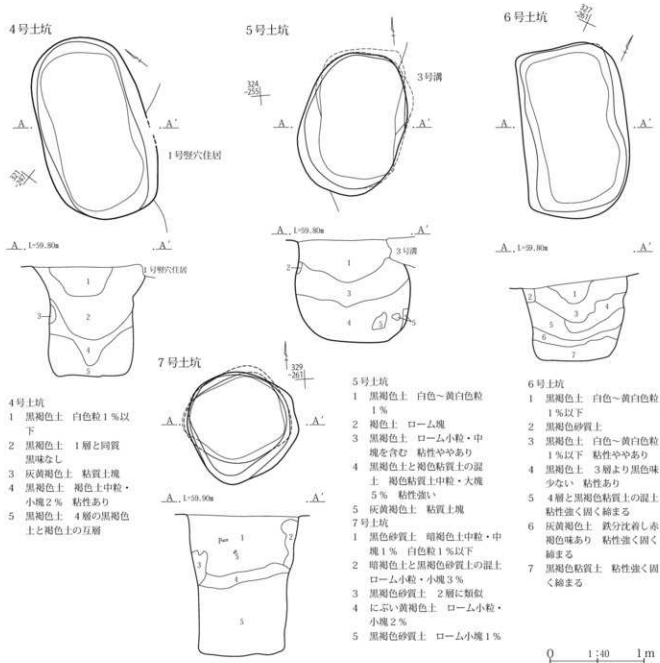
確定はできなかった。

22号土坑(第121図)

平面形状は長円形で、断面形状は台形を呈する。埋没土は、ローム粒を含む黒色土と黒褐色土で、堆積状況から自然堆積と考えられる。遺物出土はなく、時期は不明である。

24号土坑(第121図)

平面形状は楕円形で、断面形状は台形を呈する。4号竪穴住居と重複し新旧関係は不明。埋没土は、小礫を含む黒褐色土及び褐色土と黒色土の混土で、堆積状況から





第121図 3区8・9・12~15・22・24号土坑と7・9号土坑の出土遺物

自然堆積と考えられる。出土遺物は、掲載しなかったが土師器片18gが出土した。時期は遺物からも確定することができなかった。

8号ピット(第122図)

平面形状は円形で、断面形状は台形を呈する。1層の黒褐色土は、柱痕の可能性ある。遺物の出土はなく、時期の確定はできなかった。

26号ピット(第122図)

27号ピットと重複し、検出状況から27号ピットが新しい。平面形状は円形で、断面形状は台形を呈する。1層は柱痕の可能性があり、ローム塊を含む黒褐色土で埋没していた。遺物の出土はなく、時期を確定することはできなかった。

27号ピット(第122図)

26号ピットと重複し、検出状況から27号ピットが新しい。平面形状は円形で、断面形状は台形を呈している。3層は柱痕の可能性がありローム塊を含む黒褐色土で埋没していた。遺物の出土はなく、時期の確定はできなかった。

28号ピット(第122図)

平面形状は円形で、断面形状は台形を呈する。1層は柱痕の可能性があり、ローム塊を含む黒褐色土や黄色土で埋没していた。遺物の出土はなく、時期の確定はできなかった。

29号ピット(第122図)

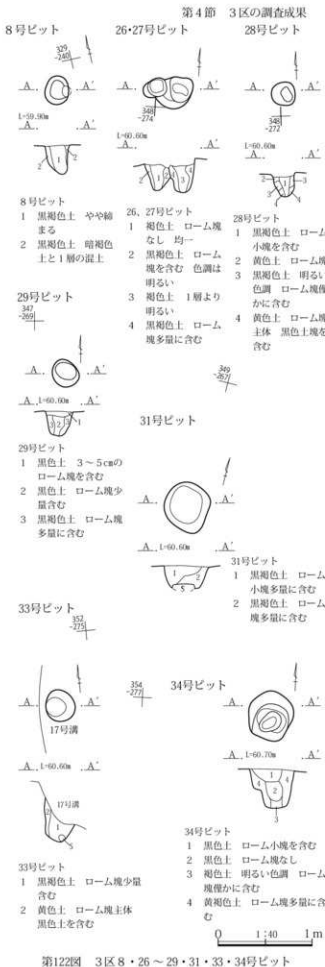
平面形状は円形で、断面形状は台形を呈する。2層は柱痕と見られ、ローム塊を多量に含む黒色土で埋没していた。遺物の出土はなく、時期を確定することはできなかった。

31号ピット(第122図)

平面形状は円形で、断面形状は浅い方形を呈する。ローム塊を多量に含む黒褐色土で埋没しており、人為的埋没と考えられる。埋没土中から砥石が1点(第123図31ピット1)出土し、笠松遺跡1区154号ピットから出土した砥石と接合した。出土した遺物は砥石だけであるため、時期を確定することはできなかった。

33号ピット(第122図)

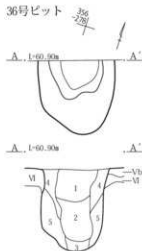
17号溝と重複し、埋没土の確認状況から33号ピットが古い。平面形状は円形を呈する。ローム塊を多量に含む黄色土及び黒褐色土で埋没しており、断面観察から人為的埋没と考えられる。遺物の出土はなく、時期を確定す



第122図 3区8・26～29・31・33・34号ピット

第4章 天良七堂遺跡

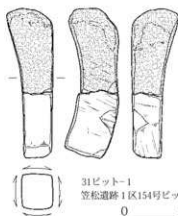
36号ピット



36号ピット

- 1 黒褐色土 均一土
- 2 黒褐色土 明るい色調 ローム小塊少量含む
- 3 黒褐色土 ローム塊を塊状に含む 全体的に黄色がかかる
- 4 黒褐色土 ローム塊を含む 明るい色調
- 5 黒褐色土 ローム塊多量に含む 色調は黄色味が強い

0 1:40 1m



31ピット-1
笠松遺跡1区154号ピット出土の砥石(トーン)と接合

0 1:3 10cm

第123図 3区36号ピットと31号ピットの出土遺物

ることはできなかった。

34号ピット(第122図)

平面形状は円形で、断面形状は台形を呈する。1～3層の黒色土及び褐色土は柱痕の可能性があり、ローム塊を含む黄褐色土で埋没していた。遺物の出土はなく、時期を確定することはできなかった。

36号ピット(第125図)

平面形状は長円形で、断面形状は円筒形を呈する。1～3層の黒褐色土は柱痕とみられ、ローム塊を含む黒褐色土で埋没していた。遺物の出土はなく、時期を確定することはできなかった。

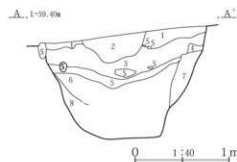
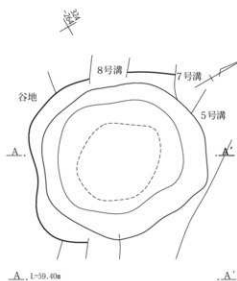
(4) 井戸

1号井戸(第124図 PL.19・36)

X=322～324, Y=-261～263に位置する。5・8号溝と重複し、1号井戸より5号溝が古く、8号溝が新しい。平面形状は不整形円形で、規模は直径1.86mで、深さは湧水のため底面まで調査できなかったので不明である。壁面は開口部にかけて斜めに立ち上がる。上層には礫を含むやや砂質の黒褐色土や黒褐色粘質土などがレンズ状堆積しており自然堆積と考えられるが、下層の埋没状況は不明である。埋没土中から鉄滓(第124図1井-1)が出土した他、土師器片23gが出土した。出土遺物から時期を確定することはできなかった。

(5) 溝・谷地

3区では溝24条及び谷地が検出された。出土遺物や埋没土の観察から、溝の時期は22条が奈良・平安時代、2



- 1 黒褐色土 やや砂質 褐色～黄褐色土小粒・小塊1% 焼土中粒 炭化物1%
- 2 黒褐色砂質土 ローム中粒・大塊1% 8号溝埋没土
- 3 黒褐色土と黄褐色砂質土の混土 ローム中粒・小塊1%
- 4 黒褐色土 ローム中粒・小塊2% 粘性あり
- 5 黒褐色粘質土 鉄分沈着あり にぶい黄褐色土小1% 粘性強い
- 6 黒褐色土 やや砂質 にぶい黄褐色土小塊1% 粘性あり
- 7 黒褐色土 やや砂質 にぶい黄褐色土中粒・大塊を含む
- 8 黒褐色粘質土 灰黄褐色土小～大塊10% 粘性強い

第124図 3区1号井戸と出土遺物

条が中世以降と考えられる。大規模な谷地が検出されたが、2区1号谷地と一連の谷地と考えられる。

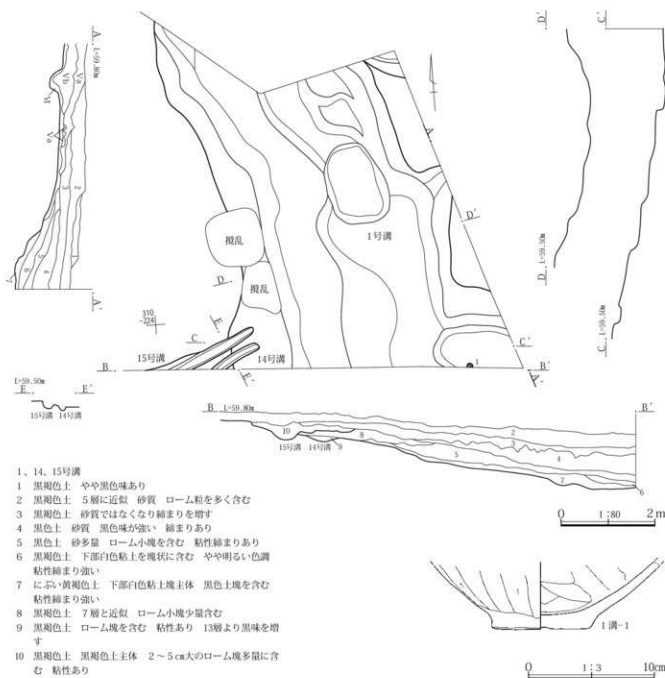
1号溝(第125図 PL.19・36)

X=308~316, Y=-216~225に位置する。14・15号溝と重複し、14号溝より新しく、15号溝より古いと考えられる。南北方向の溝で、底面の標高は北端58.65m、南端58.38m、比高27cmで北から南に傾斜していた。埋没土下層は砂質土で水流の痕跡が認められることから、南側に送水するための水路の可能性が高い。あるいは南側谷に合流する支流か。検出できた規模は、長さ7.68m、

上面幅3.92~5.80m、深さ0.12~1.07mである。埋没土は、ローム粒を含む黒色砂質土や黒褐色粘質土などであり、堆積状況から自然堆積と考えられる。遺物は、埋没土中から土師器の裏(第125図1溝-1)が出土した他、土師器片353gが出土した。位置関係や埋没土の類似から、2区北側で検出した1号溝とは直交して連続する位置関係にある。時期は、出土遺物から6世紀ないし7世紀以降と考えられる。

14号溝(第125図)

X=309, Y=-221~222に位置する。1号溝に直交



第125図 3区1・14・15号溝と1号溝の出土遺物

して合流する。断面観察及び埋没土の確認状況から14号溝が古いと考えられる。南西から北東方向の溝で、底面の標高は南西端59.13m、北東端59.11mと、底面はほぼ平坦である。検出できた長さは1.00m、上面幅26cm、深さ7～13cmである。ローム塊を含む黒褐色土で埋没しており、下層に水流の痕跡は認められないが、埋没状況は判然としな。時期は、1号溝より古い時期としか判断できない。

15号溝(第125図)

X=309、Y=-221～224に位置する。1号溝と重複し、15号溝が新しい。南西から北東に走行し、底面の標高は南西端59.18m、北東端59.15mで、底面に傾斜は見られず、埋没土下層にも水流の痕跡は認められないことから、水路とは考えにくい。検出できた長さは2.40m、上面幅18～32cm、深さ8～17cmである。ローム大塊を多量に含む黒褐色土で埋没しており、埋没土の状況から人為的埋没の可能性が高い。出土遺物はなく、時期を確定することはできないが、1号溝との重複関係から7世紀代以降の可能性がある。

2号溝(第126・127図 PL.19)

X=323～334、Y=-251～245に位置する。南北走行で3・24号溝、1号谷地と重複する。3号溝、1号谷地より新しいが、24号溝との新旧関係は不明である。底面の標高は北端60.25m、南端59.48m、比高77cm、6.42%の勾配で南に向かって傾斜しており、埋没土下層に水流の痕跡が認められることから、水路の可能性が高い。検出できた規模は、長さ12.00m、上端幅0.76～1.50m、深さ2～13cmである。南端は、谷地に合流しており、谷地に水を導くための溝と考えられる。埋没土は黒褐色砂質土で自然堆積と考えられる。遺物は埋没土から杯(第127図2溝-1)、甕(第127図2溝-2)が出土した。2は4号溝出土物と接合した。ほかに土師器片378g、須恵器片17gが出土した。出土遺物から溝の時期は7世紀と考えられる。

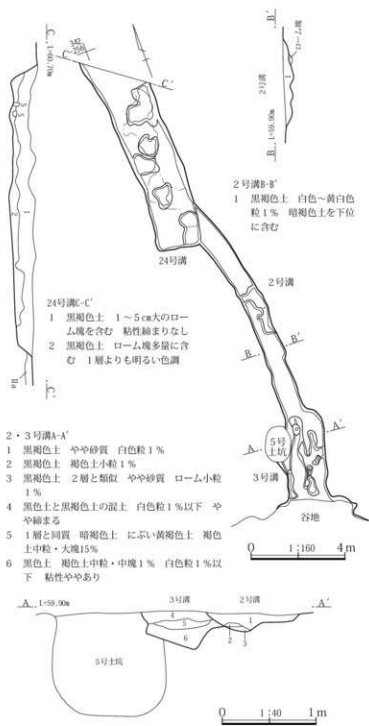
3号溝(第126図 PL.19)

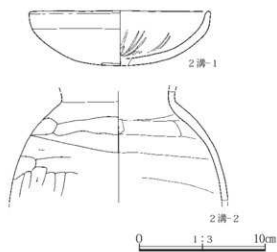
X=320～324、Y=-251～255に位置する。3号溝が5号土坑埋没土を切り、3号溝埋没土を2号溝が切る。南北方向の溝で、底面の標高は北端59.50m、南端59.33m、比高17cmである。勾配は4.80%であり北から南に傾斜していた。検出できた長さは3.54m、上端幅32～64cm、

深さ11～38cmである。南端は谷地に合流しており、2号溝と同様に谷地に導水するための溝とも考えられるが、底部に水流の痕跡は認められなかった。埋没土はレンズ状の堆積が認められ自然堆積と考えられる。出土遺物はなく2号溝との重複関係から時期は7世紀以前と考えられる。

24号溝(第126図)

X=332～340、Y=-251～256に位置する。2号溝と重複するが、新旧関係は不明である。南北方向の溝で、





第127図 3区2号溝の出土遺物

底面の標高は北端60.35m、南端60.11m、比高0.24mである。勾配は3.13%であり、高低差は僅かであるが北から南に傾斜していた。検出できた長さは7.68m、上端幅2.10m、深さ0.10～0.23mである。底面は平坦であり壁は斜めに立ち上がる。埋没土はローム大塊を多量に含む黒褐色土で、人為的埋没土と考えられる。水流の痕跡は認められなかった。出土遺物はなく時期は不明である。

4号溝(第129図 PL.19)

X=323～327、Y=-260～268に位置する。5号溝と重複し、4号溝埋没土を5号溝が切る。北西からやや屈折しながら南東に走行し、底面の標高は北西端59.36m、南東端59.29m、比高7cmである。僅かに北西から南に傾斜していた。南部を擾乱により失っていた。検出できた溝の長さは8.70m、上端幅0.26～1.16m、深さ6～13cmである。埋没土はローム粒・塊を僅かに含む黒褐色砂質土で、自然埋没土と考えられる。出土遺物はなく時期は不明である。

5号溝(第129図 PL.19)

X=323～327、Y=-261～269に位置する。4号溝埋没土を5号溝が切り、5号溝埋没土を6号溝、1号井戸が切る。9号土坑、8号溝との新旧関係は不明である。北西から蛇行して南東に走向し、後述の6～8号溝とともに谷の左岸に沿って走る。底面の標高は北西端59.17m、南東端59.11m、比高6cmである。検出できた長さは10.56m、上端幅46～74cm、深さ4～26cmである。底部には小ピット状の掘削痕が認められた。底部に水流の痕跡は認められなかった。出土遺物はなく時期は不明である。

6号溝(第129図 PL.19)

X=325～326、Y=-263～270に位置する。5号溝埋没土を6号溝が切り、6号溝埋没土を7号溝が切る。5・6・7号溝の順に新しい。東西方向の溝で、底面の標高は西端59.13m、東端59.06m、比高7cmである。高低差は僅かで西から東に傾斜していた。検出できた長さは8.00m、上端幅26～82cm、深さ4～17cmである。西端は谷地に合流しており傾斜からすると谷地から引水するための溝である可能性があるが、水流の痕跡は認められなかった。埋没土は5号溝に類似し、黄褐色土粒・塊を微量に含む黒褐色土であるが、自然堆積か人為的埋没かは不明である。埋没土中から土師器片7g、須恵器片4gが出土した。出土遺物はいずれも小破片で時期は確定できなかった。

7号溝(第129図 PL.19)

X=322～323、Y=-262～265に位置する。7号溝が6号溝埋没土を切り、7号溝埋没土を8号溝が切り、底面の標高は西端59.16m、東端59.06m、比高10cmである。勾配は2.78%であり底面は西から東に傾斜していた。検出できた長さは3.60m、上端幅24～58cm、深さ9～17cmである。埋没土は6号溝に類似し黄褐色土粒・塊を微量に含む暗褐色土で、自然堆積か人為的埋没かは不明である。水流の痕跡は認められなかった。出土遺物はなく時期は不明である。

8号溝(第128・129図 PL.19・36)

X=310～325、Y=-240～267に位置する。8号溝が7・9・10号溝、1号井戸埋没土を切る。中央部は削平のため不明瞭であるが、北西から南東方向の溝で、底面の標高は北西端59.16m、南東端59.09m、比高7cmである。底面はほぼ平坦で北西から南東にわずかに傾斜していた。走行方向や規模及び埋没土が類似することから6号溝とは一連の溝であろう。検出できた長さは28.23m、上端幅20～56cm、深さ3～29cmである。埋没土は黒褐色及び暗褐色砂質土であり、自然堆積と考えられる。底面には水成堆積層があり水流の痕跡が認められたことから、用水路の可能性もある。南側の底部に掘削痕跡も認められた。埋没土から須恵器杯(第128図8溝-1・2)、中世の皿(第128図8溝-3・4)が出土した。ほかに土師器片128gや金属製品1点が出土した。出土遺物から時期は中世と考えられる。

9号溝(第129図 PL.19)

X=310~316, Y=-242~249に位置する。9号溝埋没土を8号溝が切り、9号溝が13号溝埋没土を切る。埋没土の確認状況から2号竪穴住居より9号溝が新しい。北西から南東方向の溝で、後述の10~13号溝と平行して谷左岸に沿って走ることから4~8号溝と連続する可能性が高い。底面はほぼ平坦で僅かに北西から南東に傾斜していた。検出できた長さは8.90m、上面幅22~34cm、深さ9~17cmである。埋没土は黒褐色砂質土で、自然堆積と考えられる。水流の痕跡は認められなかった。埋没土から土師器片35g、須恵器片19gが出土した。いずれも小破片で時期は不明である。

10号溝(第128・129図)

X=310~315, Y=-244~249に位置する。8号溝と重複し、埋没土の確認状況から10号溝が古い。北西から南東方向の溝で、底面の標高は北西端59.14m、南東端59.14m、比高0cmで傾斜はない。底面は4.84%の勾配で南東から北西に傾斜しており、検出できた長さは6.40m、上端幅20~48cm、深さ3~14cmである。埋没土は黒褐色砂質土で自然堆積と考えられる。埋没土から杯(第128図10溝-1・2)が出土した。ほかに土師器片207g、須恵器片97gが出土した。出土した土師器片は8世紀代のものである。8号溝との重複から時期は中世以前と考えられる。杯破片は混入と考えられる。

11号溝(第129図 PL.19)

X=310~313, Y=-236~242に位置する。11号溝埋没土を12号溝が切る。北西から南東方向の溝で、底面の標高は北西端59.46m、南東端59.41m、比高5cmである。底面はほぼ平坦で、僅かに北西から南東に傾斜していた。検出できた長さは7.18m、上端幅24~44cm、深さ1~4cmである。埋没土はローム粒・塊を僅かに含む黒色砂質土であり、自然堆積と考えられる。出土遺物はなく時期は不明である。

12号溝(第129図 PL.19)

X=310~313, Y=-237~243に位置する。12号溝が11号溝埋没土を切る。北西から南東方向の溝で、底面の標高は北西端59.39m、南東端59.36m、比高3cmである。底面はほぼ平坦で僅かに北西から南東に傾斜していた。検出できた長さは6.80m、上端幅20~60cm、深さ2~9cmである。埋没土はローム中粒・塊を含むやや砂

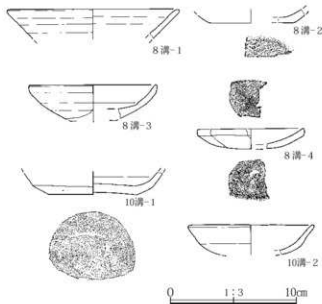
質の黒褐色土で自然堆積と考えられる。出土遺物はなく時期は不明である。

13号溝(第129図 PL.19)

X=310~313, Y=-240~245に位置する。13号溝埋没土を9号溝が切る。13号溝は2号竪穴住居を貫通しているが、新旧関係は不明である。北西から南東方向の溝で、底面の標高は北西端59.39m、南東端59.36m、比高3cmである。底面はほぼ平坦であり、僅かに北西から南東に傾斜していた。検出できた長さは5.70m、上端幅30~80cm、深さ2~6cmである。埋没土は単層であるがローム塊は認められなかった。自然堆積と考えられる。出土遺物はなく時期は不明である。

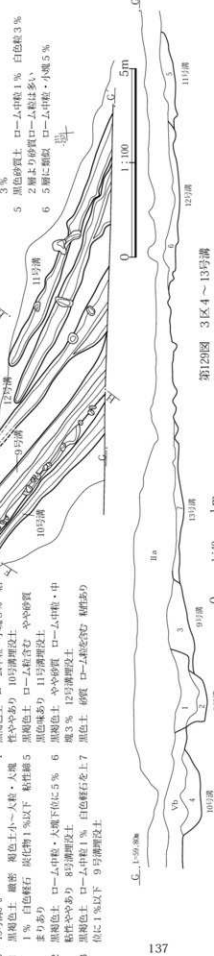
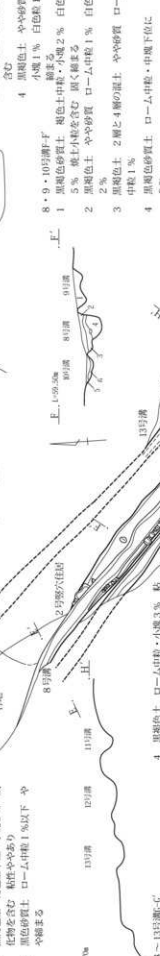
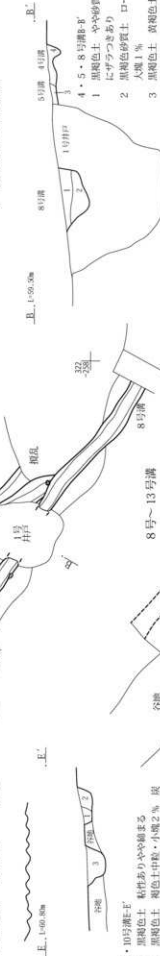
16号溝(第130・131図 PL.19・36)

X=345~350, Y=-265~304に位置する。19号溝埋没土を切り、17・20・22号溝に切られる。17号溝は南下して直交し合流する。埋没土の確認状況から15号土坑が新しい。東西方向の溝で、底面の標高は東端59.86m、西端59.80m、比高6cmである。底面はほぼ平坦で、僅かに東から西に傾斜していた。検出できた長さは39.36m、上端幅2.16~3.14m、深さ52~74cmである。埋没土の上層にAs-Bが堆積、底部に小礫を多量に含む水成堆積層があり、流水の痕跡が認められたことから、水路の可能性が高い。埋没土中から須恵器杯(第131図1~6)、皿(第131図7)、羽釜(第131図8)が出土した。ほかに土師器片132g、須恵器片470gが出土した。遺物は



第128図 3区8・10号溝の出土遺物

4号~8号溝



- 5~8号溝-A'
- 1 黒褐色土 ローム大粒層を含む 粘性や砂質 粘り強い
 - 2 黒褐色土 ローム大粒層 粘り強い
 - 3 暗褐色土 10cm以上のローム層を含む 粘り強い
 - 4 暗褐色土 粘り強い
 - 5 暗褐色土 粘り強い
 - 6 暗褐色土 粘り強い
 - 7 暗褐色土 粘り強い

- 8号溝
- 1 黒褐色土 粘り強い
 - 2 黒褐色土 粘り強い
 - 3 黒褐色土 粘り強い

- 8・9・10号溝下層
- 1 黒褐色土 粘り強い
 - 2 黒褐色土 粘り強い
 - 3 黒褐色土 粘り強い
 - 4 黒褐色土 粘り強い
 - 5 黒褐色土 粘り強い
 - 6 黒褐色土 粘り強い

- 8号溝
- 1 黒褐色土 粘り強い
 - 2 黒褐色土 粘り強い
 - 3 黒褐色土 粘り強い
 - 4 黒褐色土 粘り強い
 - 5 黒褐色土 粘り強い
 - 6 黒褐色土 粘り強い

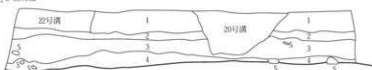
第128図 3区4~13号溝

8世紀後半から10世紀のものであり、用水路として使用されたものと考えら、推定東山道駅路に並行する位置関係で注目される。

17号溝(第132図 PL.19)

X=350~355, Y=-273~275に位置する。17号溝が16・18号溝埋没土を切る。14号土坑との新旧関係は不明。南北方向の溝であり、16号溝に合流し、また西から流れる18号溝が合流する。底面の標高は北端60.15m、南端60.05m、比高10cmである。勾配は1.69%であり僅かに北から南に傾斜していた。検出できた長さは6.96m、上端幅1.94~2.14m、深さ42~48cmである。埋没土は黒褐色砂質土や小礫、ローム塊を多量に含む。底面には礫が堆積しており、水流の痕跡が認められたことから、

A, L=60.50m



16号溝A-A'

- 1 黒褐色土 砂質 淡い色調 As-Bと思われる砂質土を含む
- 2 黄褐色土 黄色がかる砂質土 ローム塊を含む
- 3 黒色土 砂質 ローム塊を僅かに含む 粘性締まりなし
- 4 黒褐色土 ローム塊締まりあり 礫層の褐色砂質土塊を含む

B, L=60.50m



16号溝B-B'

- 1 黒褐色土 砂質
- 2 黒褐色土 1層に近似 ローム小塊を含む
- 3 黒褐色土 1、2層に近似 やや色調が暗い
- 4 灰黄褐色土 1~10cm大のローム塊多量を含む
- 5 におい黄褐色土 ローム塊主体 黒色土塊含む

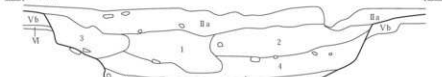
C, L=60.50m



16号溝C-C'

- 1 黒色土 ローム塊が主体
- 2 黒褐色土 黒色土主体 ローム塊少量 礫多量に含む 粘性締まりややあり

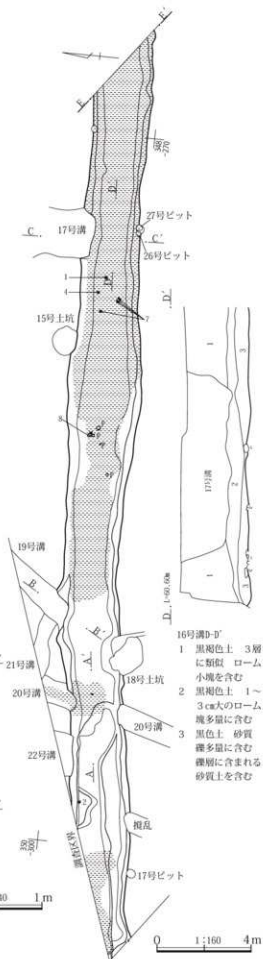
E, L=60.90m



16号溝E-E'

- 1 黒褐色土 黒色土塊を含む 淡い色調 粘性締まりなし
- 2 黒褐色土 砂質 淡い色調
- 3 暗褐色土 ローム粒・塊を多量に含む
- 4 黒褐色土 1cm大のローム塊を少量含む 礫少量含む 締まりあり
- 5 黒褐色土 1cm大のローム塊 礫多量に含む 締まりあり

0 1:40 1m

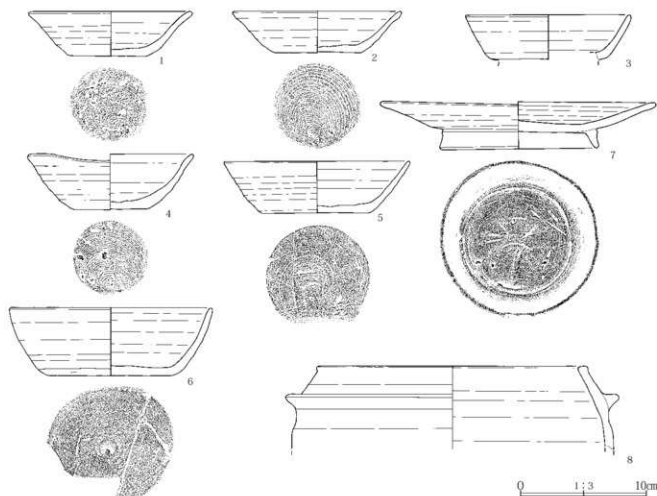


16号溝D-D'

- 1 黒褐色土 3層に類似 ローム小塊を含む
- 2 黒褐色土 1~3cm大のローム塊多量を含む
- 3 黒色土 砂質 礫多量に含む 礫層に含まれる砂質土を含む

0 1:160 4m

第130図 3区16号溝



第131図 3区16号溝の出土遺物

用水路の可能性が高い。断面形状と埋土の類似から16号溝と縦横水路を形成したと考えられる。遺物は14世紀頃の片口鉢1皿(第132図17溝-1)や近世の焙烙2点が出土し、時期は近世と考えられる。

18号溝(第132図 PL.19)

X=352~354, Y=-275~282に位置する。土層観察では18号溝埋没土を17号溝が切るが、不明瞭である。34号ピットとの新旧関係は不明。東西走向の溝であり、東端で17号溝に合流する。底面の標高は南東端60.53m、北西端60.43m、比高10cmである。勾配は1.46%で僅かに南東から北西に傾斜していた。検出できた長さは6.84m、上端幅1.10~1.30m、深さ5~18cmである。埋没土はローム塊を多量に含む黄褐色土や黒褐色土で、人為的埋没土と考えられる。水流の痕跡は認められなかった。出土遺物はなく時期の詳細は不明である。17号溝とは同時存在の可能性もある。

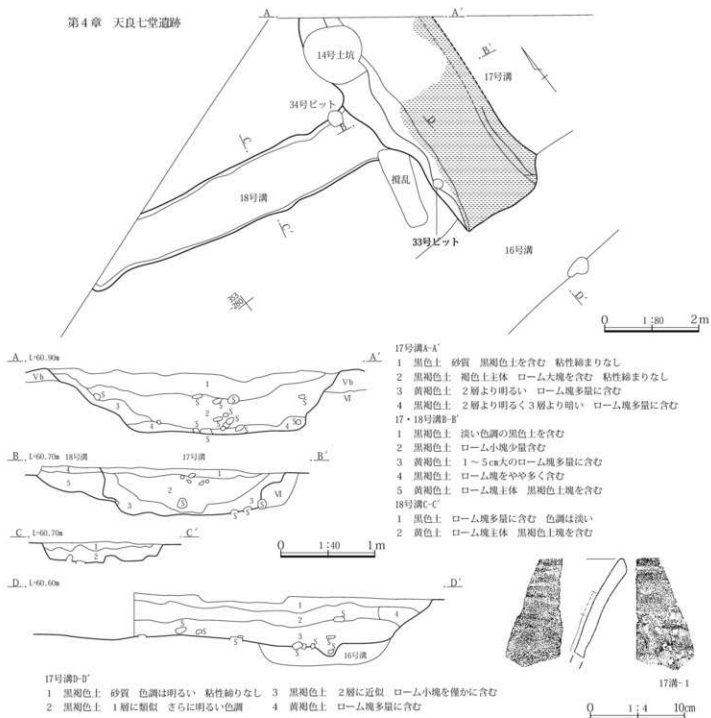
19号溝(第133図 PL.19)

X=349~352, Y=-288~291に位置する。19号溝

埋没土を16号溝が切る。北東から南西方向の溝で、底面の標高は北東端60.14m、南西端60.04m、比高10cmである。底面は北東から南西に傾斜していた。検出できた長さは3.56m、上端幅0.90~1.12m、深さ23~28cmである。埋没土はローム塊及び多量の礫を含む黒色土や黄褐色土であり、人為的埋没土と考えられる。水流の痕跡は認められなかった。出土遺物はなく時期は不明である。

20号溝(第133図 PL.19)

X=340~350, Y=-293~296に位置する。16号溝埋没土を20号溝が切る。北東から南西方向の溝で、底面の標高は北東端60.03m、南西端59.92m、比高11cmである。僅かに北東から南西に傾斜していた。検出できた長さは10.80m、上端幅0.80~1.80m、深さ40~45mである。埋没土は黒色砂質土やローム小塊を多量に含む黒色土であり、人為的埋没土の可能性が考えられる。水流の痕跡は認められなかった。出土遺物はなく時期は不明である。



第132図 3区17・18号溝と17号溝の出土遺物

21号溝(第133図 PL.19)

X=350, Y=-290~293に位置する。19号溝埋没土に21号溝埋没土が含まれないことから21号溝が古い。北西から南東方向の溝で、底面の標高は北西端60.13m、南東端60.18m、比高0.05mである。勾配は2.03%で高低差は僅かであるが南東から北西に傾斜していた。検出できた長さは2.46m、上端幅52~68cm、深さ17~20cmである。埋没土はローム大塊を多量に含む黄褐色土であり、人為的埋没土の可能性が考えられる。水流の痕跡は

認められなかった。出土遺物はなく時期は不明である。

22号溝(第133図 PL.19)

X=348~349, Y=-295~297に位置する。16号溝埋没土を22号溝が切る。南北方向の溝であり、底面の標高は北端60.23m、南端60.21m、比高2cmである。勾配は2.38%で高低差は僅かであるが北から南に傾斜していた。検出できた長さは0.84m、上端幅1.80m、深さ10~20cmである。埋没土はローム大塊を多量に含む黒褐色土であり、人為的埋没土の可能性が考えられる。水流の痕跡は認められな

かった。出土遺物はなく時期は不明である。

23号溝(第134図 PL.19)

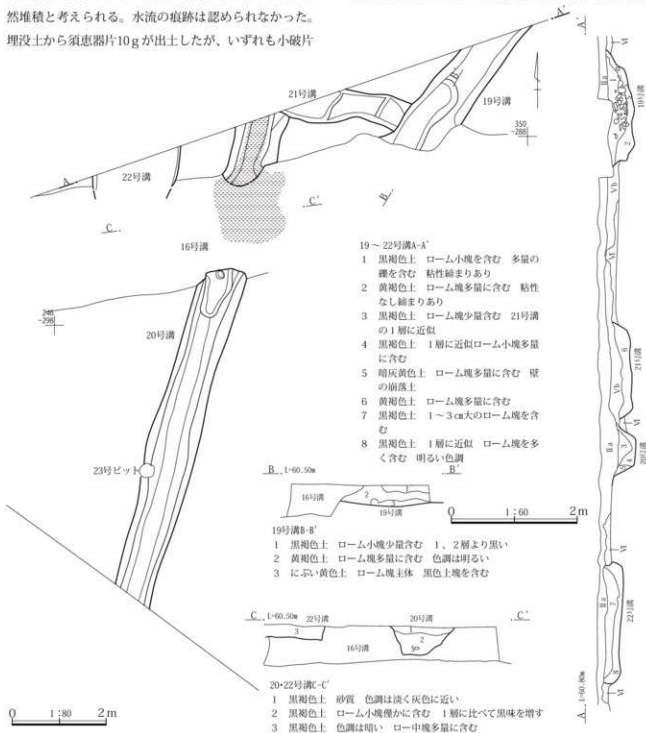
X=342~343, Y=-267~283に位置する。東西方向の溝で、底面の標高は東端60.49m、西端60.34m、比高15cmである。底面はほぼ平坦で僅かに東から西に傾斜していた。検出できた長さは16.76m、上端幅20~44cm、深さ4~25cmである。埋没土はローム塊を含む黒褐色土や黒色土であり、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。水流の痕跡は認められなかった。埋没土から須恵器片10gが出土したが、いずれも小破片

であり、時期は特定できなかった。

1号谷地(第134図)

X=310~321, Y=-246~258に位置する。扇状地端末部の湧水に伴う自然地形であり、3区から蛇行を繰り返して南下すると考えられる。2区及び上根遺跡5区の谷地は同一のものであろう。

3区では主軸方位N-48°-W、上端幅25m以上の谷地が長さ37mにわたって検出された。3区谷地北縁辺は、



8世紀後半の4号住居を谷地埋没土が切り込んでいる。4号住居廃棄以降に谷地を掘り開削して利用していたことが想定される。谷地と並行するように掘られた4～8号溝も時期は不明であるが、谷を利用するために谷脇の台地縁辺に掘削された溝群であろう。

谷埋没土は上層がAs-Bを含む黒色砂質土、下層は砂層・灰黄褐色土・黒褐色砂質土である。2区や上根遺跡の谷23号溝

地も埋没土上層にAs-B堆積層あるいはAs-B混土の堆積層が認められることから、As-B降下段階ではある程度の広さの谷地となっていたことが想定される。

2 遺構外の遺物(第135図 PL.36)

3区からは古墳時代から中近世に至る遺構が検出され、遺構外からも多数の遺物が出土した。縄文時代の遺構及び土器の出土はなかったが、打製石斧(第135図1・2)、石鎌(第135図3・4)、石核(第135図5)、非掲載遺物の剥片が出土したことから、周辺から縄文時代の遺構が検出される可能性がある。

3区では古墳時代から奈良・平安時代の遺構が主体として検出されたが、遺構に伴わない出土遺物も多かった。ここでは杯(第135図6)、椀(第135図7)、灰軸陶器椀(第135図8)、羽釜(第135図9)などを図示したが、掲載できなかった遺物の総重量は土器器片403g、須恵器片197gであった。

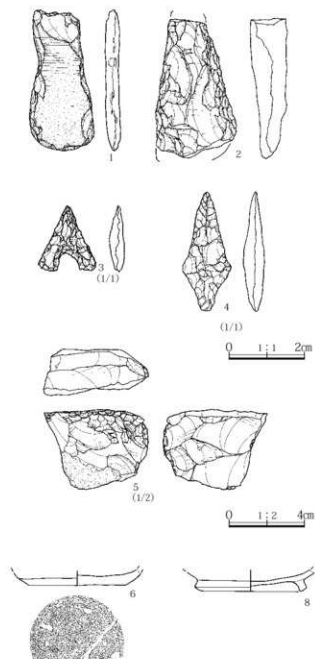
中世から近世の遺物は、掲載することはできなかったが遺構確認面などから近世の瀬戸美濃灯火皿、国産磁器2点、国産施軸陶器4点、近現代の陶磁器7点、十能瓦2点、時期不明土器類1点が出土した。



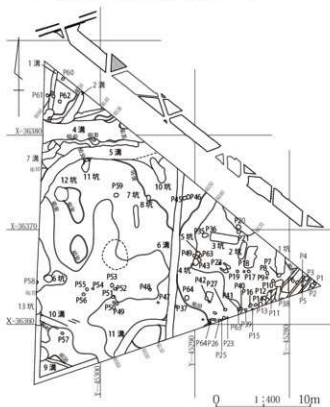
第134図 3区23号溝と1号谷地

第5節 4区の調査成果

4区はローム漸移層(基本土層第VI層)において遺構確認を行った。調査区北部は重複する溝が検出され、南部はピットを中心に分布する。古代から近世に至る土坑、ピット、溝などの遺構や遺物が検出された。



第135図 3区遺構外の出土遺物



第136図 天良七堂遺跡 4区全体図

1 古墳時代以降の遺構と遺物

古墳時代から中近世に帰属する遺構は、土坑13基、ピット65基、溝11条を数える。以下のとおり遺構ごとに記す。

(1) 土坑・ピット

4区から検出された土坑は13基、ピット65基である。調査区南端部からピットの検出が多い。4区で検出された土坑、ピットは、すべての土坑及びピットは第30表(152・153頁)において概略を記す。ここでは、重複や遺物、柱痕など特徴的な土坑及びピットについて詳述する。

1号土坑(第137図)

遺構の三分の一程度は調査区外であるが、平面形状は長方形を呈するものとみられ、断面形状は椀状を呈する。中央部分に段が認められ2基の土坑が重複する可能性がある。埋没土は、ローム粒・塊を含む暗褐色土であり、

人為の埋没土と考えられる。出土遺物はなく時期は不明である。

4号土坑(第137図 PL.20)

9号土坑、43号ピットと重複する。9号土坑との新旧関係は不明であるが、43号ピットの埋没土を4号土坑が切る。平面形状は長円形を呈し、断面形状は台形を呈する。埋没土はローム粒・塊を多量を含む暗褐色土砂質土であり、人為の埋没土と考えられる。非掲載遺物は土師器片が出土する。時期は不明である。

5号土坑(第137図 PL.20)

9号土坑、65号ピットと重複するが、新旧関係は不明である。平面形状は円形を呈し、断面形状は台形を呈する。埋没土はローム粒・塊を含む暗褐色土であり、人為の埋没土と考えられる。出土遺物はなく時期は不明である。

7号土坑(第137図 PL.20)

平面形状は長方形を呈し、断面形状は台形を呈する。埋没土はローム塊を含む暗褐色土であり、人為の埋没土と考えられる。非掲載遺物は須恵器片17gが出土する。時期は不明である。

9号土坑(第138図 PL.20)

65号ピットを切り、4・5号土坑、43号ピットと重複するが新旧関係は不明である。平面形状は楕円形を呈し、断面形状は台形を呈する。埋没土はローム粒・塊を含む暗褐色砂質土であり、人為の埋没土と考えられる。出土遺物はなく時期は不明である。

10号土坑(第138図 PL.20)

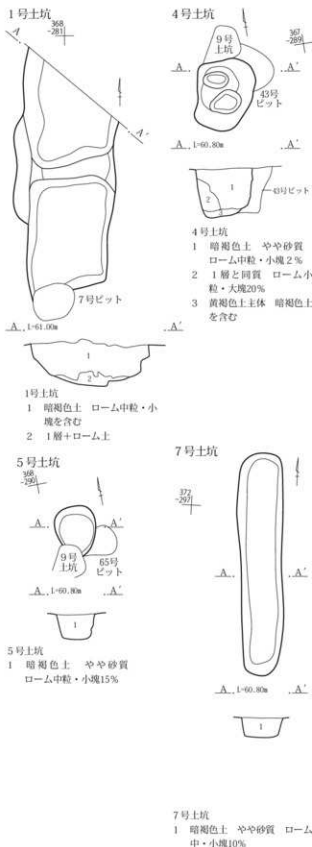
平面形状は不整長方形を呈し、断面形状は三角形を呈する。埋没土はローム粒・塊を少量含む暗褐色砂質土、暗褐色土とローム土の混土による人為的埋没と考えられる。出土遺物はなく、時期は不明である。

12号土坑(第138図 PL.20)

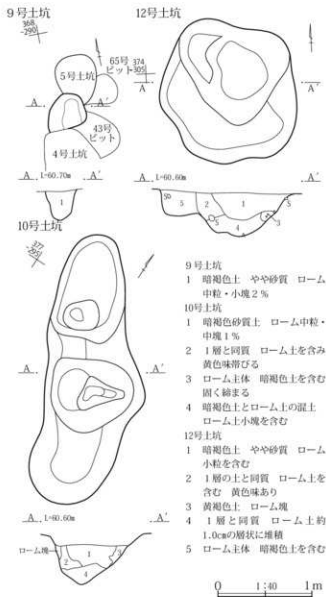
平面形状は不整円形を呈し、断面形状は段がついている。埋没土はローム粒を含む暗褐色砂質土及び黄褐色土、段の部分はローム主体土であり、人為的埋没土と考えられる。時期は不明である。

10号ピット(第139図)

平面形状は円形を呈し、断面形状は台形を呈する。土層断面観察から1・3層は柱抜き取り痕の可能性があり、ローム粒を含む黒色土から褐色土による人為的埋没土で



0 1:40 1m
第137図 4区1・4・5・7号土坑



第138図 4区9・10・12号土坑

充填する。掘立柱建物などを想定する他の柱穴は不明である。出土遺物はなく時期は不明である。

20号ピット(第139図)

平面形状は円形を呈し、断面形状は三角形を呈する。土層断面観察から2層は柱抜き取り痕の可能性があり、ローム粒を含む暗褐色砂質土やロームと暗褐色土の混土などによる人為的埋没土で充填する。掘立柱建物などを想定する他の柱穴は不明である。出土遺物はなく時期不明である。

23号ピット(第139図)

平面形状は楕円形を呈するものと考えられ、断面形状は長方形を呈する。埋没土はローム粒を含む暗褐色砂質土及びロームと暗褐色土の混土などであり、人為的埋没土と考えられる。時期は不明である。

24号ピット(第139・140図)

平面形状は不整楕円形を呈し、断面形状は台形を呈する。埋没土はローム粒・塊を含む暗褐色砂質土であり、人為的埋没土と考えられる。埋没土から中世陶器(第140図1)が出土する。出土遺物から時期は中世以降と考えられる。

27号ピット(第139図)

平面形状は楕円形を呈し、断面形状は三角形を呈する。埋没土はローム粒を含む暗褐色砂質土及びロームと暗褐色土の混土であり、人為的埋没土と考えられる。時期は不明である。

29号ピット(第139図)

30号ピットと重複し、29号ピット埋没土を30号ピットが切る。平面形状は円形を呈する。埋没土はローム粒を含む暗褐色土砂質土であり、人為的埋没土と考えられる。時期は不明である。

30号ピット(第139図)

29号ピットと重複し、30号ピットが29号ピット埋没土を切る。平面形状は長円形を呈すると思われる、断面形状は浅い方形を呈する。埋没土は29号ピットに類似し人為的埋没土と考えられる。非掲載遺物の土師器片は混入と考えられる。時期は不明である。

35号ピット(第139図)

36号ピットと重複し、35号ピットが36号ピット埋没土を切る。平面形状は不整楕円形を呈し、断面形状は長方形を呈する。埋没土はローム粒を多量に含む暗褐色砂質土であり、人為的埋没土と考えられる。出土遺物はなく時期は不明である。

36号ピット(第139図)

35号ピットと重複し、36号ピット埋没土を35号ピットが切る平面形状は長方形を呈するものと考えられ、断面形状は三角形を呈するものと考えられる。埋没土はローム土及び暗褐色土であり、人為的埋没土である。時期は不明である。

43号ピット(第139図)

4・9号土坑と重複し、43号ピット埋没土を4号土坑が切る。9号土坑との新旧関係は不明。平面形状・断面形状ともに不明。埋没土はローム粒を多量に含む暗褐色土砂質土であり、人為的埋没土と考えられる。出土遺物はなく時期は不明である。

44号ピット(第139図)

9号土坑と重複し、44号ピット埋没土を9号土坑が切る。平面形状は不整形円形を呈するものと考えられる。断面形状は浅い方形を呈するものと考えられる。埋没土はローム粒を多量に含む暗褐色砂質土であり、人為的埋没土と考えられる。出土遺物はなく時期は不明である。

65号ピット(第140図)

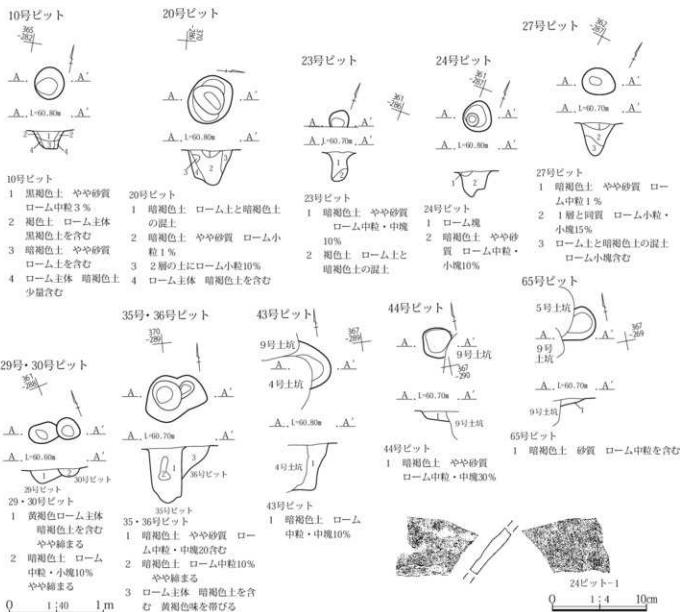
5・9号土坑と重複する。65号ピット埋没土を9号土坑が切る。5号土坑との新旧関係は不明である。平面形状は長円形を呈するものと考えられる。埋没土は、ローム粒を含む暗褐色砂質土であり、自然堆積か人為埋没かは不明。時期は不明である。

(2)溝

4区から検出された溝は11条である。調査区北端に溝が集中する。4・5・7・8号溝は東方へ給排水する中～近世の水路と考えられる。

1号溝(第141図 PL.21)

X=381~387, Y=-304~306に位置する。3・4号溝と重複するが、新旧関係は不明である。北から南に走行し、底面の標高は北端60.48m、南端60.38m、比高10cmで、勾配は1.85%である。北から南に傾斜している。検出された長さは5.40m、上面幅40~80cm、深さ5~13cmである。埋没土は自然堆積と考えられる。水流の痕跡は認められない。非掲載遺物で石器の剥片、近世焙烙が出土する。時期は不明である。



第139図 4区10・20・23・24・27・29・30・35・36・43・44・65号ピット

第140図 4区24号ピットの出土遺物

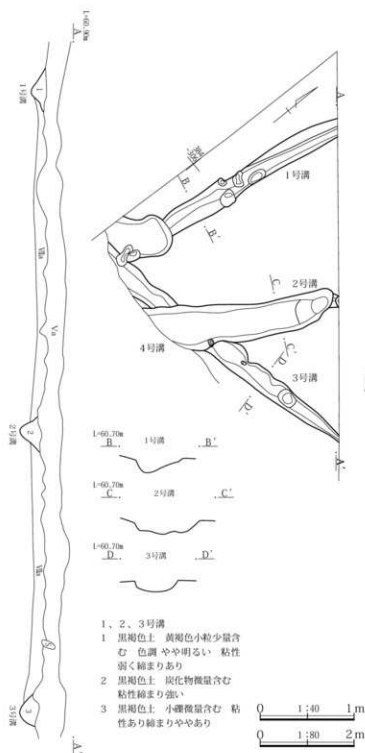
自然堆積と考えられる。水流の痕跡は認められない。出土遺物はなく、時期は不明である。

3号溝(第141図 PL.21・36)

X=381~382, Y=-299~305に位置する。1・2・4号溝と重複するが、新旧関係は不明である。北東から南西に走行し、底面の標高は北東端60.36m、南西端60.33m、比高3cmで、緩やかに傾斜している。検出された長さは6.00m、上面幅14~56cm、深さ4~13cmである。底面は平坦であり壁は斜めに立ち上がる。埋没土は小礫を含む均質の黒褐色土であり、自然堆積と考えられる。水流の痕跡は認められない。出土遺物はなく、時期は不明である。

4号溝(第142・143図 PL.21・36)

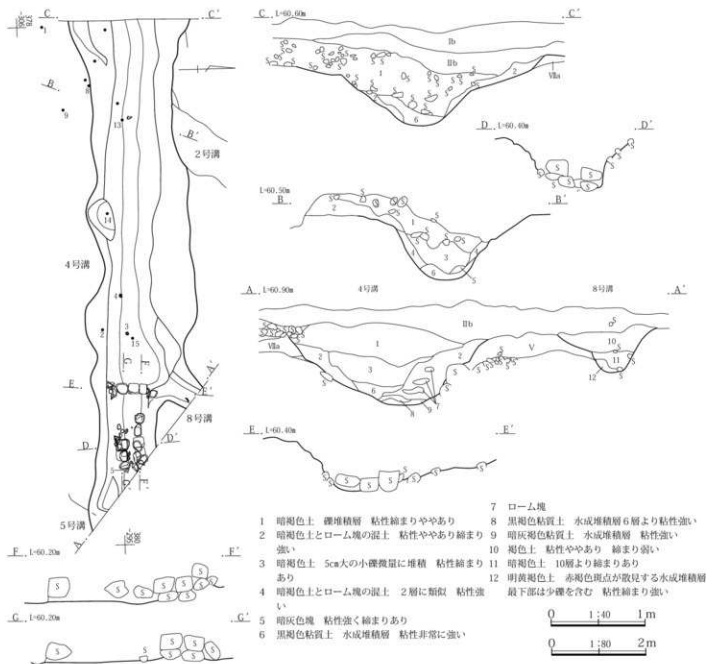
X=379~381, Y=-293~306に位置する。1~3・5・7・8号溝と重複する。1~3号溝との新旧関係は不明だが、後述の堰を利用し4号溝から8号溝に水を流していた可能性が考えられる。土層観察より、5号溝は4号溝より新しく、7号溝は4号溝より古い。西から東に走行し、底面の標高は西端59.78m、東端59.70m、比高8cm、西から東に緩やかに傾斜している。検出された長さは10.88m、上面幅1.22~2.34m、深さ53~68cmである。底面から壁は緩やかに斜めに立ち上がる。上層は礫を多量に含む暗褐色土が厚く堆積していた。中位から下層は黒褐色土などによる水性堆積層となり水流の痕跡が認められる。遺物は古代の平瓦(第143図4溝-15)、内耳鍋や陶器など中世から近世の遺物(第143図4溝-1~14)が出土する。非掲載遺物は須恵器片129gのほか中世の国産陶器2点、鉢1点、近世の国産施軸陶器4点、焙烙・鍋21点が出土する。溝底面東寄りの位置から規則的に配列された1辺約20cmの切石列が検出された。堰及び導水施設として利用したと考えられる。同位置においてさらに下層から川原石の石列が検出された。基礎としての調整もしくは二時期の使用が考えられる。出土遺物などから時期は16~17世紀と考えられる。



第141図 4区1・2・3号溝

2号溝(第141図 PL.21)

X=381~384, Y=-301~304に位置する。3・4号溝と重複しているが、新旧関係は不明である。南西から北東に走行し、底面の標高は南西端60.38m、北東端60.32m、比高6cm、勾配は1.52%である。南西から北東に傾斜している。検出された長さは3.94m、上面幅24~94cm、深さ7~23cmである。底面はやや凹凸が認められる。埋没土は炭化物を微量に含む黒褐色土であり、



第142図 4区4・8号溝

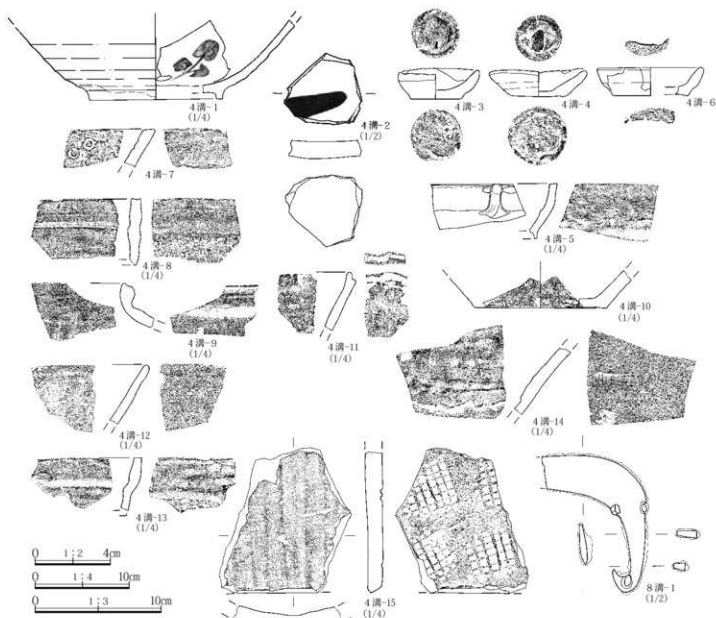
8号溝(第142・143図 PL.36)

X=380~381, Y=-297~298に位置する。4号溝と重複し、高低差を利用し4号溝に水を流したと考えられる。北東から南西に走行し、底面の標高は北東端60.05m、南西端60.02m、比高3cmである。緩やかに傾斜している。検出された溝の長さは0.66m、上面幅0.58~1.00m、深さ17~19cmである。壁は斜めに立ち上がる。埋没土は、礫を含む暗褐色土や黄褐色土であり水性堆積が認められる。遺物は埋没土から鉄器鎌1(第143図8溝-1)が出土する。時期詳細は不明であるが、4号溝と

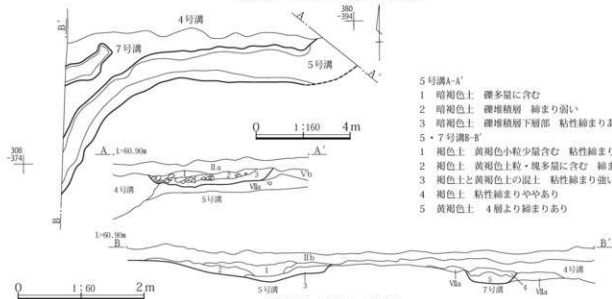
同時期と考えられる。

5号溝(第144図 PL.21)

X=372~379, Y=-294~306に位置する。4号溝と重複し5号溝が4号溝埋没土を切る。南西から北東に走行し、底面の標高は南西端60.43m、北東端60.26m、比高0.17mである。緩やかに傾斜しており、南西から北東に流れていたと想定される。検出された溝の長さは14.80m、上面幅1.04~1.58m、深さ11~23cmである。底面から壁は斜めに立ち上がる。出土遺物はない。4号溝を切っており、4号溝を掘り直し、流れを変えた溝である可能性がある。



第143図 4区4・8号溝の出土物



- 5号溝A-A'
- 1 暗褐色土 礫多量に含む
 - 2 暗褐色土 礫堆積層 締まり強い
 - 3 暗褐色土 礫堆積層下部 粘性締まりあり
- 5・7号溝B-B'
- 1 褐色土 黄褐色小粒少量含む 粘性締まりややあり
 - 2 褐色土 黄褐色土粒・塊多量に含む 締まり増す
 - 3 褐色土と黄褐色土の混土 粘性締まり強い
 - 4 褐色土 粘性締まりややあり
 - 5 黄褐色土 4層より締まりあり

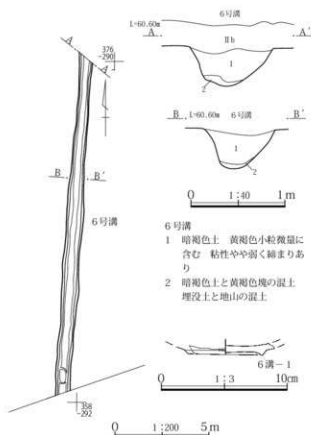
第144図 4区5・7号溝

7号溝(第144図)

X=377~379、Y=-304~306に位置する。4号溝埋没土の礫を多量に含む暗褐色土下層からの検出であり、4号溝より古いと考えられる。南西から北東に走行し、底面の標高は南西端60.33m、北東端60.23m、比高10cmである。緩やかに傾斜しており、南西から北東に流れていたと想定される。検出された溝の長さは2.40m、上面幅50~86cm、深さ5~20cmである。底面は平坦であり壁は斜めに立ち上がる。埋没土は褐色土及び黄褐色土であり、自然堆積と考えられる。粘性の強い埋没土であり、水成堆積の可能性が考えられる。4号溝より古く、同じ機能を果たしていた溝とも考えられる。

6号溝(第144図 PL.21・36)

X=358~376、Y=-291~293に位置する。11号溝と重複するが、新旧関係は不明である。北から南に走行し、底面の標高は北端60.09m、南端60.05m、比高4cmである。緩やかに傾斜しており、北から南に流れていたと想定される。検出された溝の長さは18.22m、上面幅56~92cm、深さ35~31cmである。底面から壁は斜めに



第145図 4区6号溝と出土遺物

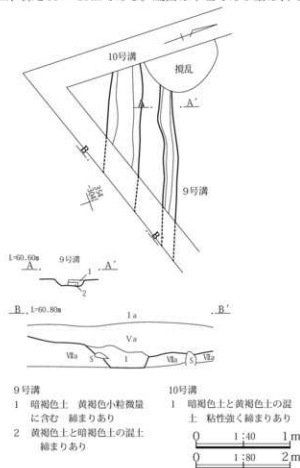
立ち上がる。埋没土は暗褐色土と黄褐色土の混土であり、人為的埋没と考えられ、水流の痕跡は認められない。16世紀の皿(第145図1)、非掘載遺物は土器9点、瓦1点が出土する。出土遺物から時期は中世から近世と考えられる。

9号溝(第146図 PL.21)

X=355~356、Y=-303~305に位置する。北西から南東に走行し、底面の標高は北西端60.43m、南東端60.40m、比高3cmである。緩やかに傾斜しており、北西から南東に流れていたと想定される。検出された長さは2.76m、上面幅26~34cm、深さ4~10cmである。底面は平坦であり壁は斜めに立ち上がる。埋没土は、暗褐色土と黄褐色土の混土であり、人為的埋没土と考えられる。出土遺物はなく時期は不明である。

10号溝(第146図 PL.21)

X=354~355、Y=-304~306に位置する。南東から北西に走行し、底面の標高は南東端60.27m、北西端60.25m。検出された溝の長さは2.40m、上面幅58~70cm、深さ18~25cmである。底面は平坦であり壁は斜めに



第146図 4区9・10号溝

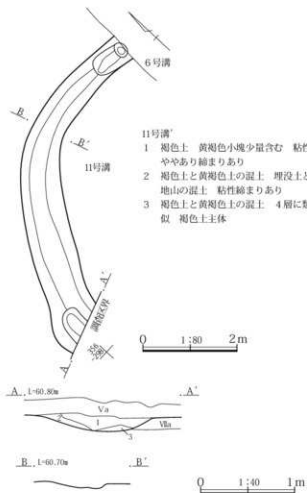
に立ち上がる。埋没土は暗褐色土と黄褐色土の混土であり、人為的埋没土と考えられる。出土遺物はなく、時期は不明である。

11号溝(第147図 PL.21)

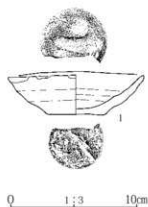
X=356~360, Y=-293~298に位置する。6号溝と重複するが、新旧関係は不明。北東から南西に走行し、底面の標高は北東端60.45m、南西端60.45m、比高0cmである。検出された溝の長さは7.16m、上面幅0.60~1.00m、深さ7~16cmである。壁は緩やかに立ち上がる。埋没土は褐色土と黄褐色土の混土であり、人為的埋没土と考えられる。出土遺物はなく時期は不明である。

2 遺構外の遺物(第148図 PL.36)

4区からは古墳時代から近世に至る遺構や遺物が検出され、遺構外からも遺物が出土している。古墳時代から奈良・平安時代では、非掲載遺物の総重量は土師器片254g、須恵器片106gに上る。4区は中世から近世の遺構外出土遺物が多い。石製品は非掲載であるが遺構確認面から砥石が出土する。土器は中世の皿(第148図1)が出土した。非掲載遺物は中世の焙烙1点、近世の国産磁器2点、国産施釉陶器9点、焙烙・鍋10点、皿4点、近現代では陶磁器3点、土器類31点、瓦2点が出土する。



第147図 4区11号溝



第148図 4区遺構外の出土遺物

第4章 天良七堂遺跡

第30表 天良七堂遺跡土坑・ピット計測表

坑No	位置	形状	主軸方位	規模(m)長/短/深
1K1	207-119	不定形	N-6°-W	1.50/0.90/0.22
2	210-120	不定形	N-27°-W	2.00/0.89/0.18
3	214-123	不定形	-	3.72/1.16/0.21
4	214-126	円形	-	1.37/1.21/0.10
5	219-122	不定形	N-2°-W	(1.62) / 1.20/0.08
6	232-124	長方形	N-11°-W	3.54/1.07/0.22
7	236-125	長方形	N-10°-W	3.25/0.97/0.14
8	237-123	楕円形	N-61°-E	0.83/0.78/0.13
9	239-133	不定形	N-5°-E	1.26/0.95/0.36
10	239-131	不定形	N-17°-E	2.65/0.75/0.12
11	229-110	不定形	-	(0.85) / (0.63) / (0.04)
12	248-143	楕円形	-	(0.15) / 0.93/0.09
13	256-166	不定形	N-47°-E	1.35/1.05/0.22
14	254-154	不定形	N-56°-W	1.04/0.88/0.05
15	255-152	円形	-	1.00/0.93/0.18
16	260-151	-	-	1.49/ (0.58) / 0.37
17	268-162	-	-	1.00/ (0.43) / 0.20
18	264-174	楕円形	N-40°-W	2.13/1.32/0.25
19	263-161	楕円形	N-9°-E	2.13/1.85/0.23
20	261-162	円形	-	0.89/0.81/0.14
21	267-169	円形	-	0.73/0.72/0.17
22	267-175	円形	-	0.75/0.69/0.14
23	270-178	円形	-	0.72/0.61/0.17
24	357-178	円形	-	0.66/0.65/0.16
25	229-151	-	-	0.80/ (0.46) / 0.34
26	227-148	不定形	-	1.85/ (1.28) / 0.26
27	229-149	不定形	N-42°-E	1.40/0.80/0.26
28	230-150	不定形	N-45°-E	1.94/0.68/0.27
29	262-159	-	-	1.20/ (0.70) / 0.10
30	263-166	不定形	N-34°-E	0.84/0.75/0.10
31	264-165	不定形	N-46°-W	1.22/0.73/0.20
32	224-145	-	-	(1.30) / (1.00) / 0.17
2IK1	311-208	円形	-	0.90/0.75/0.27
2	283-174	円形	-	1.04/0.95/0.14
3	292-198	長方形	-	1.26/0.59/0.53
4	292-211	不定形	N-18°-W	2.24/0.86/0.22
3IK1	309-225	不定形	-	(1.90) / (1.50) / 0.40
2	310-232	楕円形	N-7°-W	1.60/1.12/1.15
3	313-241	不定形	-	2.36/1.76/0.13
4	319-245	楕円形	N-38°-E	1.90/1.15/1.22
5	322-253	楕円形	N-27°-E	1.53/1.07/1.08
6	324-259	長方形	N-30°-W	1.84/1.12/0.75
7	327-261	不定形	-	1.20/1.18/1.48
8	327-263	長方形	N-20°-E	1.20/0.55/0.81
9	326-267	不定形	N-39°-E	0.82/0.72/0.35
10	325-267	円形	-	0.63/0.58/0.28
11	324-265	不定形	N-65°-W	0.80/0.65/0.37
12	325-266	不定形	N-87°-W	1.32/0.85/0.42
13	218-247	不定形	N-71°-E	3.60/0.96/0.08
14	354-274	円形	-	1.23/1.21/0.98
15	350-278	楕円形	-	1.27/1.02/0.24
16	351-280	楕円形	N-47°-E	1.12/0.94/0.21
17	351-282	円形	-	1.20/1.12/0.18
18	346-291	不定形	N-56°-W	1.70/1.08/0.66
19	337-275	円形	-	0.94/0.91/0.13
20	339-272	円形	-	0.89/0.88/0.16
21	334-262	円形	N-32°-W	0.90/0.85/0.13
22	332-273	楕円形	N-7°-W	1.59/0.92/0.80
23	351-270	楕円形	-	(1.45) / (1.00) / 0.27
24	331-275	楕円形	N-28°-W	1.16/0.88/0.70
25	314-218	不定形	-	-/-/0.07
4IK1	815-280	不定形	-	(2.67) / 1.05/0.26
2	366-284	不定形	N-12°-E	1.88/0.63/0.10
3	368-285	長方形	N-85°-W	3.00/0.87/0.07
4	366-289	不定形	-	0.74/0.62/0.52
5	367-289	楕円形	-	0.53/0.44/0.29
6	364-305	不定形	-	0.92/0.80/0.08
7	370-296	不定形	N-3°-W	2.35/0.36/0.24
8	373-294	楕円形	-	0.52/0.38/0.10
9	366-289	不定形	-	0.40/ (0.36) / 0.30
10	374-293	不定形	N-27°-W	2.88/0.98/0.72
11	376-301	不定形	-	1.50/0.79/0.48
12	373-303	不定形	N-32°-W	1.64/1.46/0.44
13	359-306	-	-	(1.86) / (0.60) / (0.31)

ピット

坑No	位置	形状	主軸方位	規模(m)長/短/深
1K1	217-098	円形	-	0.30/0.30/0.23
2	217-102	不定形	-	0.46/0.40/0.10
3	217-103	円形	-	0.27/0.26/0.10
4	215-104	円形	-	0.38/0.28/0.17

坑No	位置	形状	主軸方位	規模(m)長/短/深
5	216-104	円形	N-62°-W	0.29/0.26/0.21
6	216-105	円形	N-58°-W	0.28/0.25/0.11
7	216-106	楕円形	N-19°-E	0.48/0.31/0.42
8	215-107	楕円形	N-32°-E	0.38/0.32/0.28
9	214-108	楕円形	N-84°-W	0.30/0.20/0.13
10	213-107	楕円形	N-31°-W	0.40/0.35/0.45
11	212-106	円形	-	0.30/0.23/0.15
12	213-108	円形	-	0.35/0.29/0.35
13	214-113	円形	-	0.24/0.20/0.28
14	212-115	円形	-	0.22/0.20/0.35
15	210-114	楕円形	N-6°-E	0.52/0.39/0.16
16	210-113	楕円形	N-62°-E	0.33/0.25/0.16
17	210-113	円形	-	0.26/0.24/0.23
18	210-114	円形	-	0.36/0.33/0.18
19	209-114	楕円形	N-34°-W	0.40/0.31/0.16
20	214-213	楕円形	N-28°-W	0.35/0.31/0.54
21	220-119	不定形	N-54°-W	0.23/0.20/0.13
22	218-112	円形	-	0.40/0.38/0.36
23	218-112	円形	-	0.32/0.30/0.17
24	219-111	楕円形	N-74°-W	0.44/0.34/0.28
25	220-112	円形	-	0.34/0.31/0.21
26	219-113	円形	-	0.32/0.28/0.20
27	221-114	楕円形	N-42°-E	0.40/0.27/0.21
28	222-112	円形	-	0.28/0.27/0.12
29	222-113	円形	-	0.50/0.42/0.28
30	211-128	円形	N-39°-E	0.23/0.10/0.15
31	212-128	円形	-	0.35/0.32/0.41
32	218-125	円形	-	0.37/0.33/0.39
33	216-125	円形	N-90°	0.53/0.40/0.36
34	214-126	円形	-	0.43/0.39/0.51
35	213-128	円形	-	0.42/0.38/0.27
36	214-130	円形	-	0.38/0.36/0.29
37	216-127	楕円形	-	0.46/0.40/0.56
38	214-128	円形	-	0.27/0.24/0.16
39	216-132	円形	-	0.37/0.34/0.42
40	215-127	円形	-	0.34/0.33/0.26
41	216-125	楕円形	-	0.34/0.25/0.31
42	225-136	楕円形	N-29°-W	0.33/0.24/0.26
43	221-139	円形	-	0.30/0.28/0.14
44	221-139	円形	-	0.30/0.30/0.27
45	213-104	円形	-	0.47/0.43/0.19
46	225-139	円形	-	0.55/0.50/0.16
47	220-129	円形	-	0.27/0.27/0.34
48	215-129	楕円形	N-77°-W	0.27/0.20/0.14
49	225-131	円形	-	0.22/0.22/0.32
50	225-136	円形	-	0.35/0.31/0.11
51	227-131	円形	-	0.33/0.32/0.21
52	229-129	楕円形	N-15°-W	0.37/0.30/0.24
53	215-129	円形	-	0.30/0.27/0.18
54	216-134	不定形	-	0.32/0.24/0.26
55	217-134	円形	-	0.32/0.25/0.14
56	236-126	円形	-	0.49/0.45/0.16
57	235-127	円形	-	0.39/0.37/0.53
58	217-134	不定形	N-32°-E	0.43/0.28/0.20
60	238-134	円形	-	0.30/0.25/0.21
61	236-135	円形	-	0.32/0.29/0.25
62	235-138	円形	-	0.27/0.26/0.13
63	235-139	円形	-	0.28/0.25/0.19
64	231-141	円形	-	0.28/0.27/0.43
65	233-148	円形	-	0.38/0.35/0.35
66	234-150	不定形	N-73°-W	0.28/0.24/0.32
67	232-151	円形	-	0.25/0.25/0.15
68	238-144	不定形	N-77°-W	0.29/0.23/0.19
69	220-129	不定形	N-88°-W	0.27/0.23/0.26
70	222-130	円形	-	0.26/0.25/0.12
71	220-136	楕円形	N-12°-W	0.28/0.21/0.22
72	219-100	円形	-	0.20/0.19/0.36
73	217-099	不定形	-	0.25/0.22/0.14
74	215-099	円形	-	0.22/0.12/0.10
75	218-105	円形	-	0.25/0.24/0.24
76	216-106	円形	-	0.32/0.29/0.27
77	218-108	円形	-	0.23/0.19/0.11
78	216-108	楕円形	N-23°-E	0.30/0.27/0.24
79	214-108	円形	-	0.23/0.20/0.21
80	214-107	楕円形	N-86°-W	0.39/0.35/0.25
81	212-107	楕円形	-	0.39/0.32/0.19
82	213-108	円形	-	0.30/0.27/0.40
83	213-109	円形	-	0.28/0.28/0.43
84	215-109	円形	-	0.32/0.29/0.43
85	218-110	楕円形	N-33°-W	0.33/0.20/0.16
86	217-111	楕円形	-	0.32/0.23/0.19

第5節 4区の調査成果

区No	位置	形状	主軸方位	規模(m)長/短/深
87	218-113	円形	-	0.27/0.24/0.10
88	213-111	楕円形	N-30°-E	0.33/0.25/0.15
89	211-111	円形	-	0.35/0.35/0.17
90	212-113	楕円形	-	0.35/0.27/0.11
91	213-114	楕円形	N-72°-W	0.33/0.29/0.17
92	216-115	円形	-	0.25/0.23/0.33
93	213-117	楕円形	-	0.50/0.38/0.26
94	215-118	円形	-	0.32/0.32/0.30
95	216-118	楕円形	N-78°-E	0.42/0.39/0.16
96	219-120	楕円形	N-25°-W	0.44/0.35/0.18
97	228-125	円形	-	0.26/0.21/0.15
98	229-124	円形	-	0.36/0.31/0.25
99	215-116	円形	-	0.21/0.19/0.19
100	217-117	楕円形	N-56°-W	0.22/0.18/0.24
101	222-120	楕円形	N-83°-W	0.29/0.25/0.14
102	226-122	円形	-	0.24/0.21/0.13
103	235-123	円形	-	0.20/0.16/0.12
104	221-105	円形	-	0.25/0.23/0.27
105	220-129	方形	N-88°-W	0.28/0.20/0.29
106	223-143	-	-	0.45/0.29/0.52
107	246-146	楕円形	N-28°-E	0.29/0.25/0.67
108	245-148	円形	-	0.34/0.33/0.45
109	245-149	円形	-	0.28/0.28/0.20
110	249-150	円形	-	0.30/0.27/0.34
111	243-152	円形	-	0.33/0.30/0.39
112	245-152	円形	-	0.30/0.25/0.35
113	245-153	円形	-	0.22/0.21/0.24
114	246-155	円形	-	0.25/0.25/0.21
115	249-176	-	-	0.28/0.17/0.33
116	252-176	円形	-	0.30/0.26/0.36
117	253-179	不定形	N-84°-E	0.60/0.31/0.43
118	256-179	円形	-	0.34/0.31/0.39
119	263-191	円形	-	0.30/0.30/0.23
120	270-187	円形	-	0.28/0.25/0.59
121	266-176	不定形	N-65°-E	0.50/0.34/0.33
122	266-171	円形	-	0.30/0.28/0.22
123	268-172	楕円形	N-59°-W	0.43/0.36/0.31
124	269-172	不定形	N-44°-W	0.45/0.30/0.35
125	267-175	円形	-	0.30/0.29/0.24
126	269-176	円形	-	0.35/0.31/0.27
127	271-176	円形	-	0.33/0.29/0.33
128	271-174	楕円形	N-65°-W	0.40/0.31/0.44
129	273-173	円形	-	0.30/0.29/0.28
130	271-172	楕円形	N-56°-W	0.30/0.26/0.34
131	269-170	円形	-	0.31/0.30/0.21
132	265-165	楕円形	N-88°-W	0.48/0.35/0.25
21K1	295-201	不定形	N-23°-E	0.28/0.26/0.19
2	295-200	円形	-	0.43/0.42/0.16
3	294-199	楕円形	N-81°-W	0.60/0.33/0.37
4	293-197	不定形	N-69°-E	0.60/0.48/0.20
5	291-189	不定形	N-35°-W	0.64/0.53/0.15
6	289-185	円形	-	0.32/0.29/0.69
7	281-179	円形	-	0.33/0.30/0.18
8	277-185	円形	-	0.30/0.27/0.32
9	279-211	不定形	N-61°-E	0.22/0.18/0.24
10	278-215	円形	-	0.44/0.40/0.51
11	282-214	円形	-	0.36/0.33/0.58
31K1	312-226	円形	-	0.46/0.42/0.34
2	314-226	不定形	N-34°-E	0.59/0.45/0.22
3	315-227	楕円形	N-76°-E	0.50/0.30/0.41
4	315-227	不定形	-	0.58/0.53/0.39
5	316-227	不定形	N-26°-W	0.67/0.42/0.34
6	312-229	円形	-	0.28/0.25/0.20
7	311-234	楕円形	N-76°-E	0.22/0.15/0.18
8	328-240	円形	-	0.30/0.25/0.38
9	379-241	円形	-	0.35/0.31/0.18
10	342-297	円形	-	0.34/0.27/0.32
11	342-287	不定形	N-72°-E	0.38/0.32/0.21
12	343-227	不定形	N-80°-E	0.43/0.41/0.25
13	342-299	不定形	N-78°-W	0.42/0.41/0.39
14	343-299	不定形	N-79°-E	0.50/0.42/0.34
15	343-289	不定形	N-69°-E	0.30/0.22/0.12
16	345-300	円形	-	0.41/0.37/0.41
17	346-300	円形	-	0.38/0.35/0.33
18	345-301	円形	-	0.32/0.30/0.20
19	345-301	円形	-	0.19/0.19/0.07
20	344-300	円形	-	0.28/0.23/0.32
21	342-297	不定形	N-15°-E	0.25/0.25/0.23
22	344-297	円形	-	0.24/0.22/0.30
23	342-295	円形	-	0.40/0.40/0.39
24	343-301	円形	-	0.25/0.20/0.38
25	343-299	円形	-	0.50/0.43/0.34
26	348-274	円形	-	0.25/0.20/0.38
27	348-273	不定形	-	0.33/0.24/0.34

区No	位置	形状	主軸方位	規模(m)長/短/深
28	348-371	円形	-	0.20/0.25/0.27
29	346-268	円形	-	0.30/0.27/0.27
30	347-268	円形	-	0.41/0.35/0.20
31	347-266	不定形	-	0.33/0.31/0.16
32	347-265	円形	-	0.37/0.35/0.19
33	351-275	円形	-	0.22/0.20/0.11
34	353-275	不定形	-	0.36/0.32/0.26
35	354-275	不定形	N-59°-E	0.52/0.46/0.33
36	355-277	不定形	N-25°-W	(0.53)/0.25/0.48
41K1	365-277	不定形	N-49°-W	0.31/0.11/0.42
2	363-277	不定形	N-45°-W	0.48/0.40/0.42
3	364-277	楕円形	N-44°-W	0.56/0.43/0.34
4	364-278	楕円形	-	0.27/0.22/0.27
5	364-278	円形	-	0.25/0.22/0.24
6	364-278	不定形	N-37°-E	0.42/0.37/0.44
7	365-280	不定形	N-42°-E	0.47/0.40/0.44
8	365-282	不定形	N-17°-W	0.43/0.28/0.39
9	364-282	円形	-	0.27/0.23/0.20
10	364-281	円形	-	0.34/0.31/0.22
11	363-281	円形	-	0.25/0.23/0.36
12	362-282	不定形	-	0.40/0.38/0.19
13	361-282	不定形	-	(0.50)/0.47/0.14
14	361-283	円形	-	0.35/0.30/0.20
15	361-283	不定形	-	0.25/0.13/0.29
16	361-283	不定形	N-35°-E	0.46/0.27/0.28
17	365-284	円形	-	0.32/0.32/0.28
18	365-284	楕円形	-	0.25/0.20/0.15
19	365-285	円形	-	0.29/0.27/0.25
20	370-285	楕円形	N-63°-W	0.53/0.44/0.38
21	369-285	円形	-	0.41/0.37/0.58
22	366-287	円形	-	0.24/0.23/0.28
23	360-286	不定形	-	(0.18)/0.18/0.21
24	360-286	楕円形	-	0.33/0.31/0.28
25	360-286	不定形	-	0.35/0.13/0.47
26	360-286	不定形	-	(0.24)/0.23/0.20
27	361-286	円形	-	0.35/0.28/0.35
28	361-287	不定形	N-62°-W	0.39/0.21/0.20
29	361-287	円形	-	0.26/0.23/0.13
30	360-287	円形	-	0.30/0.21/0.18
31	360-288	楕円形	N-45°-E	0.28/0.22/0.24
32	361-288	楕円形	N-13°-E	0.22/0.18/0.14
33	360-289	円形	-	0.20/0.18/0.16
34	362-290	円形	-	0.54/0.46/0.31
35	369-288	不定形	-	0.50/0.42/0.62
36	369-288	不定形	N-25°-W	(0.35)/0.29/0.47
37	361-291	楕円形	N-57°-E	0.26/0.20/0.12
38	362-280	-	-	0.35/0.15/0.26
39	361-284	円形	-	0.30/0.25/0.22
40	361-284	円形	-	0.30/0.25/0.24
41	361-285	不定形	N-51°-E	0.33/0.24/0.28
42	362-288	長方形	N-68°-W	0.24/0.18/0.20
43	366-289	-	-	(0.52)/0.20/0.48
44	367-289	円形	-	0.33/0.30/0.12
45	372-290	不定形	N-45°-E	0.48/0.34/0.32
46	373-290	不定形	-	0.50/0.35/0.34
47	362-293	楕円形	N-60°-W	0.25/0.19/0.22
48	363-294	円形	-	0.29/0.27/0.28
49	362-298	楕円形	N-17°-E	0.33/0.25/0.23
50	362-298	楕円形	N-57°-W	0.30/0.23/0.22
51	362-298	円形	-	0.30/0.29/0.23
52	363-298	円形	-	0.35/0.29/0.32
53	363-298	楕円形	-	0.40/0.33/0.16
54	363-300	楕円形	N-88°-W	0.26/0.18/0.15
55	363-301	楕円形	N-36°-W	0.32/0.27/0.35
56	363-301	円形	-	0.33/0.30/0.30
57	358-303	円形	-	0.33/0.26/0.21
58	364-306	-	-	0.36/0.16/0.13
59	373-298	楕円形	-	0.49/0.39/0.36
60	385-303	円形	-	0.33/0.30/0.34
61	384-305	楕円形	N-22°-W	0.35/0.27/0.31
62	383-304	楕円形	N-26°-W	0.38/0.33/0.40
63	361-285	円形	-	0.23/0.19/0.31
64	360-288	円形	-	0.22/0.19/0.23
65	367-289	不定形	N-82°-E	(0.40)/0.35/0.23

第5章 上根遺跡

第1節 上根遺跡の概要

上根遺跡は、平成22年度に1～4区、23年度に5・6区の発掘調査が実施された。上根遺跡は本報告書における笠松遺跡及び天良七堂遺跡の南東側に位置する。平成22・23年度の発掘調査では、1区から6区において古墳時代から奈良・平安時代の竪穴住居、中世から近世の竪穴状遺構・掘立柱建物・橋、縄文時代から近世の土坑・土坑群・ピット・井戸・溝、谷地などの遺構や遺物が検出された。3区では遺構調査終了後に旧石器時代の試掘調査を行ったが遺構の検出及び石器の出土はみられなかった。1・2区は大間々扇状地扇端部の低地となり、遺構数は少ないが溝、土坑、竪穴状遺構が検出された。3区北側は低地から微高地への転換地点であり、3区以北は遺構数が増加し、竪穴住居、掘立柱建物、溝などの遺構が検出されている。

第2節 1区の調査成果

1区は南東端に位置する。表土から遺構確認面まで約30cmであり、表土下は圃場整備後の水田耕土となっている。調査区域に周知の遺跡である東山道駅路牛堀矢ノ原ルートが想定されるため、確認面をAs-Bを混入する基本

土層第Ⅲ層の上面を1面、基本土層第Ⅲ層下面を2面として発掘調査を実施した。

1 古代以降の遺構と遺物

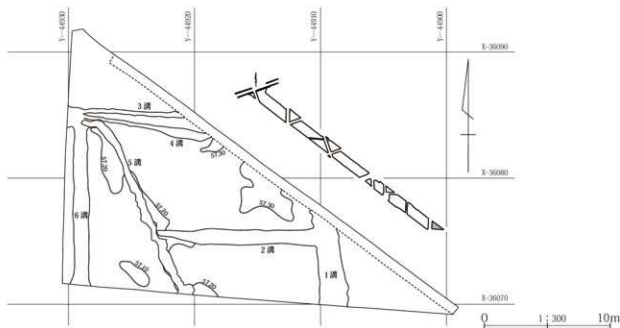
古代以降の遺構・遺物が検出されている。検出された遺構は溝である。

(1) 溝

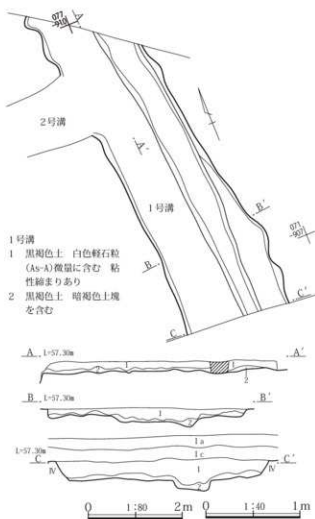
1区から検出された溝は6条である。出土遺物や遺構検出状況及び埋没土の観察から時期は古代および近世と考えられる。南北及び東西に走行する1・2・6号溝は近世に、3～5号溝は古代に帰属する溝と考えられる。

1号溝(第150図 PL.22)

X=070～077、Y=-906～910に位置する。1号溝と2号溝に切り合いはなく同時期と考えられる。北から南に走行し、底面の標高は北端57.10m、南端57.00m、比高10cmであり、僅かであるが南に向かって傾斜している。検出された規模は、長さ6.87m、上面幅1.75～2.32m、深さ8～16cmである。底面中央部は幅約40cm、深さ約5cm掘り込まれているが埋没土に切り合いはない。埋没はAs-Aを微量に含む黒褐色土による自然埋没と考えられ、底部に水流の痕跡は認められない。非掲載遺物は、埋没土中から土師器小破片20g、須恵器大破片20gが出土しているが、周辺からの流れ込みと考えられる。時期



第149図 上根遺跡 1区全体図



第150図 1区1号溝

は、埋没土から近世以降と考えられる。

2号溝(第151図 PL.22)

X=075~077, Y=-910~922に位置する。5号溝と重複し、埋没土の確認状況から2号溝が新しい。1・2号溝埋没土に切り合いはなく、1号溝の東側に延長されないことから同時期と考えられる。西から東に走行し、底面の標高は西端57.17m、東端57.10m、比高7cmであり、傾斜はほとんど認められない。検出した規模は、長さ12.63m、上面幅0.43~1.43m、深さ1~14cmである。埋没土は、1号溝と同質でAs-Aを微量に含む黒褐色土などによる自然埋没と考えられ、下層に水流の痕跡は認められない。非掲載遺物は、埋没土から土師器小破片5g、須恵器大破片5gが出土しているが、周辺からの流れ込みと考えられる。時期は、埋没土から近世以降と考えられる。

3号溝(第151図 PL.22)

X=084~085, Y=-920~929に位置する。4・6

号溝と重複しており、4・6号溝によって切られている。東から西に走行し、底面の標高は東端57.22m、西端57.15m、比高7cmであり、底面の傾斜はほとんど認められない。検出した規模は、長さ9.28m、上面幅28~47m、深さ3~10cmであり、上根遺跡2区にまでは延長されていない。埋没土にAs-Bを含まず、自然埋没と考えられ、下層に水流の痕跡は認められない。非掲載遺物は埋没土中から須恵器大破片10gが出土した。時期は、埋没土の状況から古代以前(As-B降下以前)と考えられる。

4号溝(第151図 PL.22)

X=083~084, Y=-918~928に位置する。3・5・6号溝と重複し、3号溝を切り、5・6号溝に切られている。東から西に走行し、底面の標高は東端57.17m、西端57.14m、底面は平坦で傾斜はほとんど認められず、下層に水流の痕跡も見られないことから区画溝と考えられる。検出した規模は、長さ10.46m、上面幅22~78m、深さ3~14cmであり、上根遺跡2区にまでは延長されていない。埋没土にAs-Bを含まず、堆積状況から自然埋没と考えられる。出土遺物はないが、埋没土中にAs-Bが含まれないことから、時期は古代以前(As-B降下以前)と考えられる。

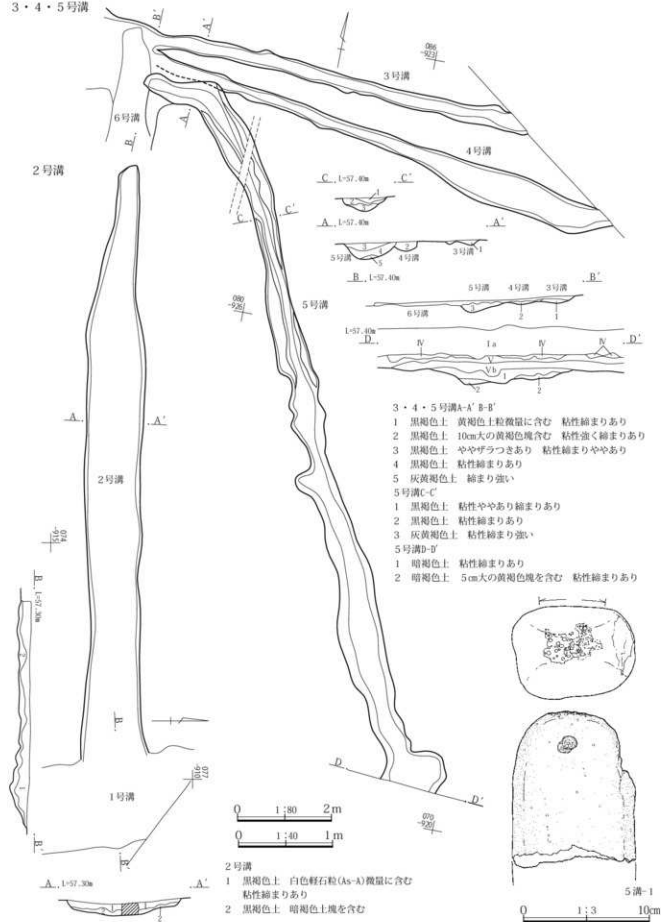
5号溝(第151図 PL.22・37)

X=073~084, Y=-922~928に位置する。4・6号溝と重複し、4号溝を切り、6号溝に切られている。北西から南東に走行し、底面の標高は、北西端57.07m、南東端57.02m、比高5cmあり、底面の傾斜はほとんど認められない。検出した規模は、長さ16.00m、上面幅35~90cm、深さ5~20cmである。埋没土中にはAs-Bを含まず、堆積状況から自然埋没と考えられ、下層には水流の痕跡は認められない。非掲載遺物は、須恵器小破片5gである。時期は、埋没土中にAs-Bを含まないことから、古代以前(As-B降下以前)と考えられる。

6号溝(第152図)

X=071~085, Y=-928~929に位置する。3・4・5号溝と重複しており、6号溝が新しい。西から東に走行し、南へ向きを変えている。底面の標高は、西端57.15m、東端57.17m、北端57.17m、南端57.07m、であり、北側が高く西側及び南側が低く、下層に水流の痕跡も認められないことから区画溝と考えられる。検出した規模は、長さ13.95m、上面幅0.40~1.70m、深さ0.03

3・4・5号溝

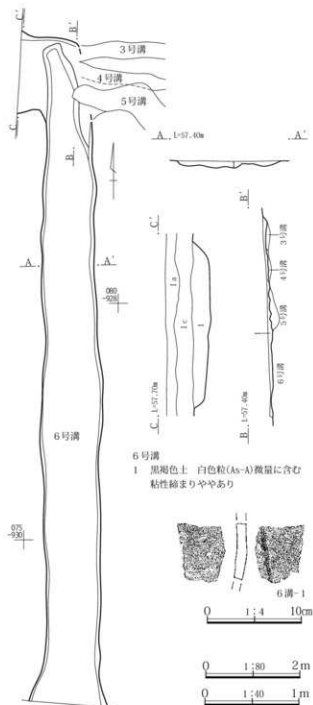


第151図 1区2～5号溝と5号溝の出土遺物

～0.09mである。埋没はAs-Aを微量に含む黒褐色土による自然埋没と考えられ、下層にも水流の痕跡はない。埋没土から(第152図1)が出土した他、非掲載遺物として須恵器小破片5gが出土しているが、周辺からの流れ込みと考えられる。時期は、埋没土中のAs-Aの存在から近世以降(As-A降下以降)と考えられる。

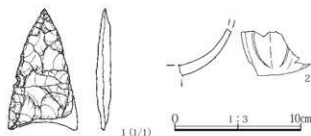
2 遺構外の遺物(第153図 PL.37)

1区からは6条の溝が検出されているが、遺構外出土遺物は少ない。縄文時代の土器はなく、遺構確認面2面



第152図 1区6号溝と出土遺物

のAs-B混土層下から石蕨(第153図1)が出土した他、非掲載遺物であるが削器、石核、加工痕ある剥片が出土している。剥片の総重量は、黒色安山岩5.3g、黒色頁岩17.1g、黒曜石1.0g、ホルンフェルス43.8g、チャート20.2gである。古墳時代から奈良・平安時代の土師器及び須恵器の非掲載遺物の総重量は、土師器大破片920g、須恵器大破片400g、須恵器小破片355gに上り、中世の碗(第153図2)、近世の国産磁器2点、施軸陶器7点、焙烙2点などが出土した。



第153図 1区遺構外の出土遺物

第3節 2区の調査成果

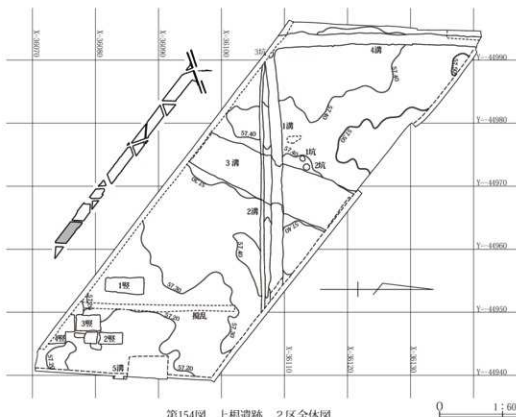
2区は表土から遺構確認面まで約50cmであり、表土の下は圃場整備後の水田耕土となっている。1区と同様に調査区域に周知の遺跡である東山道駅跡(堀・矢ノ原ルート)が想定されていたため慎重に発掘調査を実施した。重機による表土掘削により水田耕作土下にAs-B混土層が認められず、遺構確認を行ったが検出されないことから、さらに重機で掘り下げて遺構確認を行った。2区から検出された遺構は、竪穴状遺構4基、土坑2基、溝5条である。2区は攪乱及び現代の暗渠が広範囲に認められた。縄文時代の遺物が出土したが、遺構の構築時期と異なると判断し遺構外出土遺物として扱った。

1 古代から近世の遺構と遺物

古代から近世に帰属する遺構及び遺物が検出された。遺構は中世から近世の竪穴状遺構・土坑、古代及び中近世の溝である。

(1) 竪穴状遺構

2区から検出された竪穴状遺構は4基であり、調査区南部に集中している。埋没は人為的な埋没土であり、形状及び主軸方位が類似している。遺物出土はあったが、炉や竈などの内部施設や柱などが検出されないため竪穴状遺構とした。



第154図 上根遺跡 2区全体図

1号竪穴状遺構(第155図 PL.23)

X=081~087, Y=-951~954に位置する。平面は長方形で南側は段差を設けた浅い方形の掘り込みが認められる。規模は長軸6.16m、短軸2.70m、深さ20~37cm、長軸の方位は南北で、東西に触れない。重複する遺構はなく、黄褐色土大塊及び黒褐色土の混土による人為的埋没である。内部施設は検出されていない。遺物は、埋没土中から板状の石製品(第155図1号-1)が出土した。非掲載遺物であるが、土師器大破片55g、近世の灰釉陶器や焙烙が出土した。時期は、出土遺物及び埋没土の状況から中世以降と考えられる。

2号竪穴状遺構(第155図 PL.23)

X=076~084, Y=-944~946に位置する。平面は長方形で、西側及び南側に土坑状の掘り込みが認められるが一連の竪穴状遺構とした。規模は長軸7.64m、短軸2.84m、深さ2~65cm、長軸の方位は南北で、東西への振れはみられない。3号竪穴状遺構に切られており、灰色土塊及び黄褐色土塊を多量に含む黒褐色土による人為的埋没である。内部施設は、2号竪穴状遺構と同様に検出されていない。非掲載遺物であるが、埋没土中から土師器大破片40gが出土したが、混入と判断した。埋没土は3号竪穴状遺構と類似し、時期は中近世以降と考えられる。

3号竪穴状遺構(第155図 PL.23)

X=076~080, Y=-947~951に位置する。平面は

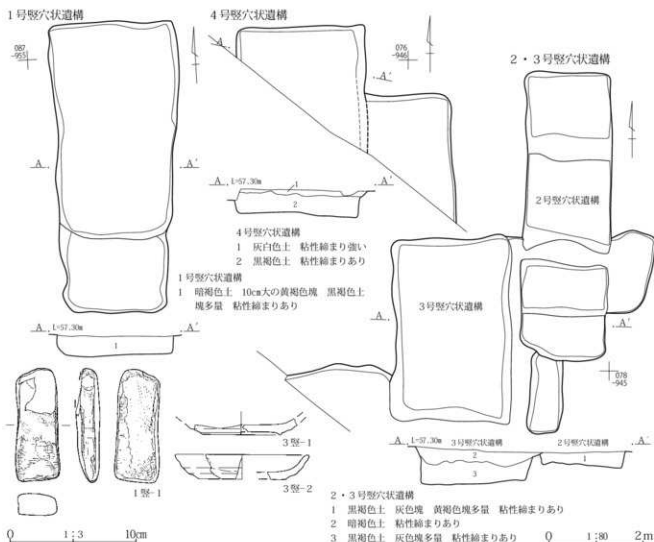
長方形で、規模は長軸3.80m、短軸2.42m、深さ50~75cmである。南西側に長さ25cm、深さ15cmの掘り込みが認められるため一連の竪穴状遺構とした。長軸の方向は、南北で東西南北方向への振れはない。2号竪穴状遺構と重複しており、3号竪穴状遺構が新しい。灰色土塊を多量に含む黒褐色土及び暗褐色土による人為的埋没と考えられる。内部施設は、1・2号竪穴状遺構と同様に検出されていない。遺物は、埋没土中から17世紀代の皿(第155図3号-1)、陶器皿(第155図3号-2)が出土した他、非掲載遺物であるが土師器大破片60g、板破片、近世の中国陶器、焙烙、皿が出土している。時期は、出土遺物から時期は17世紀以降と考えられる。

4号竪穴状遺構(第155図 PL.23)

X=072~076, Y=-945~949に位置する。大半が調査区外となるため深さが11~55mであること以外に規模及び形状は不明であり、重複する遺構はない。灰白色土及び黒褐色土による人為的埋没と考えられ、他の竪穴状遺構と同様に内部施設は検出されていない。非掲載遺物であるが、埋没土中から土師器大破片85g、土師器小破片25gが出土しているが、混入と判断した。時期は、3号竪穴状遺構埋没土と類似しており、中世以降の可能性が高い。

(2) 土坑・ピット

2区から検出された土坑は2基である。時期は中近世で



第155図 2区1～4号壑穴状遺構と1・3号壑穴状遺構の出土遺物

あり、1・2号土坑は調査区中央部に隣接して検出された。

1号土坑(第156・157図 PL.23・37)

底面は、ほぼ平坦であり壁は垂直に立ち上がる。黄褐色土塊を多量に含む暗褐色土による人為的埋没である。埋没土中から16～17世紀代の焙烙(第157図1坑-1)と、板碑(第157図1坑-2)が出土した。時期は、出土遺物

から16～17世紀代以降と考えられる。

2号土坑(第156・157図 PL.23・37)

底面は、平坦であり壁は垂直に立ち上がる。にぶい黄褐色土塊を多量に含む黒褐色土による人為的埋没である。遺物は、五輪塔や石製品(第157図2坑-1)が出土した。時期は、出土遺物から中世以降と考えられる。

1号土坑



1号土坑
1 暗褐色土 黄褐色大塊礫を含む 粘性締まりあり

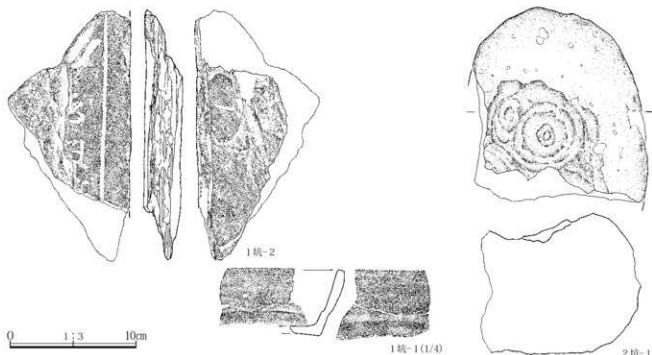
2号土坑



2号土坑
1 黒褐色土 にぶい黄褐色土塊多量を含む
2 黒褐色土 にぶい黄褐色土塊を含む

0 1:40 1m

第156図 2区1・2号土坑



第157図 2区1・2号土坑の出土遺物

(3)溝

2区から検出された溝は、5条であり出土遺物や遺構検出状況及び埋没土の観察などから3号溝は古代、それ以外は中世以降と考えられる。1・4号溝は調査区西側で直角に交わり同時期の溝と考えられ、5号溝は調査区東側壁面から検出された東西に走行する溝である。

1号溝(第158・159図 PL.23・37)

X=107~109, Y=-953~993に位置する。3号溝と重複しており、1号溝が新しい。4号溝と重複はないが、位置関係から同時期と考えられる。西から東に走行し、底面の標高は西端57.16m、東端56.32m、比高84cmであり、勾配は2.07%である。調査区境界の西端から方向を北に変え4号溝と合流している。4号溝は北側に従い標高が高くなることから区画溝の可能性がある。検出した規模は、長さ40.50m以上、上面幅1.44~2.02m、深さ13~63cmである。埋没は、黒褐色土塊、白色軽石及び黄褐色粒を含む暗褐色土による自然埋没と考えられる。溝底部から16~17世紀代の焙烙(第158図1溝-1~3)が出土し、埋没土中からは中世の片口鉢(第158図1溝-4~6)、皿(第158図1溝-7~9)が出土した。石製品では五輪塔(第158図1溝-11・12、第159図1溝-10・13)、碑と思われる石製品(第159図1溝-14)などが出土した。非掲載遺物ではあるが土師器大破片70g、須恵器大破片360g、中世の鉢、皿などが出土した。時期は、出土遺物や埋没土から16~17世紀代以降と考えられる。

2号溝(第158・159図 PL.23・38)

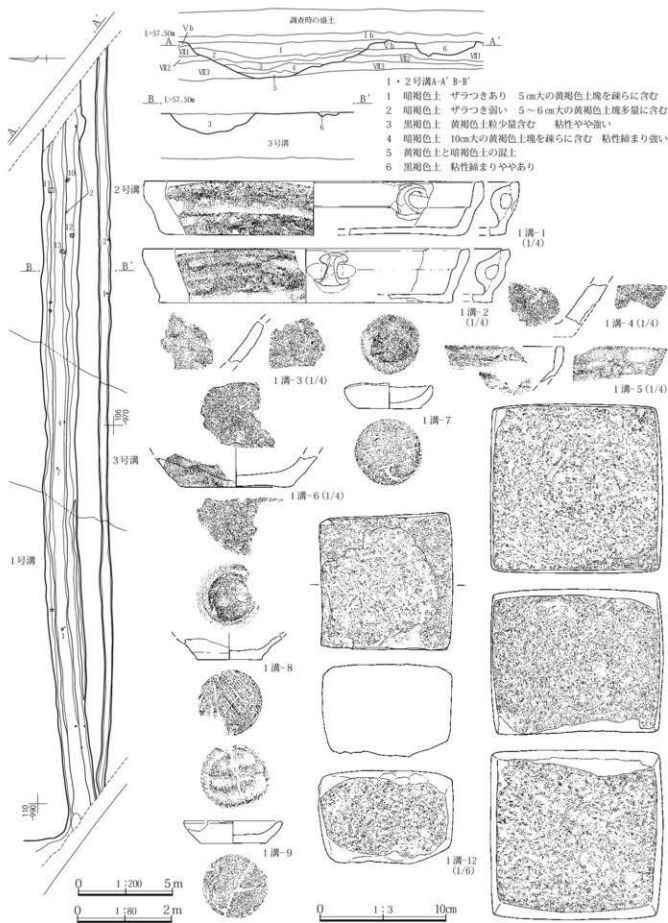
X=106, Y=-950~989に位置する。3号溝と重複しており、3号溝を切っている。東から西に走行し、底面の標高は東端57.30m、西端57.18m、比高12cmであり、底面の傾斜はほとんど認められない。検出した規模は、長さ39.50m、上面幅32~68cm、深さ18~20cmである。黄褐色土粒・塊を含む暗褐色土及び黒褐色土の自然埋没と考えられ、下層にも水流の痕跡は認められない。埋没土中から18世紀代の碗(第159図2溝-1・2)と銭貨(第159図2溝-3)が出土しており、時期は出土遺物から18世紀代以降と考えられる。

3号溝(第160図 PL.23)

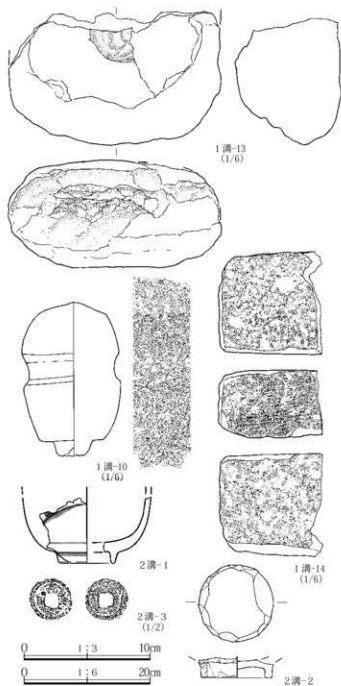
X=094~120, Y=-973~968に位置する。1・2号溝と重複しており、3号溝が古い。北東から南西に走行し、底面の標高は北東端56.36m、南西端56.31m、比高5cmであり、底面の傾斜はほとんど認められない。検出した規模は、長さ24.30m、上面幅5.94~7.74m、深さ0.99~2.00mである。埋没土は、底部付近に洪水起源と考えられる黒色土が堆積していた他、中層にHr-FAを含む暗褐色土が輪状に堆積しており、自然埋没と考えられる。埋没土中からは、土師器高杯(第160図1)が出土した他、非掲載遺物であるが土師器大破片40gが出土した。3号溝として扱ったが、埋没土の状況から古代に埋没した自然流路を検出した可能性が高い。

4号溝(第161図 PL.23・38)

X=110~140, Y=-990~992に位置する。4号溝と1号溝では埋没土に違いは認められず、同時期の一連



第158図 2区1・2号溝と1号溝の出土遺物



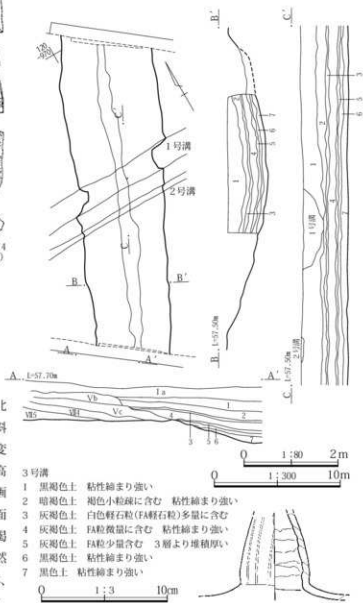
第159図 2区1・2号溝の出土遺物

の溝と考えられる。北から南に走行し、底面の標高は北端57.19m、南端56.99m、比高20cmであり、底面の傾斜はごく弱い。1号溝が調査区境界の西端で北に向きを変え4号溝と合流している。4号溝は北側に従い標高が高くなっており、水流の痕跡も認められないことから区画溝と考えられる。検出した規模は、長さ32.54m、上面幅1.50～2.42m、深さ23～47cmである。埋没は、黒褐色土塊、白色軽石、黄褐色粒を含む暗褐色土による自然埋没と考えられる。遺物は埋没中から中世の鉢、播鉢、内耳罎、甕(第161図1～4)、中世から近世の板破片、砥石、石鉢、宝塔(第161図5～8)が出土した。非掲載

遺物であるが土師器大破片85g、須恵器大破片25gが出土しているが、周辺からの流れ込みと考えられる。他に中世から近世と考えられる土器が出土している。時期は、出土遺物及び埋没土から1号溝と同時期の16～17世紀以降と考えられる。

5号溝(第162図 PL.23)

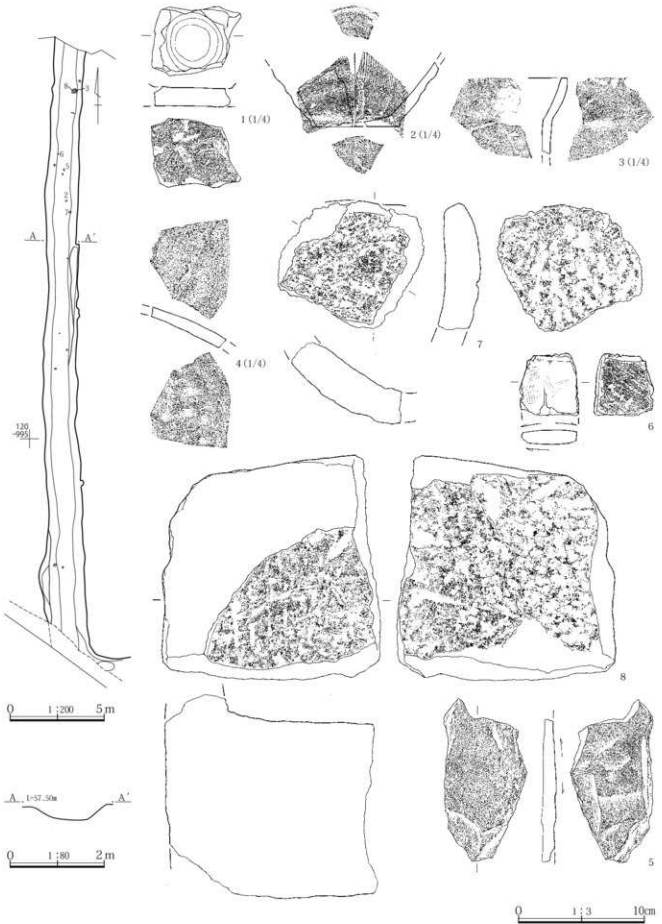
X=082～084、Y=-939～に位置する。東から西に走行し、底面の標高は東端57.17m、西端57.12m、比高は5cmであり、際立った底面の傾斜は認められない。検出された規模は、長さ0.54m、上面幅1.56m、深さ19cmであり、上根遺跡1区にまでは延長されていない。As-Bを含む暗灰褐色土による自然埋没と考えられ、下層にも水流の痕跡はない。出土遺物はないが、埋没土の状況から、時期は中世以降(As-B降下以降)と考えられる。



第160図 2区3号溝と出土遺物

3号溝

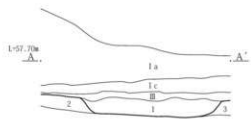
- 1 黒褐色土 粘性締まり強い
- 2 暗褐色土 褐色小粒砂を含む 粘性締まり強い
- 3 灰褐色土 白色軽石粒(FAR軽石粒)多量を含む
- 4 灰褐色土 FAR微量を含む 粘性締まり強い
- 5 灰褐色土 FAR少量含む 3層より堆積厚い
- 6 黒褐色土 粘性締まり強い
- 7 黒色土 粘性締まり強い



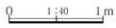
第161図 2区4号溝と出土遺物



- 5号溝
 1 灰褐色土 As-Bの混入あり 色味やや暗く全体的にザラつきあり 粘性あり締まりややあり
 2 暗褐色土 粘性あり 締まり強い 色調やや暗い



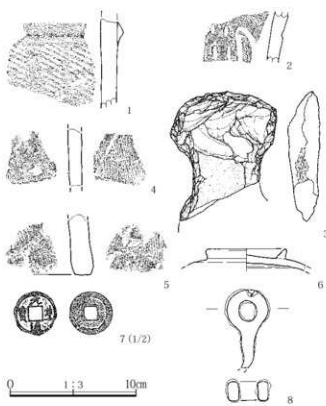
- 3 暗灰色土 粘性強く締まりあり 水分を多量に含む 暗褐色土塊を含む



第162図 2区5号溝

2 遺構外の遺物(第163図 PL.38)

2区では遺構に伴う遺物のほかに遺構外の遺物が出土している。縄文時代の遺物では、加曾利E4式、称名寺式(第163図1・2)など中期から後期の土器片が出土している。非掲載遺物では、称名寺式1点、後期後葉3点の他、1号溝の埋没土中から打製石斧(第163図3)が出土した。割片の総重量は、黒色頁石44.0g、ホルンフェルス23.0gである。古墳時代から奈良・平安時代の遺物は、埴輪破片と須恵器环蓋(第163図4~6)であり、非掲載遺物の総重量は土師器大破片430g、須恵器大破片130gである。中世から近世の遺物では、銭貨(第163図7)、釣手金具(第163図8)の他、中世の中国陶器、国産陶器、近世の国産磁器、国産施釉陶器、近現代陶磁器などが出土している。



第163図 2区遺構外の出土遺物

第4節 3区の調査成果

3区の調査区北西部はローム漸移層(基本土層第VI面)を遺構確認面とし、調査区南東部から南側の1・2区にかけて谷地形となるため表土下の黒褐色土(基本土層第IIb層)を遺構確認面とした。3区から検出された遺構は、古墳時代の竪穴住居、奈良・平安時代から近世の土坑、ピット、井戸、溝の他、中世から近世の掘立柱建物・橋である。調査区中央部から出土した縄文時代の土器と石器のうち、遺構の構築時期と明らかに異なる場合は混入と判断し遺構外出土遺物として扱った。

1 縄文時代の遺構と遺物

縄文時代の遺構は土坑だけであるが、3区では遺構を伴わないものの早期から後期までの遺物が出土している。

(1) 土坑

3区から検出された土坑は2基であり、調査区北側で隣接して検出されている。時期は縄文時代後期である。

6号土坑(第165図 PL.23・38)

埋没は、堆積状況から自然埋没と考えられる。埋没土中から称名寺式深鉢の胴部片(第165図6坑-1)が出土している。時期は、出土遺物から縄文時代後期初頭と考えられる。

7号土坑(第165図 PL.23・38)

埋没は、ローム塊を含む褐色土及び暗褐色土による自然埋没と考えられる。埋没土中から称名寺式深鉢の口縁突起(第165図7坑-1)の他、磨石(第165図7坑-2)が出土している。非掲載遺物であるが土師器大破片10gが出土しているが、混入と考えられる。時期は、出土遺物と埋没土から縄文時代後期初頭と考えられる。

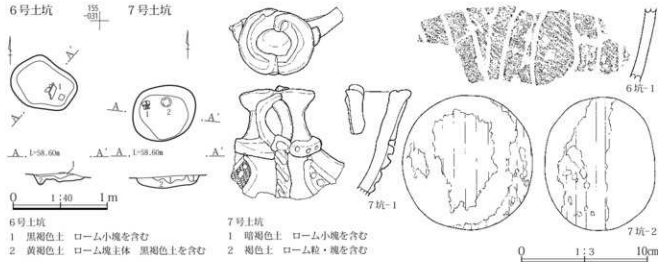
2 古墳時代以降の遺構と遺物

古墳時代から近世に帰属する竪穴状遺構、土坑、溝が検出されている。



第164図 上根遺跡 3区全体図

6号土坑 7号土坑



- 6号土坑
 1 黒褐色土 ローム小塊を含む
 2 黄褐色土 ローム塊主体 黒褐色土を含む

- 7号土坑
 1 暗褐色土 ローム小塊を含む
 2 褐色土 ローム粒・塊を含む

第165図 3区6・7号土坑と出土遺物

(1) 竪穴住居

3区において検出された竪穴住居は3軒である。竪穴住居は、調査区際で検出されたために全体が明らかにできなかったものや、重複のため失われた部分があり、部分的な調査である。時期は、3軒ともに古墳時代である。

1号竪穴住居(第166・167図 PL.24・38)

位置 X=141~143, Y=-036~043

形状・規模 調査区外にかり、一部は重複で失われているため判然としないが、方形となる可能性が高い。検出された北壁の長さ5.50m、壁高4~15cmである。

主軸方向 N-60°-E

重複 4・6号溝に切られており、1号竪穴住居が古い。

埋没土 後世の削平により残存状態は不良で、埋没経過は判断できなかった。

床面 使用による硬化面は不明瞭である。掘り方はローム塊を多量に含む暗褐色土で床面を構築している。

炉 中央部よりやや北側から検出された。残存状態は不良であり、焼土粒を含む不定形の範囲を炉と判断した。規模は、長径34cm、短径29cmである。

貯蔵穴 床面精査では不明瞭であったが、掘り方調査において南東隅から検出した。6号溝との重複で南半部を削平されていた。平面は不定形で、規模は東西45cm、南北残存長37cm、深さは32cmである。

周溝 掘り方調査においても検出できなかった。

柱穴 掘り方調査でピットが3基検出された。対角線上に位置していることから主柱穴と考えられる。規模は、P1(径25cm、深さ45cm、円形)、P2(径33cm、深さ54cm、円形)、P3(径25cm、深さ60cm、円形)である。柱穴の間隔は、P1・P2間は2.95m、P2・P3間は3.12mで、南北間がやや長い。

掘り方 中央部を方形に残し、壁面から1.10~1.40mの幅で周回するように約10cm掘り込まれている。

遺物出土状態 床面直上から土師器高杯(第167図3・4)、埴(第167図5)、甕(第167図7・9)が、埋没土中からは高杯、甕が出土した他、非掲載遺物は土師器大破片2,360gが出土した。

所見 時期は、出土遺物から古墳時代の5世紀前半~中葉と考えられる。

2号竪穴住居(第168図 PL.24)

位置 X=140~142, Y=-022~026

形状・規模 攪乱及び重複のため判然としないが、方形になる可能性が高い。検出した北西壁長は4.33m、壁高

2~17cmである。

主軸方向 N-35°-E

重複 5・7・9号溝と重複し、7号溝より新しく、5・9号溝より古い。

埋没土 ローム塊を含む暗褐色土による自然埋没と考えられる。

床面 北壁際より南壁際が4~8cm低く、ローム塊と黒褐色土で床面を構築している。

炉 平面は楕円形で、規模は長径85cm、短径40cm、深さ9cmであり、使用面に焼土塊が認められる。掘り方があり、ローム塊を多量に含む暗褐色土で埋没していた。

貯蔵穴 掘り方調査でも検出されなかった。

周溝 幅13~30cm、深さ2~10cmの周溝が構築されていた。

柱穴 床面精査では不明瞭であったが、掘り方調査で2基の主柱穴を検出した。規模は、P1(径33cm、深さ33cm、円形)、P2(径25cm、深さ38cm、円形)である。壁面からはほぼ等距離に位置し、柱穴間は2.24mである。

掘り方 ローム面に約10cm掘り込まれており、溝状の窪みを検出された。

遺物出土状態 床面の南西隅及び北側周溝から遺物が出土した。非掲載遺物は土師器大破片430gである。

所見 時期は、出土遺物から5世紀代と考えられる。

3号竪穴住居(第169図 PL.25・39)

位置 X=159~161, Y=-023~028

形状・規模 調査区外にかかるため全体形は不明であるが、方形である可能性が高い。検出した規模は、南壁長4.65m、壁高2~9cmである。

主軸方向 N-67°-E

重複 3・8号溝と重複し、埋没土の確認状況から3号竪穴住居が古い。

埋没土 後世の削平により埋没土の状況は不明である。

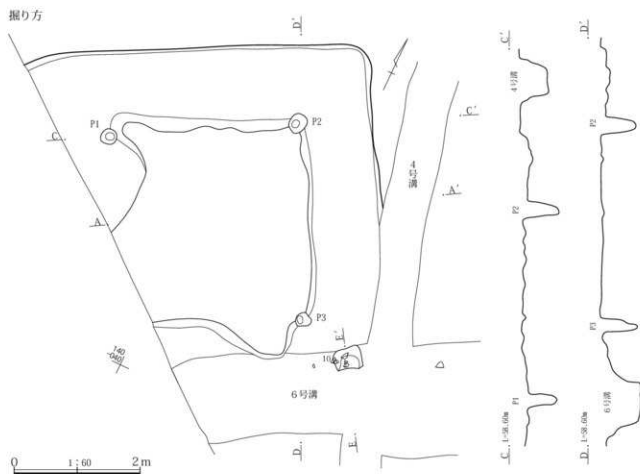
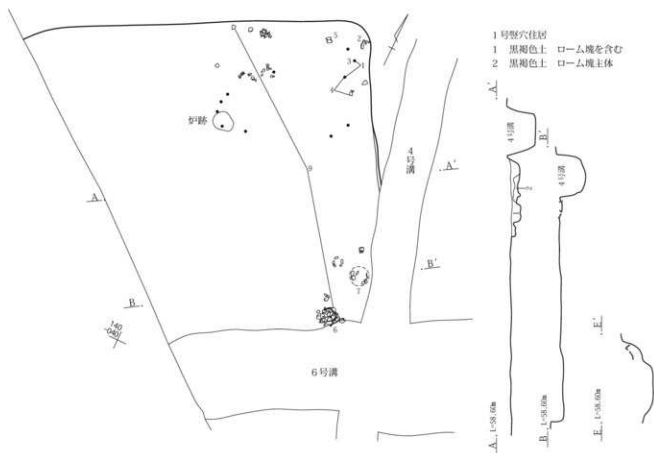
床面 削平により床面は判然としない。

炉・竈 検出されなかった。

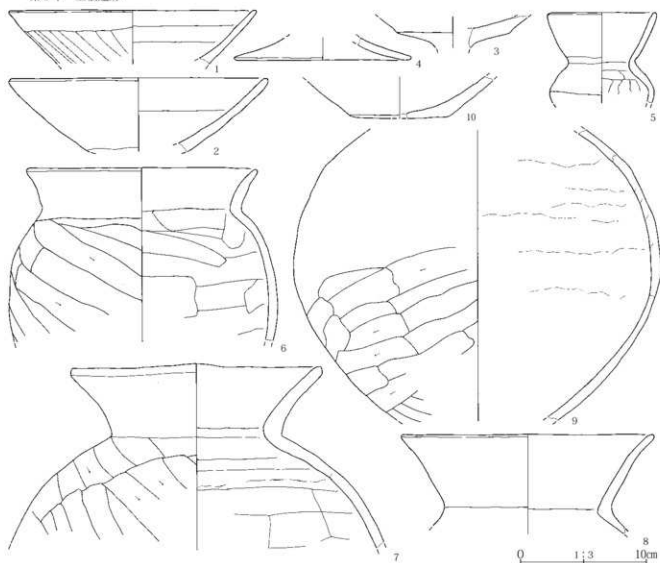
貯蔵穴 南西隅から検出された。平面は長方形で、規模は長径70cm、短径44cm、深さ26cmである。ローム小塊を含む黒褐色土による自然埋没と考えられる。

周溝 掘り方調査で西壁、南壁及び東壁の一部に幅9~29cm、深さ1~5cmの周溝が検出された。

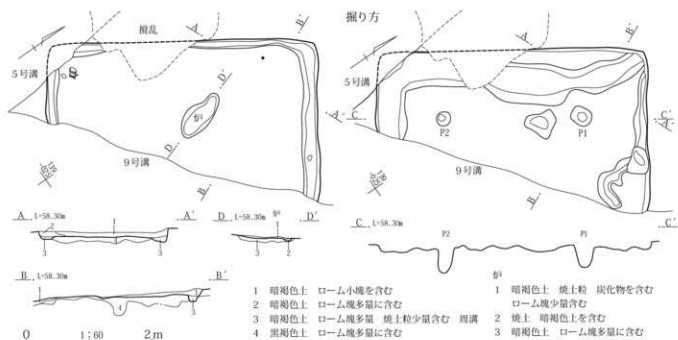
柱穴 4基のピットを対角線上に検出し、柱穴と判断した。規模は、P1(径30cm、深さ23cm、円形)、P2(長径52cm、短径38cm、深さ30cm、楕円形)、P3(径25cm、



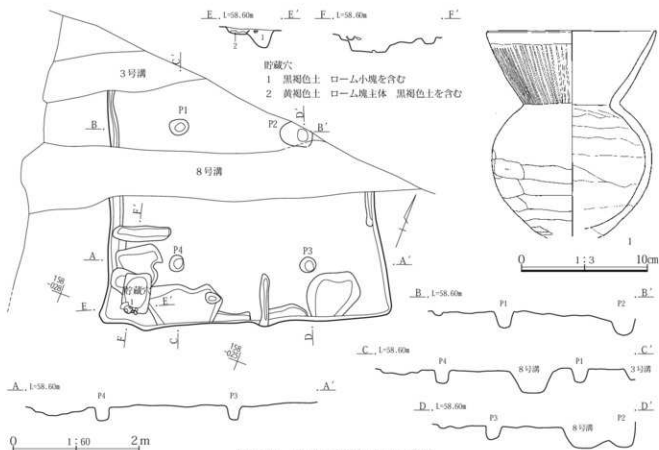
第166図 3区1号竪穴住居



第167図 3区1号竪穴住居の出土遺物



第168図 3区2号竪穴住居



第169図 3区3号貯穴住居と出土遺物

深さ19cm、円形)、P 4 (径25cm、深さ22cm、円形)である。柱間は、P 1・P 2間は1.95m、P 2・P 3間は2.05m、P 3・P 4間は2.10m、P 1・P 4間は2.20であり、南北間がやや長い。

掘り方 南西コーナー部を仕切るように、南北85cm、幅11～15cm、深さ7～9cmの間仕切り状の溝が検出された。

遺物出土状態 貯蔵穴から埴(第169図1)が出土した。

所見 時期は、出土遺物から古墳時代5世紀前半と考えられる。

(2) 掘立柱建物・橋

3区から検出された掘立柱建物は1棟である。他に3・8号溝内に直行して並ぶピット列が検出され、検出位置から溝に架けられた橋の橋脚と判断した。検出されたピットのうち掘立柱建物及び橋の柱穴はピット番号を変更した。(第1表参照)

1号掘立柱建物(第170図)

位置 X=151～154、Y=-031～034

重複 なし。

主軸方向 N-77°-W

規模・形態 桁行2間、梁行1間の、東西棟となる側柱

建物である。桁行3.60m、梁行2.10mである。柱間の寸法は第31表のとおりであるが、柱穴の規模は22～44cmの円形及び楕円形である。柱間は桁行6尺、梁行7尺である。

出土遺物 なし。

所見 時期は、掘立柱建物の規模や形状から、中世以降と考えられる。

1号橋(第171図)

位置 X=154～157、Y=-036～038

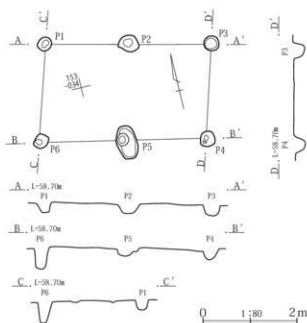
重複 3、8号溝内で検出されており、重複ではなく同時期と判断した。

主軸方向 N-14°-W

規模・形態 橋脚間の寸法は、第32表のとおりであるが、柱穴掘り方は26.0～40.4cmの円形及び不定形である。長さは、北側1.30m、南側1.00m、東側2.30m、西側2.50mと一定しない。

出土遺物 なし。

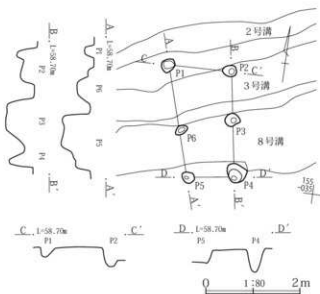
所見 3・8号溝内に直交してピットが並んで検出されたことから、溝に架けられた橋の橋脚と判断した。時期は、3・8号溝に想定した中世以降と考えられる。



第170図 3区1号掘立柱建物

第31表 上根遺跡3区1号掘立柱建物計測表

柱ノ.30.	幅 縦(m)			形状	面積・寸法(m)	
	直径	短径	深さ		柱間の寸法(m)	柱間の寸法(m)
P 1	30	28	20	円形	P1-P2 1.75	
P 2	44	35	22	楕円形	P2-P3 1.78	
P 3	32	32	23	円形	P3-P4 1.58	
P 4	32	32	22	円形	P4-P5 1.80	
P 5	26	26	14	円形	P5-P6 1.76	
P 6	30	28	46	円形	P6-P1 2.08	



第171図 3区1号橋

第32表 上根遺跡3区1号橋計測表

柱ノ.30.	幅 縦(m)			形状	柱間の寸法(m)	
	直径	短径	深さ		P1-P2	P2-P3
P 1	30	24	26	円形	P1-P2 1.34	
P 2	30	24	40	円形	P2-P3 1.04	
P 3	32	26	58	円形	P3-P4 1.20	
P 4	40	31	52	楕円形	P4-P5 1.02	
P 5	26	23	30	円形	P5-P6 1.00	
P 6	26	18	30	楕円形	P6-P1 1.40	

(3) 土坑・ピット

3区から検出された土坑は、5基、ピットは36基である。遺構に伴う遺物が少なく、詳細な時期判定をすることができないため、埋没土の状況をもとにして時期を判断した。以下は遺物が伴うもの、形状や埋没土に一定の特徴が認められるものについて取り上げる。埋没状況について、人為的と判断したものについては記述した。各遺構の形状や計測値については、第34表を参照されたい。

1号土坑(第172図 PL25)

6号溝と重複しており、1号土坑が新しい。底面は、平坦であり壁は斜めに立ち上がる。出土遺物はなく時期を確定することはできなかった。

2号土坑(第172図)

3号土坑・6号溝と重複し、2号土坑が新しい。埋没土は、ローム塊を多量に含み、堆積状況から人為的埋没と考えられる。出土遺物はなく時期を確定することはできなかった。

3号土坑(第172図)

2号土坑・6号溝と重複し、2号土坑よりも古く、6号溝よりは新しい。埋没土は、多量のローム塊を含むもので、人為的埋没と考えられる。出土遺物はなく時期を確定することはできなかった。

4号土坑(第172図)

6号溝と重複し、遺構の確認状況から4号土坑が古い。埋没は、堆積状況から人為的埋没と考えられる。時期は、6号溝との重複関係から時期は古代の可能性はある。

5号土坑(第172図)

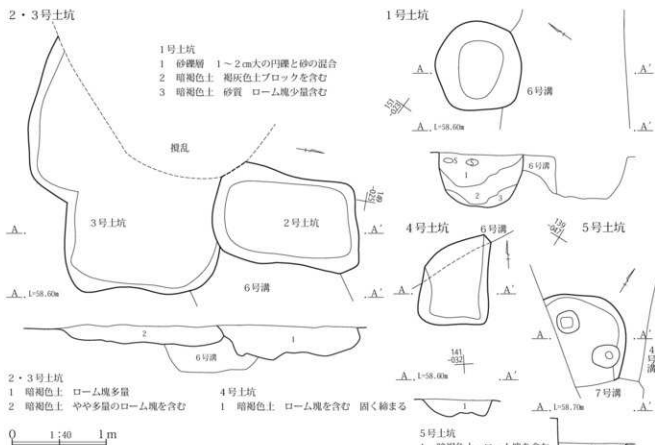
7号溝と重複し、埋没土の確認状況から5号土坑が古い。埋没は、人為的埋没土と考えられ、時期は7号溝との重複から古代以前の可能性がある。

(4) 井戸

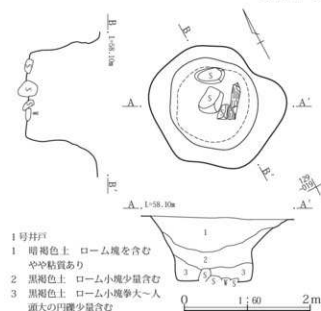
3区において検出された井戸は1基だけである。南部に位置し、周辺に溝以外の遺構の検出はない。

1号井戸(第173図 PL.25)

X=129, Y=-018に位置する。平面は不整形円形で、規模は長径2.13m、短径1.92m、深さは1.30mである。底面は平坦であり壁面は底部から約50cm垂直に立ち上がった後、開口部にかけて斜めに立ち上がる。底部からは、多量の自然礫と木材が出土しているが、木材に加工痕は認められず、自然木と考えられる。ローム塊を含む暗褐色土と黒褐色土が互層になり堆積していることから、人為的埋没と考えられる。アグリ部は検出されていない。



第172図 3区1~5号土坑



第173図 3区1号土坑

ないが、確認面から約1.00m下の層が湧水層と考えられる。出土遺物がなく明確な時期を確定することができなかった。

(5) 溝

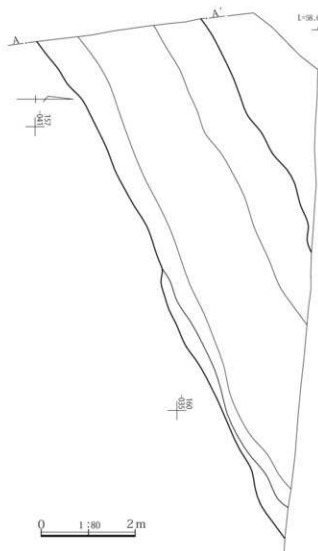
3区から検出された溝は、12条である。中央部から北側に分布しており、時期は古墳時代から近世までの幅がある。

1号溝(第174図 PL.25)

X=160~162、Y=-032~043に位置する。北東から南西に走行し、底面の標高は北東端57.92m、南西端57.69m、比高23cmであり、底面の傾斜はほとんど認められない。検出された規模は、長さ11.70m、上面幅3.04~3.36m、深さ65~82cmである。ローム塊及び礫を含む褐灰色砂質土によるレンズ状の堆積が認められることから、自然埋没と判断した。非掲載遺物は土師器大破片460g、土師器小破片40g、須恵器小破片540gである。時期は、出土遺物から古代以前と考えられる。

2号溝(第175図 PL.25)

X=155~161、Y=-030~142に位置する。2号溝が3号溝より新しく、5号溝より古い。北東から南西に走行し、底面の標高は北東端58.29m、南西端58.24m、比高5cmと底面の傾斜はなく、水流の痕跡も認められないことから区画溝の可能性がある。検出した規模は、長さ13.76m、上面幅22~60cm、深さ10~26cmである。埋没は、自然か人為的埋没か判断できなかった。時期は、埋没土中から17世紀代の皿(第175図2溝1)が出土していることから、17世紀以降である。



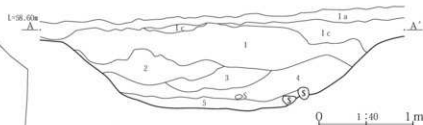
第174図 3区1号溝

3号溝(第174図 PL.25)

X=155~162, Y=-027~042に位置する。2・5・8号溝、1号橋、3号竪穴住居と重複しており、検出状況などから3号竪穴住居より新しく、2・5号溝より古く、8号溝、1号橋とは同時期と判断した。北東から南西に走行し、底面の標高は北東端58.23m、南西端58.12m、比高11cmと、底面の傾斜はほとんど認められない。検出した規模は、長さ17.16m、上面幅0.42~0.82m、深さ4~41cmである。土層の堆積状況から人為的埋没と考えられ、下層にも水流の痕跡は認められない。埋没土中から常滑の甕の破片(第175図3溝1~3)が出土した他、非掲載遺物であるが土師器大破片900g、土師器小破片20g 須恵器大破片80gが出土した。時期は、出土遺物から中世以降と考えられる。

4号溝(第175図 PL.25)

X=136~154, Y=-034~037に位置する。1号竪穴住居、6・7・8・11号溝、28・35号ピットと重複し、



- 1号溝
 1 暗褐色土 ローム小塊少量含む
 2 暗褐色土 砂質 褐色土を含む
 3 褐色土 砂質 ローム塊少量含む
 4 褐色土 砂質 ローム小塊を微量含む
 5 褐色土 砂質 ローム小塊 拳大の内縁を含む

遺構検出状況から、1号竪穴住居・6・7号溝より新しく、8・11号溝、28・35号ピットより古いと考えられる。北西から南東に走行し、底面の標高は北西端58.02m、南東端57.96m、比高6cmであり、底面の傾斜はほとんど認められない。検出した規模は、長さ18.50m、上面幅0.54~1.60m、深さ22~44cmである。埋没は、土層堆積状況から自然埋没と判断され、下層にも水流の痕跡は認められない。非掲載遺物であるが土師器大破片350g、須恵器大破片290gが出土しており、基本土層第V層に類似する土で埋没していることから、古代以前に遡る遺構と考えられる。

5号溝(第176図 PL.25)

X=128~162, Y=-025~031に位置する。2号竪穴住居、2・3・6~10号溝、22・23・24・25号ピットと重複し、遺構検出状況などから、2号竪穴住居、2・3・6~9号溝より新しく、10号溝、22・23・24・25号ピットより古いと考えられる。北から南に走行し、底面の標高は北端57.95m、南端57.30m、比高65cmであり、わずかに底面の傾斜が認められる。検出した規模は、長さ34.00m、上面幅0.96~1.60m、深さ24~69cmである。ローム塊、礫を含む暗褐色土のレンズ状堆積が観察できることから、自然埋没の可能性が高い。埋没土中から椀、甕(第176図5溝-1・2)が出土した他、非掲載遺物である土師器大破片190gが出土した。2号溝との重複から時期は17世紀以降と考えられる。

6号溝(第176図 PL.25・39)

X=139~155, Y=-013~038に位置する。4・5号溝、1・2・3・4号土坑と重複し、検出状況などから1・2・3号土坑、4・5号溝よりは古く、4号土坑より新しい。北東から南西に走行し、底面の標高は北東端57.97m、南西端57.80m、比高17cmで、底面の傾斜はほとんど認められない。検出された規模は、長さ30.00m、上面幅1.12~1.18m、深さ33~57cmである。埋没

土下層は、暗褐色土や褐色土質土でローム塊を含み、中層の暗褐色土中にはHr-FAが含まれ、土層の堆積状況から自然埋没と考えられる。遺物は埋没土から土師器高杯、須恵器杯、灰軸陶器の長頸壺、(第176図6溝-1~4)が出土した他、非掲載遺物ではあるが土師器大破片2,100g、土師器小破片50g、須恵器大破片95g、須恵器小破片40gが出土した。時期は、出土遺物などから平安時代以降と考えられる。

7号溝(第176図 PL.25)

X=137~152, Y=-012~035に位置する。2号竪穴住居、5号土坑、4号溝と重複しており、検出状況などから2号竪穴住居、4号溝よりも古く、5号土坑よりは新しいと考えられる。北東から南西に走行し、底面の標高は北東端58.22m、南西端58.10m、比高12cmであり、底面の傾斜はほとんど認められない。検出した規模は、長さ26.28m、上面幅40~90cm、深さ1~23cmである。埋没は土層断面観察から自然埋没と考えられ、下層にも水流の痕跡は認められない。遺物は、土師器高杯の脚部が1点(第176図7溝-1)出土した他、非掲載遺物の土師器大破片500g、土師器小破片10g、須恵器大破片175gが出土した。時期は、出土遺物が少なく確定ににくいのが、4号溝との重複関係から古代以前に遡るものと思われる。

8号溝(第175図 PL.25)

X=153~161, Y=-023~042に位置する。3号竪穴住居、3・4・5号溝、1号橋と重複しており、検出状況などから4・5号溝、3号竪穴住居より新しく、3号溝、1号橋とは同時期と考えられる。北東から南西に走行し、底面の標高は北東端58.08m、南西端57.80m、比高28cmであり、底面の傾斜がわずかに認められる。検出した規模は、長さ20.78m、上面幅0.68~1.44m、深さ18~62cmである。土層堆積状況から自然埋没と考えられ、時期は、3号溝との関係から中世以降と考えられる。

9号溝(第177図 PL.25)

X=137~150, Y=-006~035に位置する。9号溝が2号竪穴住居、5・10・11号溝と重複しており、検出状況などから2号竪穴住居より新しいことは確かであるが、5・10・11号溝との新旧関係を確認することはできなかった。北東から南西に走行し、底面の標高は北東端58.03m、南西端57.37m、比高66cmと、北東に向かい傾斜が認められ、下層に水流の痕跡が見られることから水路の可能性が高い。検出した規模は、長さ29.38m、上面幅2.96~5.48m、深さ5~66cmであり、褐色土質

土を主体とした自然埋没と考えられる。遺物出土がないため時期を確定することができないが、10号溝との関連が想定されることから、中世以降のものと判断した。

10号溝(第177図 PL.25・39)

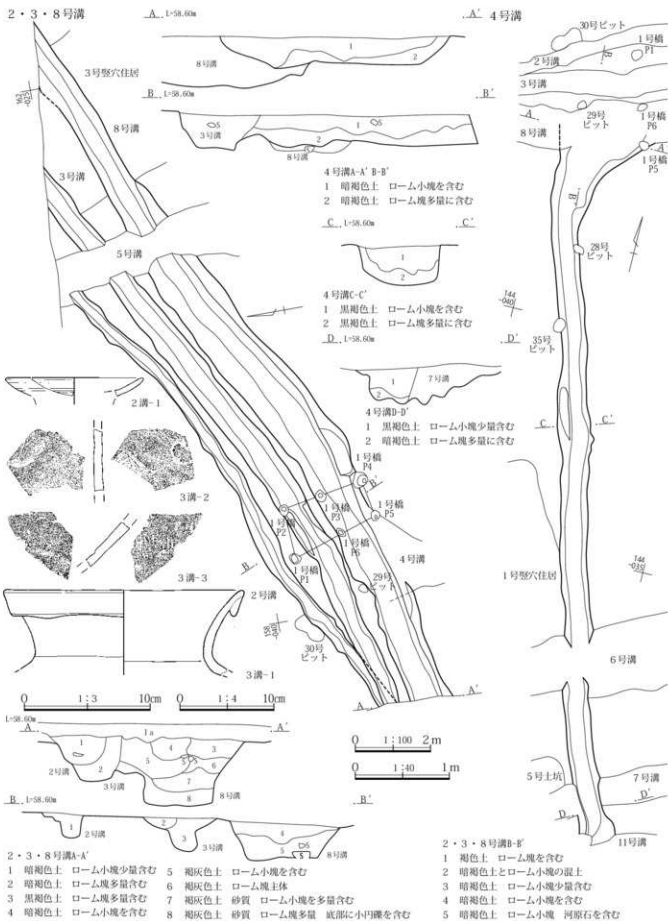
X=131~144, Y=-013~027に位置する。5・12号溝と重複しており、遺構確認状況などから5号溝より新しく、12号溝との新旧関係は不明。9号溝とは並走し、北側で合流するが底部に高低差はなく、埋没土にも際立った差が認められなかったことから、同時期の可能性が高い。北東から南西に走行し、底面の標高は北東端58.03m、南西端57.81m、比高22cmである。底面の傾斜はわずかであるが、埋没土は小礫を含む褐色土で水流の影響を受けていると判断されることから、9号溝と同様に水路であった可能性が高い。検出した規模は、長さ20.02m、上面幅0.72~1.75m、深さ8~35cmである。遺物は須恵器杯、双耳環の他、中世の在地系片口鉢(第177図10溝-1~4)が出土した。非掲載遺物では土師器大破片190g、須恵器大破片65gが出土している。時期は、5号溝との重複から17世紀後半以降と考えられる。

11号溝(第177図 PL.25・39)

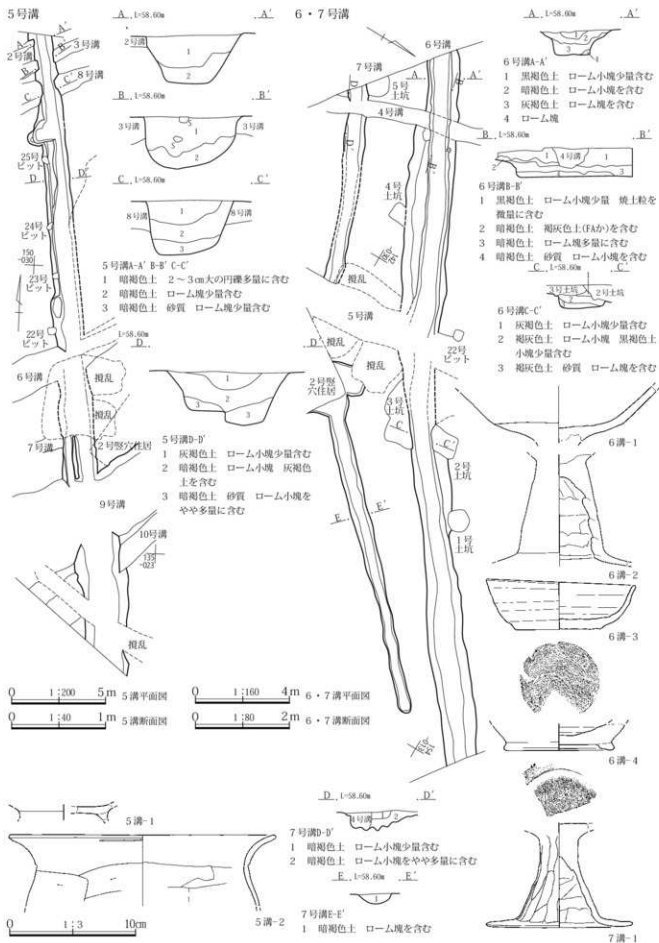
X=136~137, Y=-028~034に位置する。4・9号溝と重複する。4号溝より新しく、9号溝とは重複部分での違いがみとめられないことから同時期の可能性が高い。西から東に走行し、底面の標高は西端57.65m、東端57.46m、比高19cmで、東に向かって傾斜が認められ、埋没土は9号溝に類似する水流の影響を受けたものと判断されることから水路の可能性が高い。検出した規模は、長さ7.00m、上面幅2.10~2.20m、深さ25~67cmである。出土遺物はなく直接に時期を確定することはできないが、9号溝との類似性から時期は中世以降の所産と考えられる。

12号溝(第177図 PL.25)

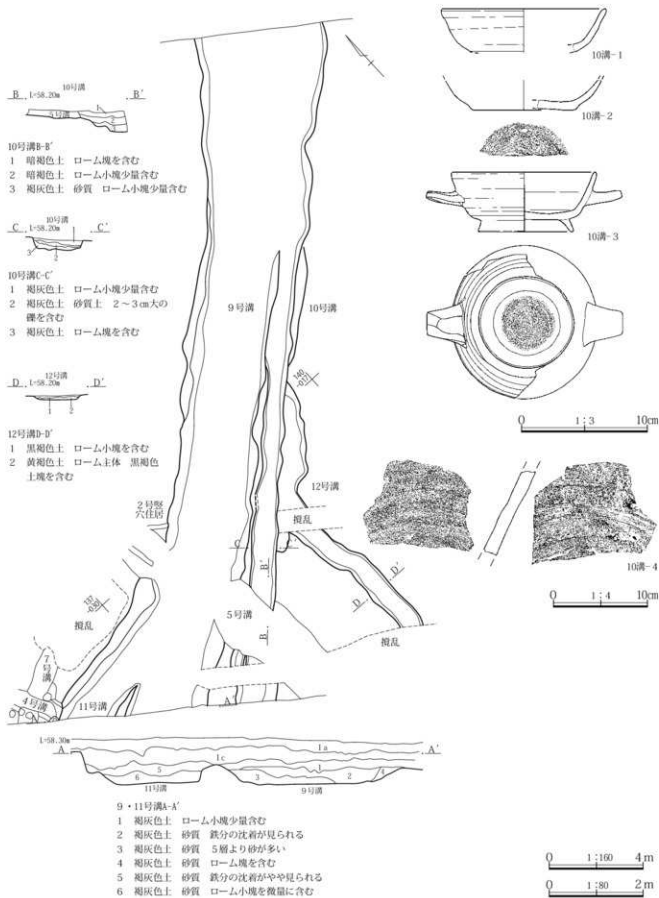
X=130~140, Y=-017~020に位置する。10号溝と重複し、新旧関係は不明。北東から南西に走行し南に折れており、底面の標高は北東端58.04m、南西端58.01m、南端の標高は57.95mとほぼ平坦である。検出した規模は、長さ12.01m、上面幅0.90~1.00m、深さ2~14cmである。埋没土は、ローム小塊を含む黒褐色土と黄褐色土であり、下層にも水流の痕跡は認められない。非掲載遺物は土師器片が出土している。埋没土は、基本土層第V層が主体であることから、古代以前の所産と考えられる。



第175図 3区2・3・4・8号溝と2・3号溝の出土遺物



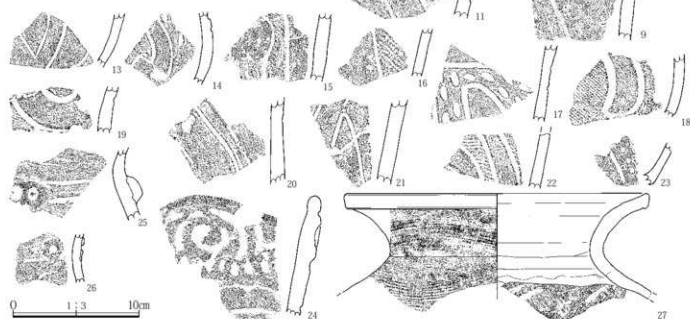
第176図 3区5・6・7号溝と出土遺物



第177図 3区9～12号溝と10号溝の出土遺物

3 遺構外の遺物(第177図 PL.39)

3区では縄文時代から中近世の遺構が検出されているが、これらの遺構に伴わない遺物が多数出土している。縄文時代の遺物では、撚糸文系、鶴ヶ島台式、加曾利E4式、称名寺式、堀之内1式土器(第178図1~26)が代表的なものであり、非掲載遺物を含めると早期から後期まで120点の土器片が出土しているが、その95%が後期に属するものである。石器は、撥型及び分銅型の打製石斧や加工痕ある剥片が出土している。古墳時代以降の遺物では、須恵器甕の破片(第178図27)が出土しており、非掲載遺物の総重量は、土師器大破片1,650g、土師器小破片20g、須恵器大破片580g、須恵器小破片20g、瓦50gであり、中世以降の遺物出土はない。



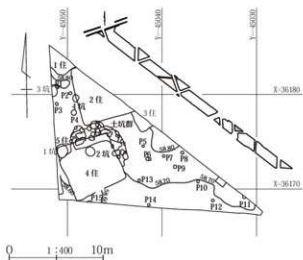
第178図 3区遺構外の出土遺物

第5節 4区の調査成果

4区は表土耕作土から根攪乱が著しい。重機で約40cm掘削しローム漸移層(基本土層第VI層)において遺構確認を行った。縄文時代から近世に至る遺構や遺物が検出され、遺構別には重複した状態の竪穴住居・土坑・土坑群及びピットである。出土遺物については縄文時代の土器及び石器のうち遺構の構築時期と明らかに異なる場合は混入によるものと判断し遺構外出土遺物として扱った。

1 縄文時代の遺構と遺物

縄文時代の遺構は土坑であり、以下のとおり概略を記す。4区では早期から後期に至る遺物が出土し、1~6



第179図 上根遺跡 4区全体図

区のうち土器片及び石器の出土が最も多く、周辺から土坑以外の遺構の検出が想定される。

(1)土坑

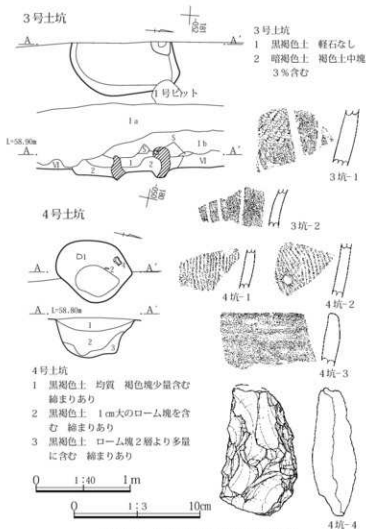
4区から検出された縄文時代の土坑は2基である。調査区北側から検出され、時期は縄文時代後期である。

3号土坑(第180図 PL.39)

1号ピットと重複し、埋没土の確認状況から3号土坑が古い。黒褐色土及び暗褐色土による自然堆積と考えられる。埋没土から称名寺式(第180図3土1・2)が出土し、時期は縄文時代後期と考えられる。

4号土坑(第180図 PL.26・39)

2号竪穴住居と重複し埋没土の確認状況から4号土坑が古い。ローム塊を含む黒褐色土による自然堆積と考えられる。埋没土から燃糸文系、称名寺式(第180図1~3)、打裂石斧(第180図4)が出土する。非掲載遺物は土師器小破片70gであり混入と考えられる。出土遺物から時期は縄文時代後期と考えられる。



第180図 4区3・4号土坑と出土遺物

2 古墳時代以降の遺構と遺物

古墳時代以降の遺構及び遺物が検出された。遺構は竪穴住居・土坑・溝である。

(1)竪穴住居

4区から検出された竪穴住居は5軒である。低地から微高地へ地形が変わる調査区中央部から北部にかけて竪穴住居が検出されている。調査区外及び重複のため部分的な調査となった竪穴住居もあるが、時期は古墳時代前期から後期である。4・5号竪穴住居掘り方調査段階で重複する土坑群が検出され、明確に分離できないため4・5号竪穴住居とともに掲載した。

1号竪穴住居(第181図 PL.26・39)

位置 X=182~185, Y=-049~051

形状・規模 調査区外となるため南西部のみの検出であり不明。確認できる壁高は4~16cmである。

重複 1号竪穴住居埋没土を2号竪穴住居が切る。

埋没土 ローム粒・小塊、炭化物を少量含む暗褐色土による自然堆積か人為か不明。

床面 床面はほぼ平坦である。使用による硬化面は不明瞭である。掘り方はローム塊を多量に含む人為的埋没土で床面を構築する。

炉・竈・柱穴・周溝 床面精査、掘り方調査で検出できなかった。

他の施設 床面精査により2基の土坑が検出された。1号土坑は調査区外となるため確認できる開口部の長さ64cm、深さ32cmである。ローム塊を多量に含む人為的埋没土である。2号土坑は南東隅より検出され上面は円形で、規模は長径69cm、短径54cm、深さ40cmである。埋没は自然堆積か人為か不明。貯蔵穴の可能性がある。

掘り方 中央部を残し壁面から50~120cmの幅で1~5cm掘り込まれている。床下施設は検出されない。

遺物出土状態 壁際の床面から潰れた埴や小型甕、甕(第181図1~4)が出土する。非掲載遺物は土師器大破片1,750gが出土する。

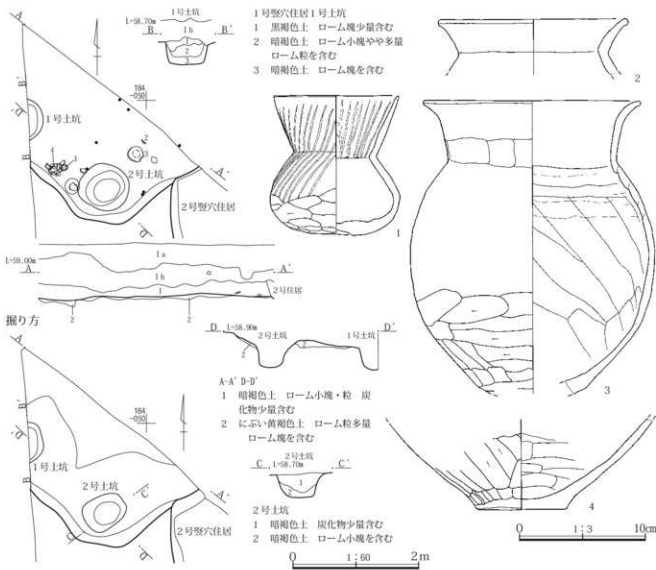
所見 時期は古墳時代5世紀前半と考えられる。

2号竪穴住居(第182・183図 PL.26・27・40)

位置 X=178~182, Y=-043~049

形状・規模 北東側が調査区外となるため不明。確認できる西壁の長さ6.27m、壁高14~30cmである。

主軸方向 N-16°-W



第181図 4区1号壜穴住居と出土遺物

重複 1・3号壜穴住居埋没土を2号壜穴住居が切り、遺埋没土の確認状況から4号土坑、4・5号壜穴住居土坑群より2号壜穴住居が古い。

埋没土 床面はローム粒・塊を含むにぶい黄褐色土により埋没し、上層は焼土塊及び炭化物を含む黒褐色土及び暗褐色土により自然堆積か人為か不明。

床面 床面レベル差はなく平坦である。使用による硬化面は不明瞭である。掘り方は黒褐色土と褐灰色土の混土及び黄褐色土による人為的埋没土で床面を構築する。

炉・竈 床面精査、掘り方調査で検出できなかった。

貯藏穴 床面精査で北西隅より検出される。平面は不定形で、規模は長径1.25m、短径85cm、深さ63cmである。下層に炭化物が含まれ、埋没はローム塊を含む暗褐色土による自然堆積と考えられる。

周溝 掘り方調査から西壁、南壁際に幅15～35cm、深

さ2～9cmの掘り込みが認められる。

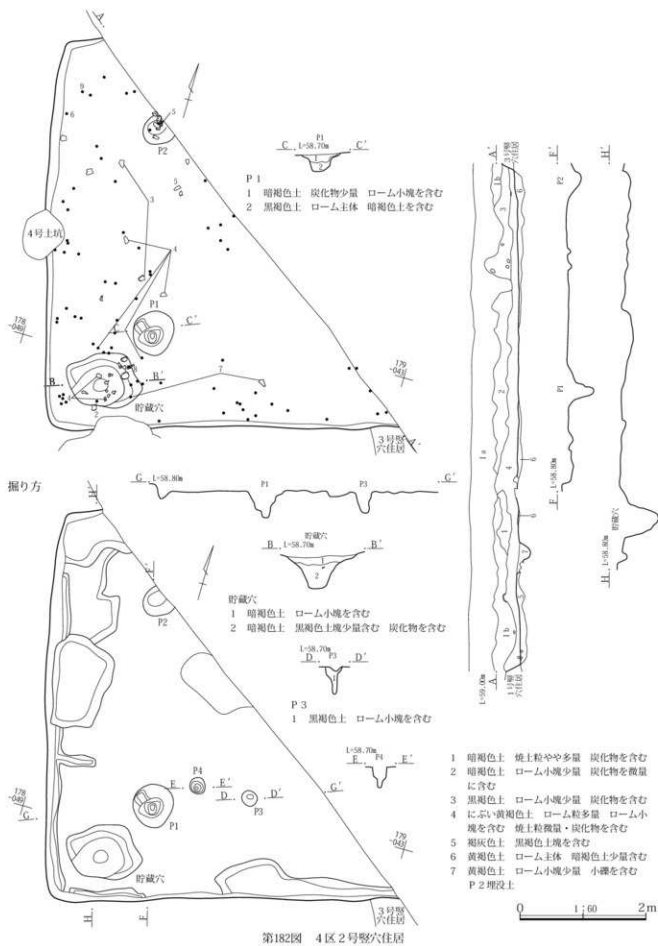
柱穴 主柱穴は西側から2基検出される。P 1は長径69cm、短径65cm、深さ41cm、P 2は確認できる開口部の長さ0.46m、深さ22cmである。柱間は3.35mである。

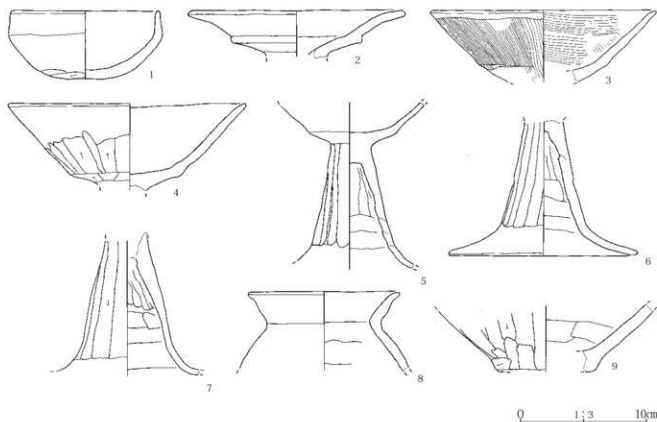
他の施設 掘り方調査から2基のピットが検出された。規模(長径×短径×深さ(cm))は、P 3 (25×23×32)、P 4 (27×25×44)である。

掘り方 中央部を残し壁面から約0.5～1mの幅で周囲するよう約5cm掘り込まれている。

遺物出土状態 床面直上から椀、高杯、甕(第183図1～9)が出土する。非掲載遺物は土師器大破片3,910g、土師器小破片20g、須恵器大破片40g、須恵器小破片20gである。

所見 時期は古墳時代5世紀中頃と考えられる。





第183図 4区2号竪穴住居の出土遺物

3号竪穴住居(第184図 PL.26・27)

位置 X=176~178, Y=-041~043

形状・規模 調査区外となるため不明。確認できる壁高は2~7cmである。

重複 2号竪穴住居が3号竪穴住居埋没土を切る。

埋没土 多量のローム小塊、炭化物、焼土粒を含む人為的埋没土と考えられる。

床面 使用による硬化面は不明瞭である。掘り方はローム塊と暗褐色土による人為的埋没土で床面を構築する。

炉・竈・貯蔵穴・柱穴 床面精査、掘り方調査で検出できなかった。

周溝 南西壁際及び南東壁際の一部で幅20~30cm、深さ2~11cmの溝状の掘り込みが認められ周溝の可能性はある。

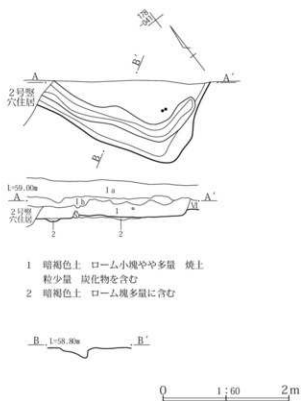
掘り方 掘り方調査により床下施設は検出されない。

遺物出土状態 非掲載遺物であるが土師器大破片130g、須恵器小破片20gが出土する。

所見 出土遺物から時期は古墳時代と考えられる。

4号竪穴住居(第185~189図 PL.27・40・41)

位置 X=171~172, Y=-043~050



第184図 4区3号竪穴住居

形状・規模 形状は長方形で、規模は長軸長5.85m、短軸長5.00m、壁高2～23cmである。床面積は28.34㎡である。**主軸方向** N-25°-W

重複 4号竪穴住居が5号竪穴住居、土坑群埋没土を切り、4号竪穴住居埋没土を2号土坑、17号ピットが切る。

埋没土 床面から壁際にかけて三角堆積が認められ自然堆積と考えられる。

床面 凹凸が認められ残存状態は不良。東壁際より西壁際が約10cm低く、中央部より竈口周辺が約1～3cm低い。使用による硬化面は不明瞭である。掘り方はローム塊を多量に含む黒褐色土及び暗褐色土による人為的埋没土で床面を構築する。

竈 北壁中央部からやや西寄りに付設される。残存部から竈口幅46cm、左袖37cm、煙道1.24mであり北壁より外に伸びる。左側の袖石が原位置で残存する

貯蔵穴・周溝 床面精査、掘り方調査で検出できなかった。

柱穴 対角線上に位置するP7・8・9・11は主柱穴と考えられ、規模(長径×短径×深さ(cm))は、P7(31×20×23)、P8(59×38×32)、P9(58×35×30)P11(26×18×26)である。柱間は、P7からP8は3.10m、P8からP9は2.05m、P9からP11は3.10m、P7からP11は1.95mである。

他の施設 床面精査からピットが7基検出された。規模(長径×短径×深さ(cm))は、P1(48×38×10)、P2(57×52×18)、P3(50×44×12)、P4(65×47×18)、P5(68×64×31)、P6(72×43×32)、P10(68×63×33)である。

掘り方 ローム面を土坑状に掘り込む。5号竪穴住居北側の土坑群と重複し、明確に分離できない状態である。

遺物出土状態 埋没土及び掘り方から環、小型壺、壺、短頸壺(第186～189図1～25)、甕使用面から鉢(第187図10)、非掲載遺物は土師器大破片8,400gが出土し、床面から出土した遺物と掘り方調査から出土した遺物が接合されることから、4号竪穴住居構築時の埋土に伴う混入か、後世の擾乱によるものと考えられる。

所見 時期は古墳時代6世紀後半から7世紀前半と考えられる。

5号竪穴住居(第186・185・189図 PL.28)

位置 X=172～175、Y=-045～051

形状・規模 4号竪穴住居、土坑群との重複のため不明。

確認できる北壁の長さ5.73m、壁高10～13cmである。

主軸方向 N-25°-W

重複 5号竪穴住居埋没土を4号竪穴住居が切る。土坑群埋没土に5号竪穴住居埋没土が認められ土坑群より5号竪穴住居が新しい。埋没土の確認状況から5号竪穴住居より1号土坑が新しい。

埋没土 土坑群との重複及び後世の擾乱のため埋没土は不明瞭である。黒褐色土を含む褐色土の17・18層がやや硬化し床面構築上の可能性がある。

床面 北壁両側の一部が僅かに残存し遺物の出土状況から床面とした。使用による硬化面は不明瞭である。

竈・貯蔵穴・柱穴・周溝 床面精査、掘り方調査で検出できなかった。

掘り方の状態 土坑群埋没土と竪穴住居掘り方との明確な区別はできない。

遺物出土状態 北東隅の埋没土から壺(第189図5住1)、非掲載遺物は土師器大破片1,010g、土師器小片295gが出土する。

所見 出土遺物から4号竪穴住居と時期差はなく古墳時代6世紀後半から7世紀前半と考えられる。

土坑群(第189図)

位置 土坑群はX=168～177、Y=-043～049

形状・規模 土坑及びピット状の掘り込みが4・5号竪穴住居北側から検出され、土坑を個別に分離することができないため土坑群とした。4・5号竪穴住居との重複のため全体の規模は不明。

重複 土坑群埋没土を4・5号竪穴住居が切る。

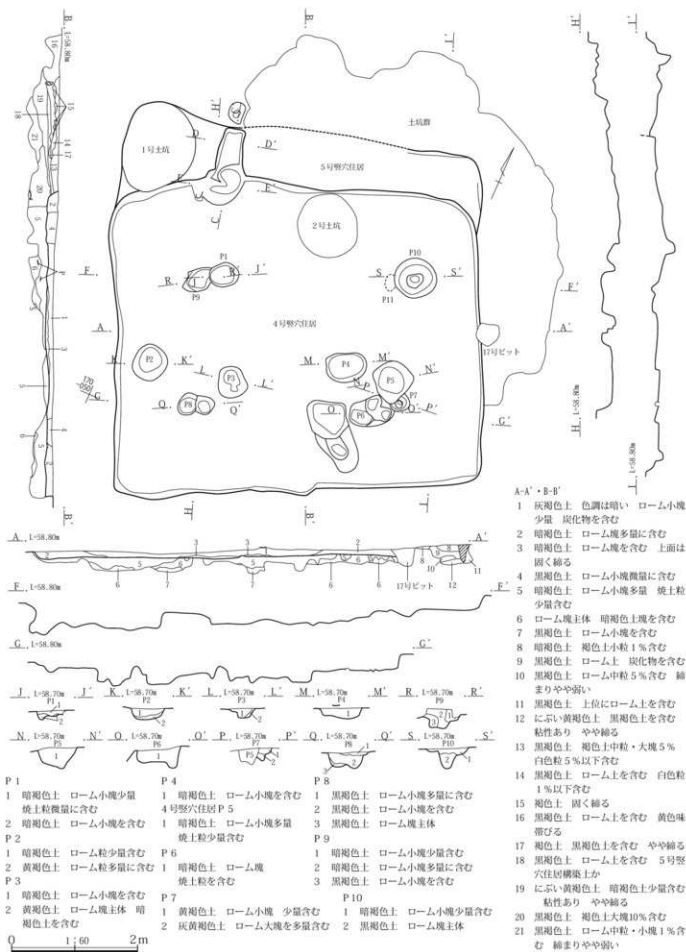
埋没土 ローム塊を含む黒褐色土から褐色土による人為的埋没土と考えられる。4・5号竪穴住居掘り方調査で底面から土坑状の掘り込みが認められ土坑群が4号竪穴住居南部まで広がる可能性がある。

遺物出土状態 非掲載遺物は土師器大破片1,030g、須恵器小破片10gが出土する。4・5号竪穴住居から出土した遺物との時期差はない。

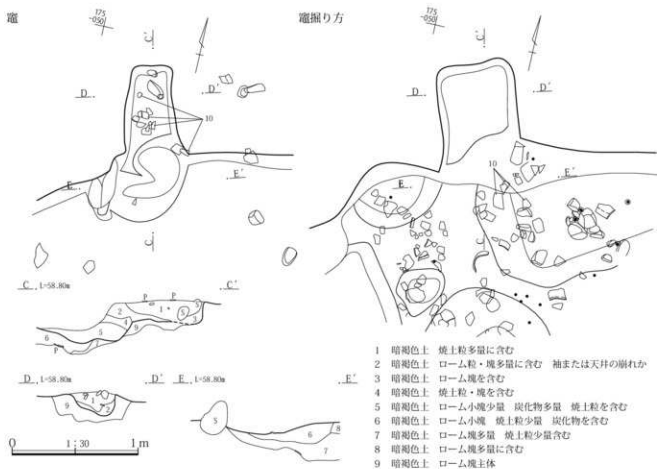
所見 出土遺物から時期は古墳時代中期から後期と考えられる。

(2)土坑・ピット

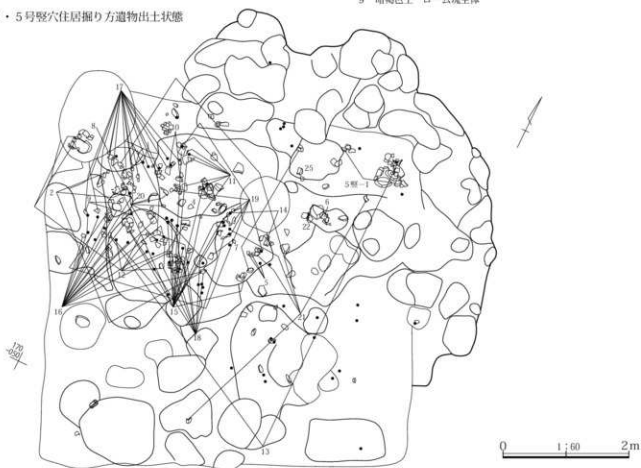
4区から検出された土坑は4基、ピットは17基である。遺構に伴う出土遺物が少なく詳細な時期判定をすることができないため埋没土と基本土層を対比させて時期を判



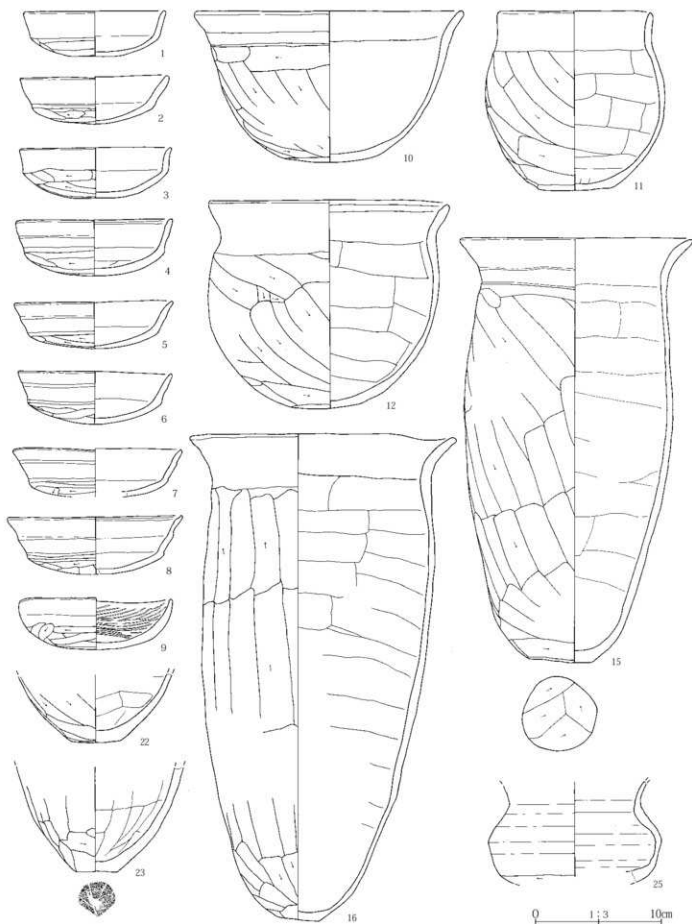
第185図 4区4・5号壁穴住居



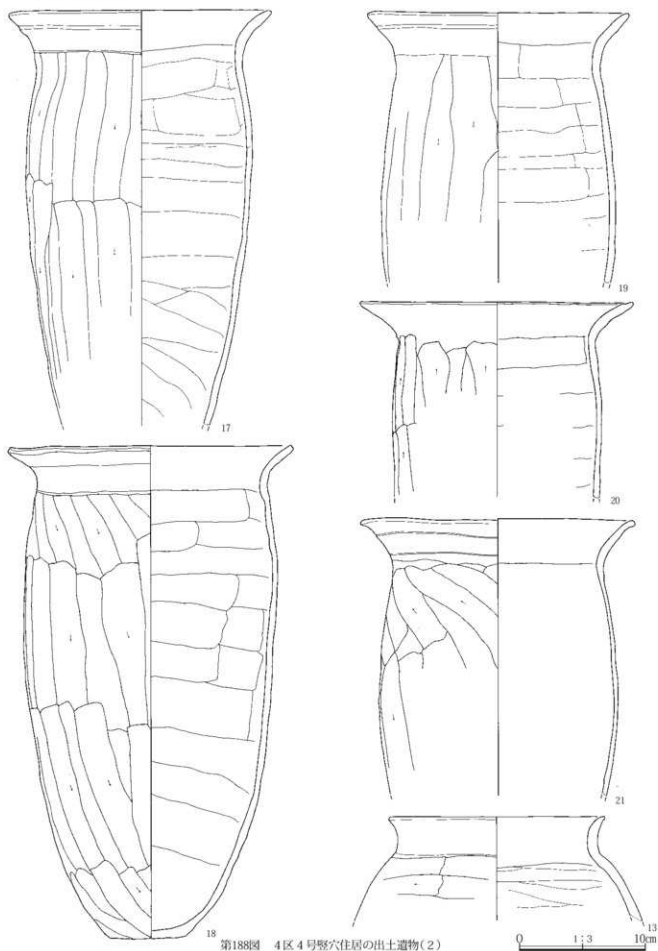
4・5号竈穴住居掘り方遺物出土状態



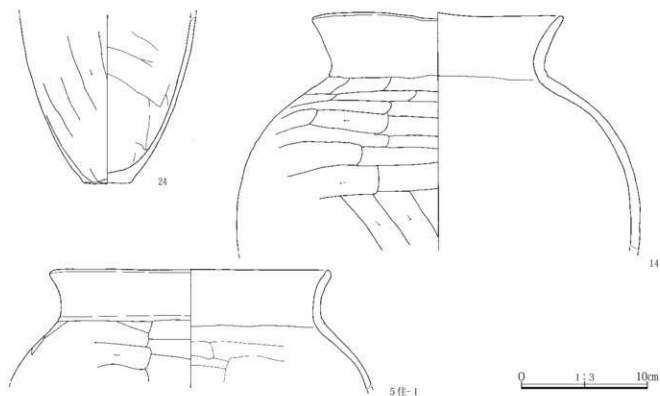
第186図 4区4号竈穴住居竈と4・5号竈穴住居掘り方ないし構築以前の土坑群遺物出土状況



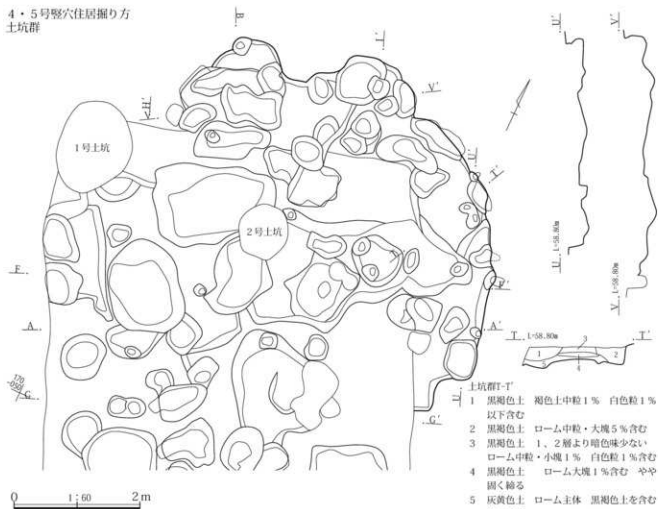
第187図 4区4号竪穴住居の出土遺物(1)



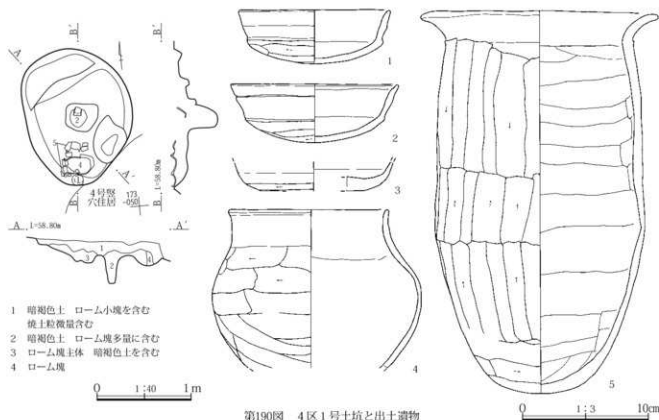
第188図 4区4号竪穴住居の出土遺物(2)



4・5号竪穴住居掘り方土坑群



第189図 4区4・5号竪穴住居の出土遺物と4・5号竪穴住居掘り方ないし構築以前の土坑群



第190図 4区1号土坑と出土遺物

- 1 暗褐色土 ローム小塊を含む
焼土粒微量含む
- 2 暗褐色土 ローム塊多量に含む
- 3 ローム塊主体 暗褐色土を含む
- 4 ローム塊

定したが記述がないものは時期不明とした。以下は遺物が伴うもの、形状や埋没土に一定の特徴が認められるものについて取り上げる。埋没状況については文中に記し、記述がないものについては自然埋没土と考える。すべてのピットは第34表(201頁)において記す。

1号土坑(第190図 PL.28)

底面に小ピット状の掘り込みが認められる。埋没土はローム塊を多量に含む暗褐色土であり、上層に含む焼土粒は隣接する竪穴住居からのものであり、人為的埋没土と考えられる。出土遺物は埋没土から杯、甕(第190図1～5)である。非掲載遺物は土師器大破片395g、土師器小破片90gが出土する。遺構検出状況や埋没土から時期は7世紀前半と考えられる。

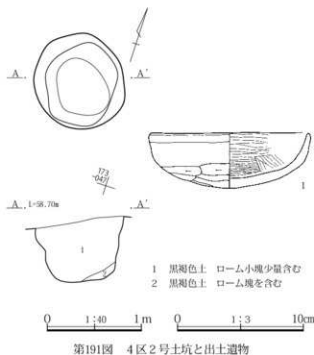
2号土坑(第191図 PL.28)

ローム塊を含む黒褐色土による人為的埋没土である。埋没土から環(第191図1)、土師器片195gが出土する。出土遺物から時期は古墳時代後期と考えられる。

15号ピット(第192図 PL.42)

遺物は埋没土から甕、砥石(第192図15ピット-1・2)、土師器大破片215gが出土する。出土遺物から時期は古墳時代後期と考えられる。

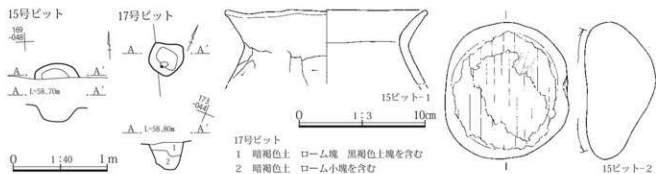
17号ピット(第192図)



第191図 4区2号土坑と出土遺物

- 1 黒褐色土 ローム小塊少量含む
- 2 黒褐色土 ローム塊を含む

4号竪穴住居と重複し17号ピットが4号竪穴住居埋没土を切る。ローム塊を含む黒褐色土及び暗褐色土による自然埋没と考えられる。出土遺物から時期は6世紀後半から7世紀前半以降と考えられる。

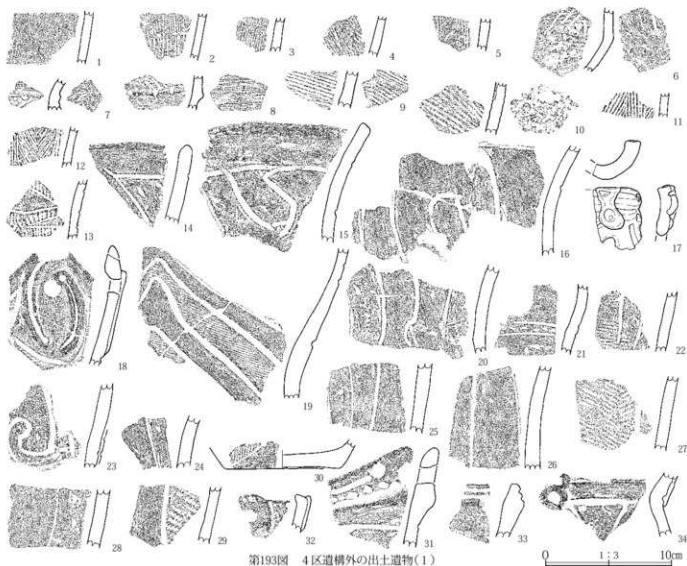


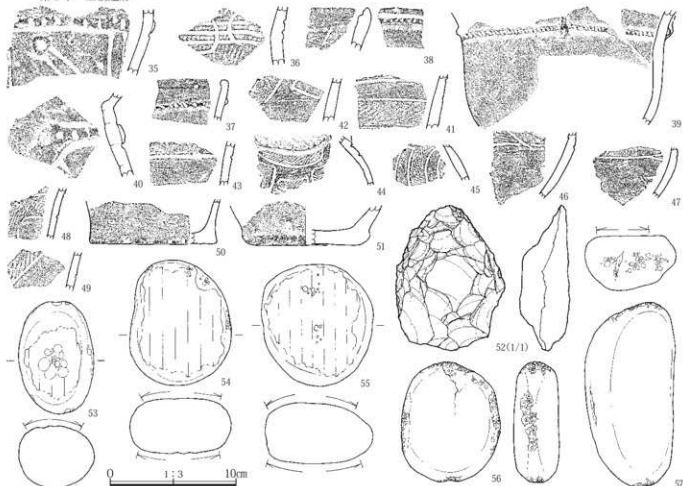
第192図 4区15・17号ピットと15号ピットの出土遺物

3 遺構外の遺物(第193・194図 PL.42・43)

4区の遺構外出土遺物は、時代別には縄文時代の土器は燃糸文系、野鳥式、鶴ヶ島台式、条痕文系、諸磯c式、興津式、称名寺式、堀之内1式、堀之内2式、後期前葉(第193・194図1～51)である。非掲載遺物を含めると土器は早期、前期、後期の239点を数え94%が後期に属する。石器は包含層から石鏃、凹石、磨石、敲石(第194

図52～57)、剥片の総重量はホルンフェルス355.9g、黒曜石6.0g、チャート110g、黒色頁岩95.6g、珪質頁岩21.8g、細粒輝石安山岩38.0g、粗粒輝石安山岩12.7gである。古墳時代から奈良、平安時代の非掲載遺物は土師器大破片1,590g、土師器小破片10g、須臾器大破片140gが出土している。





第194図 4区遺構外の出土遺物(2)

第6節 5区の調査成果

5区東半部は、中世以降の時期に削平されており、現表土を約40cm掘削すると地山となる。そのため基本土層第1b層の下層において遺構確認を行っている。5区西半部は、谷地であり地山までは1.7mであり、表土から80cmほど掘り下げた時点で湧水が認められた。5区で検出した遺構は、古墳時代の竪穴住居、中世から近世の掘立柱建物・土坑・ピット・井戸・溝である。

1 古墳時代以降の遺構と遺物

検出した遺構は、竪穴住居1軒、掘立柱建物1棟、土坑15基、ピット33基、井戸2基、溝3条である。

(1) 竪穴住居

竪穴住居は、調査区南側で検出した1軒である。後世の削平を受けているため、遺構の残存状態は不良である。

1号竪穴住居(第196図 PL.29)

位置 X=175~177, Y=-060~064

形状・規模 形状は、方形で規模は東西2.74m、南北2.62

m、壁高は10~19cmであり、床面積は6.91㎡である。

重複 10号土坑と重複。本遺構が古い。

主軸方向 N-82°-E

埋没土 黄褐色土を含む灰黄褐色土主体で埋没しているが、自然か人為的埋没かは不明である。

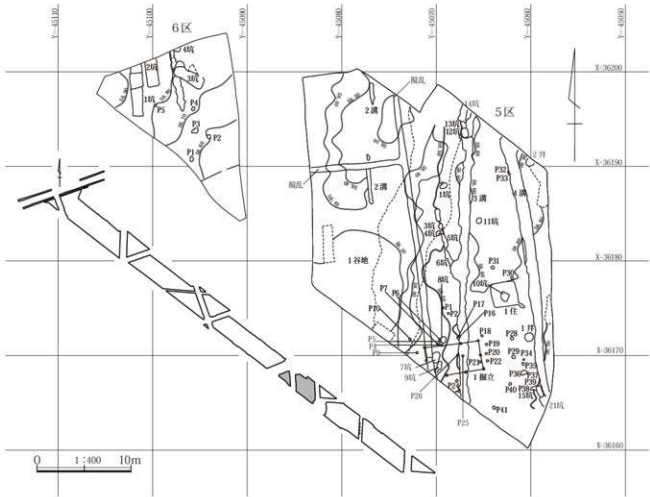
床面 平坦であり、使用による硬化面は不明瞭である。

竈 住居西壁の南東コーナー部に付設されている。規模は、両袖幅87cm、右袖長40cm、左袖長35cm、焚口幅64cm、煙道長140cmである。燃焼部は、屋内側に張り出している。使用面に焼土粒及び灰が残存し、焚口周辺に浅い掘り方が認められる。

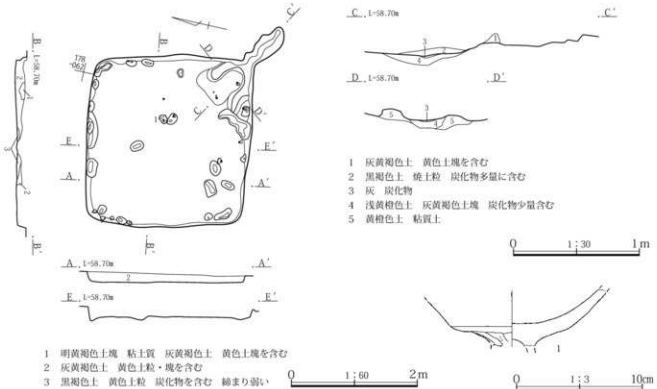
貯蔵穴・周溝・柱穴 床面精査でも検出できなかった。

遺物出土状態 埋没土から土師器高杯が1点(第196図1)出土した他、掲掲載遺物である土師器大破片150g、須恵器大破片10gが出土している。

所見 時期は、竈の設置位置には違和感があるが、出土遺物から5世紀後半と考えられる。



第195図 上根遺跡 5・6区全体図



第196図 5区1号竪穴住居と出土遺物

(2) 掘立柱建物

5区では1棟の掘立柱建物を検出した。周辺からピット・井戸・溝などを検出しており、関連が想定される。

1号掘立柱建物(第197図 PL.29)

位置 X=167~171, Y=-064~071

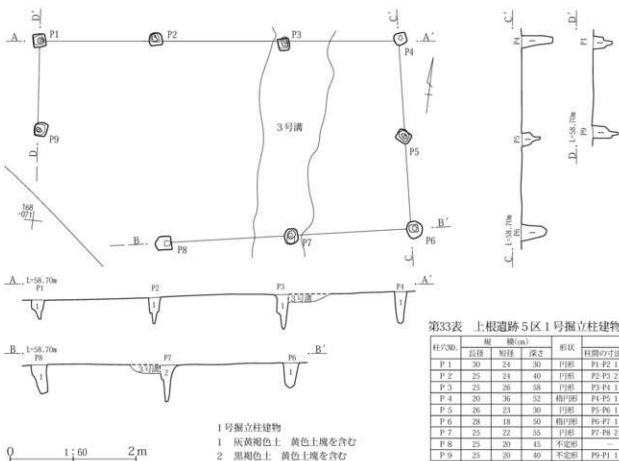
重複 3号溝と重複し埋没土の確認状況から1号掘立柱建物が新しい。

主軸方向 N-84°-E

規模・形態 南西側の柱穴は調査区外であるため未検出であるが、桁行3間、梁行2間の東西棟の側柱建物と考えられ、桁行5.73m、梁行2.99mである。柱穴の規模は30~20cmの円形や楕円形で、柱痕は確認できなかった。柱間寸法は、第33表のとおりであるが、桁行は6尺+7尺+約6尺、梁行は5尺で、桁行の中間がやや開いている。

出土遺物 なし。

所見 時期は、建物規模などから中世以降と考えられる。



第197図 5区1号掘立柱建物

第33表 上根遺跡5区1号掘立柱建物計測表

柱穴No.	規 模(m)			形状	柱間の寸法(m)
	直径	短径	長さ		
P-1	30	24	30	円形	P1-P2 1.86
P-2	25	24	40	円形	P2-P3 2.02
P-3	25	28	58	円形	P3-P4 1.85
P-4	20	36	52	楕円形	P4-P5 1.53
P-5	26	23	30	円形	P5-P6 1.46
P-6	28	18	50	楕円形	P6-P7 1.92
P-7	25	22	55	円形	P7-P8 2.04
P-8	25	20	45	不定形	-
P-9	25	20	40	不定形	P9-P1 1.80

(3) 土坑・ピット

5区で検出した土坑は16基、ピットは33基である。遺構に伴う遺物出土が少なく、詳細な時期確定をすることができないため、埋没土の状況をもとに判断したが記述がないものは時期不明とした。以下には、遺物が伴うものや、形状などに特徴があるものについて取り上げた。埋没状況について判断のできたものについては、本文中に記載した。ピットは計測値などについて第34表に記載した。

2号土坑(第198図)

土層断面観察で埋没状況は判断できなかった。埋没土中から古墳時代の土師器片が出土しており、時期は古墳時代以降と考えられる。

3号土坑(第195図)

土層観察で埋没状況は判断できなかった。埋没土中から古墳時代の土師器片が出土していることから、時期は古墳時代以降の可能性が高い。

5号土坑(第198図)

埋没土は、黄褐色土塊や白色軽石を含む黒褐色土主体であるが、埋没状況についての判断はできなかった。埋没土中から土師器片と須恵器片が出土しており、時期は古代以降と考えられる。

6号土坑(第199図)

3号溝と重複し、埋没土の確認状況から6号土坑が古い。埋没土は、黄褐色土塊や白色軽石を含む黒褐色土を主体としているが、埋没状況は判断できなかった。埋没土中から土師器片と須恵器片が出土しており、時期は古代以降と考えられる。

7号土坑(第199図)

にぶい黄褐色土塊を含む黒褐色土で埋没しており、堆積状況から人為的埋没と考えられる。埋没土中から土師器片と須恵器片が出土しており、時期は古代以降と考えられる。

8号土坑(第199図)

黄色土塊を含む黒褐色土で埋没しているが、埋没状況は判断できなかった。埋没土中から土師器片が出土しており、時期は古墳時代以降と考えられる。

9号土坑(第199図)

黄褐色土塊や白色軽石を含む黒褐色土で埋没しており、土層断面観察から自然埋没と判断した。埋没土中から土師器片が出土しており、時期は古墳時代以降と考えられる。

10号土坑(第199図 PL.29)

1号竪穴住居中央部から検出され、検出状況から10号土坑が新しい。底部付近に焼土粒・塊及び炭化材が残存していたが、被熱は認められなかった。灰黄褐色土で埋没しており、土層の状況から人為的埋没と考えられる。埋没土中から6世紀代の土師器環が出土しており、時期は古墳時代後期以降と考えられる。

12号土坑(第199図 PL.29)

3号溝、13号土坑と重複しており、両遺構よりも12号土坑が新しい。埋没土中から土師器と須恵器片が出土しており、時期は出土遺物から古代以降と考えられる。

13号土坑(第199図)

3号溝、12号土坑と重複しており、検出状況などから3号溝より新しく、12号溝より古いと考えられる。埋没土中から土師器片が出土しており、時期は出土遺物から古代以降と考えられる。

14号土坑(第199図)

3号溝と重複しており、埋没土の確認状況から3号溝が新しい。埋没土中から土師器片が出土しており、時期は出土遺物から古墳時代以降と考えられる。

15号土坑(第199図)

21号土坑、39号ピットと重複し、確認状況から15号土坑が新しい。遺物は、9世紀代の平瓦片(第199図15坑-1)が出土しており、時期は出土遺物から9世紀代以降と考えられる。

21号土坑(第199図 PL.30)

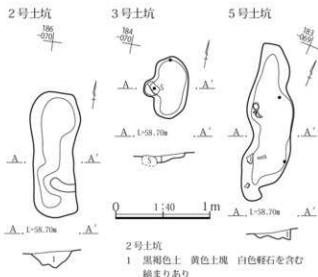
4号溝、15号土坑と重複しており、検出状況から4号溝、15号土坑が新しい。黄色土塊を多量に含む灰黄褐色土で埋没しており、堆積状況から人為的埋没と考えられる。埋没土中から8世紀代の須恵器片が出土しており、時期は出土遺物から8世紀代以降と考えられる。

30号ピット(第199図)

黄色土塊と灰黄褐色土の混土で埋没しており、柱痕が認められることから、柱穴と見られるが対応する柱穴は不明である。出土遺物がなく、時期の確定はできなかった。

39号ピット(第199図)

15号土坑、38号ピットと重複し、埋没土の確認状況から15号土坑より古く、38号ピットとの新旧関係は不明である。出土遺物はないが、15号土坑との重複関係から古代以前の可能性がある。



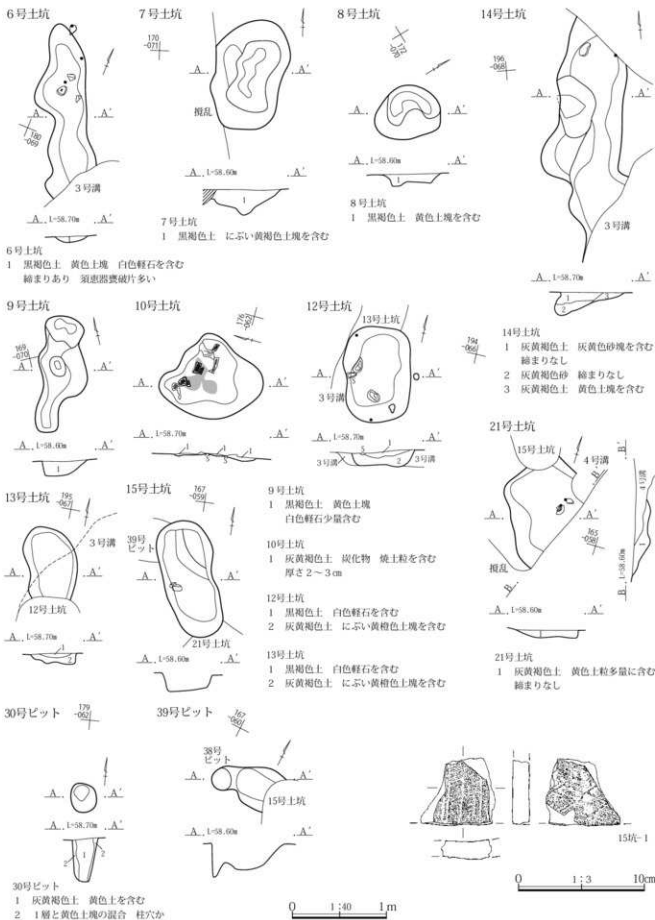
2号土坑
1 黒褐色土 黄色土塊 白色軽石を含む 締まりあり

3号土坑
1 黒褐色土 黄色土塊 白色軽石を含む 締まりあり

5号土坑
1 黒褐色土 黄色土塊 白色軽石を含む 締まりあり

第198図 5区2・3・5号土坑

第5章 上根遺跡



第199図 5区6~10・12・13・14・15・21号土坑・30・39号ピットと15号土坑の出土遺物

(4) 井戸

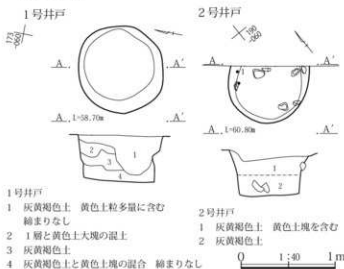
5区で検出した井戸は2基である。16号土坑を1号井戸、19号土坑を2号井戸に名称変更した。

1号井戸(第200図)

X=171, Y=-059に位置し、重複する遺構はない。平面は円形で、規模は径0.93m、深さ51cmである。底面から開口部にかけて壁はほぼ垂直に立ち上がっており、確認面から49cmほど下の層からの湧水が見られた。灰黄褐色土と黄褐色土塊の混土で埋没しており、堆積状況から人為的埋没と考えられる。非掲載遺物は土師器大破片10g、須恵器大破片110gが出土しており、出土遺物から時期は古代以降と考えられる。

2号井戸(第200図 PL.29)

X=198, Y=-059~060に位置する。重複する遺構はない。北側が調査区外となるため2/3ほどの検出であるが、平面は円形と考えられる。規模は、径83cm、深さ50cmである。確認面から49cmほど下の層からの湧水が認められた。小礫及び黄色土塊を含む灰黄褐色土で埋没しており、堆積状況から人為的埋没と考えられる。埋没土中から14世紀代の在地区片口鉢(第200図2号井戸-1)が出土した他、非掲載遺物の土師器大破片65gが出土しているが混入であろう。時期は、出土遺物から中世以降と考えられる。

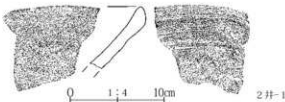


1号井戸

- 1 灰黄褐色土 黄色土粒多量を含む
締まりなし
2 1層と黄色土塊の混土
3 灰黄褐色土
4 灰黄褐色土と黄色土塊の混合 締まりなし

2号井戸

- 1 灰黄褐色土 黄色土塊を含む
2 灰黄褐色土



第200図 5区1・2号井戸と2号井戸の出土遺物

(5) 溝・谷地

5区で検出した溝は3条である。1号溝は現代の排水溝と判断したため取り上げなかった。調査区西側から谷地が検出され、周辺の地形や規模から5区北側の天良七堂遺跡2・3区から検出された谷地へ連続するものと考えられる。

2号溝(第201図)

X=186~198, Y=-076~077に位置する。重複する遺構はない。南から北にはほぼ直線に走行し、底面の標高は南側58.38m、北側58.35mであり、底面はほぼ平坦である。検出した規模は、長さ12.80m、上面幅14~45cm、深さ1~5cmである。後世の削平で中央部の一部を遺失している。褐灰色砂で埋没しており、下層に水流の痕跡が認められることから、水路の可能性が高い。出土遺物がなく時期を確定することができないが、埋没土の様相から近世以降の可能性が高い。

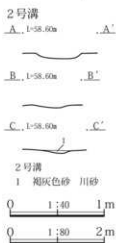
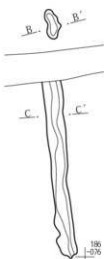
3号溝(第201・202図 PL.30・43)

X=165~196, Y=-065~068に位置する。6・12・13・14号土坑、及び1号掘立柱建物と重複しており、埋没土の確認状況から、12・13号土坑、1号掘立柱建物より古く6・14号土坑より新しく。北から南に走行し、底面の標高は北端58.51m、南端58.35m、比高16cmで、底面の傾斜はほとんど認められない。検出した規模は、長さ31.50m、上面幅0.48~2.00m、深さ7~23cmである。黄色土塊を含む黒褐色土で埋没していたが、水流の痕跡は下層においても認められず、埋没状況の判断はできなかった。底面付近から須恵器杯・瓶・甕など(第202図3溝1~5)が出土している他、非掲載遺物では土師器大破片470g、須恵器大破片520gが出土した。時期は、出土遺物から古代以降と考えられる。

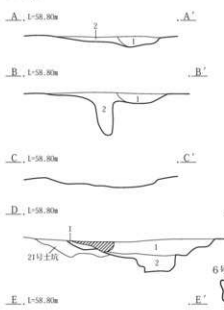
4号溝(第201・202図 PL.30・43)

X=165~193, Y=-058~063に位置している。21号土坑、32・33号ピットと重複し、21号土坑より新しく、32・33号ピットより古いと考えられる。北西から緩やかに曲がり南に走行しており、底面標高は北西端58.56m、南端58.30m、比高26cmで、底面にわずかに傾斜が認められるが、下層にも水流の痕跡は見られないことから区画溝の可能性が高い。検出した規模は、長さ27.40m、上面幅0.58~1.60m、深さ7~18cmである。底面にピット状の窪みが多数認められる特徴があり、北端部の東壁寄りには長さ7.00m、幅約50cmの掘り直しの痕跡がある。

2号溝

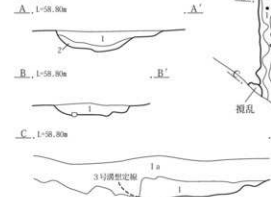


4号溝



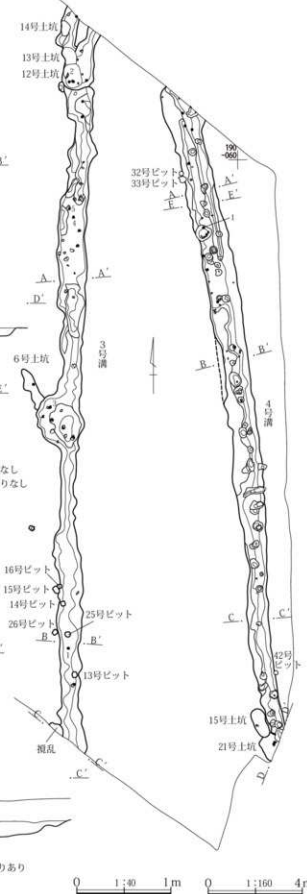
4号溝
1 灰黄褐色土 黄色土粒少量含む 締まりなし
2 灰黄褐色土 黄色土塊多量に含む 締まりなし

3号溝

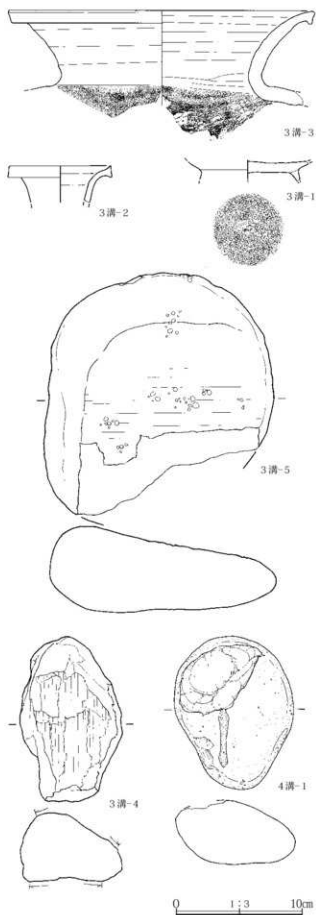


3号溝
1 黒褐色土 黄色土塊少量含む 締まりあり
2 黒褐色土 黄色土塊多量に含む

3・4号溝



第201図 5区2・3・4号溝



第202図 5区3・4号溝出土遺物

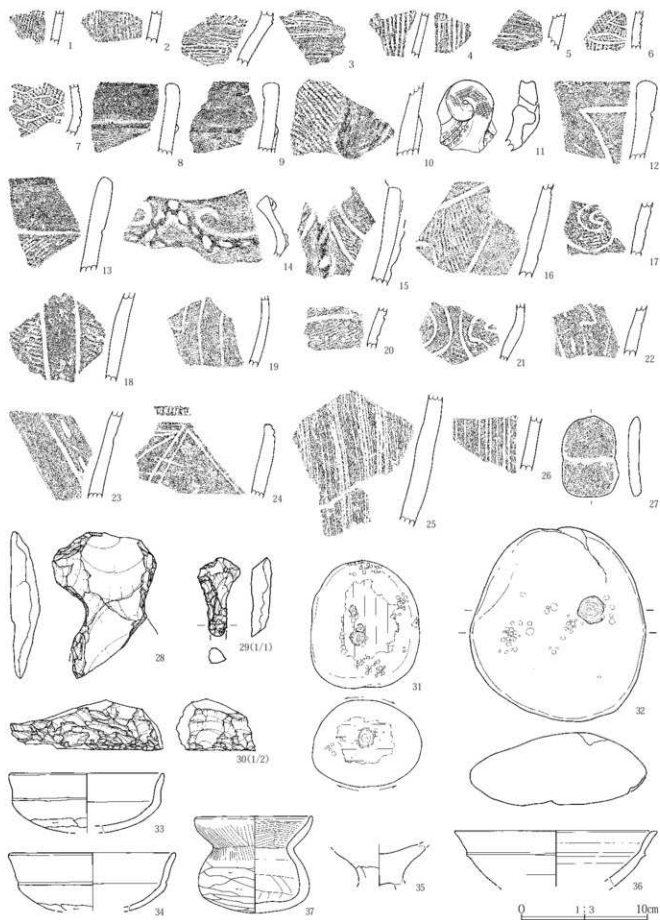
黄色土塊を含む灰褐色土で埋没しており、埋没状況は判断できなかった。自然堆積か人為か不明。底面付近から砥石と思われる円礫(第202図4溝-1)が出土した他、非掲載遺物であるが土師器大破片220g、土師器小破片10g、須恵器大破片510g、須恵器小破片10g、が出土しているが、遺物から時期を確定することはできなかった。

1号谷地(第195図 PL.30)

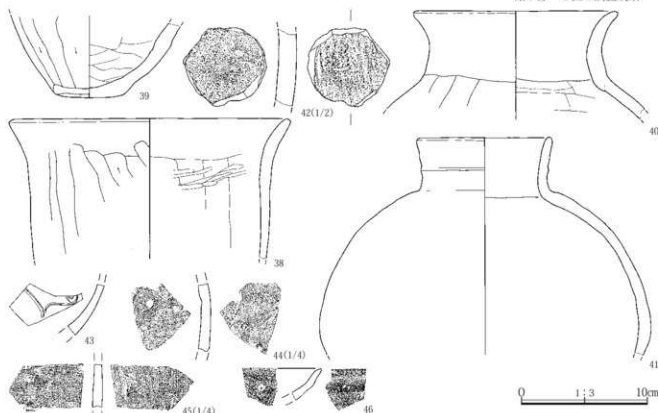
X=170~180、Y=-070~080に位置している。4・12・13号土坑、2・3号溝と重複し、埋没土の確認状況から1号谷地が古い。検出した規模は、長さ27.00m、幅14.80mであり、1.70mほど掘り下げると地山となる。表土下80cmほどで湧水があり、底面まで掘り下げることはできなかった。表土下に堆積していた土層は、黄色土塊を含む黒褐色土であり、下層にAs-B混土層が認められ、西側に向かいAs-Bが厚く堆積していることから、自然埋没と考えられる。遺物は古墳時代後期の土師器大破片2,815g、土師器小片570g、須恵器大破片220g、須恵器小破片60gが出土している。北側に位置する天良七堂遺跡2区及び3区から蛇行して南下する谷地が検出されており、1号谷地に繋がると考えられ、古代には谷として存在していたものと考えられる。

2 遺構外の遺物(第203・204図 PL.43・44)

5区でも遺構に伴わない遺物が多数出土した。縄文時代の遺物では、撚糸文系、鶴ヶ島台式、条痕文系、諸磯b式、興津式、加曾利E4式、称名寺式、堀之内1式などの土器片をはじめ、土製円盤(第203図27)が出土した。非掲載遺物を含めると早期から後期の土器は639点で、96%が後期に属するものであった。石器は、打製石斧、石錐、石核、凹石、多孔石(第203図28~32)が出土しており、剥片の総重量は黒色安山岩37.1g、黒色頁岩117.0g、チャート116.6g、ホルンフェルス10.6g、珪質頁岩116.9gである。以上のように縄文時代の遺物出土が多く、周辺に縄文時代の遺構が存在している可能性が高い。古墳時代から古代の遺物では、土師器杯、高杯、埴、甗、甕、壺、(第203・204図33~42)などが出土しており、非掲載遺物では土師器大破片2,090g、土師器小破片65g、須恵器大破片865g、須恵器小破片75gが出土している。中世以降の遺物では、12世紀代の青磁碗(第204図43)、中世の陶器甕か壺(第204図44・45)、平碗(第204図46)が出土している。



第203图 5区遺構外出土遺物(1)



第204図 5区道構外の出土遺物(2)

第7節 6区の調査成果

6区は客土及び旧表土を約60cm掘削して基本土層VIIa層を遺構確認面とした。6区から検出された遺構は、土坑、ピット、溝である。出土遺物については遺構の構築時期と明らかに異なる場合は混入と判断し遺構外出土遺物として扱った。

1 中近世の遺構と遺物

中世～近世に帰属する遺構及び遺物が検出された。遺構は、土坑4基、ピット5基、溝1条である。

(1) 土坑・ピット

6区から検出された近世の土坑は4基、ピットは5基である。遺物の出土など特徴が認められるピットを取り上げて考察を行い、すべてのピットは第34表(201頁)に記す。

1号土坑(第205図 PL.30)

黄褐色土塊を含む黒褐色土による人為的な埋没である。遺物は土師器片が出土し混入と考えられる。埋没土から時期は中近世と考えられる。

2号土坑(第205図 PL.30)

1号土坑に類似し黄褐色土塊を含む黒褐色土による人為的な埋没である。非掲載遺物は土師器片、須恵器片が出土し混入と考えられる。埋没土から時期は中近世と考えられる。

3号土坑(第205図 PL.30)

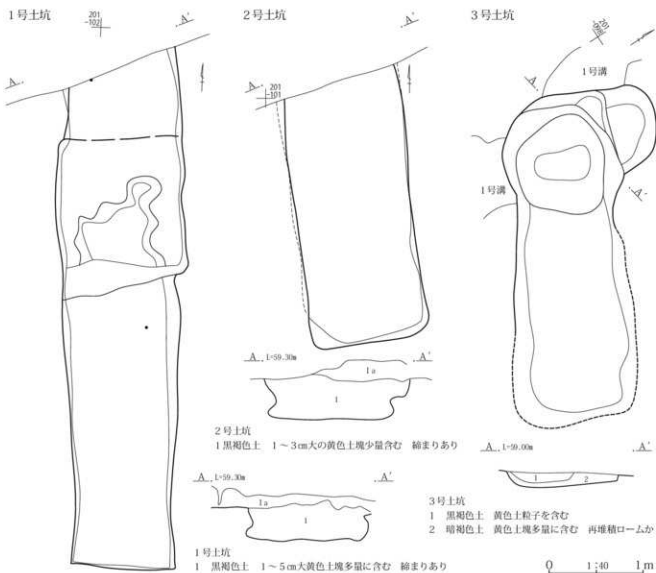
黄色土粒を含む黒褐色土及び黄色土塊を含む暗褐色土による人為的な埋没土と考えられる。非掲載遺物は土師器片が出土し混入と考えられる。埋没土から時期は中近世と考えられる。

(2) 溝

6区から検出された溝は1条である。調査区外となるため一部のみの検出である。

1号溝(第206図 PL.30)

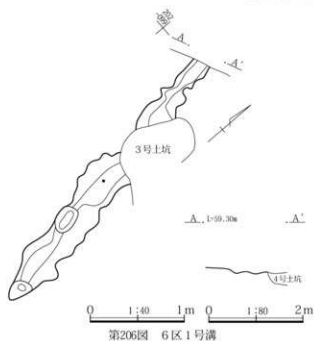
X=195～202、Y=-096～098に位置する。3号土坑と重複し埋没土の確認状況から1号溝が3号土坑より古い。北から南に走行し、底面の標高は北端58.75m、南端58.62m、比高13cm、勾配は2.03%である。北側が調査区外となるため確認できる長さ6.40m、上面幅24～84cm、深さ2～12cmである。自然埋没と考えられる。非掲載遺物の土師器片、埴輪破片は混入と考えられる。埋没土から時期は中近世と考えられる。



第205図 6区1・2・3号土坑

2 遺構外の遺物

6区では非掲載の出土遺物が非常に少ない。時代別には、縄文時代中期の土器が1点出土する。古墳時代から奈良、平安時代の遺構確認面から出土した非掲載遺物は土師器大破片15g、土師器小破片5gのみである。中世から近世の出土遺物はない。



第206図 6区1号溝

第34表 上根道跡土坑・ビット計測表
土坑

区No	位置	形状	主軸方位	規模(m)長/短/深
2区1	113-974	円形	-	0.95/0.82/0.46
2	113-973	円形	-	1.04/1.03/0.48
3区1	150-022	円形	-	0.94/0.92/0.55
2	147-024	長方形	-	(1.54) / 0.93/0.20
3	145-024	不定形	-	(1.90) / (1.63) / 0.36
4	141-032	長方形	N-3°-E	(0.93) / 0.75/0.18
5	138-035	不定形	N-26°-W	(1.00) / (0.75) / 0.12
6	154-031	楕円形	N-56°-W	0.68/0.53/0.11
7	153-030	円形	-	0.71/0.60/0.12
4区1	173-050	楕円形	-	1.45/1.13/0.45
2	173-047	円形	-	1.00/0.95/0.88
3	180-051	楕円形	N-9°-W	1.10/ (0.55) / 0.09
4	179-049	円形	-	0.72/0.64/0.42
5区1	187-068	不定形	N-59°-E	0.73/0.64/0.41
2	184-069	不定形	N-7°-W	1.32/0.43/0.17
3	183-069	不定形	-	0.66/0.47/0.11
4	182-069	不定形	N-55°-W	0.53/0.43/0.13
5	181-068	不定形	N-14°-W	1.67/0.49/0.15
6	179-068	不定形	N-29°-W	(1.80) / 0.54/0.15
7	169-068	不定形	N-15°-E	1.20/0.82/0.29
8	171-068	不定形	-	0.89/0.56/0.20
9	168-069	不定形	N-23°-E	1.25/0.48/0.23
10	175-062	不定形	N-15°-W	1.10/0.91/0.08
11	183-065	楕円形	N-24°-E	0.62/0.53/0.16
12	193-066	楕円形	N-11°-W	1.02/0.70/0.16
13	194-066	不定形	N-17°-W	(0.80) / 0.49/0.14
14	194-066	不定形	-	(2.22) / 0.70/0.30
15	105-058	不定形	N-21°-W	1.26/0.53/0.20
21	164-058	不定形	-	(1.00) / (0.95) / 0.16
6区1	195-101	不定形	-	5.32/1.35/0.21
2	198-099	長方形	N-6°-W	2.78/1.30/0.20
3	198-094	不定形	N-57°-W	3.53/1.64/0.96
4	202-097	不定形	-	0.75/0.35/0.14

ビット

区No	位置	形状	主軸方位	規模(m)長/短/深
3区1	153-040	円形	-	0.22/0.20/0.37
2	150-037	円形	-	0.30/0.30/0.21
3	151-036	楕円形	N-11°-E	0.32/0.27/0.36
4	151-035	楕円形	N-29°-E	0.34/0.28/0.43
5	152-035	楕円形	N-46°-E	0.30/0.27/0.46
6	152-035	円形	-	0.34/0.29/0.46
7	152-034	円形	-	0.32/0.28/0.43
8	153-034	円形	-	0.30/0.28/0.33
9	154-034	円形	-	0.30/0.28/0.20
10	154-034	円形	-	0.28/0.26/0.14
11	154-033	円形	-	0.42/0.39/0.15
12	153-032	円形	-	0.43/0.35/0.22
13	153-031	円形	-	0.29/0.27/0.32
14	153-031	円形	-	0.32/0.32/0.24
15	151-031	円形	-	0.33/0.32/0.22
16	150-032	円形	-	0.27/0.24/0.18
17	149-034	楕円形	N-70°-W	0.33/0.20/0.44
18	148-035	円形	-	0.43/0.35/0.26

区No	位置	形状	主軸方位	規模(m)長/短/深
19	148-034	楕円形	N-11°-W	0.45/0.33/0.50
20	145-033	楕円形	N-46°-E	0.47/0.33/0.39
21	145-032	円形	-	0.35/0.33/0.14
22	146-029	楕円形	N-81°-E	0.46/0.38/0.30
23	149-028	円形	-	0.34/0.32/0.41
24	152-029	楕円形	N-31°-E	0.45/0.27/0.33
25	155-029	円形	-	0.46/0.33/0.20
26	157-031	円形	-	0.37/0.36/0.23
27	155-037	楕円形	-	0.27/0.24/0.12
28	151-038	楕円形	N-70°-W	0.31/0.20/0.44
29	155-039	楕円形	N-37°-E	0.25/0.20/-
30	157-040	楕円形	N-55°-E	0.50/0.36/0.29
31	157-038	円形	-	0.30/0.24/0.64
32	155-037	楕円形	N-47°-E	0.28/0.18/0.50
33	156-036	円形	-	0.32/0.26/0.58
34	157-038	円形	-	0.30/0.24/0.40
35	150-038	楕円形	-	0.38/0.29/0.44
36	157-019	円形	-	0.37/0.30/0.18
4区1	180-050	不定形	N-46°-W	0.39/0.32/0.32
2	179-049	円形	-	0.32/0.29/0.26
3	178-051	円形	-	0.33/0.28/0.43
4	177-049	円形	-	0.60/0.54/0.38
5	174-041	円形	-	0.25/0.24/0.17
6	173-041	円形	-	0.56/0.37/0.57
7	173-039	円形	-	0.29/0.28/0.15
8	173-037	円形	-	0.35/0.32/0.28
9	172-038	円形	-	0.38/0.35/0.33
10	170-036	不定形	-	0.32/0.27/0.31
11	169-031	不定形	-	0.43/0.33/0.31
12	168-034	円形	-	0.29/0.27/0.27
13	170-042	円形	-	0.31/0.28/0.24
14	168-041	円形	-	0.31/0.29/0.32
15	168-047	-	-	-/-/0.37
16	175-049	楕円形	-	0.32/0.23/0.27
17	173-044	不定形	N-22°-E	0.37/0.36/-
5区1	174-069	不定形	-	0.25/0.22/0.12
4	170-069	不定形	N-31°-W	0.23/0.22/0.29
7	171-069	不定形	N-36°-W	0.19/0.16/0.19
9	170-071	不定形	-	0.26/0.24/0.25
25	169-067	不定形	-	0.23/0.22/0.43
28	171-061	円形	-	0.34/0.33/0.56
29	169-061	円形	-	0.40/0.37/0.11
30	179-061	円形	-	0.22/0.17/0.47
31	179-063	円形	-	0.42/0.33/0.07
35	168-060	楕円形	N-31°-W	0.35/0.25/0.22
36	168-060	不定形	N-84°-E	(0.60)/0.45/0.09
37	168-060	不定形	N-84°-E	(0.60)/0.45/0.09
38	166-999	不定形	N-31°-W	(0.25)/(0.21)/0.37
39	166-999	不定形	-	(0.70)/0.47/0.31
6区1	190-095	不定形	N-6°-E	0.52/0.34/0.12
2	192-093	不定形	N-25°-W	0.45/0.39/0.12
3	193-095	不定形	N-66°-E	0.73/0.50/0.16
4	195-095	不定形	N-21°-E	0.46/0.32/0.07
5	196-099	不定形	N-53°-W	0.30/0.21/0.12

第6章 発掘調査の成果とまとめ

第1節 天良七堂・笠松遺跡出土の酸化焰焼成による須恵器について

天良七堂・笠松遺跡は太田市北西部の太田市新田小金井町に所在し、古代新田郡衙の政庁、正倉群が検出されている天良七堂遺跡の西、古代東山道駅路駅家と推定される太田市入谷遺跡の東に位置し、古墳時代から奈良・平安時代の集落が検出されているが、大型の掘立柱建物など複数の掘立柱建物や基礎状遺構が含まれており、郡衙に関連する遺跡と推定される。

発掘調査では土師器・須恵器等の土器を中心に多くの遺物が出土しているが、その中の須恵器に普遍的にみることができるものとは異なった酸化焰焼成の一群が存在する。一般に須恵器は還元焰焼成によって青灰色に焼き上げられる土器である。これが古代上野国域では9世紀第4四半期頃から酸化焰焼成によるものが供給され始め、10世紀代にはほぼすべてが酸化焰焼成となり、それまで存在していなかった煮沸具の羽釜が出現するなど変貌し、11世紀中ごろには消滅してしまふ。

天良七堂・笠松遺跡から出土した酸化焰焼成による須恵器の一群は明らかに9世紀第4四半期以後に出現する酸化焰焼成による須恵器とは様相が異なる。この酸化焰焼成による土器の一群はロクロを使用した成形によるもので硬質に焼き上げられていること、同時期の須恵器と同様な形態をみることが可能なものである。また、この一群の中には、土師器的な技法要素が強いヘラ磨きによる整形や暗文が施されているものも存在している。

現在、県内で確認されている9世紀後半以前の酸化焰焼成による須恵器は焼成段階で還元ができず酸化焰になってしまったものや太田市境ヶ谷戸遺跡、甘楽町白倉下原・天引向原遺跡、前橋市下東西・清水上遺跡から出土した暗文が施されたごく一部のものに限定されている。

そうした中で、今回発掘調査が実施され、報告書が刊行される太田市天良七堂・笠松遺跡からは8世紀から9世紀前半代を中心とする酸化焰焼成による土器が若干ではあるがまとまって出土した。これらの須恵器について

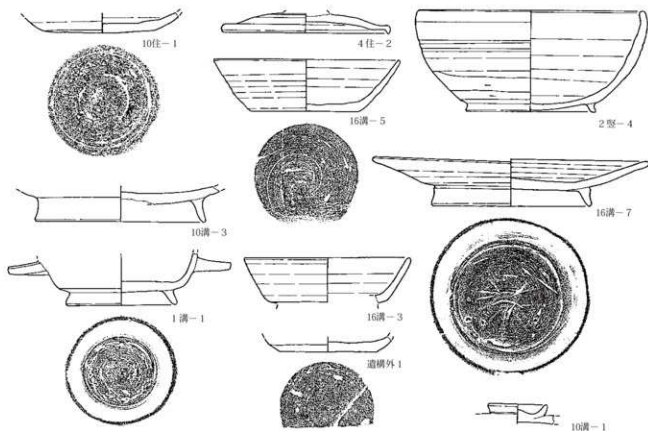
は後述のように一般的な須恵器とは異なる様相が看取される。こうしたことから天良七堂・笠松遺跡から出土した酸化焰焼成による須恵器も天良七堂・笠松遺跡の性格を考える上で重要な土器群とみられることからここに若干の検討を行うことにした。

天良七堂・笠松遺跡出土の酸化焰焼成による須恵器

酸化焰による須恵器は天良七堂遺跡1区10号竪穴住居から1の無台杯、1区2号竪穴状遺構から4の大型有台椀、3区4号竪穴住居から2の杯蓋、3区16号溝から3の有台杯、7の大型有台盤、笠松遺跡1区1号溝から1の双耳杯、1区10号溝から1の杯蓋、3の有台盤、天良七堂遺跡3区遺構外から1の無台杯など図示できたもので9点が確認できる。これらの酸化焰焼成による須恵器は胎土も緻密で焼成も前述に記したように硬質に焼き上げられている。その形態も天良七堂遺跡1区2号竪穴状遺構4、3区16号溝7、笠松遺跡1区10号溝3のような大型品や天良七堂遺跡3区16号溝3のように高台の貼付位置が群馬的特徴ではなく畿内などでみられる一般的な形態¹¹を示す有台杯、笠松遺跡1区1号溝1の双耳杯¹²など特殊な形態を示すものなど一般の集落ではみることのできない形態のものが存在している。また、遺跡内から出土している還元焰焼成による須恵器と比較しても胎土には夾雑物が少なく緻密で焼成も硬質である。こうしたことはこれらの酸化焰焼成による須恵器が単に焼成時に窯を完全に閉塞できずに酸化焰焼成となったのではなく、意図的に酸化焰焼成による焼成が行われたとみられる。

以上の酸化焰焼成による須恵器については全体の形態がわかるものだけではなく、底部片など一部部位しか残第35表 酸化焰焼成による須恵器の出土遺構と年代

	出土遺構	遺物 No.	器種	土器の年代	遺構の年代
天良七堂遺跡	1区10号竪穴住居	1	無台杯	8世紀前半	8世紀前半
	1区4号竪穴住居	2	杯蓋	8世紀後半	8世紀第4四半期
	1区2号竪穴状遺構	4	有台椀	8世紀前半	8世紀第1四半期
	3区16号溝	3	有台杯	8世紀前半	8世紀～9世紀
	〃	5	無台杯	8世紀後半	〃
笠松遺跡	〃	7	大型有台盤	8世紀後半	〃
	3区遺構外	1	無台杯	8世紀代	〃
笠松遺跡	1区1号溝	1	双耳杯	8世紀後半	8世紀代
	1区10号溝	1	杯蓋	8世紀後半	8世紀～9世紀
	〃	3	大型有台盤	8世紀後半	8世紀～9世紀



第20図 天良七堂・笠松遺跡出土の酸化焰焼成による須恵器(S-1/3)

存していない個体もある。そのため、個々の個体だけではその年代の把握が困難なものもあるが、共存する他の土器からの遺構の存続年代などをみると概ね8世紀前半から9世紀前半代に比定することができる。

なお、個々の年代観や出土遺構の存続年代については第38表のとおりである。

酸化焰焼成による須恵器の出土例

周辺遺跡での天良七堂・笠松遺跡出土の酸化焰焼成による須恵器と同様なものを見ると境ケ谷戸遺跡、大道東遺跡、栗前遺跡でみることができる。また、県内に目を向けると前橋市下東西清水上遺跡、藤岡市上大塚南原遺跡、甘楽町下白倉下原・天引向原遺跡で出土例を見ることができる。

境ケ谷戸遺跡¹³は天良七堂・笠松遺跡から西へ約2kmに位置している。発掘調査は約900mほどの限られた範囲ではあるが、8世紀から9世紀の壺状住居14軒、掘方1mほどの大型の柱穴をもつ掘立柱建物5棟、8世紀代とみられる区画溝など集落と官衛的な遺構群を重複して検出している。出土遺物には唐三彩陶枕や須恵器塔状摘み蓋、靱足火舎、円面硯、外面口縁部に螺旋状暗文が

施された酸化焰焼成須恵器など特殊な遺物がある。また、須恵器でも杯蓋は摘みが群馬県でみられる環状摘みではなく擬宝珠状摘みが貼付され、有台杯も群馬県内でみられる高台の貼付位置ではなく底部周縁よりやや内側に貼付される畿内を始め多くの地域でみられる形態のものである。

酸化焰焼成による須恵器は2号住居跡から杯・杯蓋(境ケ谷戸遺跡報告書第7図69・70、72～74、以下挿図番号と遺物番号のみとする)、14号住居跡から杯蓋・杯・椀(第11図26～30)、9号住居跡から杯(第20図5・6・8)、10号住居跡から椀(第20図16)、1号溝から椀(第32図1溝-5)などが出土している。

2号住居跡は共存する土器から8世紀第4四半期から9世紀初頭に比定され、酸化焰焼成による須恵器は杯2点と杯蓋3点が出土している。69・70の杯は口縁部から体部までの破片で内面に斜格子状暗文が施されている。72～74の杯は73が小片のため多くは不明であるが、72は擬宝珠状の摘みが貼付され、72・74とも内外面にヘラ磨きが施されている。

14号住居跡は共存する土器から8世紀第4四半期から

9世紀初頭に比定され、酸化焙焼による須恵器は杯蓋・杯・碗など6点が出土している。29の杯蓋は摘み片のごく小片であるが摘みの形状は擬宝珠状を呈し内面にはヘラ磨きが施されている。30の杯は底部片であるが高台が貼付され、内面に螺旋状暗文が施されている。26～28の碗は口縁部から体部にかけての破片である。3点とも内面に格子状暗文が施され、27・28は外面に螺旋状暗文が施されている。

9号住居跡は共存する土器から8世紀第4四半期に比定され、酸化焙焼による須恵器は杯3点が出土している。5は底部片で高台が貼付され、内面はヘラ磨きが施されている。6は底部から体部下位片で、底部は回転系切り無調整、内面は底部に螺旋状暗文、体部に格子状暗文が施されている。8は口縁部片で内面に格子状暗文が施されている。

10号住居跡は8世紀第3四半期に比定され、酸化焙焼による須恵器は杯が1点出土している。16は底部片で高台が貼付され内外面に螺旋状暗文が施されている。

1号溝は出土している遺物には8世紀～9世紀代の土師器や須恵器や中世陶磁器が出土しており、竪穴住居との重複も最も新しいことから中世の区画溝とみられる。酸化焙焼による須恵器は碗が1点出土している。5は14号住居から出土している27・28と同様に外面に螺旋状暗文が施されていることから、本来は重複関係にある14号竪穴住居に属するものとみられる。

なお、境ヶ谷戸遺跡から出土した酸化焙焼による須恵器については報告書中では酸化焙焼による色調のため土師器に区分されている。

大道東遺跡¹⁴は天良七堂・笠松遺跡とは金山丘陵を挟んで東へ約4.5kmに位置している。発掘調査では6世紀から9世紀にかけての竪穴住居群や掘立柱建物群を中心とした集落と7世紀後半から8世紀前半代に存続していたと想定される東山道駅路が検出されている。

酸化焙焼による須恵器は85号竪穴住居から有台杯(338図936)が1点出土している。

85号竪穴住居は7世紀前半代に比定されるが、936の酸化焙焼による須恵器は床面より21cmの高さから出土であることやこの土器自体は8世紀前半代に位置付けられることから後の混入とみられる。

薬前遺跡¹⁵は大道東遺跡の東に隣接して位置する。

発掘調査では大道東遺跡と同様に6世紀代から9世紀代にかけての竪穴住居群、掘立柱建物群が検出されている。出土遺物には山田郡や新田郡の郡名が書かれた墨書土器が出土しており、山田郡衙に関連する遺跡と想定されている。

酸化焙焼による須恵器は4区1号溝から大型の高盤(147図38)が1点出土している。

4区1号溝は若干の蛇行がみられることや底面に砂粒が堆積していることなどから水路とみられる溝で8世紀前半から9世紀前半にかけての土器が出土しており、8世紀前半の開削とみられる。38は脚部が欠落しているが高盤の身部である。ロクロ整形で底部はヘラ磨きが施されている。この土器自体は7世紀末～8世紀前半代に位置付けられる。

下東西清水上遺跡¹⁶は群馬県の中央部、前橋市青梨子町に位置し、利根川中流域右岸の前橋台地上に立地している。発掘調査では8世紀から10世紀代にかけての竪穴住居群を主体とした集落が検出されている。遺跡地は国府域の北側で、南側2kmに白鳳期に創建された山王廃寺、東側の現利根川寄りには総社古墳群などが存在することから古代上野国の中枢地域である。また、東側に隣接する下東西遺跡では豪族居宅とみられる遺構群が見つかっていることから下東西清水上遺跡も単なる農業集落として形成されただけの集落ではないと想定される。

酸化焙焼による須恵器は43・44号竪穴住居から有台杯(第69図1)、遺構外から杯蓋(第283図165H40G-2以下遺構外1と記す)、有台杯(第283図170H30G-9、以下の記述では遺構外2と記す)、有台杯(第283図170H30G-12、以下の記述では遺構外3と記す)、杯(第289図194・195H33-1、以下の記述では遺構外4と記す)、有台杯(第290図3区一括2、以下の記述では遺構外5と記す)の6点が出土している。

43・44号竪穴住居はわずかに重複する竪穴住居で調査所見では43号竪穴住居の方が新しいとされている。43号・44号竪穴住居1は埋没土中からの出土のためどちらに所属するか明確ではない。高台が貼付され、内面口縁部に放射状暗文が施されている。43号竪穴住居からはほとんど遺物が出土していないが43号、44号竪穴住居とも8世紀第3四半期に比定され、43号・44号竪穴住居1も同様な時期に比定される。

遺構外1は杯蓋で口縁端部が折り曲げられ、握みは擬宝珠状のものが貼付されている。なお、遺構外1にはぶい黄褐色を呈しており、還元焙焼に至らなかった可能性もあるが握みが擬宝珠を呈していることから酸化焙焼による須恵器と判断した。2は高台が貼付され、内面体部に格子状暗文、底部に螺旋状暗文が施されている。遺構外3は高台が貼付され、底部は回転系切りである。遺構外4は口縁部から体部片で内面に格子状暗文が施されている。遺構外5は高台が貼付され、底部はヘラナデ調整、外面口縁部に2段の螺旋状暗文、内面は底部と口縁部に螺旋状暗文が施されている。それぞれの土器自体の年代は遺構外1、2、4、5が8世紀後半、遺構外3は9世紀前半に比定される。

上大塚南原遺跡¹⁷は群馬県の南部、藤岡市上大塚に位置し、鮎川右岸の藤岡台地上に立地する。発掘調査では8世紀後半から9世紀にかけての竪穴住居を主体とする集落遺跡が検出されている。

酸化焙焼による須恵器は2号竪穴住居から双耳杯(第23図11)が出土している。

2号竪穴住居は出土遺物から8世紀第3四半期から第4四半期に比定される。11は双耳杯の底部から口縁部にかけての破片で、高台が削り出されている。この土器自体は8世紀第3四半期に比定される。

白倉下原・天引向原遺跡¹⁸は群馬県の西南部、甘楽郡甘楽町に位置し、鮎川右岸の河岸段丘上に立地している。発掘調査では旧石器時代から縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代の集落が検出されている。奈良・平安時代では竪穴住居群だけでなく「福天寺」と呼称されていたと推定される村落寺院が検出されている。出土遺物には鋸や鉄鏝をはじめ寺名や郷名と記したとみられる墨書土器がみられる。

酸化焙焼による須恵器は谷頭の湧水地を人為的に削平した水場から有台杯(235図谷53)が1点と無台杯(235図谷46～52)が7点の計8点が出土している。

水場は縄文時代から9世紀にかけて地点をずらしながら継続的に利用されていたとみられる。なお、水場は縄文時代から平安時代にかけての土器が5千点以上出土しているが、7世紀から9世紀にかけての土器等が圧倒的に多く出土している。出土した土器は杯などの食器が最も多く墨書土器も多くみられる。次いで多いのが横瓶

や壺などの須恵器貯蔵具で土師器製は胴部が球状を呈するものは出土しているが、煮沸用のものは見られない。こうした状況から出土した土器群は廃棄よりは水辺の祭祀に利用されたものとみることができる。谷53は高台が貼付され、底部は回転系切り後はほぼ全面ヘラ削り調整されている。外面口縁部には2段の螺旋状暗文、内面は底部に螺旋状、口縁部に2段の放射状暗文が施されている。この土器自体は8世紀第2四半期から第3四半期に比定される。谷48は底部片、谷52はやや器高の高い椀状であるが、ともに底部は手持ちヘラ削りが施されている。谷46・49～51は器形が箱形に近く、底部は回転系切り無調整である。谷47は体部と底部周辺はヘラ削りで内面に細かい放射状暗文が施されており一見すると土師器のように見えるが、クロコ整形で底部中央に回転系切り痕が残ることから須恵器とした。谷47は8世紀第2四半期、谷48と谷52は8世紀後半代、谷46・49～51は8世紀第4四半期から9世紀初頭に比定される。

古代上野国地域で出土した酸化焙焼による須恵器は境ヶ谷戸遺跡や下東西清水上遺跡、白倉下原遺跡のようなヘラ磨きや暗文が施された土師器の整形技法を取り入れた個体のほうが多く見ることができ、笠松遺跡のような須恵器だけの要素で整形されたもののほうが少ない。しかし、これは土師器の整形技法を取り入れた個体は他の土器とは異なった様相を呈しているため目に留まりやすい。これに対して土師器の整形技法を取り入れていない酸化焙焼による須恵器は報告書の中では単に須恵器として、または土師器として認識されているものもあり、全体の把握が難しいため一概に割合を示しているとは思われない。

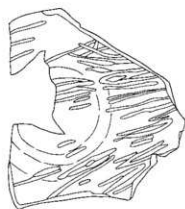
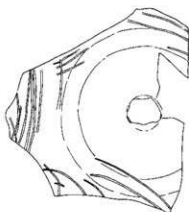
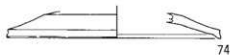
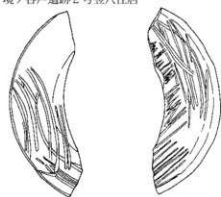
なお、出土した酸化焙焼による須恵器は夾雑物が少ない点や硬質に焼き上げられている点など共通した点がみられるが、天良七堂・笠松遺跡出土の個体と上大塚南原遺跡や白倉下原遺跡、下東西清水上遺跡出土の個体では胎土が異なることから各地域で生産が行われたと考えられる。

酸化焙焼による須恵器出現の背景

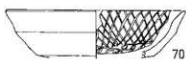
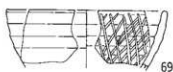
酸化焙焼による須恵器は酸化焙焼によって土師器のように赤褐色に焼き上げられたものであるが、基本的に蓋を伴う有台杯や須恵器にみられる器形である。宮都での土師器杯は古代上野国地域や東国でみられる蓋が伴

第6章 発掘調査の成果とまとめ

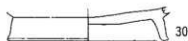
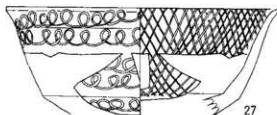
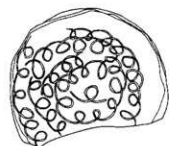
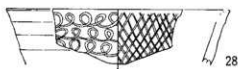
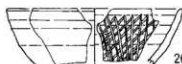
境ヶ谷戸遺跡2号竪穴住居



境ヶ谷戸遺跡14号竪穴住居



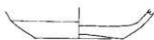
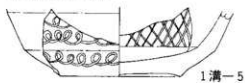
境ヶ谷戸遺跡9号竪穴住居



境ヶ谷戸遺跡
10号竪穴住居



境ヶ谷戸遺跡1号溝

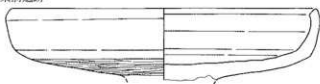


16

6

第208図 群馬県内での酸化焙焼による須恵器出土例その1 (S=1/3)

菜前遺跡

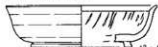


大道東遺跡

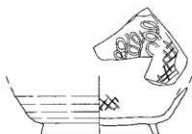


936

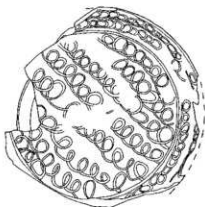
下東西清水上遺跡



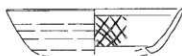
43・44-1



170H30G-9



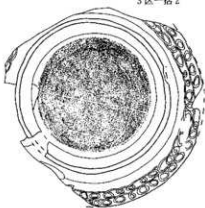
3区一栝2



194・195H33-1



170H30G-12



165H40G-2



上大塚南原遺跡



白倉下原・天引南原遺跡



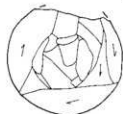
谷-48



谷-50



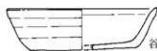
谷-52



谷-49



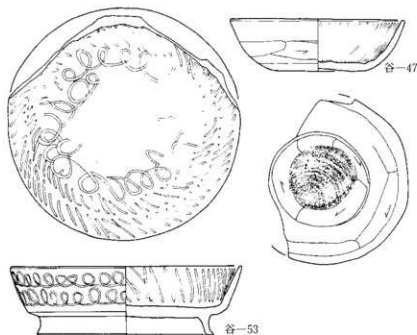
谷-51



谷-46



第209図 群馬県内での酸化焙焼による須恵器出土例その2 (S=1/3)



第210図 群馬県内での酸化焰焼成による須恵器出土例その3 (S=1/3)

わない無台の形態と蓋付き有台杯の両形態が存在し、須恵器との互換性¹¹⁾がみられる。これに対して古代上野国地域では土師器にこの蓋を有する有台杯の形態が導入されることなく欠落している。酸化焰焼成による須恵器では蓋の握み形状や杯の高台貼付位置が上野国の特徴的なものではなく、宮都などで一般に見ることのできるものに近い。こうした点から酸化焰焼成による須恵器は古代上野国地域の土師器に欠落した蓋を伴う有台杯の補完のためや宮都的な形態を強く意識した形状は宮都の土器に対する慣れた象徴とみることができる。

また、酸化焰焼成による須恵器が出土した遺跡は郡衙や有力豪族の存在やそれに近い人物が存在したことが窺え、このことは当然、本人なり周囲の人物が宮都へ出向いており、宮都で使用されていた土器に触れていた可能性があり、宮都的な土器に強く影響を受けたことが窺える。この点は桜岡氏¹⁰⁾によってすでに「搬入品では充足されなかった宮都的な土器セットに執着する階層の存在を窺うことができるもの」と指摘されているが、「轆轤成形の暗文土器」だけでなく酸化焰焼成による須恵器全般についても使用するとみられる階層においては宮都での食膳具形態に近づけようとして在地の土師器の器形に欠落した蓋を伴う有台杯や暗文を施した有台杯の生産を須恵器工人に発注したとみることができる。しかし、現在出土している数量を見ると決して多いものではない。この

限定的ともいえる出土状況から広い階層で使用を目的としたとは考えられず、ごく一部の使用に限定されていたとみられる。このことは出土している遺跡が天良七堂・笠松遺跡や境ヶ谷戸遺跡など新田新田郡衙や東山道新田駅家に関わる遺跡、大道東遺跡、楽前遺跡などの山田郡衙に関わる遺跡、下東西清水上遺跡など富豪層に関わる遺跡¹¹⁾から出土していることから裏付けることができる。また、笠松遺跡にふり返ると出土した遺構は竪穴住居や竪穴遺構、溝など郡衙とは直接に関係する遺構ではない。しかし、基礎建物や掘立柱建物が出されていることから館、厨、曹司など郡衙に関する遺構が近くに存在する可能性も窺え、こ

うした施設での餐宴・給食のために使用されていた食膳具とみることができる。

今回、天良七堂・笠松遺跡から出土した酸化焰焼成による須恵器は9点とわずかな量であるが、土器全体の中ではかなり特徴的な土器である。こうした土器はまだ出土例もわずかで点的な把握しかできないが、こうした点と点を結んでいくことによって古代上野国の様相解明の一助になると考える。

注

注1 杯蓋の握み形状を呈することや有台杯での高台が底部周縁に貼付されるなど特徴。神谷佳明1997「律令制成立期の須恵器の系譜—群馬県—」『東国の須恵器—関東地方における歴史時代須恵器の系譜—』古代生産史研究会

注2 神谷佳明2010「双耳杯について—東日本における分布・変遷、用途についての検討—」『研究紀要』28（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団

注3 小宮俊久1994「境ヶ谷戸・原宿・上野井Ⅱ遺跡」新田町教育委員会

注4 新井仁他2010「大道東遺跡(2)」、2010「大道東遺跡(3)」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

注5 高島英之2009「楽前遺跡(1)」、2010「楽前遺跡(2)」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団、酸化焰焼成による須恵器の図は筆者が加筆。

注6 塚生敏隆他1998「下東西清水上遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

注7 石守賢2007「上大塚原原遺跡・貼付藤ノ木遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団、酸化焰焼成による須恵器の図は筆者が加筆。

注8 「白倉下原遺跡・天引向原遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

注9 西弘海1986「土器様式の成立とその背景」『土器様式の成立とその背景』真興社

注10 桜岡正信1998「轆轤成形による暗文土器」『下東西清水上遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

注11 上大塚原原遺跡の性格については今後の検討を待ちたい。白倉下原・天引向原遺跡の水場では大量な食膳具の出土から律令制に水辺の祭祀が行われたとみられる。

第2節 笠松遺跡、天良七堂遺跡、 上根遺跡における発掘調査の成果と課題

1 縄文時代の遺構と遺物

天良七堂遺跡1区では後期初頭の称名寺式期の竪穴住居が1軒のみ検出された。天良七堂遺跡1区、上根遺跡3・4区では土坑10基、ピット5基が検出されている。天良七堂遺跡1区18・19・20号土坑の加曾利E式期以外はすべて称名寺式期に属するものと考えられる。

遺構外の出土土器は、天良七堂遺跡1区や上根遺跡3～5区の大間々扇状地扇端微高地部分に集中する。南方に行くほど出土土器が希薄になる傾向が認められ、天良七堂遺跡4区や笠松遺跡1・2区、上根遺跡1区では皆無となる。時期別では撫糸文系、野島・鶴ヶ島台式の条痕文系、黒浜式、諸磯b・c式、興津式、加曾利E3・E4式、称名寺式、堀之内1・2式が確認できた。称名寺式は上根遺跡3～5区で最も多く350点以上を数え、他の時期は数点から数十点ほどとなる。天良七堂遺跡1区では加曾利E3・E4式の土器の出土が多くなり、周囲に集落が展開していたことが想定できる。称名寺式期に至ると南側の扇端部まで集落の領域が広がっていたことが遺構の分布や出土土器の状況から読み取れる。

出土した石器は土器と同様の出土分布傾向が認められる。遺構外の出土石器は、笠松遺跡では磨石や加工痕ある剥片、天良七堂遺跡では打製石斧、石鏃、石錐、三角錐形石器などが出土している。上根遺跡では剥片系石器及び礫石器が出土し、打製石斧は短冊形・分銅型・掬型が出土し早期から前期初頭、中・後期の特徴を備えている。

遺跡は大間々扇状地扇端部の湧水点が分布する地域に位置し、縄文時代早期から湧水との関係を保ちつつ継続的に人々の生活が営まれていたことがうかがえる。

2 古墳時代の遺構と遺物

古墳時代の遺構は、天良七堂遺跡1区・2区及び上根遺跡3～5区を中心に分布している。遺跡地内でも谷地に挟まれた微高地である。竪穴住居は5世紀前半に出現し7世紀まで集落が営まれ、8世紀代に継続していた。各時期の軒数は5世紀代9軒、6世紀から7世紀前半代

12軒である。立地条件や集落の規模から、扇端部以南に展開する低地帯を利用した稲作農耕集落と想定される。

出土遺物で須恵器や金属器、石製品の少ないのが特徴で、石製模造品は天良七堂遺跡8号竪穴住居から剣形が1点出土しているだけである。周辺遺跡では成塚住宅団地遺跡から初期須恵器把手付椀が出土し、太田金山古窯跡群の操業後は、大道東遺跡など大量に出土している遺跡は例外として、太田市周辺の遺跡にも須恵器の供給が行われている。こうした状況にも関わらず本遺跡からの須恵器や金属器、石製品の出土がわずかしかないことから、これらの品の帰属が地域の首長層の管理下にあったことが窺われる。

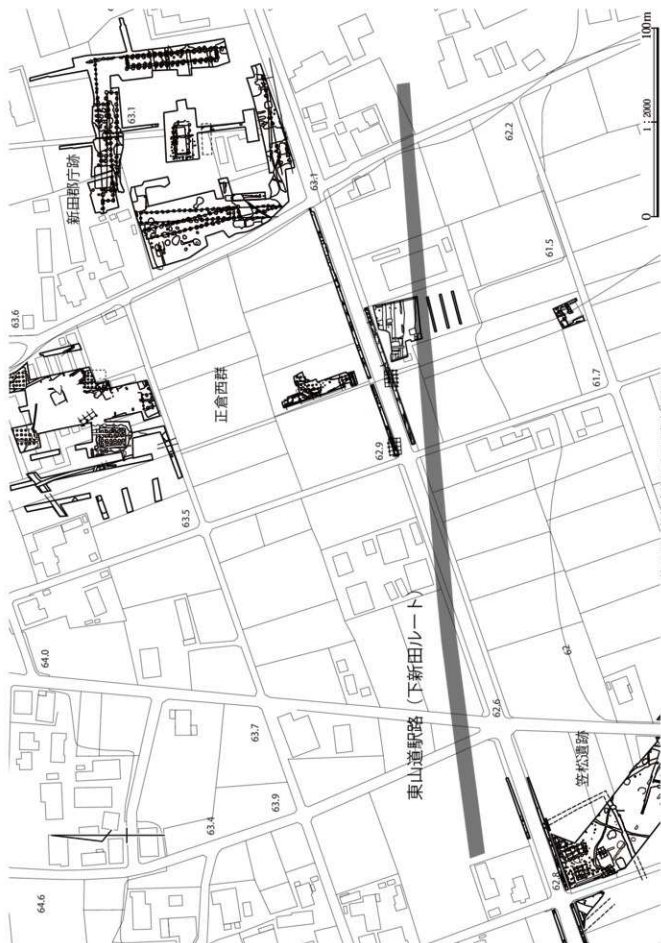
この地域では弥生時代の遺跡は少ないが、古墳時代には成塚住宅団地遺跡のように4世紀～7世紀の竪穴住居1000軒余りで構成されている集落が存在しており、金山丘陵北西の丘陵突端には前期の前の方後方墳である寺山古墳が存在している。こうした周辺遺跡の状況から、前橋市南部～伊勢崎市の平野部にみられる東海地方の影響を受けた勢力による平野部の開発が行われたのと同様な開発が行われたと想定される。本遺跡に限ればこうした古墳時代前期の開発の後、大間々扇状地扇端部への進出が5世紀代に開始されたとみてよい。

3 奈良・平安時代の遺構と遺物

奈良・平安時代は注目される遺構が多数検出された。当該時期の遺構も笠松遺跡から上根遺跡まで広範囲に分布する傾向にある。

奈良・平安時代の遺構として特に注目されるのは、笠松遺跡1区北側の建物群であろう。ここでは狭い範囲に基壇状遺構1基、掘立柱建物1棟以上が集中し、その周囲に溝がめぐっていることと推定され、新田郡衙である天良七堂遺跡との位置関係からも(第211区)、何らかの官衙的施設であったと考えられるからである。

まず、これらの建物群を囲う施設として、10号溝がある。これは1号基壇状遺構の約10m南にある上面幅が最大2.70mの溝で、北東部でやや北に湾曲するものの、その他の部分では1号基壇状遺構の主軸方位と平行する走行方向で直線的に延びている。この溝の南側には建物が見られないので、これが建物群の南限であると思われる。溝の断面形状は逆台形で、最上層近くはAs-Bが堆積して



第211図 笠松遺跡及び周辺遺跡位置図
 この地の平面にあたっては、太田氏の「城」を以て、同氏府の正倉西群分の地租図を使用し複製したものである。」

いる。出土遺物は8世紀後半～9世紀第三四半期頃のものであり、溝の機能していた時期の一端が判明する。

同様な形状・規模・土層の溝は1区北トレンチでも確認されている。この溝と先述の10号溝北東端とは、直線距離で約35m離れ、しかも走行方向がほぼ直交しているが、断面形状や最上層にAs-Bが堆積していることなどの特徴がよく似ているので、調査時には10号溝北東部が調査区外で大きく曲がり、1区北トレンチの溝につながるものと考えて、同じ「10号溝」と名付けて調査した。このトレンチの北側隣接地では、平成4年に太田市(旧新田町)教育委員会の調査で延長部と思われる溝(新田町教育委員会「天良七堂遺跡・笠松遺跡」1999で1号溝として報告されている)が既に見つかっており、この部分ではほぼ直線的に延びていることが確認されているが、その西側には掘立柱建物が見られるものの、東側では遺構が見つからないので、それも根拠のひとつとして、10号溝が北に曲がり、それが建物群の東限となっていると判断したい。

西限は、やはり形状・土層のよく似た溝が、平成5年度に太田市(旧新田町)教育委員会によって調査されている。これは前掲の報告書で2号溝と名付けられているもので、上面幅が4.3mと幅広いが、断面形状やAs-Bを上層に含む特徴が似ているので、10号溝と関連する可能性が強いものと考えられ、これを西限と判断したい。ただし、この溝の西側に建物群が延びていないことはまだ明確に確認されているわけではないし、東限溝と考えた10号溝とは走向が平行していないため、この溝の南東側延長部が10号溝の西側とそのまま接続すると、第211図にみるように、全体として台形の区画となってしまう。現状ではこの溝を西限溝と考えるには、このような疑問点もあることを認めなければならない。なお、本書で報告する笠松遺跡2区では、西端部でこの溝が見つかるはずであったが、時期の新しい遺構で破壊されていると理解され、確認できなかった。

北限は今回の調査では調査区外となるが、第211図に見るように、北側には推定東山道駅路の下新田ルートが通過していることが分かっており、この道路が北限となる可能性が考えられる。この部分は今後太田大間々線の建設工事が北に延長されるに従い、発掘調査が行われる予定であるので、西辺溝の北延長部も含めて、その際に

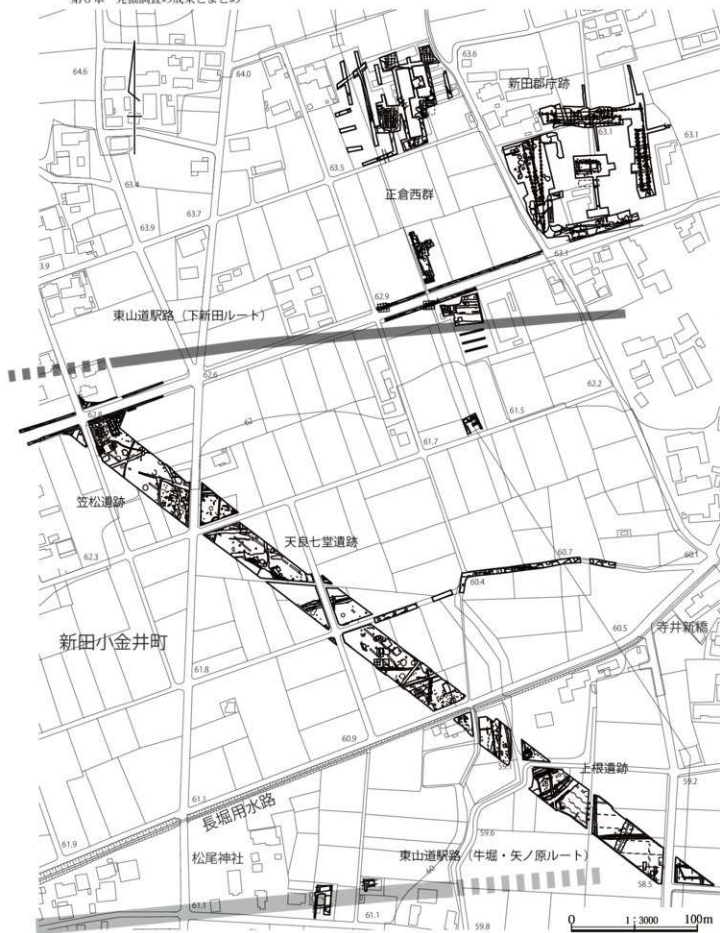
解明されることが期待される。

以上の溝・道路で建物群が区画されているとすると、この区画の規模は、溝内側で計測して、東辺約75m、南辺約45m、西辺約95m、北辺約70mとなり、かなり歪んだ形となる。

この区画の中に建物群があるが、これらの建物群には数時期の変遷があったと思われるものの重複関係にない建物が多く、遺物の出土も少ないため、明確な変遷案を示すのは困難である。しかし直接の重複関係から、大別して2グループに分けることは可能である。すなわち、より古い建物群は、1号基壇状遺構、1号・2号・4号・5号・9号・11号掘立柱建物で、それらの建物を切って作られている。3号・6号・7号・8号・12号掘立柱建物はより新しい建物群ということになる。しかも、より古い建物群のうち、北東部にある1号・4号・5号掘立柱建物の3棟は、主軸方位がほぼ同一ではあるものの、あまりに近接しているので同時存在とは思えず、さらに1号掘立柱建物は1回の建て替えが確認されているので、この3棟だけで少なくとも4時期の変遷が想定できる。その1号掘立柱建物が6号・7号に切られていると推定されるため、さらに1～2時期の変遷が追加される可能性があり、全体としてこれらの建物群には4～6時期の変遷があったと考えられる。

これらの建物のうち、より新しい5棟の建物がすべて総柱建物であることは注意すべきであろう。それを重視すれば、総柱建物がより新しい傾向にあると判断することが可能であると考えられるからである。総柱建物でないのは1号掘立柱建物と1号基壇状遺構だけなので、これらももっとも古い時期のものであることになる。残念なことに1号基壇状遺構は残りが乏しく、建物の基礎だとしても、どのような建物になるかは不明であるが、この2つの遺構は主軸方位がほぼ直交し、L字型の位置関係からみても同時存在である可能性が高い。さらに、南限と推定される10号溝の方向とも近く、ある程度の規則的な配置をなしているとみることができる。また1号掘立柱建物の柱振り方はいずれも方形で、他の掘立柱建物のそれに比べて規模が大きく、この点からもこの建物がより古いものであると推定することができる。

以上、わずかな根拠からの推定であるが、溝と推定東山道駅路下新田ルートとに囲まれた不整な四角形の区画



第212図 笠松遺跡・天良七堂遺跡・上根遺跡及び周辺遺跡位置図

「この地図の作成にあたっては、太田市長の下を得て、同市発行の2,50分の1の地形図を使用し複製したものである。」

の中に、まず1号掘立柱建物という大型の建物と、それとL字型に直交する方向の1号基壇状遺構が作られ、1号掘立柱建物は少なくとも1回の建て替えが行われた後、多くの総柱建物が2～4時代にわたって建てられ続けたという変遷結果だと考えられる。

これらの建物群の時期も、遺物が少なく確定できない。しかし、1号掘立柱建物の土痕からは8世紀末～9世紀の須恵器が出土し、10号溝からは8世紀後半～9世紀後半にかけての土器が出土しているの、建物群の初現は8世紀代に遡る可能性がある。1号基壇状遺構からは遺物が出土しないが、本書では1号粘土採掘坑に関連する遺構として報告した。そこからは8世紀の遺物が出土しているの、年代的には矛盾がないことになるが、掲載した遺物は8世紀前半にまで遡るものであり、その点ではやや古くなるものである。廃絶時期は確定できないが、南・東・西の区画溝の上層にはAs-Bが堆積しており、12世紀初頭にはほぼ埋没していたことが判明している。

最後にこの建物群の性格・役割であるが、それを確定するのは非常に難しい。その建物群の特徴としては、①周囲を溝・道路で囲まれた区画をなしていること、②基壇状遺構、大型の掘立柱建物が最初の建物と考えられ、それはL字型に配されていること、③その後区画内には総柱建物が作られるようになること、④北に通過する道路は東山道駅路と推定されていること、などがあげられる。さらに本遺跡の位置が新田郡衙(太田市教育委員会調査の天良七堂遺跡)の西側にあり、その西限付近からはわずか200m程度しか離れていないことは重要である。その間は遺構の少ない地域となっているので、本遺跡は郡衙と一体の施設とはなっておらず、さらに周囲を区画されていることから、ある程度独立した役割をもった施設と考えられるが、新田郡衙とは当然深く関連していると考えるのが自然だからである。新田郡衙は7世紀後半に作られ、廃絶年代は9世紀末～10世紀以前と考えられており(太田市教育委員会『天良七堂遺跡2』2010)、本遺跡はその存続期間の中で機能した施設であろう。

郡衙の施設としては『上野国交替実録帳』その他の史料により、郡庁、正倉、厨家、館などがあることが分かっており、そのうち郡庁と正倉は先述の新田郡衙の遺跡内で既に確認されている。その他郡衙内には実務を行った建物が数多く配置されているはずであるし、駅路との関

連も含めた周辺の施設としては新田駅家、また、宗教施設として寺院なども存在したはずである。本遺跡からは宗教的な遺物が出土していないし、寺院遺跡としては東側に7世紀後半創建の寺井廃寺があるので、宗教施設とはまず考えられない。また、土器などの出土が少ないので、人の食生活に関わる場所、すなわち厨家や館とも考えにくい。新田駅家である可能性は、北側を駅路が通過していることから、それを全く排除することはできないが、現状で見つまっている遺構のみでは軽々に結びつけることはできない。ただし、今回調査した施設がその一部である可能性は残るため、それは今後の調査での検証が必要である。以上、現状ではどのような施設であるのか、確定することは困難である。前述の特徴②③のように、存続期間の途中で建物の種類が変化しており、それに伴って施設の性格も変化していると考えられる。それをどのように理解すべきなのか、また、北側の推定東山道駅路とはどのように関連しているのか、さらに北側にはどのような建物があるのかが、本遺跡の性格を考える上で重要となる。今後、さらに北側で予定されている発掘調査の結果を踏まえ、再検討したいと考えている。

上根遺跡では、群馬県教育委員会文化財保護課による試掘・確認調査の結果、溝の疑いのある落ち込みが確認され、1・2区から約200m西側の上根遺跡(旧新田町教育委員会の調査)と約300m東側の久保畑遺跡(太田市教育委員の調査)から東山道駅路牛堀・矢ノ原ルートの側溝の一部が確認されている。このため、発掘調査では第212図のとおり1区及び2区が東山道駅路牛堀・矢ノ原ルートの通過地点と想定された。

1区では6条の溝が検出され、そのうち1・2・6号溝は近世と考えられる。古代の可能性のある溝は3・4・5号溝の3条で、これらは埋没後にAs-Bが含まれないことからAs-B降下(1108年)以前に構築されたと考えられる。3・4号溝は東西方向に走行し、発掘調査では西側の2区で確認することができなかった。このため西側には延長されない溝の可能性もある。5号溝は3・4号溝とは異なり北西から南東に走行する溝である。

2区では5条の溝が検出された。1・2・4号溝は近世、5号溝は中世以降の溝と考えられる。3号溝は古墳時代中～後期に埋没したと想定され、奈良・平安時代の可能性のある溝を検出することができなかった。

このように古代にまで遡り、牛堀・矢ノ原ルートに関連する可能性のある溝は1区3～5号溝である。しかし、これらの3条とも牛堀・矢ノ原ルートとのN-83°-Eという走行方向とは異なっている。まず、5号溝は北西から南東に走行するので大きく異なる。3・4号溝は東西方向ではあるものの3号溝はN-89°-W、4号溝はN-81°-Wという走行方向で、やはり牛堀・矢ノ原ルートとは合致しない。しかも、それらが側溝だった場合には平行して存在するはずのもう一方の側溝が見つからないので、道路側溝であるかどうかは確定できない。これらのことから3・4号溝も牛堀・矢ノ原ルートに関連するものではないと思われ、今回の調査では牛堀・矢ノ原ルートの延長部を確認することができなかった。

1区及び2区の現表土下層の地形は、大間々扇状地扇端部の低地となっている。東山道駅路牛堀・矢ノ原ルートはこの低地部を通過すると想定されている。埼玉県吉見町西吉見条里Ⅱ遺跡では、東山道駅路武蔵路の可能性のある古代の道路が確認されている。低湿地を通過する古代の道路として注目され、地盤改良や砂利整地などによる造成が行われている。このような事例からも低地部に東山道駅路を通過させる場合に何らかの造成が行われた可能性が高い。発掘調査では盛土などの痕跡は認められず、東山道駅路牛堀・矢ノ原ルートに関連する道路跡や側溝を確認することができなかったが、後世の削平等により検出できなかった可能性もある。

4 中近世の遺構と遺物

笠松遺跡では、1区南側を中心に中近世の遺構が分布するが、遺物の出土量は少なく、年代比定する資料に欠ける。1区南側には、中世土器を出土した8・11・13号土坑を含む土坑群とピット群の集中が見られる。掘立柱建物は2棟を認定したが、ピットの数量からほかに数棟の建物の存在が想定できる。区画溝としては2・3号溝が想定されるが、江戸時代に埋没したと考えられることから、中世以前に遡る可能性も考える。2区1号溝は、流水痕跡を持つ比較的大規模な溝である。江戸時代に埋没したと想定されるが、開閉時期や性格について限定できる痕跡は認められなかった。

天良七堂遺跡では、4区を中心に中世から近世の遺構を主体とすることが判明した。用水遺構と見られる4区

4号溝や直線的な区画溝と思われる4区6号溝は、いずれも近世のものとして認定された。また、ピット群の存在から掘立柱建物を含む建物群の存在も想定される。

上根遺跡でも同様で、中世～近世の遺構で代表される。

2区では15～17世紀にかけての遺物が多く出土している。1号溝では在地系土器が比較的多く、16～17世紀のまとまった資料であり、馬見岡瀝灰岩製火輪を含む五輪塔類も含めて、周辺での生活跡と墓域が想定される。

5 今後の課題について

笠松遺跡、天良七堂遺跡、上根遺跡は、新田郡衙に関連する重要な遺跡に隣接しており、当該時期はもとより古くは縄文時代に遡り、新しくは近世の遺構群の存在を明らかにすることができた。

特に、笠松遺跡1区での区画溝に囲まれた掘立柱建物群及び基壇状遺構など重要な遺構を検出することができた。これらは、隣接する新田郡衙及び東山道駅路下新田ルートに関連する施設の可能性があると考えられる。具体的な機能についての解釈は、景観復元を元にした全体像の検討作業を待つ必要がある。新田郡衙及び東山道駅路下新田ルートなど周辺遺跡の発掘調査の成果の公表も予定されているので、さらに検討を加えていきたい。また、上根遺跡では未検出となった東山道駅路牛堀・矢ノ原ルートの通過地点についても今後の周辺遺跡の発掘調査と照合し検討していきたいと考える。

参考文献

- 新田町教育委員会「天良七堂遺跡・笠松遺跡」1999
- 新田町教育委員会「新田町内遺跡Ⅱ」2000
- 新田町教育委員会「新田町内遺跡Ⅴ」2004
- 新田町教育委員会「天良七堂遺跡Ⅱ」2004
- 太田市教育委員会「天良七堂遺跡」2008
- 太田市教育委員会「天良七堂遺跡2」2010
- 太田市教育委員会「太田市内遺跡5」2010
- 太田市教育委員会「新田郡衙と東山道駅路予備集」2011
- 埼玉考古学会「坂東の古代官衙と人々の交流」2002

遺物観察表

年代/地域	品名	材質	用途	寸法	重量	観察事項
縄文時代	1	土器 高脚杯	縄文	11.4	10.8 80.9	底・乳輪・高脚杯
	2	土器 高脚杯	縄文	11.7	11.3	底・乳輪・高脚杯
	3	土器 高脚杯	縄文	11.9	11.3 80.2	底・乳輪・高脚杯
	4	土器 高脚杯	縄文	11.9	11.3 80.2	底・乳輪・高脚杯
	5	土器 高脚杯	縄文	11.9	11.3 80.2	底・乳輪・高脚杯
	6	土器 高脚杯	縄文	11.9	11.3 80.2	底・乳輪・高脚杯
	7	土器 高脚杯	縄文	11.9	11.3 80.2	底・乳輪・高脚杯
	8	土器 高脚杯	縄文	11.9	11.3 80.2	底・乳輪・高脚杯
	9	土器 高脚杯	縄文	11.9	11.3 80.2	底・乳輪・高脚杯
	10	土器 高脚杯	縄文	11.9	11.3 80.2	底・乳輪・高脚杯
弥生時代	1	銅器 銅鏡	弥生	12.0	12.0 80.0	銅・白銅・黒色粘土付
	2	銅器 銅鏡	弥生	12.0	12.0 80.0	銅・白銅・黒色粘土付
	3	銅器 銅鏡	弥生	12.0	12.0 80.0	銅・白銅・黒色粘土付
	4	銅器 銅鏡	弥生	12.0	12.0 80.0	銅・白銅・黒色粘土付
	5	銅器 銅鏡	弥生	12.0	12.0 80.0	銅・白銅・黒色粘土付
	6	銅器 銅鏡	弥生	12.0	12.0 80.0	銅・白銅・黒色粘土付
	7	銅器 銅鏡	弥生	12.0	12.0 80.0	銅・白銅・黒色粘土付
	8	銅器 銅鏡	弥生	12.0	12.0 80.0	銅・白銅・黒色粘土付
	9	銅器 銅鏡	弥生	12.0	12.0 80.0	銅・白銅・黒色粘土付
	10	銅器 銅鏡	弥生	12.0	12.0 80.0	銅・白銅・黒色粘土付
古墳時代	1	土器 高脚杯	古墳	11.4	10.8 80.9	底・乳輪・高脚杯
	2	土器 高脚杯	古墳	11.7	11.3	底・乳輪・高脚杯
	3	土器 高脚杯	古墳	11.9	11.3 80.2	底・乳輪・高脚杯
	4	土器 高脚杯	古墳	11.9	11.3 80.2	底・乳輪・高脚杯
	5	土器 高脚杯	古墳	11.9	11.3 80.2	底・乳輪・高脚杯
	6	土器 高脚杯	古墳	11.9	11.3 80.2	底・乳輪・高脚杯
	7	土器 高脚杯	古墳	11.9	11.3 80.2	底・乳輪・高脚杯
	8	土器 高脚杯	古墳	11.9	11.3 80.2	底・乳輪・高脚杯
	9	土器 高脚杯	古墳	11.9	11.3 80.2	底・乳輪・高脚杯
	10	土器 高脚杯	古墳	11.9	11.3 80.2	底・乳輪・高脚杯
中世	1	銅器 銅鏡	中世	12.0	12.0 80.0	銅・白銅・黒色粘土付
	2	銅器 銅鏡	中世	12.0	12.0 80.0	銅・白銅・黒色粘土付
	3	銅器 銅鏡	中世	12.0	12.0 80.0	銅・白銅・黒色粘土付
	4	銅器 銅鏡	中世	12.0	12.0 80.0	銅・白銅・黒色粘土付
	5	銅器 銅鏡	中世	12.0	12.0 80.0	銅・白銅・黒色粘土付
	6	銅器 銅鏡	中世	12.0	12.0 80.0	銅・白銅・黒色粘土付
	7	銅器 銅鏡	中世	12.0	12.0 80.0	銅・白銅・黒色粘土付
	8	銅器 銅鏡	中世	12.0	12.0 80.0	銅・白銅・黒色粘土付
	9	銅器 銅鏡	中世	12.0	12.0 80.0	銅・白銅・黒色粘土付
	10	銅器 銅鏡	中世	12.0	12.0 80.0	銅・白銅・黒色粘土付
近世	1	銅器 銅鏡	近世	12.0	12.0 80.0	銅・白銅・黒色粘土付
	2	銅器 銅鏡	近世	12.0	12.0 80.0	銅・白銅・黒色粘土付
	3	銅器 銅鏡	近世	12.0	12.0 80.0	銅・白銅・黒色粘土付
	4	銅器 銅鏡	近世	12.0	12.0 80.0	銅・白銅・黒色粘土付
	5	銅器 銅鏡	近世	12.0	12.0 80.0	銅・白銅・黒色粘土付
	6	銅器 銅鏡	近世	12.0	12.0 80.0	銅・白銅・黒色粘土付
	7	銅器 銅鏡	近世	12.0	12.0 80.0	銅・白銅・黒色粘土付
	8	銅器 銅鏡	近世	12.0	12.0 80.0	銅・白銅・黒色粘土付
	9	銅器 銅鏡	近世	12.0	12.0 80.0	銅・白銅・黒色粘土付
	10	銅器 銅鏡	近世	12.0	12.0 80.0	銅・白銅・黒色粘土付

遺物種別	品目	名称	材質	形状	寸法	重量	備考
遺物種別 出土遺物	1	第10209	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10209
	2	第10210	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10210
	3	第10211	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10211
	4	第10212	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10212
	5	第10213	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10213
	6	第10214	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10214
	7	第10215	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10215
	8	第10216	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10216
	9	第10217	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10217
	10	第10218	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10218
	11	第10219	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10219
	12	第10220	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10220
	13	第10221	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10221
	14	第10222	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10222
	15	第10223	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10223
	16	第10224	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10224
	17	第10225	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10225
	18	第10226	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10226
	19	第10227	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10227
	20	第10228	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10228
遺物種別 出土遺物	21	第10229	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10229
	22	第10230	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10230
	23	第10231	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10231
	24	第10232	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10232
	25	第10233	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10233
	26	第10234	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10234
	27	第10235	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10235
	28	第10236	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10236
	29	第10237	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10237
	30	第10238	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10238
遺物種別 出土遺物	31	第10239	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10239
	32	第10240	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10240
	33	第10241	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10241
	34	第10242	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10242
	35	第10243	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10243
	36	第10244	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10244
	37	第10245	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10245
	38	第10246	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10246
	39	第10247	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10247
	40	第10248	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10248
遺物種別 出土遺物	41	第10249	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10249
	42	第10250	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10250
	43	第10251	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10251
	44	第10252	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10252
	45	第10253	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10253
	46	第10254	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10254
	47	第10255	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10255
	48	第10256	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10256
	49	第10257	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10257
	50	第10258	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10258
遺物種別 出土遺物	51	第10259	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10259
	52	第10260	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10260
	53	第10261	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10261
	54	第10262	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10262
	55	第10263	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10263
	56	第10264	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10264
	57	第10265	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10265
	58	第10266	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10266
	59	第10267	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10267
	60	第10268	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10268
遺物種別 出土遺物	61	第10269	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10269
	62	第10270	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10270
	63	第10271	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10271
	64	第10272	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10272
	65	第10273	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10273
	66	第10274	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10274
	67	第10275	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10275
	68	第10276	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10276
	69	第10277	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10277
	70	第10278	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10278
遺物種別 出土遺物	71	第10279	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10279
	72	第10280	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10280
	73	第10281	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10281
	74	第10282	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10282
	75	第10283	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10283
	76	第10284	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10284
	77	第10285	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10285
	78	第10286	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10286
	79	第10287	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10287
	80	第10288	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10288
遺物種別 出土遺物	81	第10289	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10289
	82	第10290	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10290
	83	第10291	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10291
	84	第10292	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10292
	85	第10293	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10293
	86	第10294	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10294
	87	第10295	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10295
	88	第10296	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10296
	89	第10297	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10297
	90	第10298	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10298
遺物種別 出土遺物	91	第10299	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10299
	92	第10300	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10300
	93	第10301	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10301
	94	第10302	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10302
	95	第10303	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10303
	96	第10304	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10304
	97	第10305	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10305
	98	第10306	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10306
	99	第10307	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10307
	100	第10308	縄文土器 土器	1.1	1.1	1.1	第10308

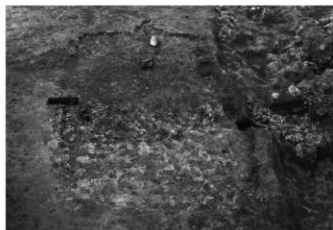
写真図版



1 1区北側全景(南西から)



2 1区南側全景(東から)



1 1区1号竪穴住居全景(西から)



2 1区1号竪穴住居遺物出土状態(南から)



3 1区1号竪穴住居貯蔵穴遺物出土状態(西から)



4 1区1号竪穴住居掘り方全景(南西から)



5 1区2号竪穴住居全景(南から)



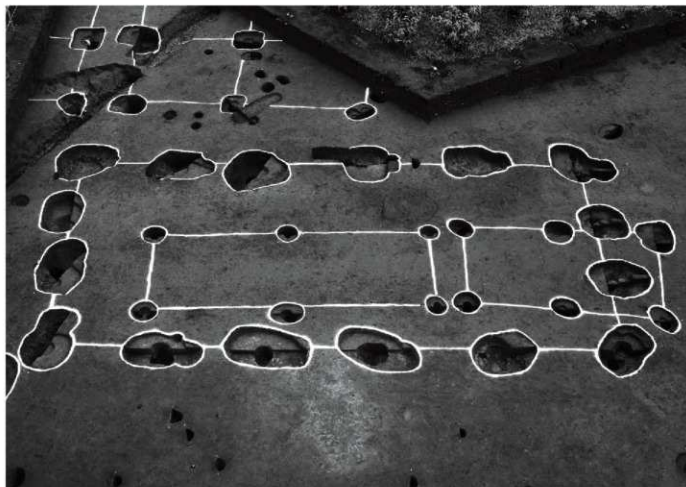
6 1区2号竪穴住居掘り方全景(南から)



7 1区4号竪穴住居遺物出土状態(西から)



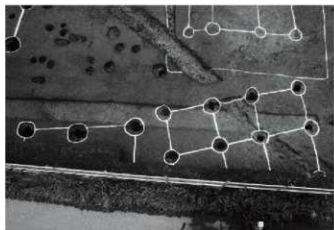
8 1区4号竪穴住居竈遺物出土状態(西から)



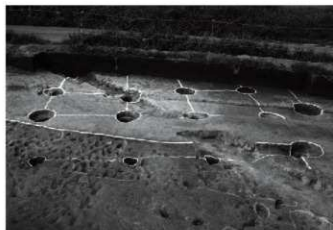
1 1区1号掘立柱建物全景(西から)



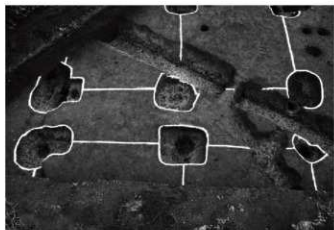
2 1区1号掘立柱建物柱穴検出状況(南から)



3 1区2・3号掘立柱建物全景(西から)



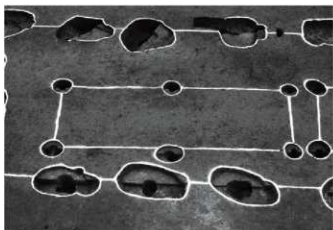
4 1区3号掘立柱建物全景(東から)



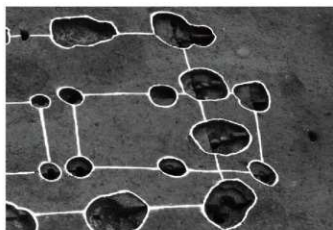
5 1区4号掘立柱建物全景(北から)



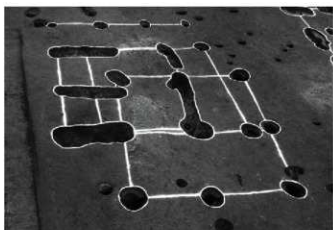
1 1区5号掘立柱建物全景(西から)



2 1区6号掘立柱建物全景(西から)



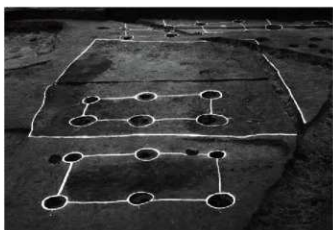
3 1区7号掘立柱建物全景(西から)



4 1区8・9号掘立柱建物と1号柵列全景(南から)



5 1区11号掘立柱建物全景(南から)



6 1区12号掘立柱建物と1号基壇状遺構全景(東から)



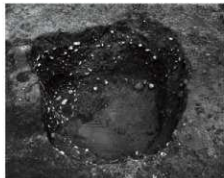
7 1区1号柵列全景(南から)



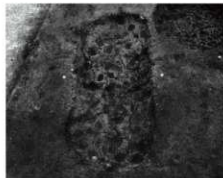
8 1区1号基壇状遺構全景(南から)



1 1区1号基壇状遺構掘り方全景(南から)



2 1区11号土坑全景(西から)



3 1区12号土坑全景(東から)



4 1区18号土坑全景(東から)



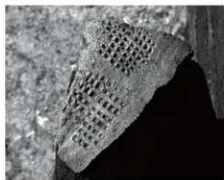
5 1区154号ピット遺物出土状態(南から)



6 1区1号粘土採掘坑全景(西から)



7 1区1号粘土採掘坑遺物出土状態(東から)



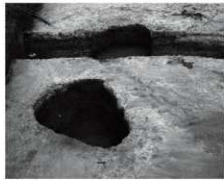
8 1区1号粘土採掘坑遺物出土状態(南から)



9 1区2号粘土採掘坑全景(東から)



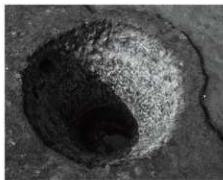
10 1区3号粘土採掘坑全景(南から)



11 1区3・5号粘土採掘坑全景(北から)



12 1区4号粘土採掘坑全景(西から)



13 1区1号井戸全景(南東から)



14 1区1号溝遺物出土状態(南東から)



15 1区2号溝全景(南から)



1 1区2～5号溝全景(西から)



2 1区6号溝全景(南から)



3 1区7号溝全景(北から)



4 1区8号溝全景(南から)



5 1区9号溝全景(南西から)



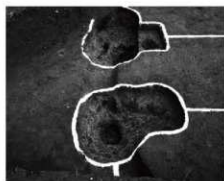
6 1区10号溝遺物出土状態(西から)



7 1区13～15号溝全景(西から)



8 1区14号溝全景(西から)



9 1区15号溝全景(北から)



10 2区1号土坑全景(南から)



11 2区5号土坑全景(南東から)



12 2区6号土坑全景(西から)



13 2区1号溝全景(北西から)



14 2区1号溝全景(南から)



15 2区2・3号溝全景(北から)



1 1区全景(南東から)



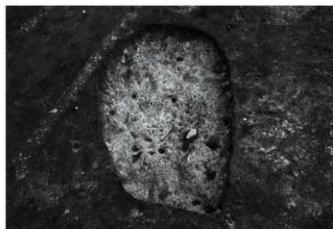
2 1区全景(東から)



1 1区7号竪穴住居全景(東から)



2 1区11号土坑遺物出土状態(西から)



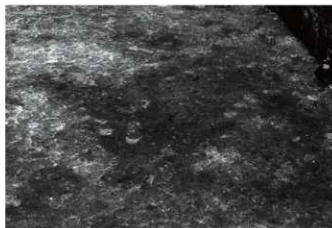
3 1区18号土坑全景(南から)



4 1区19号土坑全景(東から)



5 1区1号竪穴住居全景(西から)



6 1区1号竪穴住居炉全景(南から)



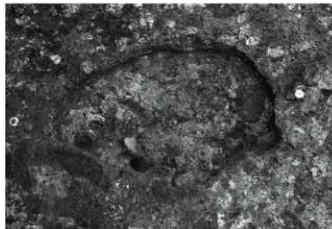
7 1区1号竪穴住居貯蔵穴遺物出土状態(南から)



8 1区1号竪穴住居掘り方全景(西から)



1 1区2号竪穴住居全景(北から)



2 1区2号竪穴住居全景(南から)



3 1区2号竪穴住居掘り方全景(北から)



4 1区3号竪穴住居全景(東から)



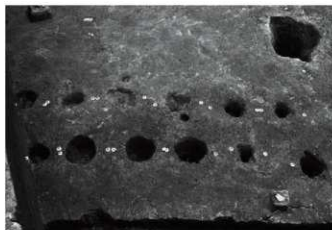
5 1区3号竪穴住居貯蔵穴遺物出土状態(東から)



6 1区4号竪穴住居全景(西から)



7 1区4号竪穴住居切断面(西から)



8 1区4号竪穴住居ピット列全景(北から)



1 1区4号竪穴住居掘り方全景(南から)



2 1区5号竪穴住居全景(北西から)



3 1区5号竪穴住居竪壺全景(北東から)



4 1区5号竪穴住居1号貯蔵穴全景(北西から)



5 1区5号竪穴住居2号貯蔵穴全景(北西から)



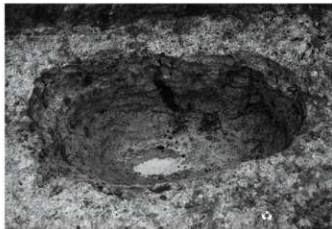
6 1区6号竪穴住居全景(北西から)



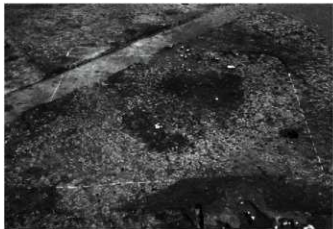
7 1区8号竪穴住居掘り方全景(南東から)



8 1区8号竪穴住居竪壺全景(西から)



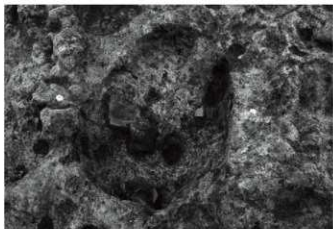
1 1区8号竪穴住居1号床下土坑全景(西から)



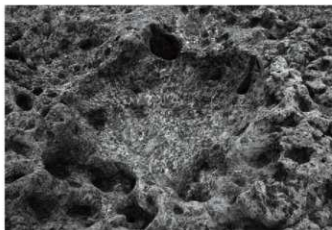
2 1区9号竪穴住居全景(西から)



3 1区9号竪穴住居竈全景(西から)



4 1区9号竪穴住居貯蔵穴全景(北西から)



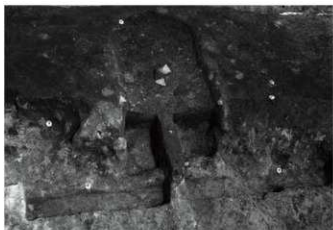
5 1区9号竪穴住居1号床下土坑全景(北西から)



6 1区9号竪穴住居掘り方全景(西から)



7 1区10号竪穴住居全景(西から)



8 1区10号竪穴住居竈全景(西から)



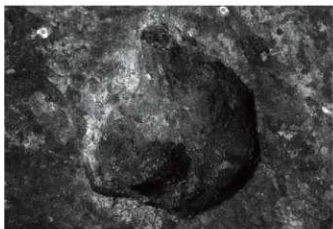
1 1区10号竪穴住居掘り方全景(西から)



2 1区11号竪穴住居全景(北西から)



3 1区11号竪穴住居竪断面全景(南西から)



4 1区11号竪穴住居1号土坑全景(西から)



5 1区11号竪穴住居掘り方掘削痕(西から)



6 1区11号竪穴住居掘り方全景(西から)



7 1区12号竪穴住居遺物出土状態(北から)



8 1区12号竪穴住居1号土坑全景(南から)



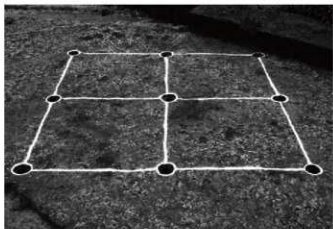
1 1区12号竪穴住居全景(南西から)



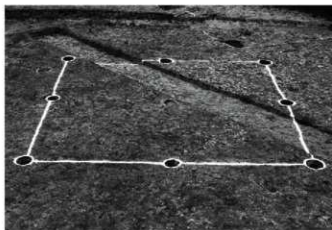
2 1区13号竪穴住居全景(北から)



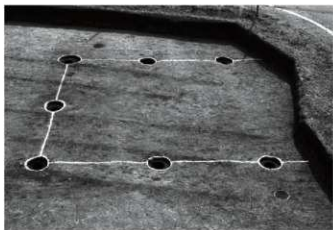
3 1区1号掘立柱建物全景(南から)



4 1区2号掘立柱建物全景(北から)



5 1区3号掘立柱建物全景(北から)



6 1区4号掘立柱建物全景(東から)



7 1区1・2号掘立柱建物全景(西から)



8 1区3号掘立柱建物全景(北から)



1 1区1号竪穴式土器構造出土状態(南側から)



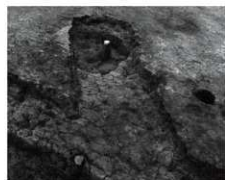
2 1区2号竪穴式土器構造出土状態(南側から)



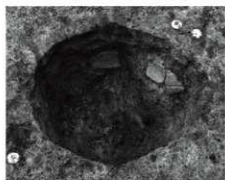
3 1区3号竪穴式土器構造全景(東側から)



4 1区3号土坑全景(南側から)



5 1区9号土坑全景(西側から)



6 1区80号ピット遺物出土状態(南側から)



7 1区110号ピット遺物出土状態(北側から)



8 1区1・2号溝全景(南側から)



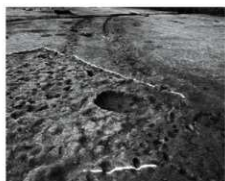
9 1区3号乳円形竪穴式土器1・2号器出土状態(西側から)



10 1区4・5号溝全景(西側から)



11 1区6号溝全景(南東側から)



12 1区7号溝全景(南西側から)



13 1区8号溝全景(南東側から)



14 1区9号溝全景(北側から)



15 1区竪穴式土器構造遺物出土状態(南西側から)



1 2区調査区西全景(南東から)



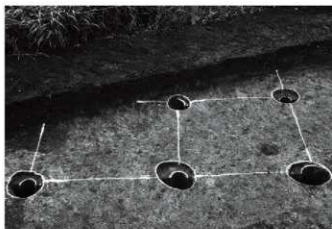
2 2区調査区東全景(北東から)



1 2区1号竪穴住居遺物出土状態(北から)



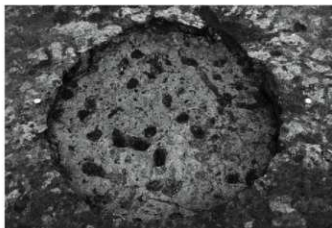
2 2区1号竪穴住居全景(東から)



3 2区1号掘立柱建物全景(東から)



4 2区1号土坑全景(南から)



5 2区2号土坑全景(南から)



6 2区3・4号溝全景(東から)



7 2区9号溝全景(西から)



8 2区調査区北側全景(北西から)



1 3区調査区全景(北西から) 右側のくぼみは谷地



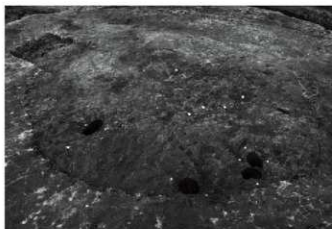
2 3区調査区全景(北から)



1 3区1・2号竪穴住居全景(北から)



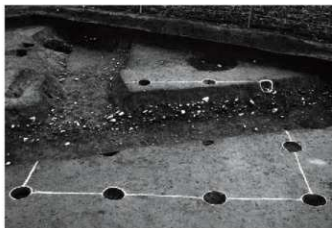
2 3区3号竪穴住居全景(北から)



3 3区3号竪穴住居ビット検出状況(北から)



4 3区4号竪穴住居全景(東から)



5 3区1号掘立柱建物全景(南から)



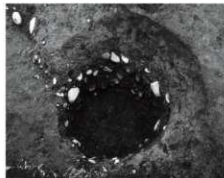
6 3区4号土坑全景(南西から)



7 3区7号土坑全景(南から)



8 3区9号土坑全景(西から)



1 3区14号土坑全景(南から)



2 3区1号井戸全景(南東から)



3 3区1号溝全景(南から)



4 3区2号溝全景(北東から)



5 3区3号溝全景(北から)



6 3区4～8号溝全景(西から)



7 3区8・9号溝全景(南東から)



8 3区11～13号溝全景(南東から)



9 3区14・15号溝全景(南から)



10 3区16号溝遺物出土状態(東から)



11 3区17号溝全景(南から)



12 3区18号溝全景(東から)



13 3区19号溝全景(南から)



14 3区19～22号溝全景(南から)



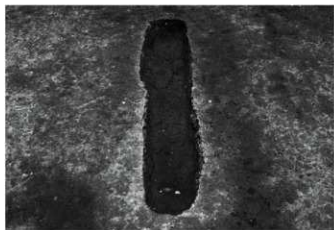
15 3区23号溝全景(南から)



1 4区調査区全景(南から)



2 4区4・5・9号土坑全景(南から)



3 4区7号土坑全景(南から)



4 4区10号土坑全景(南東から)



5 4区12号土坑全景(南から)



1 4区1・2・3号溝全景(南西から)



2 4区4・5号溝全景(東から)



3 4区4・5号溝全景(南から)



4 4区4号溝堰状遺構出土状態(東から)



5 4区4号溝堰状遺構出土状態(南から)



6 4区6号溝全景(南西から)



7 4区9・10号溝全景(南東から)



8 4区11号溝全景(東から)



1 1区調査区全景(北西から)



2 1区1号溝全景(南から)



3 1区2号溝全景(西から)



4 1区3・4号溝全景(西から)



5 1区5号溝全景(南から)



1 2区調査区全景(東から)



2 2区1号竪穴状遺構全景(南から)



3 2区2~4号竪穴状遺構全景(南から)



4 2区1号土坑全景(北から)



5 2区2号土坑全景(北から)



6 2区1・2号溝全景(東から)



7 2区3号溝全景(南から)



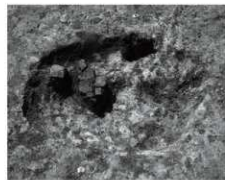
8 2区4号溝全景(南から)



9 2区5号溝断面(西から)



10 2区東壁断面(西から)



11 3区6号土坑全景(北から)



12 3区7号土坑全景(北から)



1 3区1号竪穴住居全景遺物出土状態(北東から)



2 3区1号竪穴住居全景(東から)



3 3区1号竪穴住居貯蔵穴遺物出土状態(南東から)



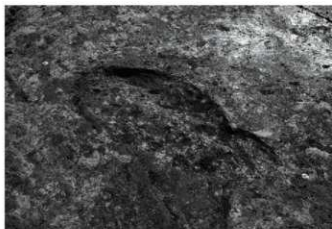
4 3区1号竪穴住居遺物出土状態(東から)



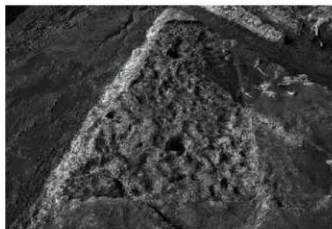
5 3区1号竪穴住居掘り方全景(北東から)



6 3区2号竪穴住居全景(北から)



7 3区2号竪穴住居炉全景(東から)



8 3区2号竪穴住居掘り方全景(北から)



1 3区3号竪穴住居全景(南から)



2 3区1号土坑全景(北から)



3 3区1号井戸全景(北から)



4 3区1~4・8号溝全景(東から)



5 3区5号溝全景(南から)



6 3区6・7・9号溝全景(北東から)



7 3区7・9~11号溝全景(南から)



8 3区12号溝全景(南から)



1 4区4号土坑全景(東から)



2 4区1号竪穴住居遺物出土状態(南から)



3 4区1号竪穴住居全景(南から)



4 4区1~3号竪穴住居遺物出土状態(南から)



5 4区1号竪穴住居床下土坑断面(東から)



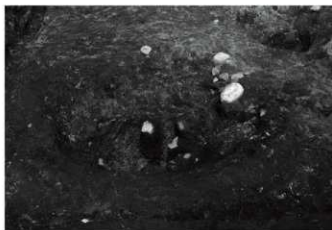
6 4区1~3号竪穴住居掘り方全景(南から)



7 4区2号竪穴住居遺物出土状態(南から)



8 4区2号竪穴住居全景(南から)



1 4区2号竪穴住居貯蔵穴遺物出土状態(南から)



2 4区3号竪穴住居遺物出土状態(南から)



3 4区4号竪穴住居遺物出土状態(南から)



4 4区4号竪穴住居遺物出土状態(南から)



5 4区4号竪穴住居掘り方と遺物出土状態(南から)



6 4区4号竪穴住居掘り方と遺物出土状態(南から)



7 4区4号竪穴住居掘り方全景(南から)



8 4区4号竪穴住居掘り方全景(南から)



1 4区5号竪穴住居遺物出土状態(東から)



2 4区5号竪穴住居と土坑群遺物出土状態(南から)



3 4区5号竪穴住居と土坑群遺物出土状態(東から)



4 4区5号竪穴住居と土坑群遺物出土状態(西から)



5 4区1号土坑全景(東から)



6 4区2号土坑全景(南から)



7 4区旧石器時代調査坑断面(東から)



8 4区調査区全景と旧石器時代の調査状況(東から)



1 5区1号竪穴住居全景(南から)



2 5区1号竪穴住居跡全景(北西から)



3 5区1号竪穴住居跡掘り方全景(北西から)



4 5区1号竪穴住居遺物出土状態(西から)



5 5区1号掘立柱建物全景(東から)



6 5区10号土坑全景(南から)



7 5区12号土坑全景(北から)



8 5区2号井戸全景(南西から)



1 5区調査区全景・1号谷地全景(北西から)



2 5区21号土坑遺物出土状態(北から)



3 5区遺物出土状態(北から)



4 5区3号溝全景(南から)



5 5区3号溝北側全景(南から)



6 5区3・4号溝全景(北から)



7 6区調査区全景(南から)



8 6区1・2・3号土坑と1号溝全景(西から)



9 6区3号土坑全景(北西から)



10 6区1号溝全景(南西から)



11 5・6区調査区全景(北西から)



12 上根遺跡6区から北側の周辺風景(南から)



1区1号竪穴住居出土遺物



1区4号竪穴住居出土遺物



1区11号土坑出土遺物



1区3号粘土採掘坑出土遺物



1区1号溝出土遺物



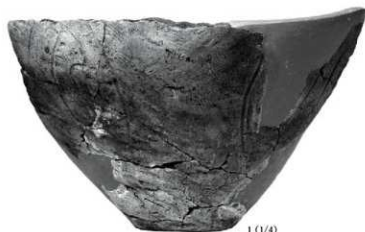
1区154号ビット出土遺物



1区10号溝出土遺物



1区道横外の上遺物



1(1/4)

1区1号土坑出土遺物



2



1



4



3

1区1号竪穴住居出土遺物



1



3



4



2

1区2号竪穴住居出土遺物



2



8



9

1区3号竪穴住居出土遺物(1)



7



10



6



1



3



4



5



11

1区3号壑穴住居出土遺物(2)



2

1区4号壑穴住居出土遺物



2



6



1



4

1区5号壑穴住居出土遺物(1)



5

1区5号壑穴住居出土遺物(2)



4



1



2



5



7

1区9号壑穴住居出土遺物

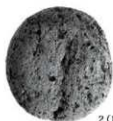


2



5(1/2)

1区8号壑穴住居出土遺物



2(1/2)

1区11号壑穴住居出土遺物



3

1区12号壑穴住居出土遺物



1

1区13号壑穴住居出土遺物



2



6

1区1号壑穴状遺横出土遺物(1)



4

1区1号竪穴状遺構出土遺物(2)



2



5



3

1区2号竪穴状遺構出土遺物



2



3

1区3号竪穴状遺構出土遺物



1

1区1号掘立柱
建物出土遺物



1

1区3号土坑出土遺物



1

1区7号土坑出土遺物



1



2



3(1/2)

1区1号鍛冶遺構出土遺物



28



29 (1/1)



30

1区遺構外の出土遺物



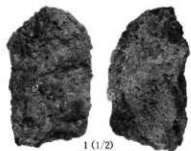
3区1号溝出土遺物



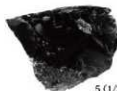
3区8号溝出土遺物



3区16号溝出土遺物



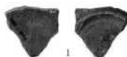
3区1号井戸出土遺物



3区道構外の出土遺物



1 (1/4)



4区6号溝出土遺物



4区4号溝出土遺物



4区8号溝出土遺物



4区道構外の出土遺物



1区5号溝出土遺物

1



2区1号竪穴状遺構出土遺物

1



1



1 (1/1)

1区遺構外出土遺物

2



2

2区1号土坑出土遺物



2 (1/6)



3 (1/6)



2区2号土坑出土遺物



10 (1/6)



13 (1/6)



11 (1/6)



14 (1/6)



12



7

8



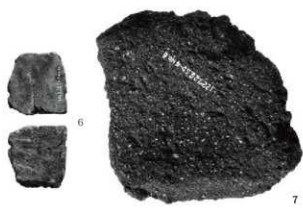
2 (1/4)



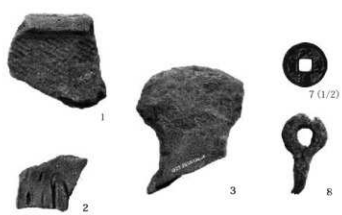
1 (1/0)



2区1号溝出土遺物



2区4号溝出土遺物



2区遺構外の出土遺物



3区6号上坑出土遺物



3区7号上坑出土遺物



3区1号竪穴住居出土遺物



1

3区3号整穴住居出土遺物



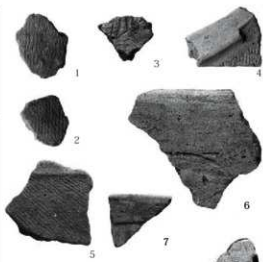
3

3区6号溝出土遺物



3

3区10号溝出土遺物



1

3

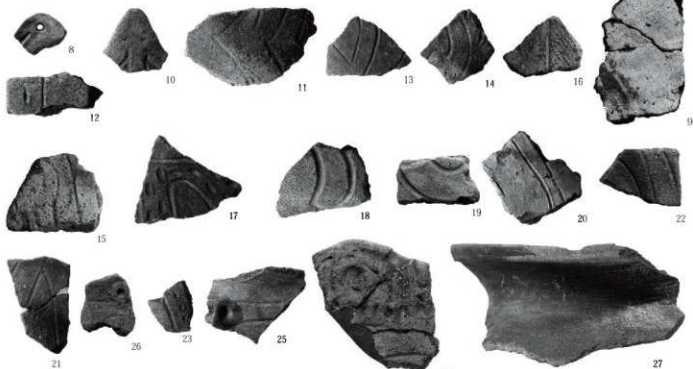
4

2

6

7

5



8

10

11

13

14

16

9

12

15

17

18

19

20

22

21

26

23

25

24

27

3区道横外の出土遺物



1



2

4区3号土坑出土遺物



1



2



3

4区4号土坑出土遺物



4



1

4区1号整穴住居出土遺物



3



1



4

4区2号整穴住居出土遺物



1



2



4



5



6



12



7



9



17

4区4号整穴住居出土遺物(1)



15



14



10



11



16

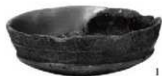


18

4区4号竪穴住居出土遺物(2)



5



1



2



4

4区1号土坑出土遺物



2

4区15号ピット出土遺物



1

2

3

4

5

6

7

8



9

10

11

12

13

14



15



16



17



18



19



20



21



22



23



24

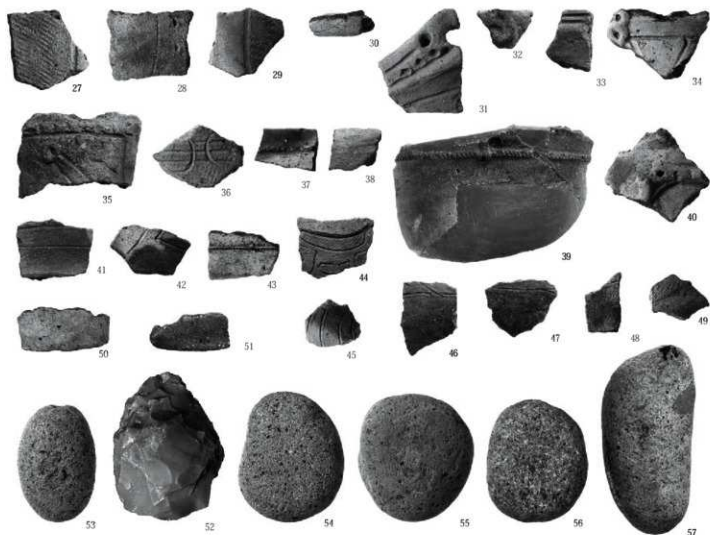


25



26

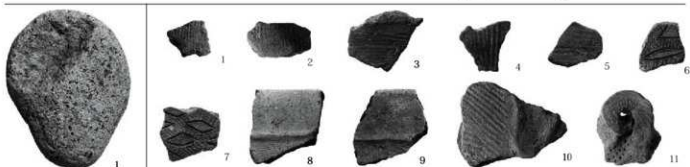
4区遺構外の出土遺物(1)



4区遺構外の出土遺物(2)

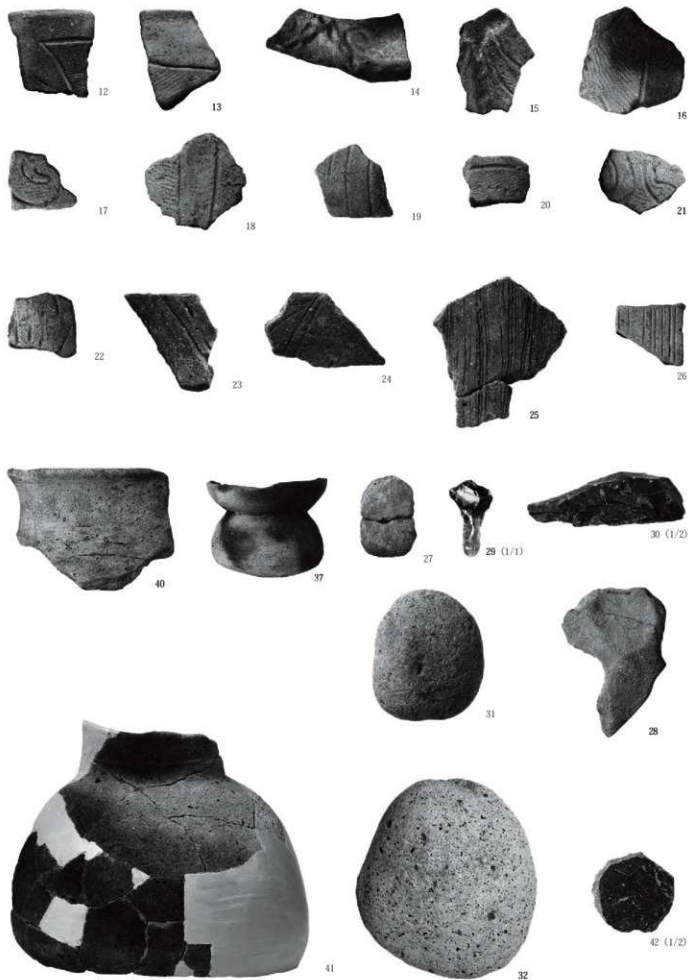


5区3号溝出土遺物



5区4号溝出土遺物

5区遺構外の出土遺物(1)



5区遺構外の出土遺物(2)

報告書抄録

書名ふりがな	かさまついでせき・てんらしちどういせき・かみわいせき
書名	笠松遺跡・天良七堂遺跡・上根遺跡
副書名	(主)太田大岡女学院連事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	542
編著者名	長谷川博幸/宮下寛
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	2012316
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北碓町下箱田784番地2
道跡名ふりがな	かさまついでせき
道跡名	笠松遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんおおたしにったこがわいまち
道跡所在地	群馬県太田市新田小金井町
市町村コード	10205
道跡番号	00030
北緯(日本測地系)	361925
東経(日本測地系)	1391952
北緯(世界測地系)	361937
東経(世界測地系)	1391941
調査期間	20090401-20090731
調査面積	2962
調査原因	道路建設
種別	集落
主な時代	縄文/古墳/奈良・平安/中近世
道跡概要	縄文・石器/古墳-竪穴住居2・石器/奈良-竪穴住居1+土坑1+粘土探掘坑1+溝/平安-土坑2+粘土探掘坑1+井戸1/奈良・平安-掘立柱建物4+基礎状遺構1+土坑1+ビット+粘土探掘坑1+溝1/古代-粘土探掘坑2+溝1-土器+瓦+石製品・鉄器/中近世-掘立柱建物+土坑4+ビット+溝8-土器+陶磁器/不明-掘立柱建物7+欄2+土坑21+ビット+溝6
特記事項	区画課に預められた掘立柱建物群、基礎状遺構の調査
要約	古墳時代から奈良時代の竪穴住居を3軒検出した。溝で区画された掘立柱建物1棟、基礎状遺構1基、粘土探掘坑5基などが検出された。掘立柱建物群は東山道駅路や新田郡面と関連すると考えられる。
道跡名ふりがな	てんらしちどういせき
道跡名	天良七堂遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんおおたしにったこがわいまち
道跡所在地	群馬県太田市新田小金井町
市町村コード	10205
道跡番号	70122
北緯(日本測地系)	361944
東経(日本測地系)	1391934
北緯(世界測地系)	361933
東経(世界測地系)	1391946
調査期間	20090401-20090731
調査面積	6164
調査原因	道路建設
種別	集落
主な時代	縄文/古墳/奈良・平安/中近世
道跡概要	縄文-竪穴住居1+土坑6+ビット+土器+石器/古墳-竪穴住居10+竪穴状遺構2+土坑2+溝6+掘土遺構1-土器+石器+鉄滓/奈良-竪穴住居3+竪穴状遺構1+土坑1/平安-竪穴住居4+土坑1+溝7/奈良・平安-溝1/古代-溝1+谷地1-土器+瓦+石製品・鉄器/鉄滓/中近世-土坑2+ビット+溝8-土器+陶磁器+石製品/不明-掘立柱建物7+欄3+土坑62+溝33+井戸1
特記事項	古墳時代中期から平安時代の集落、中世以降の聚の調査。
要約	縄文時代後期初頭の竪穴住居1軒と中期から後期の土坑が検出された。古墳時代は5世紀から7世紀の竪穴住居等が広範囲に分布し、奈良・平安時代は竪穴住居、掘立柱建物などを検出した。中近世は13世紀以降の遺物を伴う区画溝などが検出された。
道跡名ふりがな	かみわいせき
道跡名	上根遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんおおたしにったこがわいまち
道跡所在地	群馬県太田市寺井町
市町村コード	10205
道跡番号	00034
北緯(日本測地系)	361917
東経(日本測地系)	1392006
北緯(世界測地系)	361929
東経(世界測地系)	1391955
調査期間	20100701-2010930/20111001-20111031
調査面積	5204
調査原因	道路建設
種別	集落
主な時代	縄文/古墳/奈良・平安/中近世
道跡概要	縄文-土坑4-土器+石器/古墳-竪穴住居8+土坑9+ビット+土器+石器/奈良・平安-土坑2+ビット+溝1+井戸1/古代-竪穴住居1+土坑6+ビット+溝9+井戸1+谷地1-土器/中近世-竪穴状遺構4+土坑5+ビット+溝15+掘立柱建物2+欄1+井戸2-土器+陶磁器+石製品+鉄滓+鉄製品/不明-土坑7+ビット+溝1
特記事項	5世紀から7世紀の集落、五輪塔類が出土した中世以降の溝の調査。
要約	縄文時代後期の土坑、古墳時代は5世紀から7世紀の竪穴住居等が北部の覆高地上を中心に検出された。南部の低地から古代の溝を検出した。中近世は掘立柱建物や井戸、馬具関連灰岩製大輪を含む五輪塔類が出土する土坑や溝が検出された。

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第542集

笠松遺跡・天良七堂遺跡・上根遺跡

(主)太田大間々線関連事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成24年(2012)年3月9日 印刷

平成24年(2012)年3月16日 発行

編集・発行／財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北碓町下箱田784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／松本印刷工業株式会社
